

感染症発生動向調査事業報告書

令和 7 年
(2 0 2 5 年)

東京都保健医療局

序

感染症発生動向調査事業は、感染症の発生状況の把握・分析および情報提供により、感染症の発生及びまん延を防止することを目的として行われており、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」に基づく事前対応型の感染症対策として位置づけられています。東京都健康安全研究センターでは、所内に東京都感染症情報センターを設置し、都内における感染症の発生状況や病原体の検出状況等を迅速に把握するとともに、解析・評価を行い、都民や医療機関等に情報提供を行っています。

2025 年には、感染症サーベイランスに関して大きな動きがありました。呼吸器感染症の流行状況を包括的に把握し、未知の感染症を早期に発見することを目的として、4 月に急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection：ARI）が感染症法上の五類感染症に追加されました。東京都では、それまでのインフルエンザ／新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の定点数を維持しつつ、ARI についても順調にサーベイランスを開始しました。ARI の定点当たり報告数は、開始週である第 15 週（4 月 7 日～13 日）から第 42 週（10 月 13 日～19 日）までは 30～50 台で推移していましたが、第 47 週（11 月 17 日～23 日）には 103.86 とピークを迎えました。インフルエンザも例年より早く、ARI と同様に第 47 週に 51.69 とピークを迎えました。一方、COVID-19 は年間を通じて定点当たり報告数が 5 以下で推移しており、定点化となった 2023 年および 2024 年と比較して低い水準で推移しました。全数把握対象疾患では、百日咳が 10 代を中心に全国的に流行し話題となりましたが、東京都においても、百日咳が全数把握対象疾患となった 2018 年以降で最多となる 7,000 件を超える届出がありました。また、2020 年以降は 10 件以下と発生が低く抑えられていた麻疹も 34 件の報告がありました。海外との往来が増加している中、様々な感染症の流行が懸念されます。感染症の発生動向を注意深く監視し、状況に応じた的確な情報を発信する感染症発生動向調査事業の重要性は、今後一層増すものと考えられます。

本報告書は、東京都感染症予防検討委員会における 2025 年の感染症発生情報の評価および予防策の検討結果を踏まえ作成したものです。各疾患の発生動向については、五類感染症（定点把握対象）のうち「小児科・内科定点把握対象感染症」および「基幹定点における疾患」を委員長である私が、「眼科疾患」を井上賢治委員が執筆しました。また、「一～四類および五類感染症（全数把握対象）」ならびに「性感染症」については当センター疫学情報担当が、「病原体情報」については当センター微生物部が担当しました。

末筆ながら、感染症発生動向調査事業にご協力いただきました東京都医師会、定点医療機関、保健所等の関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

関係各位におかれましては、感染症対策の一助として、本書を広くご活用いただければ幸いです。

令和 8 年（2026 年）5 月

東京都健康安全研究センター所長

東京都感染症予防検討委員会委員長 成田 友代

目 次

第1章 東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

1 発生動向調査の概略

(1) 調査対象疾患	3
(2) 定点医療機関	3
表1 東京都感染症発生動向調査事業定点医療機関数	3
(3) 運営方法	3
(4) 情報発信	4

2 2025年の概況

(1) 一～四類、五類感染症（全数把握対象）	4
(2) 五類感染症（定点把握対象）	6
(3) 疑似症	8
表2-1(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(一～四類、五類全数)	9
表2-1(2) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(全数動物)	10
表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(急性呼吸器感染症定点・小児科定点)	11
表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(眼科定点)	12
表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(基幹定点週報告分)	12
表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(基幹定点月報告分)	13
表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(性感染症定点)	13

3 各疾患の動向

(1) 一～四類、五類感染症（全数把握対象）	14
ア 一類感染症	14
イ 二類感染症	14
ウ 三類感染症	14
エ 四類感染症	17
オ 五類感染症（全数把握対象）	22
表3-1 一～四類、五類感染症（全数把握対象） 週別患者報告数	35
表3-2 一～四類、五類感染症（全数把握対象） 保健所別患者報告数	38
表3-3 一～四類、五類感染症（全数把握対象） 年齢階級別患者報告数	41
(2) 小児科・内科定点把握対象感染症	44
ア インフルエンザ	44
イ 新型コロナウイルス感染症	46
ウ 急性呼吸器感染症	47
エ R S ウイルス感染症	48
オ 咽頭結膜熱	49
カ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	50
キ 感染性胃腸炎	51
ク 水痘	52

ケ	手足口病	53
コ	伝染性紅斑	54
サ	突発性発しん	55
シ	ヘルパンギーナ	56
ス	流行性耳下腺炎	57
セ	不明発しん症	58
ソ	川崎病	59
(3)	眼科疾患	60
ア	急性出血性結膜炎	60
イ	流行性角結膜炎	61
(4)	基幹定点医療機関における週報告疾患	62
ア	細菌性髄膜炎	62
イ	無菌性髄膜炎	63
ウ	マイコプラズマ肺炎	64
エ	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	65
オ	感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）	66
カ	インフルエンザ入院	67
キ	新型コロナウイルス感染症入院	68
(5)	基幹定点医療機関における月報告疾患	69
ア	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	69
イ	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	70
ウ	薬剤耐性緑膿菌感染症	71
(6)	性感染症	72
ア	性器クラミジア感染症	72
イ	性器ヘルペスウイルス感染症	73
ウ	尖圭コンジローマ	74
エ	淋菌感染症	75
オ	膣トリコモナス症	76
表 4-1	週別患者報告数（急性呼吸器感染症・小児科・眼科・基幹）	78
表 4-2	週別定点当たり患者報告数（急性呼吸器感染症・小児科・眼科・基幹）	80
表 5-1	保健所別患者報告数（急性呼吸器感染症・小児科・眼科・基幹）	82
表 5-2	保健所別定点当たり患者報告数（急性呼吸器感染症・小児科・眼科・基幹）	84
表 6	年齢階級別患者報告数（急性呼吸器感染症・小児科・眼科・基幹）	86
表 7-1	二次医療圏別患者報告数（急性呼吸器感染症・小児科・眼科・基幹）	88
表 7-2	二次医療圏別定点当たり患者報告数（急性呼吸器感染症・小児科・眼科・基幹）	89
表 8-1	月別患者報告数（基幹）	90
表 8-2	月別定点当たり患者報告数（基幹）	90
表 8-3	月別・性別患者報告数（基幹）	90
表 8-4	性別・年齢階級別患者報告数（基幹）	91
表 9-1	月別患者報告数（性感染症）	91

表 9-2	月別定点当たり患者報告数（性感染症）	91
表 9-3	月別・性別患者報告数（性感染症）	92
表 9-4	月別・性別定点当たり患者報告数（性感染症）	92
表 9-5	保健所別、二次医療圏別患者報告数（性感染症）	93
表 9-6	保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数（性感染症）	94
表 9-7	年齢階級別患者報告数（性感染症）	95
表 10	検査結果別報告数（基幹）	95
表 11	入院サーベイランス 入院時の状況	96

第2章 東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報

1 ウイルス検査結果

(1)	急性呼吸器感染症（ARI）定点医療機関からの搬入検体	99
ア	インフルエンザ	99
イ	新型コロナウイルス	104
ウ	ヒトメタニューモウイルス	105
エ	RSウイルス	105
オ	ヒトパラインフルエンザウイルス	106
カ	ライノ／エンテロウイルス	106
キ	アデノウイルス	108
ク	その他のウイルス	108
(2)	小児科・基幹病原体定点医療機関からの搬入検体	109
ア	感染性胃腸炎	109
イ	水痘	110
ウ	手足口病	111
エ	伝染性紅斑	112
オ	突発性発しん	113
カ	流行性耳下腺炎	113
キ	不明発しん症	113
ク	川崎病	115
ケ	無菌性髄膜炎	115
コ	RSウイルス（第14週まで）	115
サ	ヘルパンギーナ（第14週まで）	116
コ	咽頭結膜熱（第14週まで）	116
(3)	眼科病原体定点医療機関からの搬入検体	117
ア	流行性角結膜炎	117
(4)	性感染症（STI）病原体定点医療機関からの搬入検体	118
ア	性器ヘルペスウイルス感染症	118
イ	尖圭コンジローマ	118

(5) 積極的疫学調査による搬入検体	118
ア 二類感染症	118
イ 四類感染症	118
ウ 五類感染症（全数把握疾患）	119
2 細菌検査結果	
(1) 急性呼吸器感染症（ARI）定点医療機関からの搬入検体	120
ア 五類感染症（定点把握対象）の病原体検索	120
(2) 二類感染症の病原体検索	120
ア ジフテリア	120
(3) 四類感染症の病原体検索	120
ア レジオネラ症	120
(4) 五類感染症（全数把握対象）の病原体検索	120
ア カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	120
イ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	120
ウ 侵襲性インフルエンザ菌感染症	122
エ 薬剤耐性アシネトバクター感染症	122
オ 侵襲性肺炎球菌感染症	122
カ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症	123
キ 侵襲性髄膜炎菌感染症	123
ク 百日咳	123
(5) 五類感染症（定点把握対象）の病原体検索	123
ア A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	123
イ 感染性胃腸炎	123
ウ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症	123
エ マイコプラズマ肺炎	123
(6) 性感染症（STI）病原体定点医療機関からの搬入検体	124
ア クラミジア・トラコモナスおよび淋菌	124
イ 膣トリコモナス	124

第3章 資料

1 東京都感染症発生動向調査定点医療機関名簿	129
2 東京都感染症予防検討委員会委員名簿	146
3 東京都感染症発生動向調査事業の流れ	147
東京都感染症発生動向調査事業実施要綱	148
別表1 感染症法に基づく感染症の分類	162
別表2 五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期	166
別表3 疑似症の調査単位と報告時期	167
別記様式一覧表	168

第 1 章

東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

1 発生動向調査の概略

(1) 調査対象疾患

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」及び「感染症発生動向調査事業実施要綱」に定められている全数把握対象疾患及び定点把握対象疾患に加え、厚生労働省令で定める疑似症をサーベイランスの調査対象としている。また、東京都が独自に指定する調査対象疾患として、不明発しん症と川崎病を小児科疾患、膣トリコモナス症を性感染症に加えている。

(2) 定点医療機関

患者定点となる医療機関数は、小児科定点 264、内科定点 155、眼科定点 39、基幹定点 25、性感染症定点 55、疑似症定点 36 が設定され、このうち 70 医療機関が病原体定点を兼ねている。小児科定点と内科定点を合わせて急性呼吸器感染症定点とし、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、急性呼吸器感染症についての報告を受けている（急性呼吸器感染症については令和 7（2025）年 4 月 7 日から）。

表 1 東京都感染症発生動向調査事業定点医療機関数

（2025 年 12 月 31 日現在）

定 点 種 別 (疾患数)	患 者 定 点 数	病 原 体 定 点 数
小児科定点 (15)	264	26
内科定点 (3)	155	15
眼科定点 (2)	39	4
基幹定点 (10)	25	21
性感染症定点 (5)	55	4
疑似症定点	36	

(3) 運営方法

全数把握対象疾患は、診断後直ちに（五類感染症は 7 日以内、ただし侵襲性髄膜炎菌感染症、風しん及び麻しんは診断後直ちに）医療機関等から保健所に届出が行われる。小児科定点、内科定点、眼科定点及び基幹定点からの報告は週単位で、性感染症定点からの報告は月単位でなされる。ただし、基幹定点から報告される一部の疾患（薬剤耐性菌による感染症）については月単位となっている。

週単位で報告される疾患については、毎週月曜日から日曜日までに診断された患者を、小児科、内科、眼科の各定点医療機関は年齢別の患者数、基幹定点医療機関（薬剤耐性菌による感染症を除く）は年齢及び検出病原体名を保健所に報告する。

月単位で報告される疾患については、性感染症定点医療機関は当該月の性別・年齢別患者数、基幹定点医療機関（薬剤耐性菌による感染症）は当該月の患者の年齢、検体採取部位を保健所に報告する。

疑似症サーベイランスでは、疑似症定点医療機関において届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診察された場合に直ちに保健所に報告する。

医療機関等からの保健所への報告は原則として、感染症サーベイランスシステムへの入力による（令和 5 年 4 月 1 日より、医師が届出を行う場合には、本システムによる報告が努力義務化（厚生労働省令で定める感染症指定医療機関は義務化）された）。東京都健康安全研究センター疫学情報担当（基

幹地方感染症情報センター）（以下、疫学情報担当という）は、保健所からの情報を確認後、国へ報告する。

また、疑似症定点以外の医療機関からの疑似症報告については、保健所は随時、保健医療局感染症対策部防疫課（以下、防疫課という）へ報告する。保健所からの報告を受けた防疫課は、疫学情報担当へ報告し、両者で検討の上、国へ報告する。

（４）情報発信

患者情報は、全国の情報及び病原体定点で採取された検体からの病原体検出結果とともに、「感染症週報」として東京都感染症情報センターホームページで公開し、広く都民に情報還元を図っている。また、感染症週報には、東京都医師会発行の情報誌から引用した「感染症豆知識」の記事を掲載し、感染症に関する情報発信に繋げている。

さらに、隔月第４木曜日を目途に開催される東京都感染症予防検討委員会において、直近２カ月分の情報について討議し、その情報は情報誌に「感染症だより」として掲載されている。

２ 2025 年の概況

（１）一～四類、五類感染症（全数把握対象）

2025 年は、一部の感染症において前年と比較して顕著な増加がみられた一方で、報告数が減少または前年と同程度で推移した疾患も認められ、疾患ごとに動向の違いがみられた。

ア 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

イ 二類感染症

結核以外の届出はなかった。結核については別途「東京都における結核の概況」として報告する。

ウ 三類感染症

腸管出血性大腸菌感染症の報告数は前年（2024 年）と同様に 460 例以上の報告数となり、2023 年以降報告数が 400 例以上と高い水準となっている。

細菌性赤痢： 14 例の届出があった。菌種は *Shigella sonnei* 8 例、*Shigella flexneri* 6 例であった。推定感染地は国内 8 例、国外 5 例、不明 1 例であった。

腸管出血性大腸菌感染症： 463 例の届出があった。症状別では患者 269 例（うち溶血性尿毒症症候群 5 例）、無症状病原体保有者 194 例で、推定感染地は国内 291 例、国外 41 例、不明 131 例であった。血清型・毒素型は O157 VT1・VT2 が 135 例で最多であった。

腸チフス： 7 例の届出があった。推定感染地は国外 6 例、不明 1 例であった。

パラチフス： 4 例の届出があった。推定感染地は全て国外であった。

エ 四類感染症

2022 年に国内で初めて報告があったエムボックスは、2023 年（前々年）には 168 例の報告があったが、2024 年（前年）には 14 例、2025 年には 17 例と 2023 年の 10 分の 1 程度に抑えられていた。チクングニア熱、デング熱の報告数は、過去 10 年間では、2019 年をピークに 2020 年以降は大きく減少し

ており、2025 年は前年（2024 年）と概ね同水準であり、全て輸入例であった。

E型肝炎：149 例の届出があった。推定感染地は国内 107 例、国外 5 例、不明 37 例であった。

A型肝炎：18 例の届出があった。推定感染地は国内 7 例、国外 7 例、不明 4 例であった。

エキノコックス症：2 例の届出があった。推定感染地は不明 2 例であった。

エムボックス：17 例の届出があった。推定感染地は国内 11 例、国外 2 例、国内又は国外 1 例、不明 3 例であった。

オウム病：1 例の届出があった。推定感染地は国内であった。

コクシジオイデス症：1 例の届出があった。推定感染地は国外であった。

チクングニア熱：2 例の届出があった。推定感染地は全て国外であった。

つつが虫病：8 例の届出があった。推定感染地は国内 7 例、不明 1 例で、うち、東京都は 4 例であった。

デング熱：51 例の届出があった。推定感染地は全て国外であった。

マラリア：9 例の届出があった。病型は三日熱マラリア 3 例、熱帯熱マラリア 3 例、病型不明マラリア 3 例であった。推定感染地は全て国外であった。

ライム病：1 例の届出があった。推定感染地は国外であった。

レジオネラ症：180 件の届出があった。病型は肺炎型 165 件、ポンティアック熱型 13 件、無症状病原体保有者 2 件であった。推定感染地は国内 144 件、国外 8 件、不明 27 件であった。

レプトスピラ症：6 件の届出があった。推定感染地は国内 5 件、国外 1 件であった。

オ 五類感染症（全数把握対象）

百日咳の報告数は 7,135 例と、前年（2024 年）の約 18 倍に増加し、2018 年に全数把握対象となって以降で最も多い報告数となった。麻しんの報告数は 34 例で、前年の 3.4 倍となり、新型コロナウイルス感染症が流行した 2020 年以降では最多であった。侵襲性髄膜炎菌感染症は 15 例で、過去 10 年間で最多となった。一方、2024 年に、統計を取り始めて以降最多となった劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、2025 年には 4 割以上減少し、前々年（2023 年）に近い水準となった。梅毒は、前年と比較し減少したものの、依然 3,000 例を超える報告数が認められた。後天性免疫不全症候群は 275 例と前年に続き 300 例を下回ったが、届け出数に占める AIDS 患者の割合はわずかながら増加していた。

アメーバ赤痢：90 例の届出があった。病型は腸管アメーバ症 81 例、腸管外アメーバ症 7 例、腸管及び腸管外アメーバ症 2 例であった。推定感染地は国内 48 例、国外 15 例、国内又は国外 3 例、不明 24 例であった。

ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）：64 例の届出があった。病型はB型肝炎 48 例、C型肝炎 8 例、エプスタイン・バーウイルス肝炎 3 例、エンテロウイルス肝炎、サイトメガロウイルス肝炎各 2 例、ノロウイルス肝炎 1 例であった。

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症：140 例の届出があった。推定感染地は国内 121 例、国外 3 例、不明 16 例であった。

急性弛緩性麻痺：2 例の届出があった。推定感染地は全て国内であった。

急性脳炎：40 例の届出があった。推定感染地は国内 37 例、不明 3 例であった。

クリプトスポリジウム症：5 例の届出があった。推定感染地は国内 3 例、国外 2 例であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病：15 例の届出があった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症：143 例の届出があった。血清群は A 群 72 例（うち M1_{UK} 株 4 例）、B 群 24 例、C 群 2 例、F 群 2 例、G 群 43 例であった。

後天性免疫不全症候群：275 例の届出があった。AIDS 患者 64 例、HIV 感染者 211 例であった。性別は男性 261 例、女性 14 例であった。推定感染経路は性的接触が 239 例（同性間 183 例、異性間 30 例、両性間 7 例、性別不明 19 例）であった。

ジアルジア症：15 例の届出があった。推定感染地は国内 6 例、国外 8 例、不明 1 例であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症：69 例の届出があった。血清型は e 型 3 例、f 型 3 例、型別不能 56 例、検査不能 3 例、検査未実施 4 例であった。ワクチン接種歴は 4 回 7 例、3 回 3 例、1 回 1 例、なし 14 例、不明 44 例であった。

侵襲性髄膜炎菌感染症：15 例の届出があった。推定感染地は国内 11 例、不明 4 例であった。

侵襲性肺炎球菌感染症：379 例の届出があった。血清型が判明したものは 110 例で、最も多い血清型は 3 型の 26 例であった。ワクチン接種歴は 4 回 34 例、3 回 11 例、2 回 2 例、1 回 25 例、なし 118 例、不明 189 例であった。

水痘（入院例）：96 例の届出があった。推定感染地は国内 80 例、国外 2 例、不明 14 例であった。

梅毒：3,386 例の届出があった。病型は早期顕症梅毒 I 期 1,358 例、早期顕症梅毒 II 期 1,076 例、晩期顕症梅毒 38 例、無症候 908 例、先天梅毒 6 例であった。性別は男性 2,213 例、女性 1,171 例、性別不明 2 例であった。推定感染経路は性的接触が 3,060 例（異性間 2,125 例、同性間 585 例、両性間 18 例、性別不明 332 例）であった。

播種性クリプトコックス症：17 例の届出があった。推定感染地は国内 12 例、不明 5 例であった。

破傷風：7 例の届出があった。推定感染地は全て東京都であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症：12 例の届出があった。推定感染地は国内 10 例、国外 1 例、不明 1 例であった。耐性遺伝子型は *vanA* 11 例、未実施 1 例であった。

百日咳：7,135 例の届出があった。ワクチン接種歴は 4 回以上 3,637 例、3 回 198 例、2 回 27 例、1 回 68 例、なし 191 例、不明 3,014 例であった。

風しん：2 例の届出があった。臨床診断例 1 例、検査診断例 1 例であった。推定感染地は国内 1 例、不明 1 例であった。

麻疹：34 例の届出があった。検査診断例は 25 例、修飾麻疹例は 9 例であった。推定感染地は国内 22 例、国外 11 例、国内又は国外 1 例であった。

薬剤耐性アシネトバクター感染症：3 例の届出があった。菌種は全て *Acinetobacter baumannii* であった。

（２）五類感染症（定点把握対象）

ア 小児科・内科定点把握対象感染症

急性呼吸器感染症が 2025 年 4 月 7 日（第 15 週）から感染症法上の五類感染症に位置付けられ、定点把握対象疾患となった。2025 年の報告数は 927,732 人、定点当たり 2,228.42 人となった。

新型コロナウイルス感染症の流行により、2020 年から 2022 年においては、ほとんどの疾患の報告数が減少していたが、2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症が五類感染症に位置付けられて以降、ほとんどの疾患が増加傾向となり、新型コロナウイルス感染症流行前の例年並みの報告数に近づいた。

2024 年までに多くの疾患が新型コロナウイルス感染症流行後初めて大規模な流行を示しており、2025 年においては、水痘のみが前年比 2.30 と大規模に流行した。手足口病はもともと 1 年ごとに報告の少ない年と多い年を繰り返す傾向を示しており、前年は新型コロナウイルス感染症流行後初めて大規模

に流行し、2025 年は前年比 0.05 と大幅に減少した。

【前年比減少疾患】

新型コロナウイルス感染症：報告数は 46,732 人、定点当たり 112.95 人と、前年比（定点当たり）0.51 と約半分に減少した。

咽頭結膜熱：報告数は 3,341 人、定点当たり 12.75 人で、前年比（定点当たり）0.78 と減少した。

手足口病：報告数は 3,035 人、定点当たり 11.63 人で、前年比（定点当たり）0.05 と大幅に減少した。

ヘルパンギーナ：報告数は 5,416 人、定点当たり 20.81 人で、前年比（定点当たり）0.77 と減少した。

【前年並みであった疾患】

インフルエンザ：報告数は 151,906 人、定点当たり 366.74 人と、前年比（定点当たり）1.06 であった。

R S ウイルス感染症：報告数は 6,769 人、定点当たり 25.89 人で、前年比（定点当たり）は 1.05 であった。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎：報告数は 32,783 人、定点当たり 124.79 人と、前年比（定点当たり）0.92 であった。

伝染性紅斑：報告数は 8,630 人、定点当たり 32.90 人で、前年比（定点当たり）は 0.94 であった。

突発性発しん：報告数は 3,670 人、定点当たり 14.01 人で、前年比（定点当たり）1.03 であった。

流行性耳下腺炎：報告数は 789 人、定点当たり 3.01 人で、前年比（定点当たり）は 1.06 であった。

【前年比増加疾患】

感染性胃腸炎：報告数は 90,963 人、定点当たり 346.22 人で、前年比（定点当たり）1.48 と増加した。

水痘：報告数は 6,228 人、定点当たり 23.73 人であり、前年比（定点当たり）2.30 と増加した。

不明発しん症：報告数は 1,068 人、定点当たり 4.10 人で、前年比（定点当たり）は 1.93 と増加した。

川崎病：報告数は 267 人、定点当たり 1.02 人で、前年比（定点当たり）1.52 と増加した。

イ 眼科疾患

急性出血性結膜炎：報告数は 22 人、定点当たり 0.57 人、前年比（定点当たり）は 1.58 であった。

流行性角結膜炎：報告数は 1,175 人、定点当たり 30.40 人、前年比（定点当たり）は 1.30 であった。

ウ 基幹定点における週報告疾患

細菌性髄膜炎：報告数は 24 人、定点当たり報告数は 0.96 人で、前年比（定点当たり）0.62 と減少した。

無菌性髄膜炎：報告数は 51 人、定点当たり 2.04 人で、前年比（定点当たり）0.84 であった。

マイコプラズマ肺炎：報告数は 565 人、定点当たりの報告数は 22.60 人で、前年比（定点当たり）0.30 と減少した。

クラミジア肺炎（オウム病を除く）：報告数は 39 人、定点当たりの報告数は 1.56 人で、前年比（定点当たり）1.86 と増加した。

感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：報告数は 111 人、定点当たりの報告数は 4.44 人で、前年比（定点当たり）7.40 と増加した。

インフルエンザ入院：報告数は 1,690 人、定点当たりの報告数は 67.60 人で、前年比（定点当たり）1.27 であった。

新型コロナウイルス感染症入院：報告数は 3,236 人、定点当たりの報告数は 129.44 人で、前年比（定点当たり）0.52 と約半分に減少した。

エ 基幹定点における月報告疾患

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数は 729 人、定点当たりの報告数は 29.16 人で、前年比（定点当たり）1.00 であった。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数は 60 人、定点当たりの報告数は 2.40 人で、前年比（定点当たり）1.03 であった。

薬剤耐性緑膿菌感染症：報告数は 18 人、定点当たりの報告数は 0.72 人で、前年比（定点当たり）2.25 に増加した。

オ 性感染症

2025 年に前年（2024 年）より増加した性感染症は性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、膣トリコモナス症で、減少した性感染症は性器クラミジア感染症、淋菌感染症であった。

性器クラミジア感染症：報告数は 2,422 人（定点当たり 44.34 人）で、前年比（定点当たり）0.95 であった。男性の報告数は 1,348 人（前年比 0.91）、女性は 1,074 人（前年比 0.99）であった。

性器ヘルペスウイルス感染症：報告数は 568 人（定点当たり 10.38 人）で、前年比 1.18 であった。男性は 311 人（前年比 1.05）、女性は 257 人（前年比 1.38）であった。

尖圭コンジローマ：報告数は 659 人（定点当たり 12.06 人）で、前年比 1.12 であった。男性の報告数は 467 人（前年比 1.18）、女性は 192 人（前年比 1.00）であった。

淋菌感染症：報告数は 720 人（定点当たり 13.17 人）で、前年比 0.81 と減少した。男性は 509 人（前年比 0.79）、女性は 211 人（前年比 0.86）であった。

膣トリコモナス症：報告数は 102 人（定点当たり 1.86 人）で、前年比 1.15 倍であった。男性は 13 人（前年比 4.80）、女性は 89 人（前年比 1.04）であった。

（３）疑似症

3 例の報告があった。いずれもエコーウイルス 11 型感染例または感染疑い例であった。

表2-1(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数

(一～四類、五類全数)

		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	-	-
	結核 ^{*15}							
	ジフテリア	-	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 ^{*9}	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1) ^{*1}	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*6}	-	-	-	-	-	-	-
三類	コレラ	2	-	-	1	2	2	-
	細菌性赤痢	27	11	2	2	9	25	14
	腸管出血性大腸菌感染症	388	332	329	356	442	471	463
	腸チフス	3	2	1	6	8	7	7
	パラチフス	4	1	-	4	3	4	4
四類	E型肝炎	128	118	113	131	166	142	149
	ウエストナイル熱	-	-	-	-	-	-	-
	A型肝炎	143	24	14	6	13	21	18
	エキノкокクス症	-	-	1	3	-	1	2
	エムボックス ^{*14}	-	-	-	5	168	14	17
	黄熱	-	-	-	-	-	-	-
	オウム病	3	1	-	4	-	-	1
	オムスク出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	回帰熱	-	-	-	-	-	-	-
	キャサヌル森林病	-	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	1	-	-	-	-
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-
	コクシジオイデス症	-	3	-	-	-	2	1
	ジカウイルス感染症 ^{*10}	-	-	-	-	-	-	-
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*4}	1	-	-	1	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-
	チクングニア熱 ^{*2}	11	-	-	1	1	5	2
	つつが虫病	12	21	12	14	10	5	8
	デング熱	130	13	-	26	44	68	51
	東部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	-	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	4	-	1	-	-
	日本脳炎	-	-	-	-	-	1	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	-	-	-	-
	ブルセラ症	1	-	-	-	1	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	-	-	-	-
	ボツリヌス症	-	1	1	1	-	-	-

		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
四 類	マラリア	22	6	11	9	14	10	9
	野兔病	－	－	－	－	－	－	－
	ライム病	1	1	－	2	1	1	1
	リッサウイルス感染症	－	－	－	－	－	－	－
	リフトバレー熱	－	－	－	－	－	－	－
	類鼻疽	－	1	－	－	－	－	－
	レジオネラ症	187	148	163	120	168	261	180
	レプトスピラ症	9	2	3	5	5	5	6
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－	－	－	－	－
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	155	116	97	117	88	103	90
	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	98	60	49	35	43	42	64
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ^{*7}	237	171	210	208	228	209	140
	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く） ^{*12}	7	4	2	4	6	5	2
	急性脳炎	81	31	26	28	45	54	40
	クリプトスポリジウム症	4	－	－	2	1	14	5
	クロイツフェルト・ヤコブ病	19	17	12	18	20	11	15
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	126	101	85	107	141	246	143
	後天性免疫不全症候群	406	383	357	288	302	289	275
	ジアルジア症	12	8	8	12	12	15	15
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 ^{*5}	85	23	20	19	53	70	69
	侵襲性髄膜炎菌感染症 ^{*5}	5	2	－	1	4	10	15
	侵襲性肺炎球菌感染症 ^{*5}	382	163	128	141	218	281	379
	水痘（入院例） ^{*7}	80	50	32	49	59	68	96
	先天性風しん症候群	2	－	－	－	－	－	－
	梅毒	1,712	1,579	2,451	3,677	3,701	3,760	3,386
	播種性クリプトコックス症 ^{*7}	12	18	14	15	17	21	17
	破傷風	8	8	4	6	7	3	7
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	－	－	－	－	－	－	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	8	8	12	8	9	7	12
	百日咳 ^{*11}	1,340	262	69	55	116	400	7,135
	風しん ^{*3}	860	29	2	4	4	1	2
	麻しん ^{*3}	124	2	－	－	10	10	34
	薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*8}	2	－	1	2	3	1	3
新型 [#]	新型コロナウイルス感染症 ^{*13}		68,506	295,833	3,369,318	*13		

*1 2008年5月12日より追加指定。

*2 2011年2月1日より追加指定。

*3 2008年1月1日より五類（定点把握対象）から五類（全数把握対象）に変更。

*4 2013年3月4日より追加指定。

*5 2013年4月1日より髄膜炎菌性髄膜炎に替わり指定。

*6 2013年4月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更。

*7 2014年9月19日より追加指定、2023年5月26日から法令上の名称変更。（変更前はカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症）

*8 2011年2月1日より五類（定点把握対象）に追加指定、2014年9月19日に五類（全数把握対象）に変更。

*9 2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更。

病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。

*10 2016年2月15日より追加指定。

*11 2018年1月1日より五類（定点把握対象）から五類（全数把握対象）に変更。

*12 2018年5月1日より追加指定。

*13 2020年2月1日より指定感染症に追加指定、2021年2月13日より新型インフルエンザ等感染症に変更、

2023年5月8日から五類（定点把握対象）に変更。

*14 2023年5月26日から法令上の名称変更。（変更前はサル痘）

*15 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

新型インフルエンザ等感染症

表2－1（2） 東京都感染症発生動向調査年別患畜報告数（全数動物）

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
エボラ出血熱のサル	－	－	－	－	－	－	－
マールブルグ病のサル	－	－	－	－	－	－	－
ペストのプレーリードッグ	－	－	－	－	－	－	－
重症急性呼吸器症候群のイタチアナグマ	－	－	－	－	－	－	－
重症急性呼吸器症候群のタヌキ	－	－	－	－	－	－	－
重症急性呼吸器症候群のハクビシン	－	－	－	－	－	－	－
結核のサル	－	－	－	－	－	－	－
中東呼吸器症候群のヒトコブラクダ ^{*1}	－	－	－	－	－	－	－

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
鳥インフルエンザ(H5N1又はH7N9)の鳥類	－	－	－	－	3	－	－
細菌性赤痢のサル	－	－	－	－	－	－	－
ウエストナイル熱の鳥類	－	－	－	－	－	－	－
エキノコックス症の犬	－	－	－	－	－	－	－

*1 2014年7月26日より追加指定

表2－2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(急性呼吸器感染症定点・小児科定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
小児科定点数	264	264	264	264	264	264	264	264	264	264
急性呼吸器感染症定点数	419	419	419	419	419	419	419	419	419	419
インフルエンザ	125,207 302.31	129,813 314.14	137,262 331.57	148,861 361.04	33,424 81.86	43 0.11	3,318 8.25	166,792 402.93	143,719 345.47	151,906 366.74
新型コロナウイルス 感染症 ^{*1}								89,884 217.41	91,965 221.34	46,732 112.95
急性呼吸器 感染症(ARI) ^{*2}										927,732 2,228.42
RSウイルス感染症 ^{*3}	7,021 27.06	8,838 34.47	7,830 30.49	8,682 34.00	570 2.20	16,189 62.94	7,564 29.40	7,000 26.90	6,485 24.69	6,769 25.89
咽頭結膜熱	5,026 19.38	7,322 28.21	4,671 17.96	4,405 17.04	1,506 5.84	1,596 6.19	1,420 5.52	14,418 55.36	4,310 16.44	3,341 12.75
A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	31,211 120.13	30,664 117.71	32,120 123.25	29,223 112.95	13,314 51.33	4,014 15.58	2,094 8.14	25,052 96.27	35,588 135.59	32,783 124.79
感染性胃腸炎	110,239 423.72	84,981 326.63	79,282 304.52	77,421 299.71	40,036 154.79	45,400 176.04	63,709 248.04	73,680 283.49	61,265 233.59	90,963 346.22
水 痘	5,541 21.34	5,135 19.73	4,515 17.35	5,739 22.25	2,591 10.05	1,287 4.99	990 3.85	1,666 6.41	2,706 10.30	6,228 23.73
手足口病	6,993 26.97	33,056 129.10	8,452 32.65	34,136 132.46	1,020 3.98	2,542 9.82	16,911 65.92	7,183 27.58	59,022 224.86	3,035 11.63
伝染性紅斑	2,485 9.57	1,311 5.04	10,733 41.36	6,071 23.60	465 1.80	265 1.03	174 0.68	349 1.34	9,187 34.90	8,630 32.90
突発性発しん	7,231 27.87	7,056 27.13	6,771 26.05	5,872 22.77	5,610 21.76	5,291 20.53	3,889 15.13	3,447 13.26	3,571 13.61	3,670 14.01
百日咳 ^{*4}	181 0.70	113 0.44								
ヘルパンギーナ	13,094 50.69	6,812 26.54	8,188 32.01	10,341 40.26	674 2.61	2,595 10.03	4,423 17.23	16,077 61.77	7,063 26.91	5,416 20.81
流行性耳下腺炎	8,526 32.88	2,903 11.16	1,246 4.79	994 3.85	688 2.67	651 2.53	487 1.89	593 2.28	746 2.84	789 3.01
不明発しん症 ^{*5}	983 3.79	1,101 4.25	1,073 4.14	817 3.17	492 1.91	443 1.72	360 1.40	645 2.48	507 1.93	1,068 4.10
川崎病 ^{*5}	208 0.80	205 0.79	214 0.82	150 0.58	131 0.51	168 0.65	93 0.36	166 0.64	176 0.67	267 1.02

*1 2023年19週より実施

*2 2025年15週より実施

*3 2003年45週より実施

*4 2018年1月1日から全数把握対象疾患

*5 東京都独自疾患

表2－3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(眼科定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
定点数	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39
急性出血性結膜炎	11	12	14	11	11	2	3	21	14	22
	0.28	0.31	0.37	0.29	0.29	0.05	0.08	0.55	0.36	0.57
流行性角結膜炎	1,201	1,219	1,060	649	363	284	311	996	909	1,175
	31.03	31.48	28.22	17.35	9.62	7.51	8.21	25.80	23.37	30.40

表2－4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(基幹定点週報告分)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
定点数	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
細菌性髄膜炎	33	41	32	39	25	24	17	36	39	24
	1.32	1.64	1.28	1.57	1.00	0.96	0.68	1.44	1.56	0.96
無菌性髄膜炎	77	39	33	48	32	25	18	38	61	51
	3.08	1.56	1.32	1.93	1.28	1.01	0.72	1.52	2.44	2.04
マイコプラズマ肺炎	1,047	237	230	349	169	19	7	50	1,855	565
	41.88	9.48	9.20	14.02	6.79	0.76	0.28	2.00	74.20	22.60
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	50	46	40	39	25	17	22	9	21	39
	2.00	1.84	1.60	1.56	1.01	0.68	0.88	0.36	0.84	1.56
感染性胃腸炎 ^{*1} (ロタウイルスによる)	108	235	110	188	8	4	4	5	15	111
	4.32	9.40	4.40	7.53	0.32	0.16	0.16	0.20	0.60	4.44
インフルエンザ入院 ^{*2}	649	902	1,113	1,511	357	2	26	878	1,335	1,690
	25.96	36.08	44.52	60.49	14.28	0.08	1.04	35.14	53.40	67.60
新型コロナウイルス 感染症入院 ^{*3}								1,052	6,194	3,236
								42.08	247.76	129.44

*1 2013年42週より実施

*2 2011年36週より実施

*3 2023年39週より実施

表2－5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(基幹定点月報告分)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
定点数	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	867	881	804	894	823	814	731	693	730	729
	34.68	35.24	32.16	35.76	32.92	32.56	29.24	27.72	29.20	29.16
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	138	105	102	96	22	42	40	71	58	60
	5.52	4.20	4.08	3.84	0.88	1.68	1.60	2.84	2.32	2.40
薬剤耐性緑膿菌感染症	22	3	9	8	7	5	8	8	8	18
	0.88	0.12	0.36	0.32	0.28	0.20	0.32	0.32	0.32	0.72

表2－6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(性感染症定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
定点数	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55
性器クラミジア感染症	2,712	2,294	2,551	2,767	2,116	2,225	2,261	2,660	2,574	2,422
	49.39	41.77	46.46	50.93	39.31	40.69	41.78	48.59	46.86	44.34
性器ヘルペスウイルス感染症	1,400	1,279	1,037	977	663	718	679	598	485	568
	25.49	23.29	18.88	17.98	12.31	13.14	12.54	10.94	8.83	10.38
尖圭コンジローマ	1,321	1,021	1,051	1,564	956	1,056	1,157	1,050	591	659
	24.06	18.58	19.14	28.81	17.72	19.31	21.42	19.21	10.76	12.06
淋菌感染症	1,528	1,109	1,104	1,185	876	1,018	1,041	1,070	894	720
	27.82	20.20	20.11	21.81	16.25	18.62	19.26	19.56	16.28	13.17
膺トリコモナス症 *	117	110	128	118	100	95	103	79	89	102
	2.13	2.00	2.33	2.17	1.86	1.74	1.90	1.44	1.62	1.86

* 東京都独自疾患

3 各疾患の動向

(1) 一～四類、五類感染症（全数把握対象）

ア 一類感染症

一類感染症（エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱）は届出がなかった。

イ 二類感染症

① 結核

結核の発生動向は別途、「東京都における結核の概況（2025 年／令和 7 年）」で報告する。

② その他の二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）は届出がなかった。

ウ 三類感染症

① コレラ

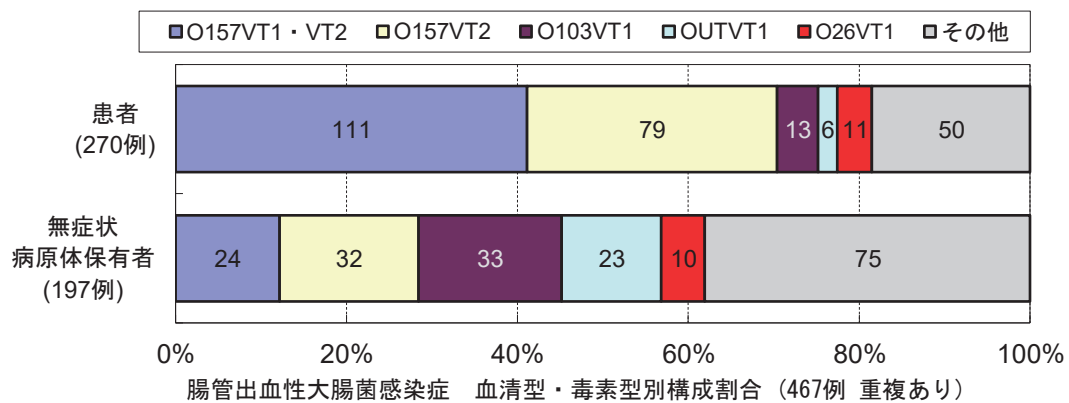
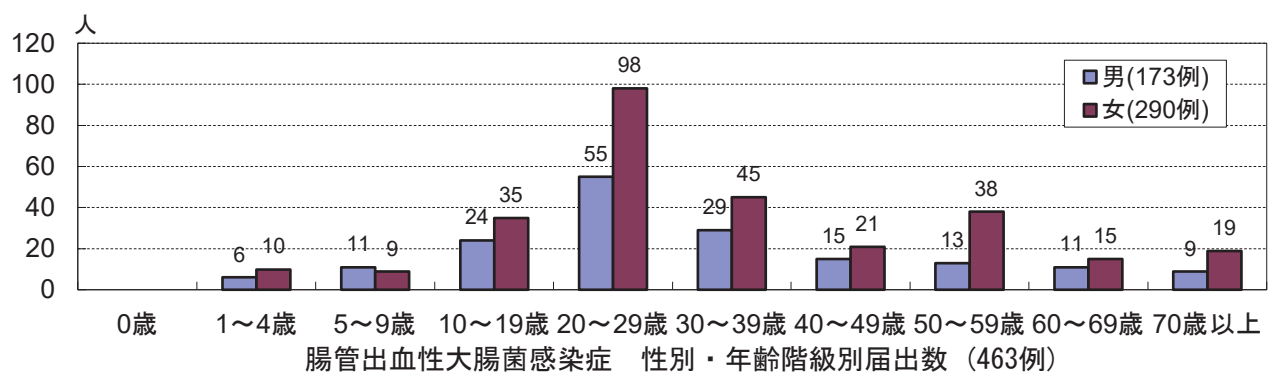
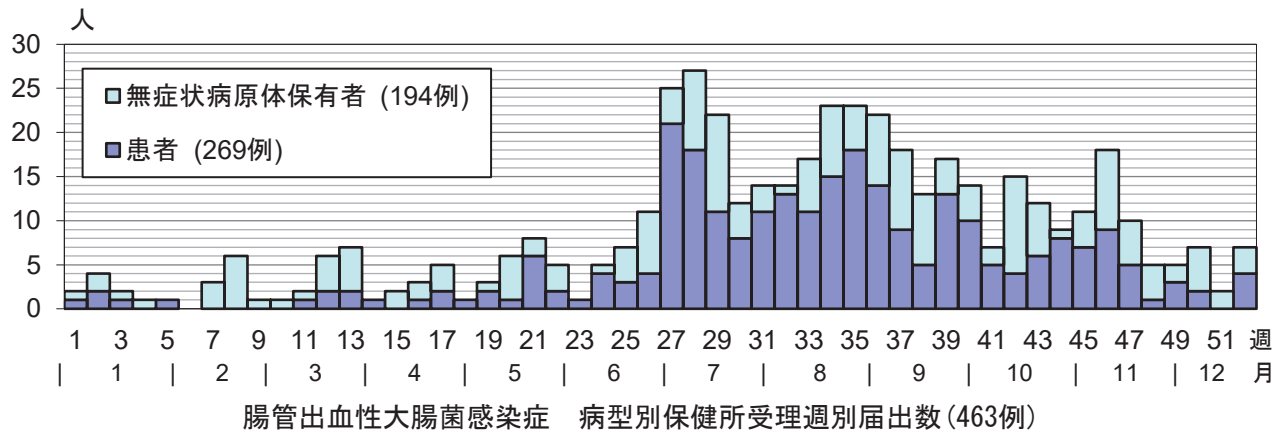
2025 年は届出がなかった。

② 細菌性赤痢

2025 年は 14 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 10 例、女性 4 例であった。年齢階級別では 20～29 歳 5 例、30～39 歳 1 例、40～49 歳 3 例、50～59 歳 3 例、60～69 歳 2 例であった。菌種は *Shigella sonnei* 8 例、*Shigella flexneri* 6 例であった。推定感染地は国内 8 例、国外 5 例（インド、エジプト、ボツワナ、ミャンマー、米国又はメキシコ各 1 例）、不明 1 例であった。推定感染経路は経口感染 10 例、性的接触 2 例（同性間 1 例、性別不明 1 例）、不明 2 例であった。

③ 腸管出血性大腸菌感染症

2025 年は 463 例の届出があった。届出の内訳は、患者 269 例、無症状病原体保有者 194 例であった。性別では男性 173 例、女性 290 例であった。年齢階級別では 10 歳未満 36 例（うち 5 歳未満 16 例）、10～19 歳 59 例、20～29 歳 153 例、30～39 歳 74 例、40～49 歳 36 例、50～59 歳 51 例、60～69 歳 26 例、70～79 歳 16 例、80 歳～89 歳 11 例、90 歳以上 1 例であった。血清型・毒素型は O157 VT1・VT2 が 135 例（患者 111 例、無症状病原体保有者 24 例）で最多であった。推定感染地は国内 291 例、国外 41 例（韓国 28 例、インドネシア、中国各 2 例、イタリア、エジプト、スリランカ、タイ、トルコ、フランス、ベトナム、ラオス、イギリス又はフランス各 1 例）、不明 131 例であった。推定感染経路は経口感染 194 例、接触感染 15 例、経口感染又は接触感染 11 例、不明 243 例であった。溶血性尿毒症症候群（HUS）と判明しているものは 5 例あり、10 歳未満 3 例（うち 5 歳未満 1 例）、20～29 歳 1 例、50～59 歳 1 例であった。



腸管出血性大腸菌感染症 血清型・毒素型別届出数（検出数：467）

血清型	毒素型	検出数	血清型	毒素型	検出数
O8	VT2	9	O121	VT2	3
O25	VT2	1	O128	VT2	1
	VT1	21		VT1・VT2	2
O26	VT2	6	O136	VT1	1
	VT1・VT2	2	O145	VT2	6
	不明	1	O146	VT1・VT2	1
O28	VT1	1	O148	VT2	1
O28ac	VT1・VT2	1	O153	VT2	2
O55	VT1	1		VT1	5
O78	VT1	1		VT2	111
	VT1	2		VT1・VT2	135
O91	VT1・VT2	5		不明	12
	VT1	46	O159	VT2	1
O103	VT1・VT2	1		VT1	29
	不明	1	OUT	VT2	17
O111	VT1	3		VT1・VT2	9
	VT1・VT2	2		VT1	10
O115	VT1	1	O 不明	VT2	8
	VT2	2		VT1・VT2	6

4例で複数の血清型が検出されたため、本表の総数は検出された血清型の延べ数とする。

溶血性尿毒症症候群（HUS）発症例（5例）

受理週	性別	年齢階級	血清型・毒素型	推定感染地	推定感染経路等
27	女	10歳未満	O157 VT1VT2	国内	接触感染（姉）
28	女	20～29歳	O157 VT1VT2	国内	経口感染（ユッケ）
30	男	10歳未満	O157 VT1VT2	国内	不明
36	女	10歳未満	O157 VT2	国内	経口感染（焼肉など）
37	女	50～59歳	O157 VT1VT2	国内	経口感染（バーベキュー）

④ 腸チフス

2025年は7例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性4例、女性3例であった。年齢階級別では10歳未満2例（うち5歳未満1例）、10～19歳1例、20～29歳3例、30～39歳1例であった。ファージ型はUVS4型2例、A型、D2型、DVS型、E1型、E10型各1例であった。推定感染地は国外6例（インド3例、インドネシア2例、フィリピン1例）、不明1例であった。推定感染経路は経口感染3例、不明4例であった。

⑤ パラチフス

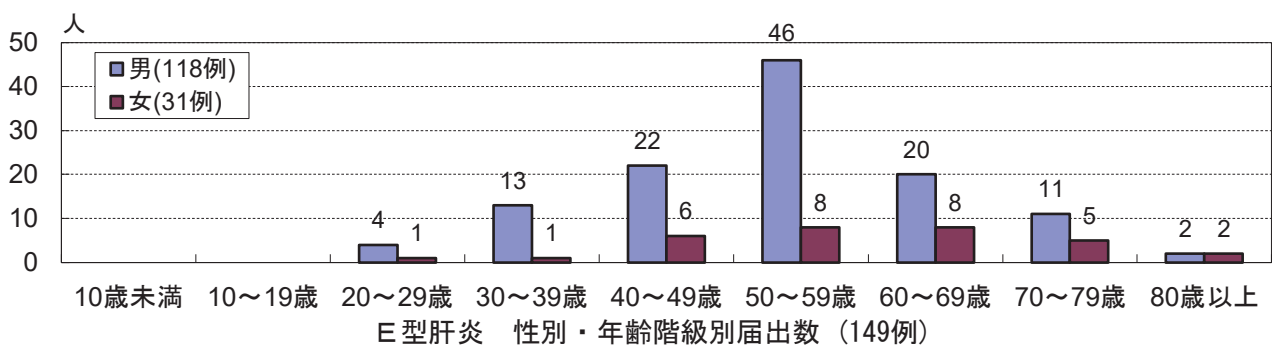
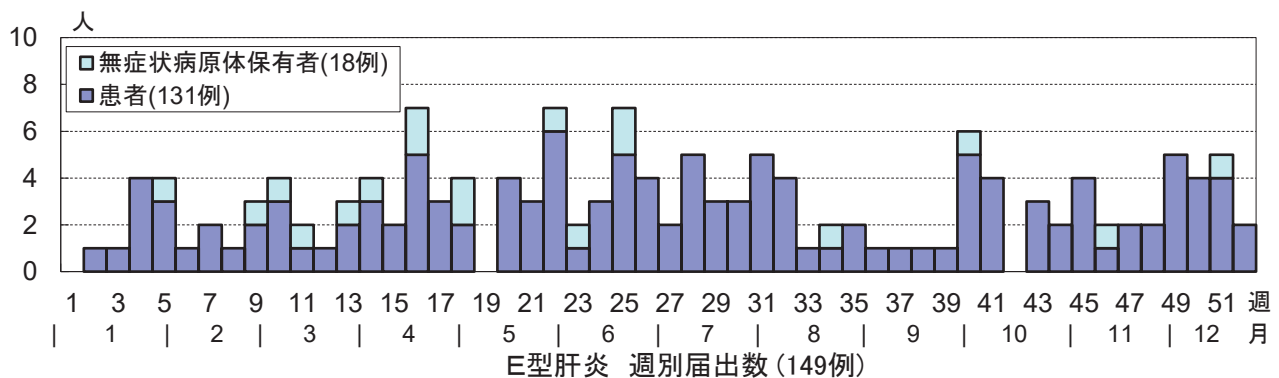
2025年は4例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性2例、女性2例であった。年齢階級別で

は、30～39 歳 2 例、40～49 歳 2 例であった。ファージ型は 2 型 2 例、UT (Untypable)、RDNC (Reacted but did not conform) 各 1 例であった。推定感染地は全て国外（インド、バングラデシュ各 2 例）であった。推定感染経路は経口感染 3 例、不明 1 例であった。

エ 四類感染症

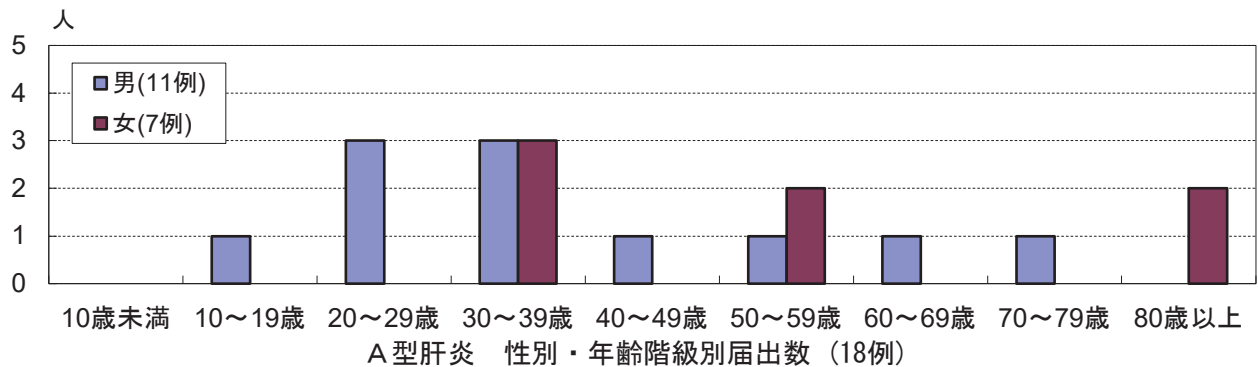
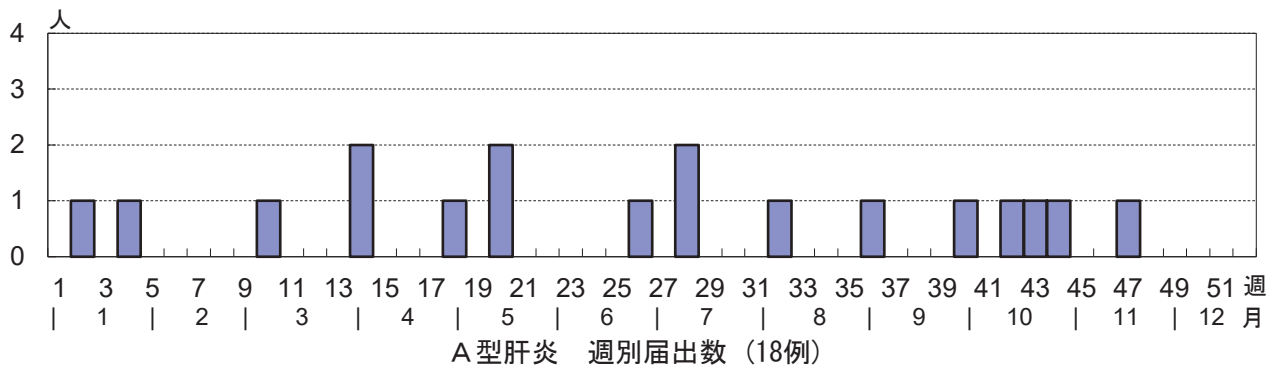
① E 型肝炎

2025 年は 149 例の届出があった。届出の内訳は、患者 131 例、無症状病原体保有者 18 例であった。性別では男性 118 例、女性 31 例であった。年齢階級別では 20～29 歳 5 例、30～39 歳 14 例、40～49 歳 28 例、50～59 歳 54 例、60～69 歳 28 例、70～79 歳 16 例、80～89 歳 4 例であった。推定感染地は国内 107 例、国外 5 例（インドネシア、韓国、中国、ベトナム、マレーシア各 1 例）、不明 37 例であった。推定感染経路は経口感染 70 例、動物・蚊・昆虫等からの感染 1 例、不明 78 例であった。経口感染 70 例の推定原因食品は、肉類 48 例、魚介類 2 例、不明 20 例であった。



② A型肝炎

2025 年は 18 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 11 例、女性 7 例であった。年齢階級別では 10～19 歳 1 例、20～29 歳 3 例、30～39 歳 6 例、40～49 歳 1 例、50～59 歳 3 例、60～69 歳 1 例、70～79 歳 1 例、80～89 歳 2 例であった。推定感染地は国内 7 例、国外 7 例（ウガンダ、韓国、チェコ、中国、バングラデシュ、香港、ミャンマー各 1 例）、不明 4 例であった。推定感染経路は経口感染 7 例、同性間性的接触 2 例、不明 9 例であった。経口感染 7 例の推定原因食品は肉類 2 例、韓国の屋台での飲食 1 例、ウガンダでの飲水・食事 1 例、不明 3 例であった。

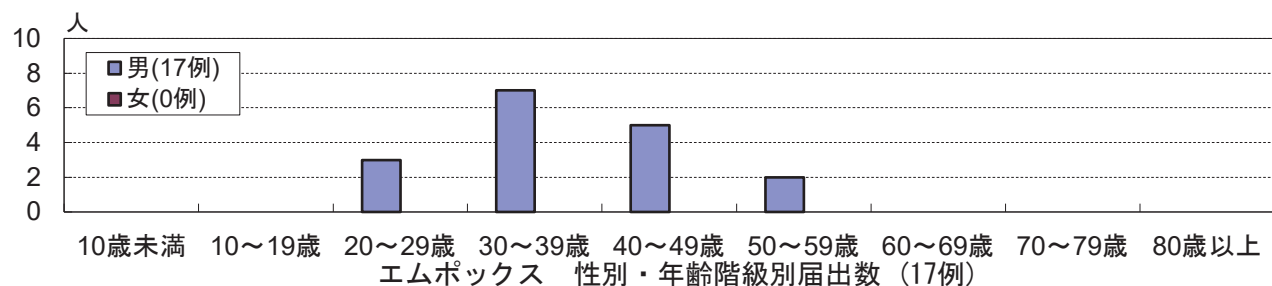
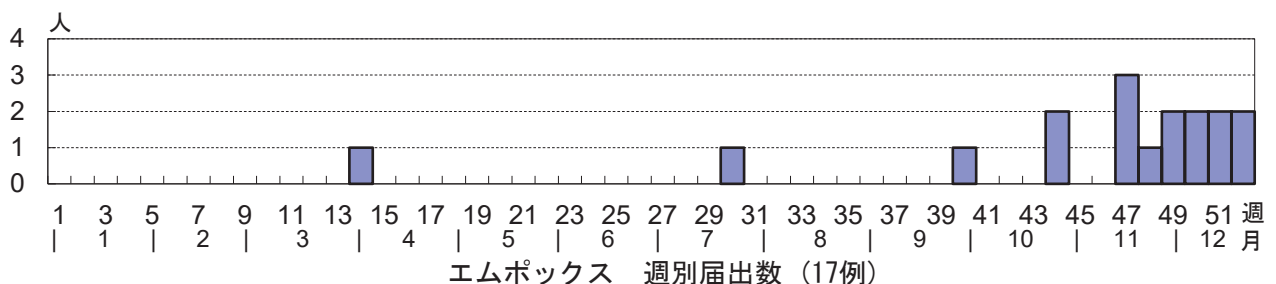


③ エキノコックス症

2025 年は 2 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 1 例、女性 1 例であった。年齢階級別では 40～49 歳 1 例、50～59 歳 1 例であった。推定感染地は全て不明であった。推定感染経路は全て不明であった。

④ エムボックス

2025 年は 17 例の届出があった。届出の内訳は、性別では全て男性であった。年齢階級別では 20～29 歳 3 例、30～39 歳 7 例、40～49 歳 5 例、50～59 歳 2 例であった。推定感染地は国内 11 例、国外 2 例（タイ、フィリピン各 1 例）、国内又は国外 1 例（タイ）、不明 3 例であった。推定感染経路は全て接触感染であった。遺伝的系統群は全てクレードIIであった。



⑤ オウム病

2025 年は 1 例の届出があった。性別は女性であった。年齢階級は 80～89 歳であった。推定感染地は国内であった。感染経路は鳥類との接触であった。

⑥ コクシジオイデス症

2025 年は 1 例の届出があった。性別は男性であった。年齢階級は 60～69 歳であった。推定感染地は国外（ナイジェリア又はシリア）であった。推定感染経路は不明であった。

⑦ チクングニア熱

2025 年は 2 例の届出があった。届出の内訳は、性別では全て男性であった。年齢階級別では 20～29 歳 1 例、30～39 歳 1 例であった。推定感染地は全て国外（スリランカ）であった。推定感染経路は全て動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

⑧ つつが虫病

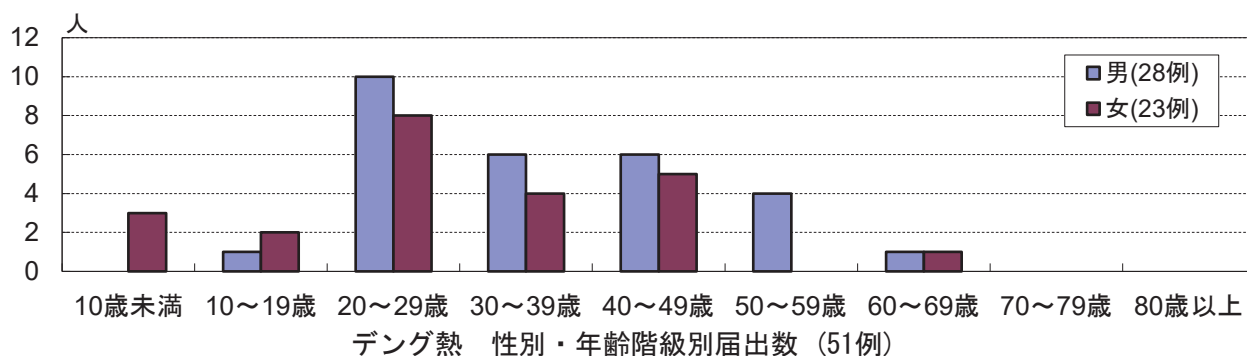
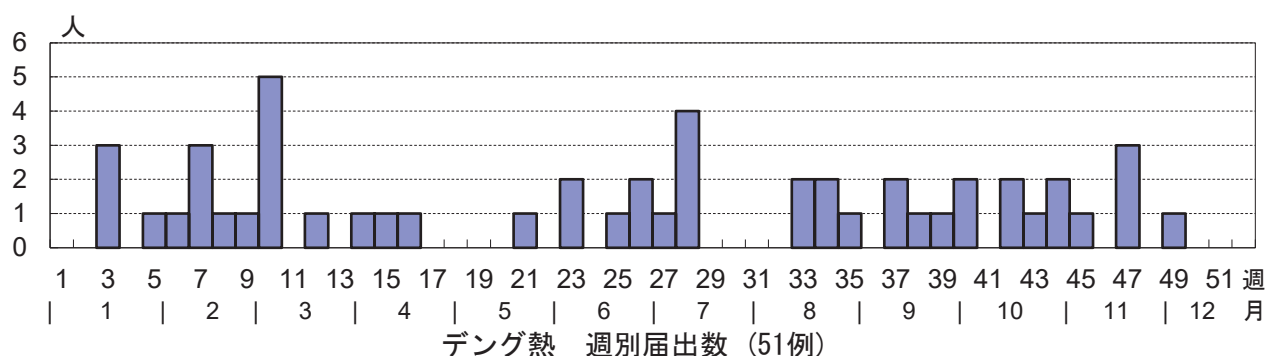
2025 年は 8 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 3 例、女性 5 例であった。年齢階級別では 40～49 歳 1 例、50～59 歳 1 例、60～69 歳 2 例、70～79 歳 3 例、80～89 歳 1 例であった。推定感染地は東京都 4 例（島しょ地区）、新潟県、岐阜県、神奈川県又は静岡県各 1 例、不明 1 例であった。推定感染経路は全て動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

つつが虫病届出例（8 例）

受理週	性別	年齢階級	推定感染地
2	男	70～79 歳	岐阜県
4	女	60～69 歳	東京都（島しょ）
5	男	40～49 歳	東京都（島しょ）
18	男	80～89 歳	東京都（島しょ）
20	女	60～69 歳	新潟県
49	女	50～59 歳	不明
51	女	70～79 歳	東京都（島しょ）
52	女	70～79 歳	神奈川県又は静岡県

⑨ デング熱

2025 年は 51 例の届出があった。届出の内訳は、デング熱 50 例、デング出血熱 1 例であった。性別では男性 28 例、女性 23 例であった。年齢階級別では 10 歳未満 3 例（うち 5 歳未満なし）、10～19 歳 3 例、20～29 歳 18 例、30～39 歳 10 例、40～49 歳 11 例、50～59 歳 4 例、60～69 歳 2 例であった。血清型は 36 例報告されており、その内訳は 1 型 13 例、2 型 15 例、3 型 6 例、4 型 2 例であった。推定感染地は全て国外（インドネシア 20 例、ベトナム 7 例、インド 6 例、タイ 5 例、カンボジア、フィリピン各 2 例、スリランカ、バングラデシュ、フィジー、ブラジル、ガイアナ又はトリニダード・トバゴ又はコロンビア、スリランカ又はタイ又は香港、トンガ又は米国、マレーシア又はインドネシア、マレーシア又はシンガポール各 1 例）であった。推定感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染 50 例、不明 1 例であった。



⑩ マラリア

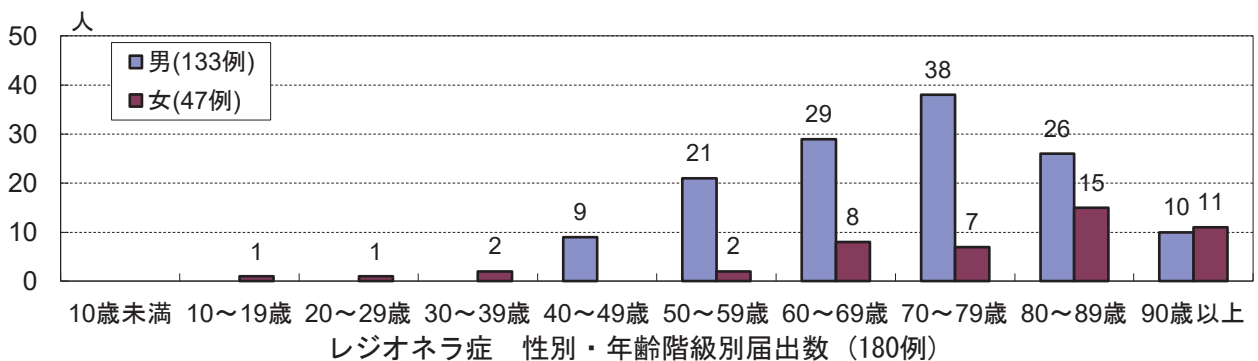
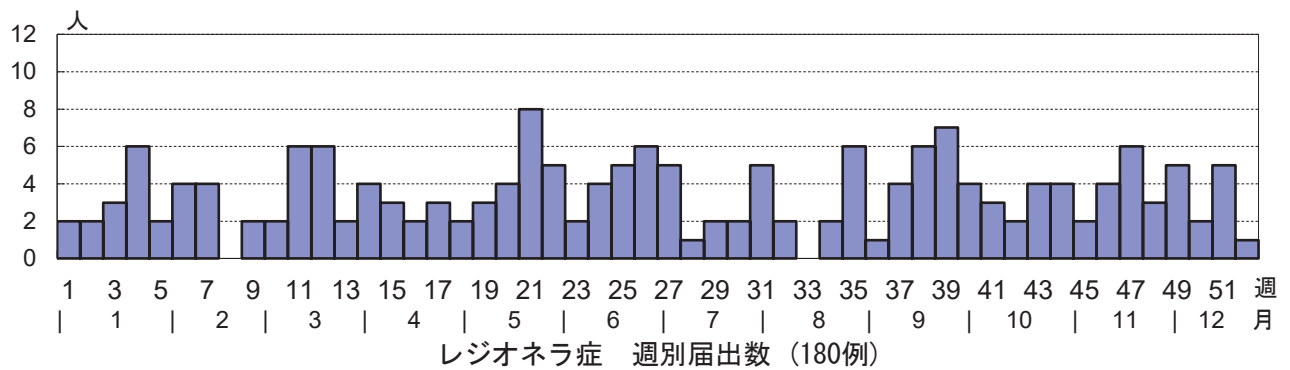
2025 年は 9 例の届出があった。届出の内訳は、三日熱マラリア 3 例、熱帯熱マラリア 3 例、病型不明マラリア 3 例であった。性別では全て男性であった。年齢階級別では 30～39 歳 2 例、40～49 歳 4 例、50～59 歳 3 例であった。推定感染地は、三日熱マラリアでは全て国外（インドネシア、エチオピア、ブラジル各 1 例）、熱帯熱マラリアでは全て国外（ガーナ、トーゴ、南スーダン各 1 例）、病型不明では全て国外（ナイジェリア 2 例、エチオピア 1 例）であった。推定感染経路は全て動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

⑪ ライム病

2025 年は 1 例の届出があった。性別は男性であった。年齢階級は 60～69 歳であった。推定感染地は国外（米国）であった。推定感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

⑫ レジオネラ症

2025 年は 180 例の届出があった。届出の内訳は、肺炎型 165 例、ポンティアック熱型 13 例、無症状病原体保有者 2 例であった。性別では男性 133 例、女性 47 例であった。年齢階級別では 10～19 歳 1 例、20～29 歳 1 例、30～39 歳 2 例、40～49 歳 9 例、50～59 歳 23 例、60～69 歳 37 例、70～79 歳 45 例、80～89 歳 41 例、90 歳以上 21 例で、このうち死亡例は 6 例（60～69 歳 1 例、70～79 歳 3 例、80～89 歳 1 例、90 歳以上 1 例）の報告があった。推定感染地は国内 144 例、国外 8 例（インド 2 例、インドネシア、オーストラリア、台湾、米国、マレーシア、台湾又はベトナム各 1 例）国内又は国外 1 例（香港）、不明 27 例であった。推定感染経路は、水系感染 61 例、塵埃感染 15 例、水系感染又は塵埃感染 1 例、その他 2 例、不明 101 例であった。水系感染のうち、公共浴場施設（温泉を含む）での感染と推定されたのは 31 例であった。



⑬ レプトスピラ症

2025 年は 6 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 4 例、女性 2 例であった。年齢階級別では 10～19 歳 2 例、30～39 歳 2 例、40～49 歳 1 例、60～69 歳 1 例であった。推定感染地は国内 5 例、国外 1 例（フィリピン）であった。

レプトスピラ症届出例 (6 例)

受理週	性別	年齢階級	推定感染地	推定感染経路
13	男	30～39 歳	東京都	ネズミとの接触
36	女	40～49 歳	沖縄県	水系感染 (川)
40	男	10～19 歳	沖縄県	水系感染 (川)
42	男	10～19 歳	沖縄県	水系感染 (汚水)
46	男	60～69 歳	三重県	水系感染 (川)
49	女	30～39 歳	フィリピン	水系感染 (淡水)

⑭ その他の四類感染症

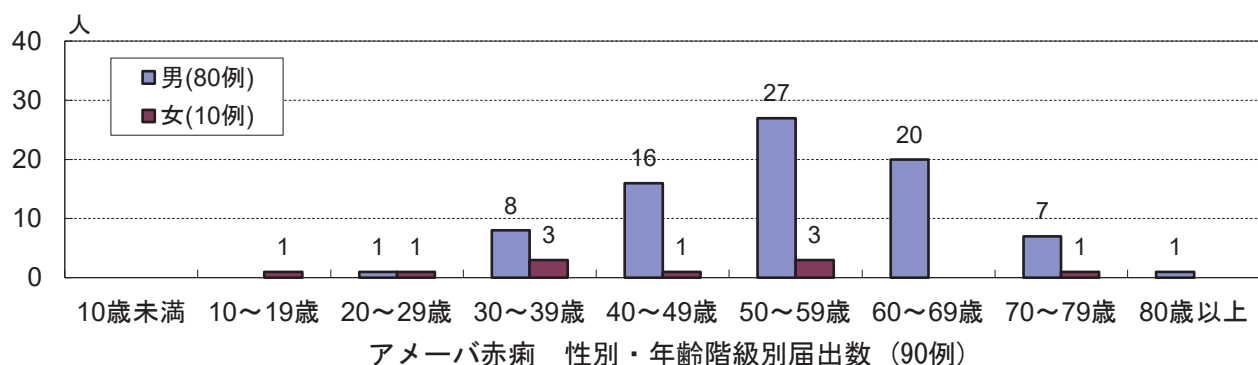
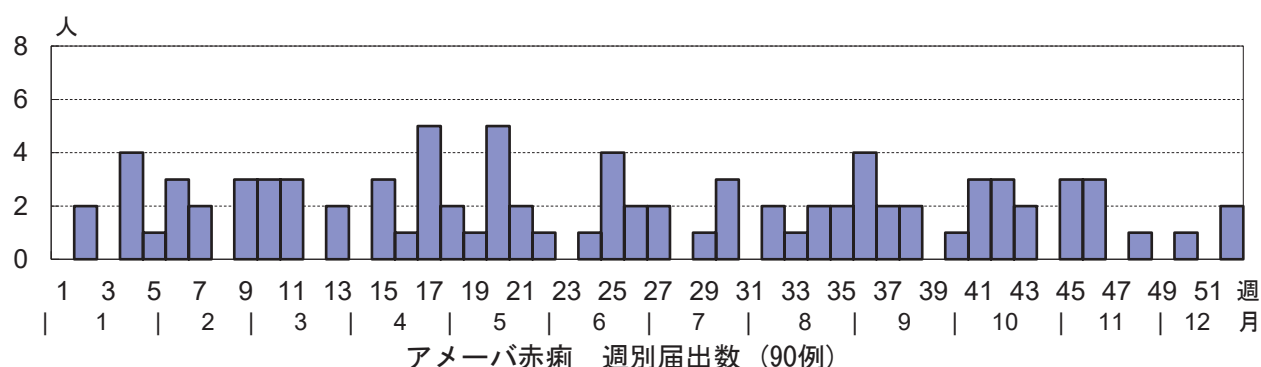
以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む）、黄熱、オムスク出血熱、回帰熱、キャサヌル森林病、Q 熱、狂犬病、ジカウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く）、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兎病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、ロッキー山紅斑熱

オ 五類感染症（全数把握対象）

① アメーバ赤痢

2025 年は 90 例の届出があった。届出の内訳は、腸管アメーバ症 81 例、腸管外アメーバ症 7 例、腸管及び腸管外アメーバ症 2 例であった。性別では男性 80 例、女性 10 例であった。年齢階級別では 10～19 歳 1 例、20～29 歳 2 例、30～39 歳 11 例、40～49 歳 17 例、50～59 歳 30 例、60～69 歳 20 例、70～79 歳 8 例、80～89 歳 1 例で、このうち死亡例は 1 例（70～79 歳）の報告があった。推定感染地は国内 48 例、国外 15 例（インドネシア、タイ、ベトナム各 2 例、インド、韓国、ケニア、米国、カンボジア又は台湾又はベトナム、タイ又は中国又はその他、インドネシア又はオーストラリア又はシンガポール、その他、渡航先不明各 1 例）、国内又は国外 3 例（タイ 2 例、インド 1 例）、不明 24 例であった。推定感染経路は性的接触 37 例（異性間 14 例、同性間 20 例、性別不明 3 例）、飲食物による経口感染 8 例、性別不明性的接触又は飲食物による経口感染 1 例、その他 2 例、不明 42 例であった。



② ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）

2025 年は 64 例の届出があった。届出の内訳は、B型肝炎 48 例、C型肝炎 8 例、エプスタイン・バーウイルス（以下、EBV）肝炎 3 例、エンテロウイルス（以下、EV）肝炎、サイトメガロウイルス（以下、CMV）肝炎各 2 例、ノロウイルス（以下、NoV）肝炎 1 例であった。

B型肝炎は 48 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 45 例、女性 3 例であった。年齢階級別では 20～29 歳 18 例、30～39 歳 14 例、40～49 歳 10 例、50～59 歳 2 例、60～69 歳 2 例、70～79 歳 1 例、80～89 歳 1 例であった。推定感染地は国内 38 例、国外 1 例（中国）、不明 9 例であった。推定感染経路は性的接触 35 例（異性間 14 例、同性間 14 例、両性間 1 例、性別不明 6 例）、静注薬物常用又は性別不明性的接触 1 例、その他 2 例、不明 10 例であった。

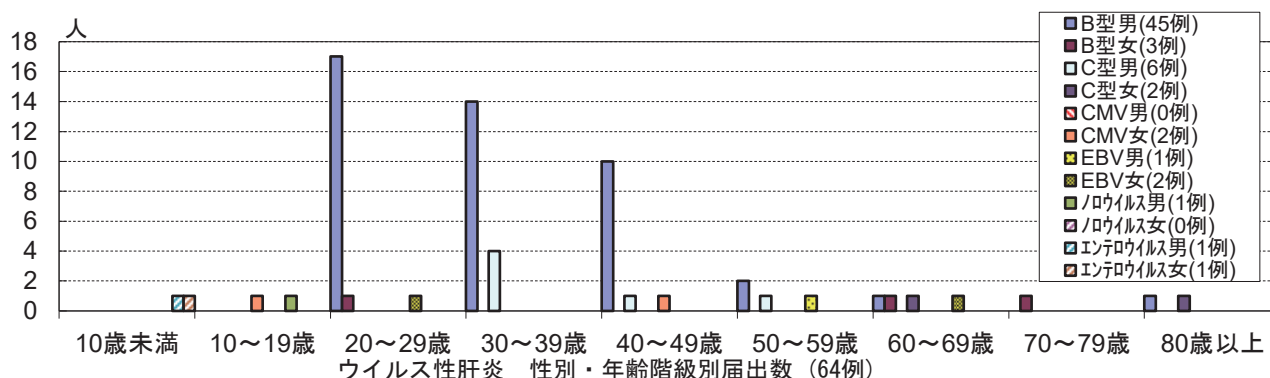
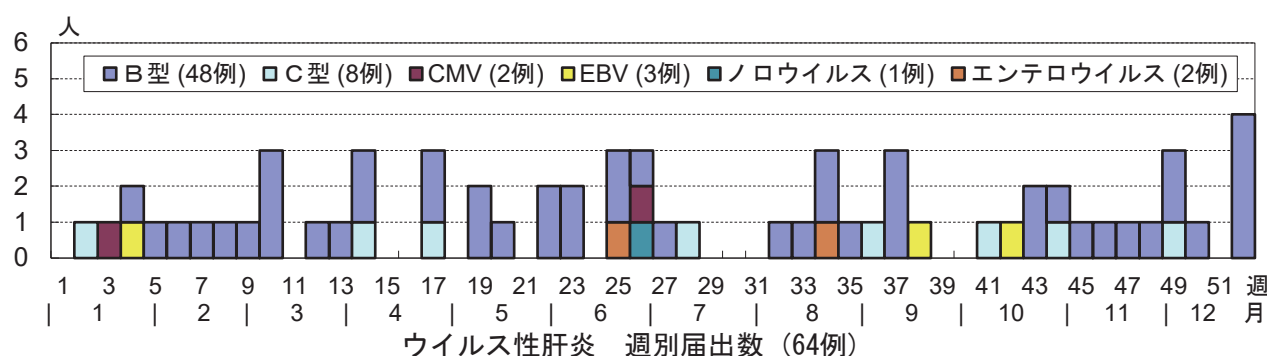
C型肝炎は 8 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 6 例、女性 2 例であった。年齢階級別では 30～39 歳 4 例、40～49 歳 1 例、50～59 歳 1 例、60～69 歳 1 例、80～89 歳 1 例であった。推定感染地は全て国内であった。推定感染経路は同性間性的接触 5 例、不明 3 例であった。

EBV 肝炎は 3 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 1 例、女性 2 例であった。年齢階級別では 20～29 歳 1 例、50～59 歳 1 例、60～69 歳 1 例であった。推定感染地は国内 1 例、不明 2 例であった。推定感染経路は全て不明であった。

EV 肝炎は 2 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 1 例、女性 1 例であった。年齢階級別では全て 5 歳未満であった。推定感染地は全て国内であった。推定感染経路は全て不明であった。

CMV 肝炎は 2 例の届出があった。届出の内訳は、性別では全て女性であった。年齢階級別では 10～19 歳 1 例、40～49 歳 1 例であった。推定感染地は国内 1 例、不明 1 例であった。推定感染経路は全て不明であった。

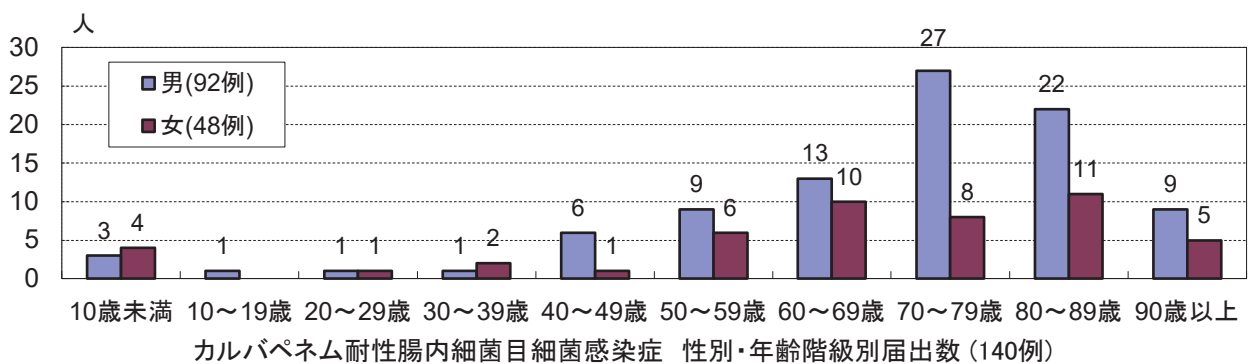
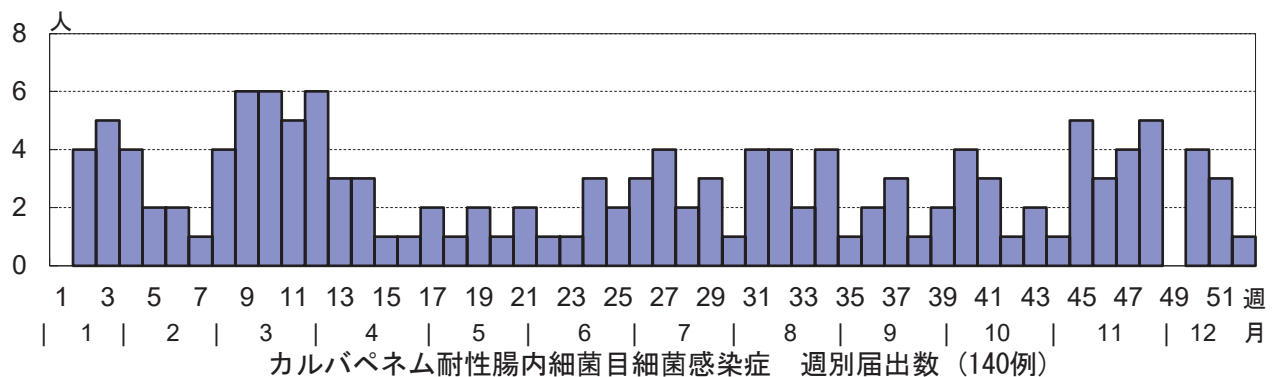
NoV 肝炎は 1 例の届出があった。性別は男性であった。年齢階級は 10～19 歳であった。推定感染地は国外（フィリピン）であった。推定感染経路はその他であった。



③ カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

2025 年は 140 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 92 例、女性 48 例であった。年齢階級別では 10 歳未満 7 例（うち 5 歳未満 6 例）、10～19 歳 1 例、20～29 歳 2 例、30～39 歳 3 例、40～49 歳 7 例、50～59 歳 15 例、60～69 歳 23 例、70～79 歳 35 例、80～89 歳 33 例、90 歳以上 14 例で、このうち死亡例は 13 例（50～59 歳 1 例、60～69 歳 1 例、70～79 歳 4 例、80～89 歳 5 例、90 歳以上 2 例）の報告があった。推定感染地は国内 121 例、国外 3 例（カンボジア、台湾、バングラデシュ各 1 例）、不明 16 例であった。推定感染経路は以前からの保菌 41 例、医療器具関連感染 20 例（尿路カテーテル 14 例、人工呼吸器、中心静脈カテーテル各 2 例、その他 2 例）、手術部位感染 11 例、院内感染 9 例、以前からの保菌又は医療器具関連感染 7 例（尿路カテーテル 6 例、中心静脈カテーテル 1 例）、以前からの保菌又は手術部位感染 2 例、院内感染又は医療器具関連感染（尿路カテーテル）1 例、医療器具関連感染（その他）又は手術部位感染 1 例、手術部位感染又はその他 1 例、不明 37 例であった。分離された菌種は、*Klebsiella aerogenes* 36 例、*Klebsiella pneumoniae* 32 例、*Enterobacter cloacae* 30 例、*Escherichia coli* 23 例、

Enterobacter cloacae complex 7 例、*Klebsiella oxytoca* 3 例、*Citrobacter amalonaticus*、*Citrobacter freundii*、*Citrobacter freundii* complex、*Enterobacter aerogenes*、*Escherichia hermannii*、*Morganella morganii*、*Pantoea agglomerans*、*Serratia marcescens*、*K. pneumoniae*／*E. coli* 各 1 例であった。



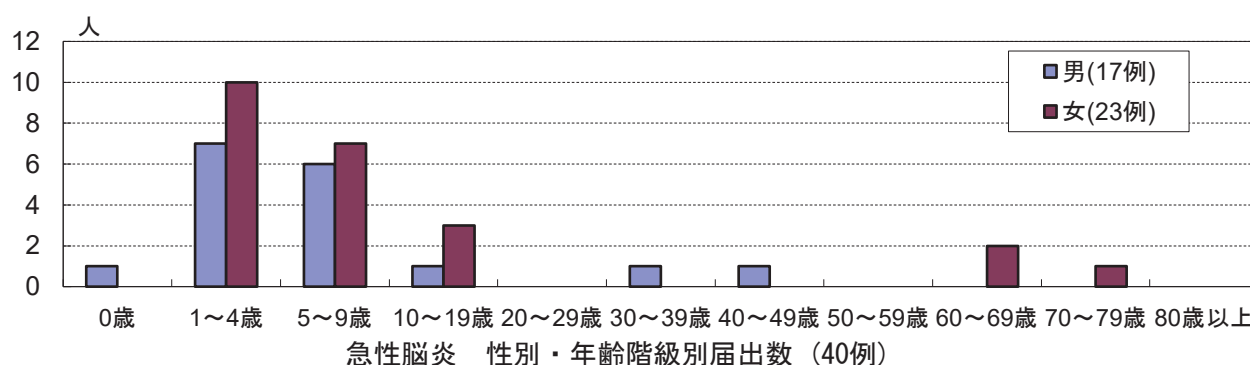
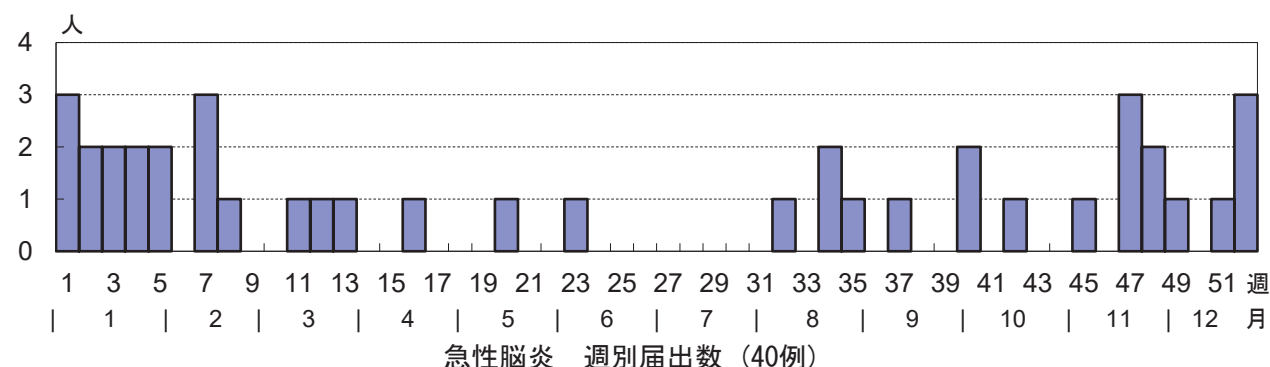
④ 急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）

2025 年は 2 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 1 例、女性 1 例であった。年齢階級別では、10 歳未満 2 例（うち 5 歳未満なし）であった。推定感染地は全て国内であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 1 例、不明 1 例であった。検出された病原体は全て不明であった。ポリオワクチン接種歴は、4 回 1 例、不明 1 例であった。

⑤ 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）

2025 年は 40 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 17 例、女性 23 例であった。年齢階級別では 10 歳未満 31 例（うち 5 歳未満 18 例）、10～19 歳 4 例、30～39 歳 1 例、40～49 歳 1 例、60～69 歳 2 例、70～79 歳 1 例で、このうち死亡例は 2 例（全て 10 歳未満（うち 5 歳未満 1 例））の報告があった。推定感染地は国内 37 例、不明 3 例であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 22 例、接触感染 2 例、飛沫・飛沫核感染又は経口感染 1 例、飛沫・飛沫核感染又はその他 1 例、その他 1 例、不明 13 例であった。検出された病原体は、インフルエンザウイルス 18 例（インフルエンザウイルス 3 例、インフルエンザウイルス A 型 7 例、インフルエンザウイルス AH1pdm 6 例、インフルエンザウイルス AH3 型 2 例）、ヘルペスウイルス 3 例（単純ヘルペスウイルス 1 例、単純ヘルペスウイルス 1 型 1 例、水痘帯状疱疹ウイルス 1 例）、アデノウイルス 2 例、マイコプラズマ、コロナウイルス、アストロウイルス、ノロウイルス、ライノウイルス／エンテロウイルス、RS ウイルス／クレブシエラ菌、アデノウイルス／ライノウイルス／エンテロウイルス／肺炎球菌、ヒトヘルペスウイルス 6 型／ライノウイルスまたはエ

ンテロウイルス、RS ウイルス／インフルエンザウイルス／ライノウイルス／エンテロウイルス／パラインフルエンザウイルス 2 型各 1 例、不明 8 例であった。



⑥ クリプトスポリジウム症

2025 年は 5 例の届出があった。届出の内訳は、性別では全て男性であった。年齢階級別では 10～19 歳 1 例、20～29 歳 1 例、40～49 歳 1 例、50～59 歳 2 例であった。推定感染地は国内 3 例、国外 2 例（インド、フィリピン各 1 例）であった。推定感染経路は経口感染 1 例、水系感染 1 例、動物・蚊・昆虫等からの感染 1 例、同性間性的接触 1 例、不明 1 例であった。

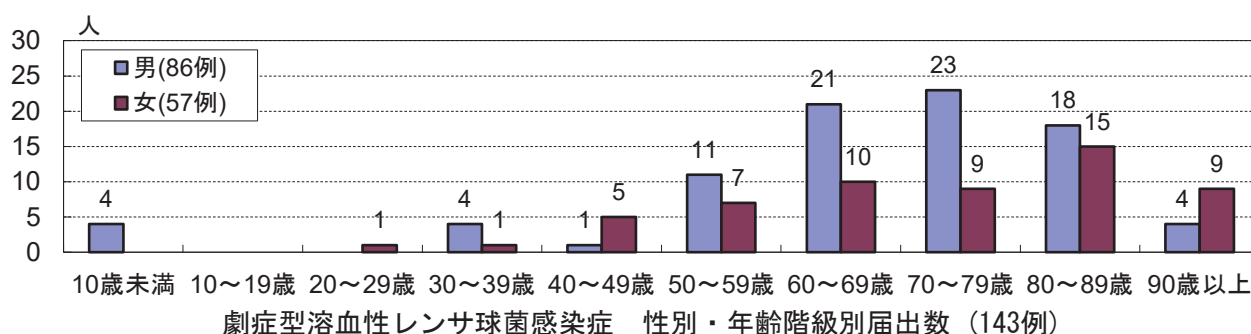
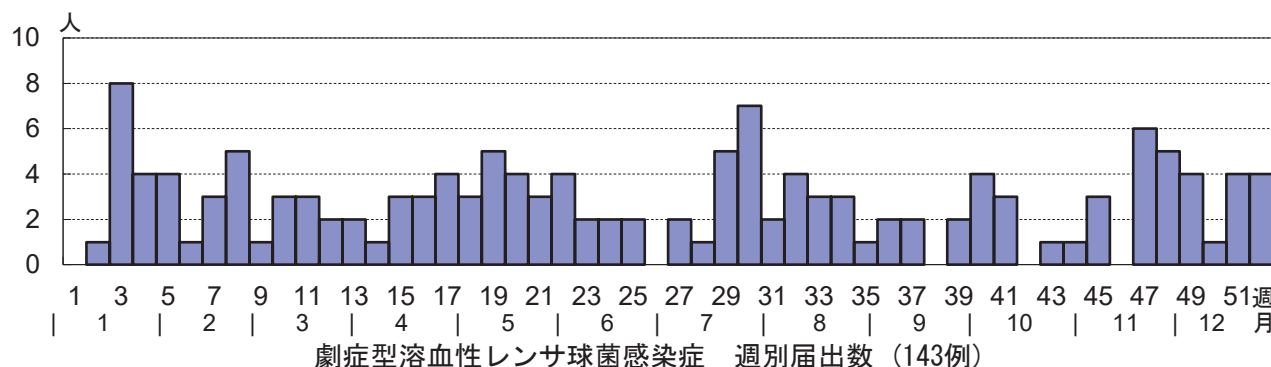
⑦ クロイツフェルト・ヤコブ病

2025 年は 15 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 8 例、女性 7 例であった。年齢階級別では 50～59 歳 2 例、60～69 歳 2 例、70～79 歳 8 例、80～89 歳 3 例で、このうち死亡例は 1 例（50～59 歳）の報告があった。病型は孤発性プリオン病・古典型クロイツフェルト・ヤコブ病（以下、CJD）が 13 例（ほぼ確実 7 例、疑い 6 例）、孤発性プリオン病・その他（疑い）、遺伝性プリオン病・家族性 CJD（確実）が各 1 例であった。

⑧ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2025 年は 143 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 86 例、女性 57 例であった。年齢階級別では 10 歳未満 4 例（うち 5 歳未満 3 例）、20～29 歳 1 例、30～39 歳 5 例、40～49 歳 6 例、50～59 歳 18 例、60～69 歳 31 例、70～79 歳 32 例、80～89 歳 33 例、90 歳以上 13 例で、このうち死亡例は 40 例（10 歳未満 1 例、40～49 歳 1 例、50～59 歳 4 例、60～69 歳 6 例、70～79 歳 9 例、80～89 歳 12 例、90 歳以上 7 例）の報告があった。推定感染地は国内 128 例、国外 2 例（全てインドネシア）、不明 13 例であった。推定感染経路は創傷感染 56 例、飛沫・飛沫核感染 7 例、接触感染 2 例、経口感染 2 例、飛沫・飛沫核感染又は接触感染 2 例、経口感染又は創傷感染 1 例、創傷感染又はその他 1 例、その他 9 例、不

明 63 例であった。血清群は A 群 72 例（うち M1_{UK} 株 4 例）、B 群 24 例、C 群 2 例、F 群 2 例、G 群 43 例であった。

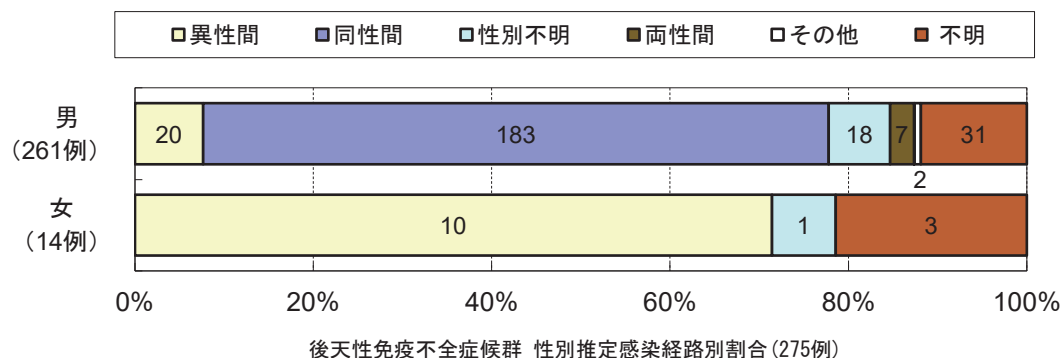
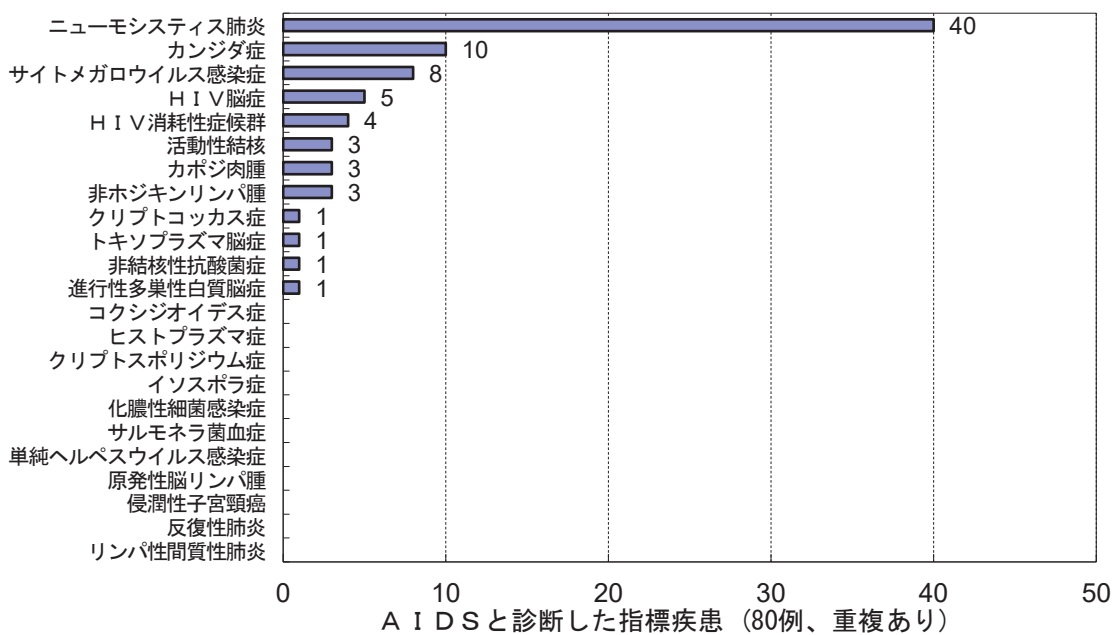
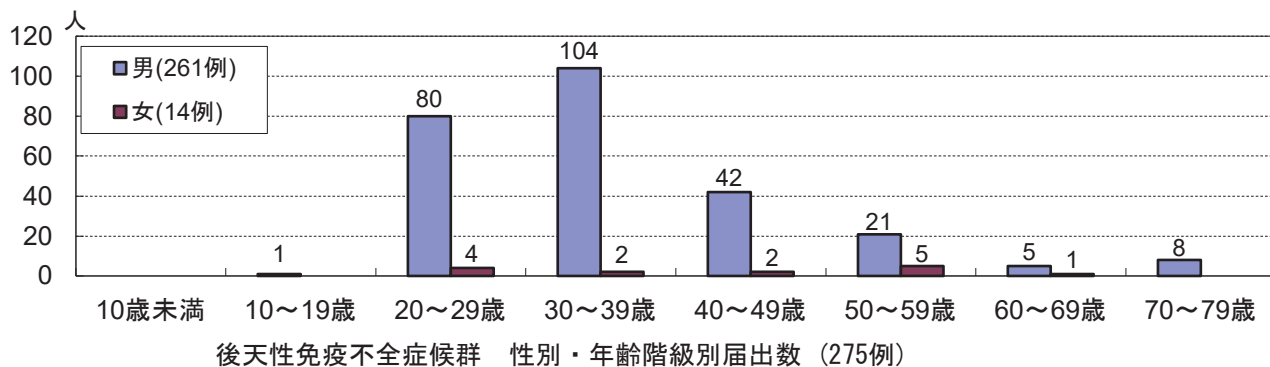
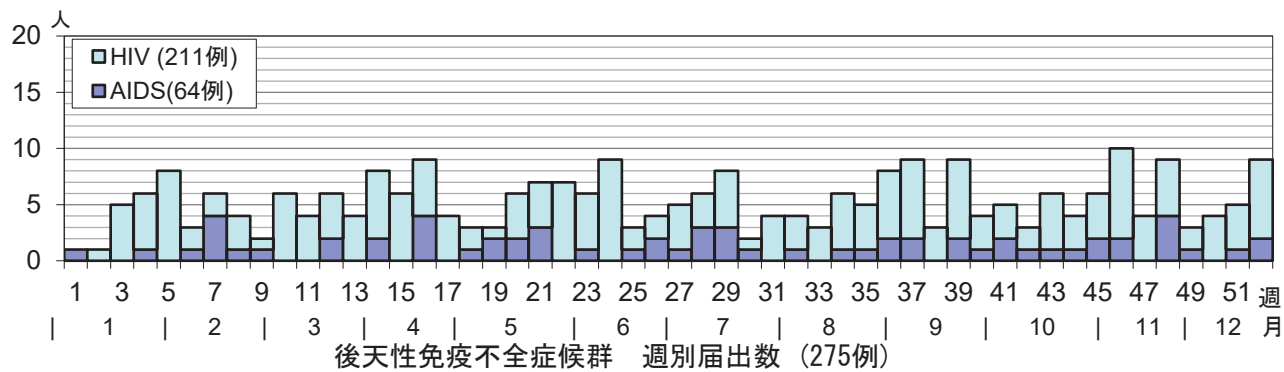


⑨ 後天性免疫不全症候群

2025 年は 275 例の届出があった。届出の内訳は、AIDS 患者 64 例、HIV 感染者 211 例（指標疾患以外の有症状者 23 例、無症候性キャリア 188 例）であった。性別では男性 261 例、女性 14 例であった。年齢階級別では 10～19 歳 1 例、20～29 歳 84 例、30～39 歳 106 例、40～49 歳 44 例、50～59 歳 26 例、60～69 歳 6 例、70～79 歳 8 例で、このうち死亡例は 2 例（40～49 歳 1 例、60～69 歳 1 例）の報告があった。推定感染地は国内 197 例、国外 18 例（中国、ミャンマー各 3 例、タイ、ベトナム、ナイジェリア各 2 例、キューバ、トルコ、バングラデシュ、フィリピン、リベリア、タイ又はマカオ各 1 例）、国内又は国外 4 例（ウズベキスタン、ミャンマー、中国、渡航先不明各 1 例）、不明 56 例であった。推定感染経路は性的接触 239 例（同性間 183 例、異性間 30 例、両性間 7 例、性別不明 19 例）、同性間性的接触又は静注薬物使用 1 例、その他 1 例、不明 34 例であった。届出のうち外国籍は 53 例で、AIDS 患者 12 例、HIV 感染者 41 例（指標疾患以外の有症状者 2 例、無症候性キャリア 39 例）であった。

AIDS 患者 64 例の内訳は、性別では男性 58 例、女性 6 例であった。年齢階級別では 20～29 歳 8 例、30～39 歳 19 例、40～49 歳 18 例、50～59 歳 13 例、60～69 歳 3 例、70～79 歳 3 例で、このうち死亡例は 2 例（40～49 歳 1 例、60～69 歳 1 例）の報告があった。AIDS 患者の指標疾患は、ニューモシスティス肺炎（40 例）が最多で、次にカンジダ症（10 例）、サイトメガロウイルス感染症（8 例）が多かった。

HIV 感染者のうち無症候性キャリア 188 例の内訳は、性別では男性 181 例、女性 7 例であった。年齢階級別では 10～19 歳 1 例、20～29 歳 65 例、30～39 歳 80 例、40～49 歳 24 例、50～59 歳 11 例、60～69 歳 2 例、70～79 歳 5 例であった。

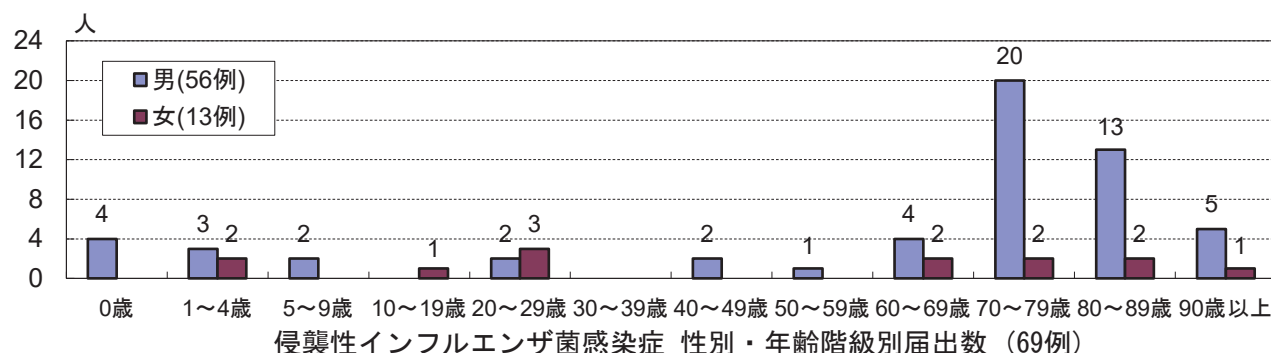
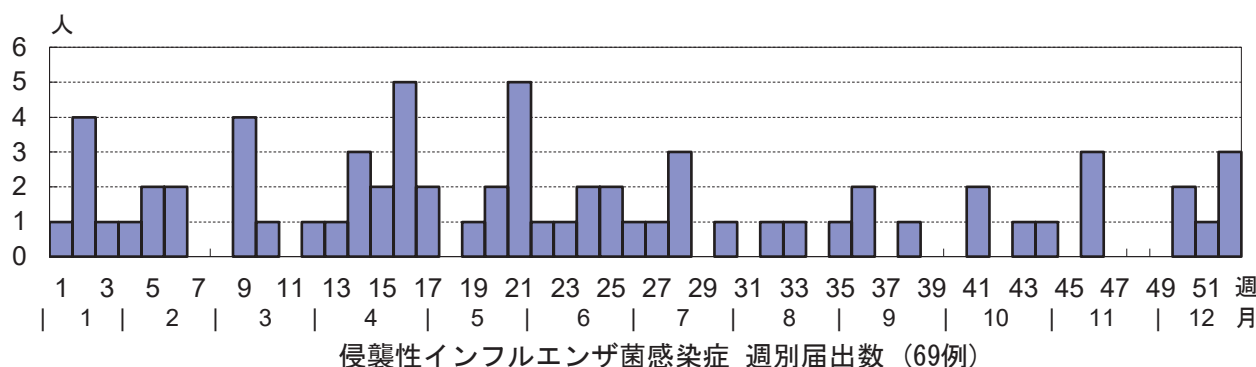


⑩ ジアルジア症

2025 年は 15 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 12 例、女性 3 例であった。年齢階級別では、10～19 歳 1 例、30～39 歳 7 例、40～49 歳 5 例、50～59 歳 2 例であった。推定感染地は国内 6 例、国外 8 例（インド 2 例、エチオピア、ケニア、スリランカ、パキスタン、ペルー、マダガスカル各 1 例）、不明 1 例であった。推定感染経路は性的接触 5 例（異性間 1 例、同性間 4 例）、経口感染 3 例、経口感染又は水系感染 1 例、その他 1 例、不明 5 例であった。

⑪ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

2025 年は 69 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 56 例、女性 13 例であった。年齢階級別では 10 歳未満 11 例（うち 5 歳未満 9 例）、10～19 歳 1 例、20～29 歳 5 例、40～49 歳 2 例、50～59 歳 1 例、60～69 歳 6 例、70～79 歳 22 例、80～89 歳 15 例、90 歳以上 6 例で、このうち死亡例は 5 例（70～79 歳 1 例、80～89 歳 3 例、90 歳以上 1 例）の報告があった。血清型は e 型 3 例、f 型 3 例、型別不能 56 例、検査不能 3 例、検査未実施 4 例であった。推定感染地は、国内 61 例、不明 8 例であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 18 例、接触感染 2 例、飛沫・飛沫核感染又は接触感染 1 例、その他 6 例、不明 42 例であった。ワクチン接種歴は 4 回 7 例、3 回 3 例、1 回 1 例、なし 14 例、不明 44 例で、接種歴がある 11 例のワクチンの種類は Hib ワクチン 7 例、種類不明 4 例であった。



⑫ 侵襲性髄膜炎菌感染症

2025 年は 15 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 6 例、女性 9 例であった。年齢階級別では 10 歳未満 1 例（うち 5 歳未満 1 例）、10～19 歳 4 例、30～39 歳 1 例、40～49 歳 2 例、50～59 歳 4 例、60～69 歳 2 例、70～79 歳 1 例で、このうち死亡例は 2 例（60～69 歳 1 例、70～79 歳 1 例）の報告があった。血清型は Y 群 5 例、B 群 4 例、検査不能 1 例、未実施 5 例であった。推定感染地は国内 11 例、不明 4 例であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 3 例、その他 1 例、不明 11 例であった。ワクチン接種歴は 1 回 1 例、なし 3 例、不明 11 例であった。

⑬ 侵襲性肺炎球菌感染症

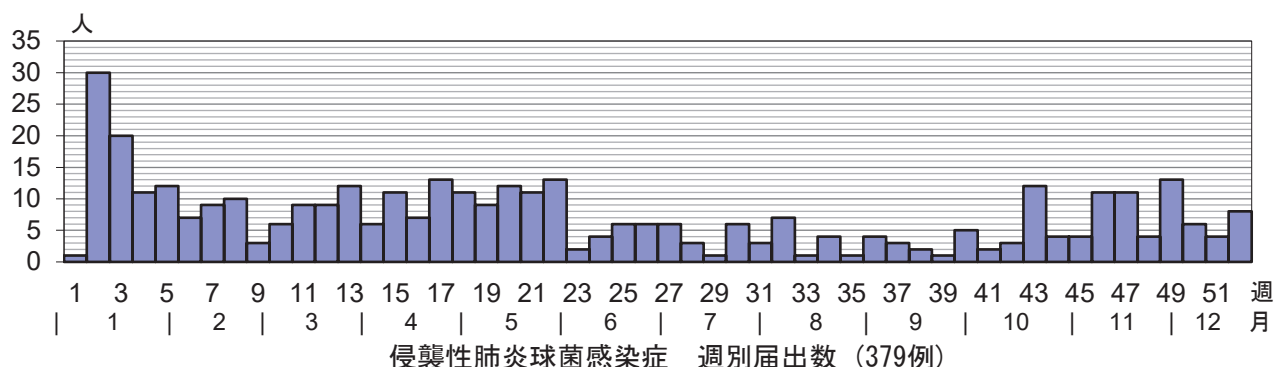
2025 年は 379 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 235 例、女性 144 例であった。年齢階級別では 10 歳未満 43 例（うち 5 歳未満 37 例）、10～19 歳 8 例、20～29 歳 8 例、30～39 歳 12 例、40～49 歳 21 例、50～59 歳 42 例、60～69 歳 45 例、70～79 歳 111 例、80～89 歳 79 例、90 歳以上 10 例で、このうち死亡例は 36 例（20～29 歳 1 例、40～49 歳 3 例、50～59 歳 3 例、60～69 歳 3 例、70～79 歳 11 例、80～89 歳 12 例、90 歳以上 3 例）の報告があった。推定感染地は国内 321 例、国外 1 例（バングラデシュ）、国内又は国外 1 例（インド）、不明 56 例であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 113 例、接触感染 8 例、飛沫・飛沫核感染又は接触感染 7 例、飛沫・飛沫核感染又はその他 1 例、その他 18 例、不明 232 例であった。血清型が判明したものは 110 例で、最も多い血清型は 3 型の 26 例であった。ワクチン接種歴は 4 回 34 例、3 回 11 例、2 回 2 例、1 回 25 例、なし 118 例、不明 189 例であった。

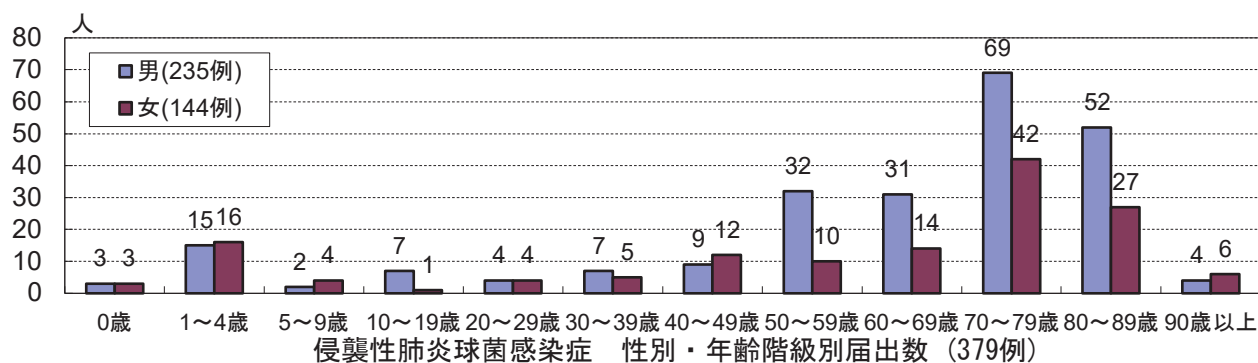
侵襲性肺炎球菌感染症 血清型（110 例）

血清型	届出数	血清型	届出数	血清型	届出数	血清型	届出数
3型	26	13型	1	19F型	1	34型	1
6B型	1	14型	3	22F型	14	35B型	2
6C型	2	15A型	2	23A型	3	35F型	2
7C型	2	15B型	3	23B型	2	38型	12
8型	1	15C型	3	24B型	9	19A型 及び34型	1
10A型	6	16F型	1	24F型	4		
11A型	5	19A型	3				

侵襲性肺炎球菌感染症 接種回数・価数・年齢階級別 ワクチン接種歴（379 例）

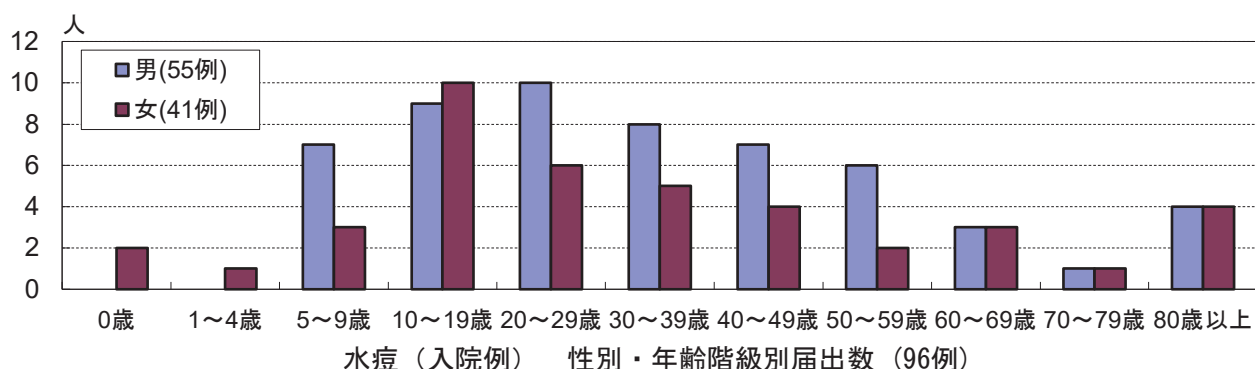
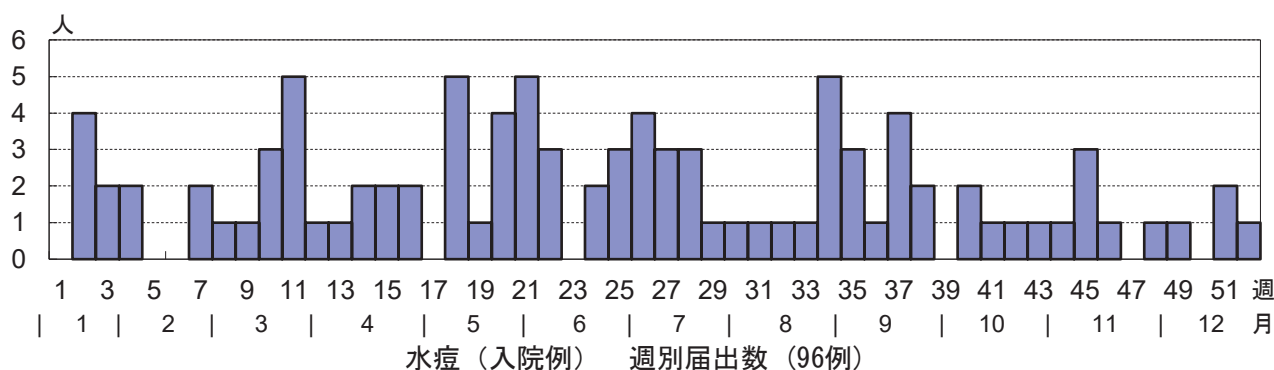
接種回数	4													3					2		1			無し	不明	
7価	3																		2							
13価	1	4	3	3	3	2	2	2	1	1				1		1		1								
15価	1				2		1	3			4		3	3												
20価	1				1						1															
23価														3		1		1								
不明	1				2		3			1		4	3		1											
人数	1	7	5	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9	1	4	1	2	3	1	1	1	1	23	118	189
5歳未満	3		5	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5	1	4	1	2	1	2						1
5～9歳	2														2											1
10～64歳	1	2													1		1		1				54	51		
65歳以上	1													1					1			1	1	21	64	136





⑭ 水痘（入院例）

2025 年は 96 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 55 例、女性 41 例であった。年齢階級別では 10 歳未満 13 例（うち 5 歳未満 3 例）、10～19 歳 19 例、20～29 歳 16 例、30～39 歳 13 例、40～49 歳 11 例、50～59 歳 8 例、60～69 歳 6 例、70～79 歳 2 例、80～89 歳 7 例、90 歳以上 1 例であった。推定感染地は国内 80 例、国外 2 例（中国、イギリス又はフランス又はエジプト各 1 例）、不明 14 例であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 15 例、接触感染 14 例、院内感染 2 例、飛沫・飛沫核感染又は接触感染 3 例、その他 1 例、不明 61 例であった。ワクチン接種歴は 2 回 14 例、1 回 9 例、なし 39 例、不明 34 例であった。

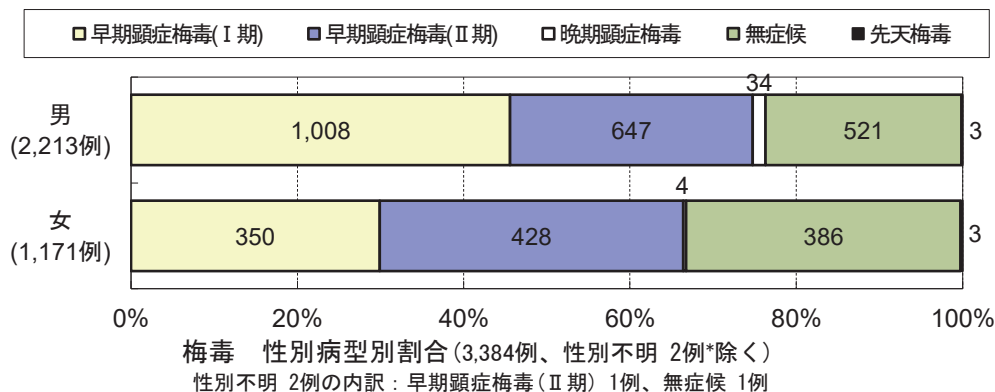
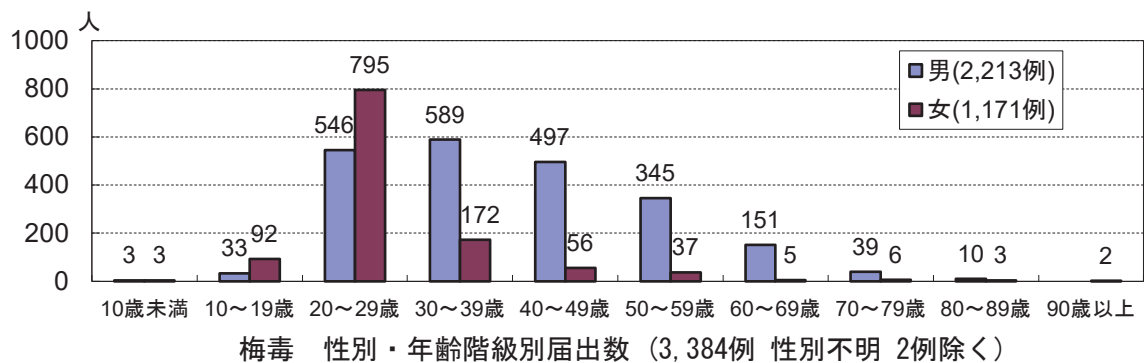
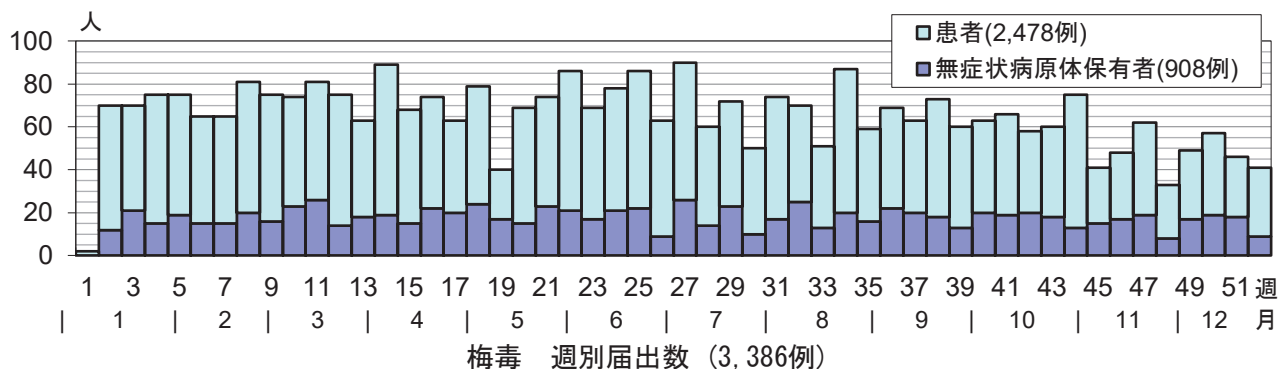


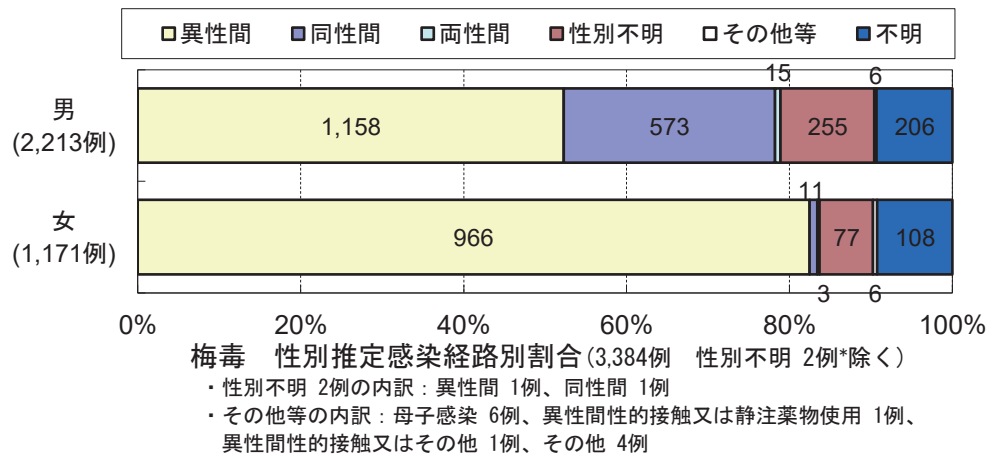
⑮ 梅毒

2025 年は 3,386 例の届出があった。届出の内訳は、早期顕症梅毒Ⅰ期 1,358 例、早期顕症梅毒Ⅱ期 1,076 例、晩期顕症梅毒 38 例、無症候 908 例、先天梅毒 6 例であった。性別では男性 2,213 例、女性 1,171 例、性別不明 2 例であった。年齢階級別では 10 歳未満 6 例（全て 0 歳）、10～19 歳 126 例、20～29 歳 1,341 例、30～39 歳 761 例、40～49 歳 553 例、50～59 歳 382 例、60～69 歳 157 例、70～79 歳 45 例、80～89 歳 13 例、90 歳以上 2 例であった。15～49 歳の女性は 1,114 例で、女性全体の 95.1%を占めた。20～49

歳の男性は1,632例で、男性全体の73.7%を占めた。推定感染地は国内2,752例、国外29例（中国5例、タイ4例、台湾3例、フィリピン、米国、ミャンマー各2例、インドネシア、オーストラリア、カナダ、韓国、カンボジア、スペイン、スリランカ、ベトナム、シンガポール又はドイツ各1例、渡航先不明2例）、国内又は国外5例（タイ2例、韓国、マレーシア、台湾又はマカオ各1例）、不明600例であった。推定感染経路は性的接触3,060例（異性間2,125例、同性間585例、両性間18例、性別不明332例）、母子感染6例、異性間性的接触又は静注薬物使用1例、異性間性的接触又はその他1例、その他4例、不明314例であった。梅毒治療歴ありは622例（男性471例、女性151例）であった。妊娠中は84例であった。直近6か月の性風俗産業の従事者は540例（男性51例、女性489例）で、利用者は713例（男性643例、女性69例、性別不明1例）であった。

HIV感染症合併例は284例（男性283例、女性1例）で、推定感染経路は、男性は性的接触273例（同性間247例、異性間11例、両性間1例、性別不明14例）、不明10例で、女性は異性間性的接触であった。





⑩ 播種性クリプトコックス症

2025 年は 17 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 11 例、女性 6 例であった。年齢階級別では、30～39 歳 1 例、50～59 歳 2 例、60～69 歳 3 例、70～79 歳 4 例、80～89 歳 6 例、90 歳以上 1 例で、このうち死亡例は 2 例（80～89 歳 2 例）の報告があった。推定感染地は国内 12 例、不明 5 例であった。推定感染経路は、免疫不全 12 例、鳥類の糞などとの接触又は免疫不全又はその他 1 例、不明 4 例であった。免疫不全 13 例のうち、基礎疾患のあるものは 7 例（肝硬変 1 例、肝不全 1 例、骨髄異形症候群・急性白血病 1 例、生体腎移植 1 例、赤芽球瘍 1 例、全身性エリテマトーデス 1 例、多発性骨髄腫 1 例）であった。免疫不全 13 例のうち 5 例はステロイド等を投与中であった。

⑪ 破傷風

2025 年は 7 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 3 例、女性 4 例であった。年齢階級別では 60～69 歳 1 例、70～79 歳 1 例、80～89 歳 3 例、90 歳以上 2 例であった。推定感染地は全て国内（東京都）で、推定感染経路は創傷感染 6 例、針等の鋭利なものの刺入による感染 1 例であった。破傷風含有ワクチン接種歴はなし 3 例、不明 4 例であった。

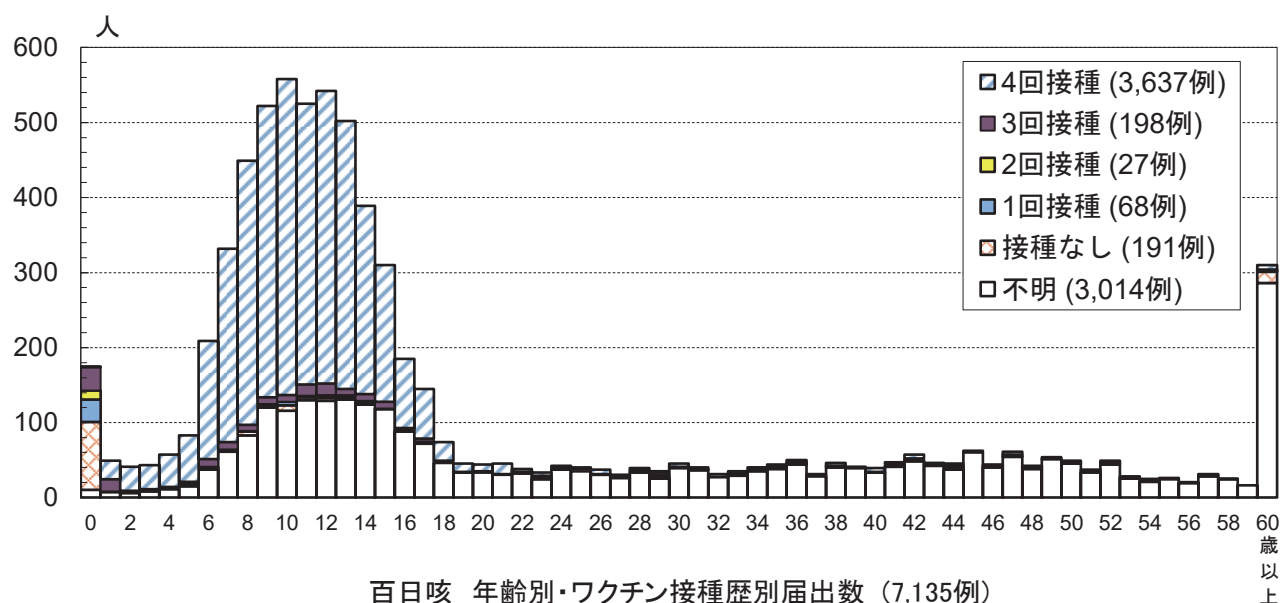
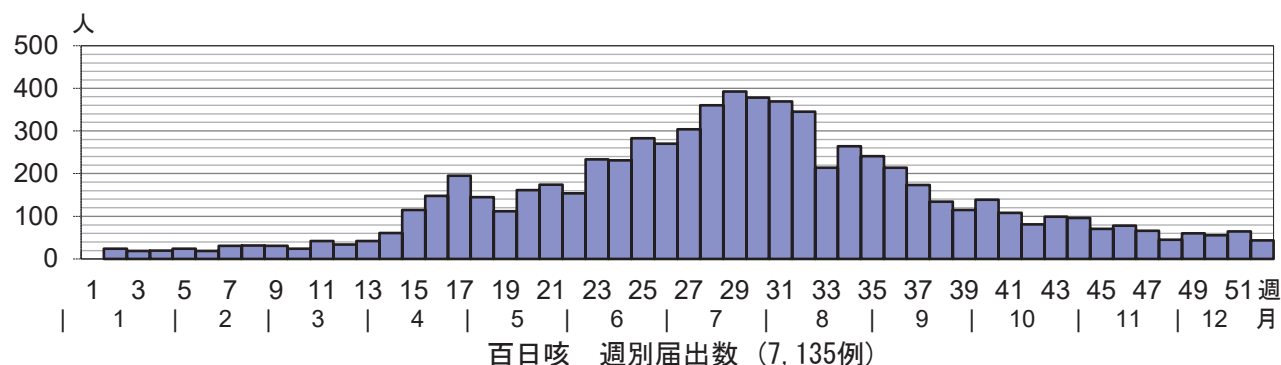
⑫ バンコマイシン耐性腸球菌感染症

2025 年は 12 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 2 例、女性 10 例であった。年齢階級別では 40～49 歳 1 例、50～59 歳 1 例、80～89 歳 5 例、90 歳以上 5 例で、このうち死亡例は 1 例（80～89 歳）の報告があった。推定感染地は国内 10 例、国外 1 例（中国）、不明 1 例であった。推定感染経路は接触感染 4 例、その他 2 例、不明 6 例であった。菌種は *Enterococcus faecium* 9 例、*Enterococcus faecalis* 3 例、耐性遺伝子は *vanA* 11 例、未実施 1 例であった。

⑬ 百日咳

2025 年は 7,135 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 3,499 例、女性 3,636 例であった。年齢階級別では 0 歳 175 例、1～4 歳 190 例、5～9 歳 1,595 例、10～19 歳 3,275 例、20～29 歳 383 例、30～39 歳 403 例、40～49 歳 497 例、50～59 歳 307 例、60～69 歳 160 例、70～79 歳 101 例、80～89 歳 41 例、90 歳以上 8 例で、このうち死亡例は 1 例（60～69 歳）の報告があった。推定感染地は国内 5,849

例、国外 13 例（米国 3 例、韓国、中国各 2 例、オーストラリア、グアム、ベトナム、マレーシア、マレーシア又は香港、渡航先不明各 1 例）、国内又は国外 2 例（米国、マレーシア各 1 例）、不明 1,271 例であった。百日咳含有ワクチン接種歴は、4 回以上 3,637 例、3 回 198 例、2 回 27 例、1 回 68 例、なし 191 例、不明 3,014 例であった。診断方法は、抗体検査 1,512 例、抗原検査 1,205 例、遺伝子検査 4,229 例、分離・同定 51 例、臨床決定 227 例であった（重複あり）。



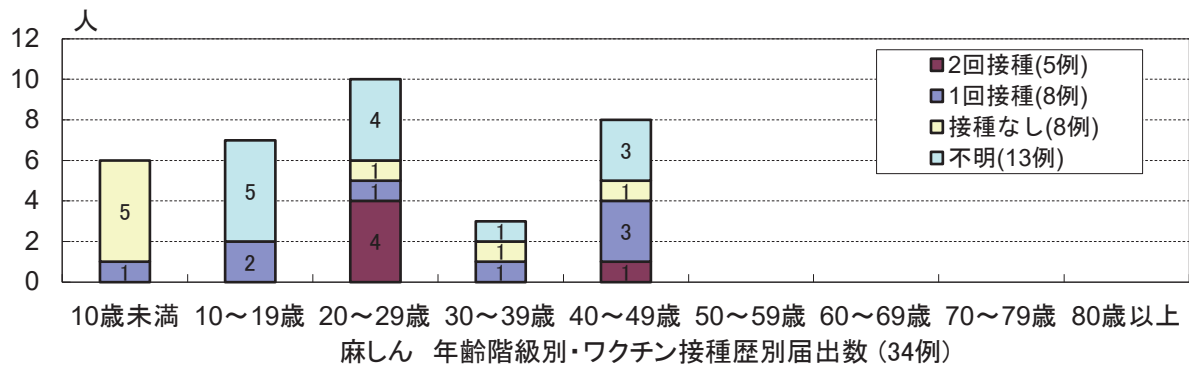
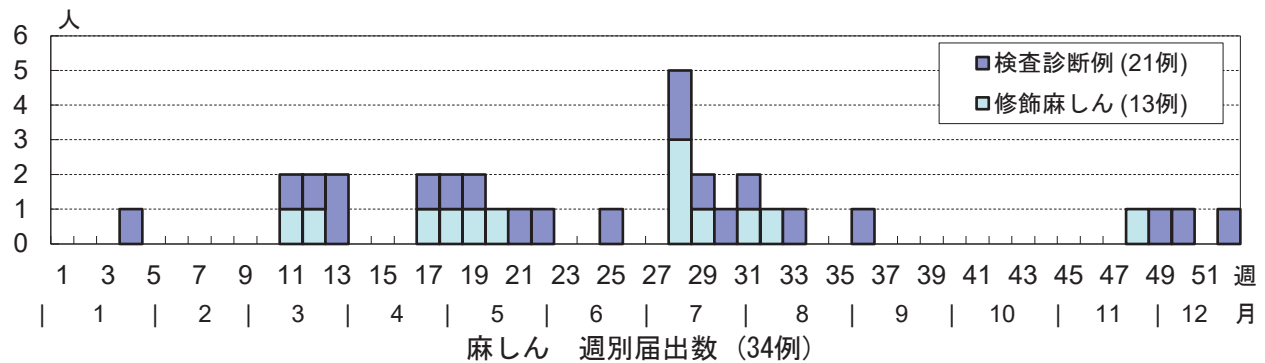
⑳ 風しん

2025 年は 2 例の届出があった。届出の内訳は、臨床診断例 1 例、検査診断例（IgM 抗体の検出）1 例であった。性別では男性 1 例、女性 1 例であった。年齢階級別では 10～19 歳 1 例、50～59 歳 1 例であった。推定感染地は国内 1 例、不明 1 例であった。推定感染経路は不明 2 例であった。風しん含有ワクチン接種歴は 2 回 1 例、なし 1 例であった。

㉑ 麻しん

2025 年は 34 例の届出があった。届出の内訳は、検査診断例 21 例（PCR 検査による病原体遺伝子の検出 21 例、IgM 抗体の検出 10 例、重複あり）、修飾麻しん例 13 例であった。性別では男性 19 例、女性 15 例であった。年齢階級別では 10 歳未満 6 例（全て 5 歳未満）、10～19 歳 7 例、20～29 歳 10 例、30～39 歳 3 例、40～49 歳 8 例であった。推定感染地は国内 22 例、国外 11 例（ベトナム 7 例、インドネシア 2 例、ベトナム又はタイ、マレーシア又はタイ各 1 例）、国内又は国外 1 例（ベトナム）であった。

推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 14 例、接触感染 1 例、飛沫・飛沫核感染又は接触感染 1 例、その他 1 例、不明 17 例であった。肺炎の合併の報告は 1 例で、脳炎の合併の報告はなかった。麻しん含有ワクチン接種歴（暴露後の緊急対応としての接種も含む）は 2 回 5 例、1 回 8 例、なし 8 例、不明 13 例であった。PCR 検査で麻しんウイルス陽性が確認された 34 例（修飾麻しん 9 例含む）の遺伝子型は B3 型 28 例、D8 型 5 例、型別不能 1 例であった。



②② 薬剤耐性アシネトバクター感染症

2025 年は 3 例の届出があった。届出の内訳は、性別では男性 1 例、女性 2 例であった。年齢階級別では 60～69 歳 1 例、70～79 歳 1 例、80～89 歳 1 例であった。推定感染地は国内 1 例、国外 1 例（インドネシア）、不明 1 例であった。推定感染経路は医療器具関連感染（人工呼吸器）1 例、その他 1 例、不明 1 例であった。菌種は全て *Acinetobacter baumannii* であった。

②③ その他の五類感染症

先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症の届出はなかった。

表3-1(1) 一、二、三類感染症 週別患者報告数

2025 年第 1 週～第 52 週

週	期 間	一 類							二 類							三 類				
		エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 ＊	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	中東呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	鳥インフルエンザ (H7N9)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
1	12.30～1.5																	2		
2	1.6～1.12																	4		
3	1.13～1.19																	2		
4	1.20～1.26																	1		
5	1.27～2.2																	1		
6	2.3～2.9																1			
7	2.10～2.16																	3	1	
8	2.17～2.23																	6		
9	2.24～3.2																	1		
10	3.3～3.9																	1		
11	3.10～3.16																1	2		
12	3.17～3.23																1	6		
13	3.24～3.30																1	7		
14	3.31～4.6																	1		1
15	4.7～4.13																	2		
16	4.14～4.20																	3		
17	4.21～4.27																	5		
18	4.28～5.4																	1		
19	5.5～5.11																2	3	1	
20	5.12～5.18																	6		
21	5.19～5.25																	8		
22	5.26～6.1																	5		
23	6.2～6.8																	1	1	
24	6.9～6.15																	5		
25	6.16～6.22																	7		
26	6.23～6.29																	11		
27	6.30～7.6																1	25		
28	7.7～7.13																1	27		
29	7.14～7.20																1	22		
30	7.21～7.27																	12		
31	7.28～8.3																	14		1
32	8.4～8.10																	14		
33	8.11～8.17																	17		
34	8.18～8.24																	23		1
35	8.25～8.31																	23		1
36	9.1～9.7																	22	2	
37	9.8～9.14																	18		
38	9.15～9.21																1	13		
39	9.22～9.28																1	17		
40	9.29～10.5																	14		
41	10.6～10.12																	7		
42	10.13～10.19																	15	1	
43	10.20～10.26																1	12		
44	10.27～11.2																	9		
45	11.3～11.9																	11		
46	11.10～11.16																	18		
47	11.17～11.23																	10		
48	11.24～11.30																	5	1	
49	12.1～12.7																1	5		
50	12.8～12.14																	7		
51	12.15～12.21																1	2		
52	12.22～12.28																	7		
合 計																	14	463	7	4

＊ 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-1(2) 四類感染症 週別患者報告数

2025 年第 1 週～第 52 週

週	期 間	四 類												
		E 型肝炎	A 型肝炎	エキノ コックス 症	エム ボツクス	オウム 病	コクシ ジオイ デス 症	チク ング ニア 熱	つ　　つ が虫 病	デ ング 熱	マ ラ リ ア	ライ ム 病	レ ジ オ ネ ラ 症	レ プ ト ス ピ ラ 症
1	12. 30～ 1. 5												2	
2	1. 6～ 1.12	1	1						1		1		2	
3	1.13～ 1.19	1		1						3	1		3	
4	1.20～ 1.26	4	1						1				6	
5	1.27～ 2. 2	4							1	1			2	
6	2. 3～ 2. 9	1								1			4	
7	2.10～ 2.16	2								3			4	
8	2.17～ 2.23	1								1				
9	2.24～ 3. 2	3								1			2	
10	3. 3～ 3. 9	4	1			1				5			2	
11	3.10～ 3.16	2											6	
12	3.17～ 3.23	1								1			6	
13	3.24～ 3.30	3											2	1
14	3.31～ 4. 6	4	2	1	1					1	1		4	
15	4. 7～ 4.13	2								1			3	
16	4.14～ 4.20	7								1			2	
17	4.21～ 4.27	3											3	
18	4.28～ 5. 4	4	1						1		1		2	
19	5. 5～ 5.11												3	
20	5.12～ 5.18	4	2						1				4	
21	5.19～ 5.25	3								1			8	
22	5.26～ 6. 1	7											5	
23	6. 2～ 6. 8	2								2		1	2	
24	6. 9～ 6.15	3											4	
25	6.16～ 6.22	7								1			5	
26	6.23～ 6.29	4	1							2	1		6	
27	6.30～ 7. 6	2					1			1	1		5	
28	7. 7～ 7.13	5	2					1		4			1	
29	7.14～ 7.20	3											2	
30	7.21～ 7.27	3			1								2	
31	7.28～ 8. 3	5											5	
32	8. 4～ 8.10	4	1					1					2	
33	8.11～ 8.17	1								2	1			
34	8.18～ 8.24	2								2			2	
35	8.25～ 8.31	2								1			6	
36	9. 1～ 9. 7	1	1										1	1
37	9. 8～ 9.14	1								2			4	
38	9.15～ 9.21	1								1			6	
39	9.22～ 9.28	1								1	1		7	
40	9.29～10. 5	6	1		1					2			4	1
41	10. 6～10.12	4											3	
42	10.13～10.19		1							2			2	1
43	10.20～10.26	3	1							1			4	
44	10.27～11. 2	2	1		2					2			4	
45	11. 3～11. 9	4								1			2	
46	11.10～11.16	2											4	1
47	11.17～11.23	2	1		3					3	1		6	
48	11.24～11.30	2			1								3	
49	12. 1～12. 7	5			2				1	1			5	1
50	12. 8～12.14	4			2								2	
51	12.15～12.21	5			2				1				5	
52	12.22～12.28	2			2				1				1	
合 計		149	18	2	17	1	1	2	8	51	9	1	180	6

表3-1(3) 全数把握対象の五類感染症 週別患者報告数

2025 年第 1 週～第 52 週

週	期 間	五 類																	
		アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症
1	12.30～1.5					3				1		1		1		2			
2	1.6～1.12	2	1	4		2			1	1		4		30	4	70	2		24
3	1.13～1.19		1	5		2	1		8	5	2	1	1	20	2	70	1		19
4	1.20～1.26	4	2	4		2			4	6		1		11	2	75	2		20
5	1.27～2.2	1	1	2		2			4	8		2		12		75			24
6	2.3～2.9	3	1	2					1	3		2	1	7		65	1	1	3
7	2.10～2.16	2	1	1		3			3	6				9	2	65			31
8	2.17～2.23		1	4		1		1	5	4				10	1	81			32
9	2.24～3.2	3	1	6					1	2		4		3	1	75			31
10	3.3～3.9	3	3	6					3	6		1	1	6	3	74		2	24
11	3.10～3.16	3		5		1	1		3	4				9	5	81		1	42
12	3.17～3.23		1	6		1			2	6		1		9	1	75			34
13	3.24～3.30	2	1	3		1			2	4	1	1		12	1	63			42
14	3.31～4.6		3	3					1	8	1	3		6	2	89	1		61
15	4.7～4.13	3		1					3	6		2		11	2	68			115
16	4.14～4.20	1		1		1			3	9	1	5	1	7	2	74			1
17	4.21～4.27	5	3	2				2	4	4		2	2	13		63			195
18	4.28～5.4	2		1				1	3	3				11	5	79	1		145
19	5.5～5.11	1	2	2					5	3		1	1	9	1	40	1		1
20	5.12～5.18	5	1	1		1	1		4	6	2	2		12	4	69	1		161
21	5.19～5.25	2		2					3	7		5	3	11	5	74			174
22	5.26～6.1	1	2	1			1	1	4	7		1		13	3	86			154
23	6.2～6.8		2	1		1			2	6		1		2		69			233
24	6.9～6.15	1		3					2	9	1	2		4	2	78			231
25	6.16～6.22	4	3	2				1	2	3		2		6	3	86			283
26	6.23～6.29	2	3	3					4			1		6	4	63			270
27	6.30～7.6	2	1	4					2	5	1	1		6	3	90	1		304
28	7.7～7.13		1	2					1	6		3		3	3	60	1		1
29	7.14～7.20	1		3					5	8	3		1	1	1	72			392
30	7.21～7.27	3		1					7	2		1		6	1	50	1		378
31	7.28～8.3			4	1				2	4			1	3	1	74	1	1	369
32	8.4～8.10	2	1	4		1		1	4	4	1	1		7	1	70		1	345
33	8.11～8.17	1	1	2					3	3		1		1	1	51			214
34	8.18～8.24	2	3	4		2			3	6				4	5	87			264
35	8.25～8.31	2	1	1		1			1	5		1		1	3	59			241
36	9.1～9.7	4	1	2			1		2	8		2		4	1	69			1
37	9.8～9.14	2	3	3		1			2	9				3	4	63	2		173
38	9.15～9.21	2	1	1					1	3		1	1	2	2	73			134
39	9.22～9.28			2				2	2	9				1		60		1	115
40	9.29～10.5	1		4		2			4	4	1			5	2	63			139
41	10.6～10.12	3	1	3				1	3	5		2		2	1	66			108
42	10.13～10.19	3	1	1		1				3				3	1	58			81
43	10.20～10.26	2	2	2					1	6		1	1	12	1	60			1
44	10.27～11.2		2	1				1	1	4	1	1		4	1	75			96
45	11.3～11.9	3	1	5	1	1			3	6				4	3	41			71
46	11.10～11.16	3	1	3					10			3		11	1	48			1
47	11.17～11.23		1	4		3			6	4				11		62			66
48	11.24～11.30	1	1	5		2			5	9				4	1	33	1		45
49	12.1～12.7		3			1			4	3				13	1	49			60
50	12.8～12.14	1	1	4				3	1	4		2		6		57			56
51	12.15～12.21			3		1			4	5		1		4	2	46			1
52	12.22～12.28	2	4	1		3			4	9		3	1	8	1	41			44
合 計		90	64	140	2	40	5	15	143	275	15	69	15	379	96	3,386	17	7	12
																			7,135
																			2
																			34
																			3

表3-2(1) 一、二、三類感染症 保健所別患者報告数

2025 年第 1 週～第 52 週

	一 類							二 類							三 類				
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 ＊	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	中東呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	鳥インフルエンザ (H7N9)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
千代田																1	9		
中央区																	4	1	
みなと																1	18		
新宿区																4	18	3	2
文京																1	8		
台東																	4		
墨田区																	5	1	
江東区																	20		
品川区																1	17	1	
目黒区																	6		1
大田区																2	31		
世田谷																	26		
渋谷区																	12		
中野区																	17		
杉並																1	19		
池袋																	8		
北区																	12		1
荒川区																	5		
板橋区																	12		
練馬区																	17		
足立																1	17		
葛飾区																	4		
江戸川																	4	1	
八王子市																	20		
町田市																	12		
西多摩																	19		
南多摩																	15		
多摩立川																1	54		
多摩府中																1	33		
多摩小平																	17		
島しょ																			
合 計																14	463	7	4

＊ 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-2(2) 四類感染症 保健所別患者報告数

2025 年第 1 週～第 52 週

	四 類												
	E 型肝炎	A 型肝炎	エキノコックス症	エムポックス	オウム病	コクシジオイデス症	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	マラリア	ライム病	レジオネラ症	レプトスピラ症
千代田	15	3							3			3	
中央区													
みなと	25	1		1					6	1		4	1
新宿区	12	1	1	12			1	1	16	4		8	2
文京	7	1	1			1			5		1	15	
台東												4	
墨田区	5	1							6			6	
江東区	2									1			
品川区	12			2					3	1		5	
目黒区	3	1						1				8	
大田区	9								5			9	
世田谷	7	2										6	
渋谷区	4			1					1			10	
中野区	3			1								2	
杉並	2											5	
池袋	2												
北区	2											4	
荒川区												2	
板橋区	12	1							2			14	1
練馬区	4											4	
足立	4	1										6	
葛飾区	1							2				5	
江戸川	3	1							2			5	
八王子市	2	1										8	
町田市	2											4	
西多摩	2	1										4	
南多摩												7	
多摩立川	3	1			1		1					8	
多摩府中	3	2							2	2		9	2
多摩小平	3											15	
島しょ								4					
	149	18	2	17	1	1	2	8	51	9	1	180	6

表3-2(3) 全数把握対象の五類感染症 保健所別患者報告数

2025 年第 1 週～第 52 週

	五 類																						
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻疹	薬剤耐性アシネトバクター感染症	
千代田	3	2	2					5	3	3	1	1	5	1	31	1			71				
中央区	2		4				1	2	8		4		5	3	196				77		1		
みなと	13	4	20					5	17	1	2		21	3	189				212				
新宿区	14	8	12		1	2	2	11	109	6	3		25	6	1,103	3		2	212		2		
文京	4	2	10		10		2	19	38		4	3	29	12	143	2	1		259		1		
台東	5		4						5				2	1	119				52		2		
墨田区	1	3	1	1	1	2		4	16	1			14	5	31	1			88				
江東区	1	1	5					1	2			1	12	3	29				245				
品川区	1	2	6				1	8	5		3		14	3	154	2			161				
目黒区	5	1	6				1	12	4	1			12	3	36				95			1	
大田区	2	1	7		2			8	14		2	1	17	2	50			3	232		2		
世田谷	4	3	4		8	1		4	6	2	4		18	8	47				628		5		
渋谷区	5	2	7					3	10		1		14	4	328				138		1		
中野区	2	2	1					1	6		1		7	2	86				110		1		
杉並	2	1	1				1	2	2			1	5	5	24				214		1		
池袋		2	2								1		3		320				78		1		
北区	1	6	1								2		5	2	36			7	258		1		
荒川区	2		1										1		14				109		1		
板橋区	4	8	14				2	23	9	1	4		20	10	57	2	2		421		1		
練馬区	2	1	2		2			5	3		3		19	2	27	3			207				
足立	3		5		4			4			5		8	1	46				327				
葛飾区		1	3					1				1	9		25				152		6		
江戸川	2	2	1				1	3			3		4	3	34				290		2		
八王子市	2		1						1			1	13	1	41	2	1		454			1	
町田市	2		1	1				3						1	24				303	1			
西多摩		1	1		1			1			1	1	3		14				225				
南多摩	1		2				1	4	2		1	2	14	3	22		1		429				
多摩立川	1	3	4				1	7	2		5	1	20	2	78	1	1		289		2	1	
多摩府中	4	5	8		11		2	6	11		12	2	35	8	59		1		335		3		
多摩小平	2	3	4					1	2		7		25	2	22				463	1	1		
島しょ															1				1				
合 計	90	64	140	2	40	5	15	143	275	15	69	15	379	96	3,386	17	7	12	7,135	2	34	3	

表3-3(1) 一、二、三類感染症 年齢階級別患者報告数

2025 年第 1 週～第 52 週

	一 類							二 類							三 類				
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 ＊	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	中東呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	鳥インフルエンザ (H7N9)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
0歳																			
1～4歳																	16	1	
5～9歳																	20	1	
10～14歳																	19	1	
15～19歳																	40		
20～24歳																2	78	1	
25～29歳																3	75	2	
30～34歳																1	41	1	
35～39歳																	33		2
40～44歳																1	19		1
45～49歳																2	17		1
50～54歳																2	27		
55～59歳																1	24		
60～64歳																1	13		
65～69歳																1	13		
70～74歳																	6		
75～79歳																	10		
80～84歳																	10		
85～89歳																	1		
90歳以上																	1		
合 計																14	463	7	4

＊ 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-3(2) 四類感染症 年齢階級別患者報告数

2025 年第 1 週～第 52 週

	四 類												
	E型 肝炎	A型 肝炎	エキ ノコツ クス症	エム ポツ クス	オウ ム病	コク シジ オイ デス 症	チク ング ニア 熱	つつ が虫 病	デ ン グ 熱	マ ラ リ ア	ライ ム 病	レ ジ オ ネ ラ 症	レ プ ト ス ピ ラ 症
0歳													
1～4歳													
5～9歳									3				
10～14歳									1			1	
15～19歳		1							2				2
20～24歳	1			2					7			1	
25～29歳	4	3		1			1		11				
30～34歳	4	3		1					5			1	2
35～39歳	10	3		6			1		5	2		1	
40～44歳	9			3				1	7	3		2	
45～49歳	19	1	1	2					4	1		7	1
50～54歳	26	2	1					1	3	2		12	
55～59歳	28	1		2					1	1		11	
60～64歳	22					1			2		1	16	
65～69歳	6	1						2				21	1
70～74歳	8	1										22	
75～79歳	8							3				23	
80～84歳	1							1				22	
85～89歳	3	2			1							19	
90歳以上												21	
合 計	149	18	2	17	1	1	2	8	51	9	1	180	6

表3-3(3) 全数把握対象の五類感染症 年齢階級別患者報告数

2025 年第 1 週～第 52 週

	五 類																					
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻疹	薬剤耐性アシネトバクター感染症
0歳		1	2		1			2			4	1	6	2	6				175		4	
1～4歳		1	4		17			1			5		31	1					190		2	
5～9歳			1	2	13			1			2		6	10					1,595			
10～14歳	1	1	1		4	1					1		6	8	1				2,516	1	1	
15～19歳		1							1	1		4	2	11	125				759		6	
20～24歳	1	10	2			1			38		2		2	7	707				202		4	
25～29歳	1	9						1	45		3		6	9	634				181		6	
30～34歳	6	8						1	57	4			4	6	435	1			191		1	
35～39歳	5	10	3		1			4	48	3		1	8	7	326				212		2	
40～44歳	9	8	3		1	1		3	26	1	1	2	11	8	272			1	234		3	
45～49歳	8	4	4					3	18	4	1		10	3	281				263		5	
50～54歳	15	2	6			2		8	15	1		2	16	4	231	2		1	188	1		
55～59歳	15	2	9				2	10	11	1	1	2	26	4	151				119			
60～64歳	9	3	14				1	15	4		3		20	5	109	3	1		95			
65～69歳	11	1	9		2		1	16	2		3	2	25	1	48				65			1
70～74歳	8		13				3	20	5		11		43		29	1	1		50			
75～79歳		1	22		1		5	12	3		11	1	68	2	16	3			51			1
80～84歳			17				1	17			9		50	3	10	4	1	2	25			1
85～89歳	1	2	16				2	16			6		29	4	3	2	2	3	16			
90歳以上			14					13			6		10	1	2	1	2	5	8			
不明									2													
合 計	90	64	140	2	40	5	15	143	275	15	69	15	379	96	3,386	17	7	12	7,135	2	34	3

後天性免疫不全症候群の不明 2 例は、20 歳代 1 例、30 歳代 1 例の報告であるが、年齢階級別（5 歳階級別）では階級分け（グループ化）ができない為、年齢不明 2 例とした。

（２） 小児科・内科定点把握対象感染症

ア インフルエンザ

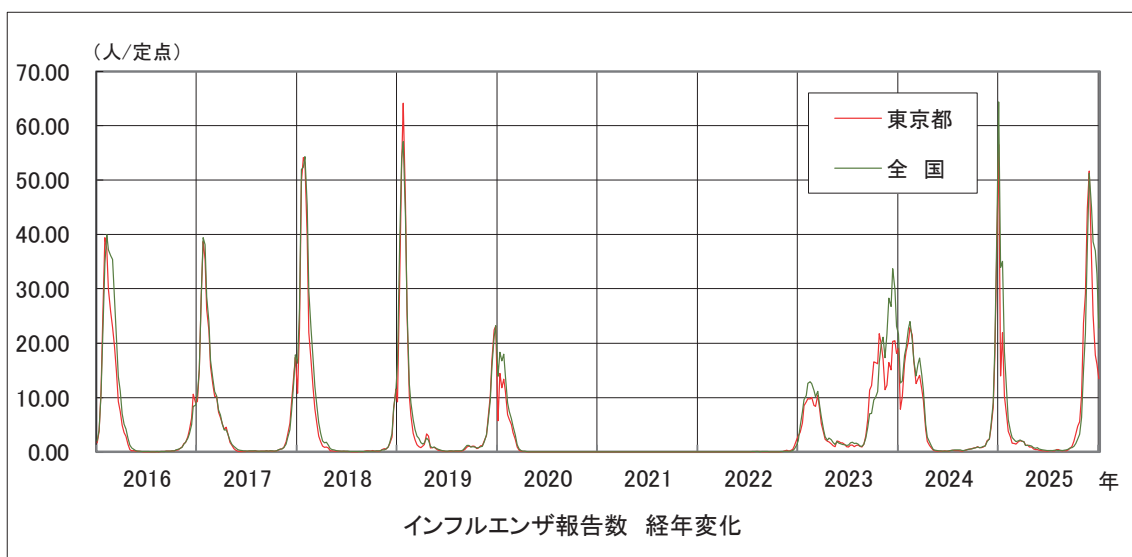
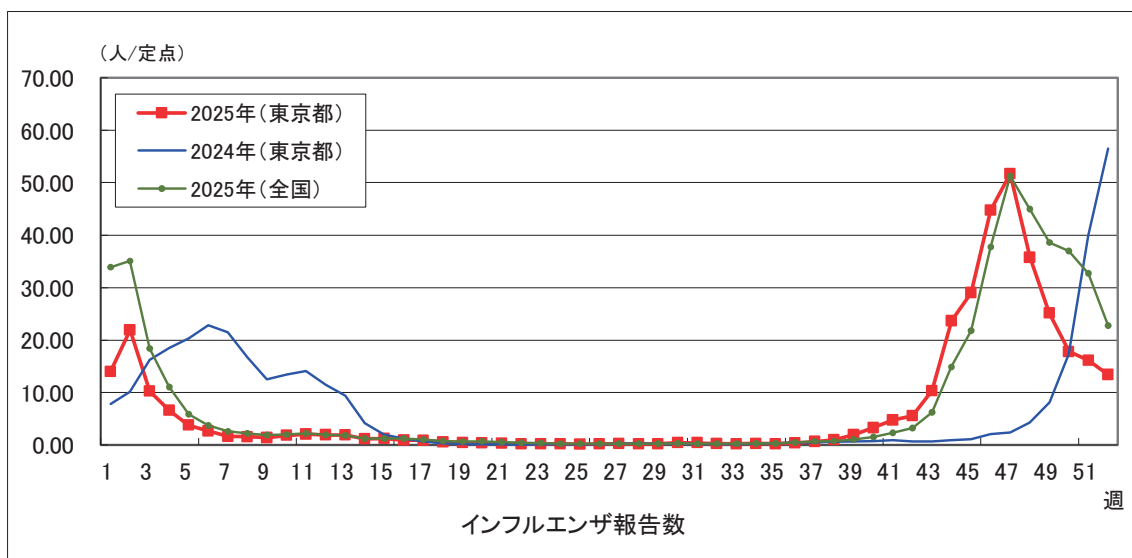
2025 年の報告数は 151,906 人、定点当たり 366.74 人と、前年比（定点当たり）1.06 倍であった。

週別定点当たりの報告数の動向では、2024 年第 52 週（12.23～12.29）は 56.52 人と 30.0 人を超えていたものの、2025 年の第 1 週（12.30～1.5）は年末年始の影響もあり 13.98 人、第 2 週（1.6～1.12）は 21.93 人と 30.0 人を下回った。全国では 2025 年第 1 週（12.30～1.5）は、2024/25 シーズンの流行警報発令中かつピークの翌週となり、報告数は 33.89 人、第 2 週（1.6～1.12）35.06 人と流行警報発令基準である 30.0 人を超えていた。その後東京都では第 4 週（1.20～1.26）には 6.60 人まで減少し、全国より 1 週早く流行注意報発令基準である 10.0 人を下回った。その後さらに減少し、第 16 週（4.14～4.20）には 0.94 と 1.0 人未満になった。

2025/26 シーズン開始となる第 36 週（9.1～9.7）においても 0.39 人と 1.0 人未満であったが、第 39 週（9.22～9.28）において、1.96 人と 1.0 人を超え、全国と同時期に流行シーズンに入った。流行シーズンに入ってから、徐々に増加し、第 43 週（10.20～10.26）には 10.37 人と、全国より 1 週早く流行注意報発令基準を超えた。第 45 週（11.3～11.9）には、29.03 人と流行警報発令基準の数値を超えないものの、同基準を上回る保健所管内の人口の合計が、東京都全体の 46.18%と、30%を上回ったため、流行警報を発出した。流行警報レベルになったのは、全国より 1 週早く、前年よりも 6 週早かった。さらに、11 月中に流行警報レベルになるのは、2009/10 シーズン以来であった。その後報告数はさらに増加し、全国同様第 47 週（11.17～11.23）に 51.69 人とピークを迎えた。その後は徐々に減少し、第 52 週（12.22～12.28）時点では 13.45 人となった。2026 年に入ってから、年頭に 10.0 人を下回ったため、流行警報レベルは解除となったが、第 4 週（1.19～1.25）には再び流行注意報発令基準を、第 5 週（1.26～2.1）には再び流行警報発令基準を超えた。再度注意報・警報発令基準を超えるのは 2008/09 シーズン以来であった。

2025 年の保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは、町田市の 678.46 人、次いで八王子市の 650.49 人、荒川区の 554.62 人であった。

年齢階級別に患者報告数をみると、10 歳未満が 68,398 人（45.0%）と最も多く、次いで 10 歳代 42,107 人（27.7%）、20 歳代 10,779 人（7.1%）であった。



イ 新型コロナウイルス感染症

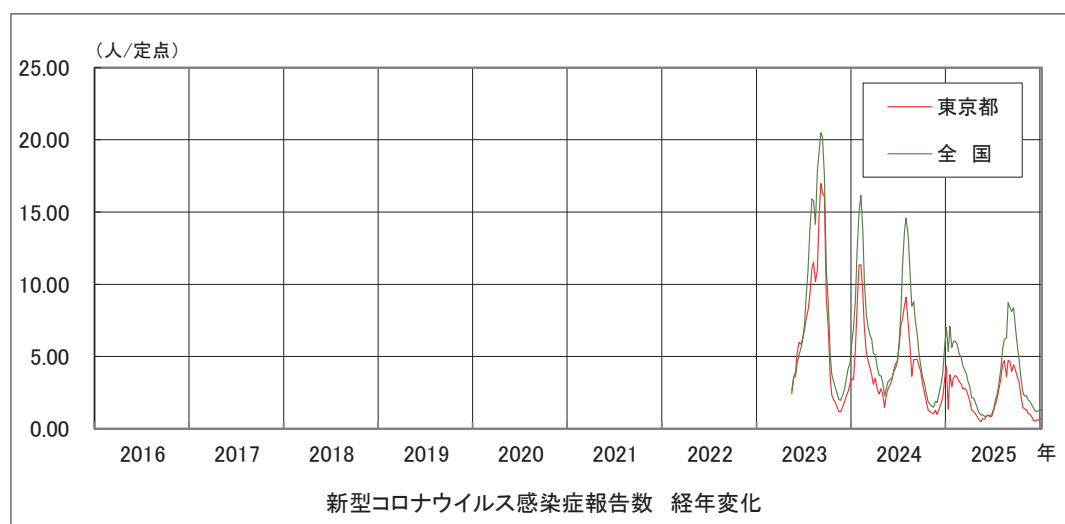
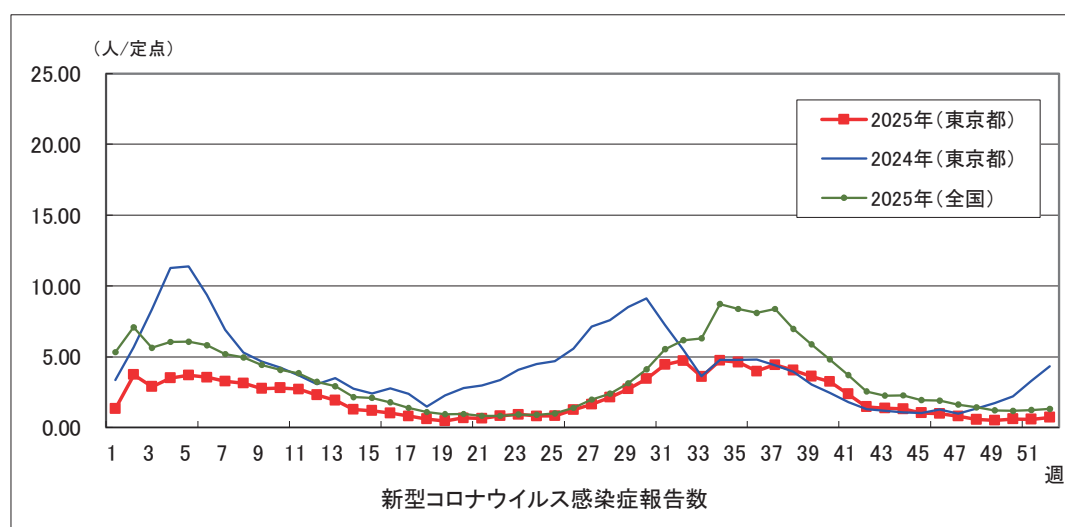
新型コロナウイルス感染症は2023年5月8日（第19週）から定点把握対象疾患となり、2023年の報告数は89,884人（定点当たり217.41人）、2024年の報告数は91,965人（定点当たり221.34人）、2025年46,732人（定点当たり112.95人）であった。2025年は前々年比0.52、前年比0.51倍と約半分に減少した。

週別定点当たりの報告数の動向では、2025年第1週（12.30～1.5）は1.34人、第2週（1.6～1.12）は3.73人であり、全国の第1週5.33人、第2週7.09人と比較して少ない報告数であった。その後はしばらく1.03～3.70の間と第2週の数値を超えることなく減少傾向となり、第17週（4.21～4.27）には0.82人と1.0人未満になった。全国では、第2週をピークに減少傾向となり、第19週（5.5～5.11）に1.0人未満となった。

第17週以降、1.0人未満の報告数がしばらく続いていたが、第26週（6.23～6.29）に1.27人となり、増加傾向に転じ、第31週（7.28～8.3）から第38週（9.15～9.21）にかけて、第34週（8.18～8.24）4.75人をピークとする山を形成した。その後緩やかに減少し、第47週（11.17～11.23）には1.0人未満となった。全国も同時期に山を形成し、ピークは第34週8.73人であった。年間を通じて、東京都の報告数は全国の数値と比較して少なかった。また、2024年と同様、冬季と夏季の2回、ピークを形成した。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは島しょの177.00人、次いで荒川区の154.33人、八王子市の148.73人であった。

年齢階級別に患者報告数をみると、10歳代が7,431人（15.9%）と最も多く、次いで10歳未満6,943人（14.9%）、50歳代6,531人（14.0%）であった。



ウ 急性呼吸器感染症

急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection：ARI）は、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、咽頭炎、喉頭炎）又は下気道炎（気管支炎、細気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称で、厚生科学審議会感染症部会での審議を経て感染症法施行規則の改正により、2025年4月7日（第15週）から感染症法上の五類感染症に位置付けられ、定点把握対象疾患となった。報告対象は、「咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例」とされた。

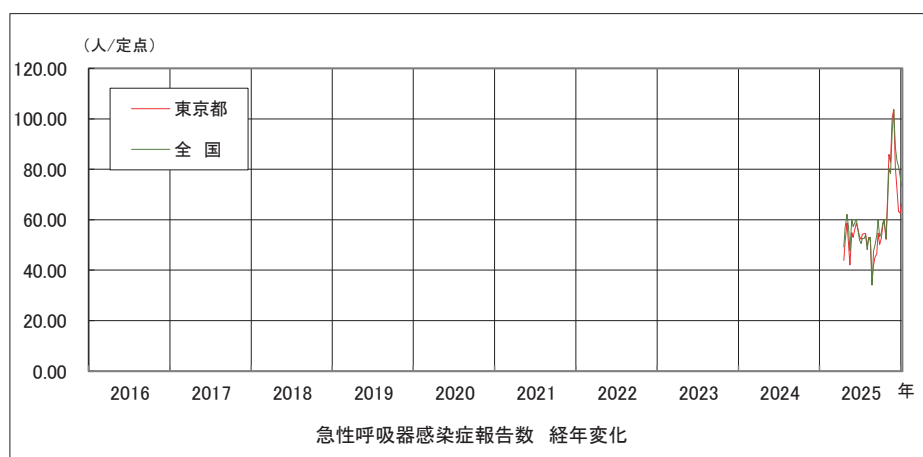
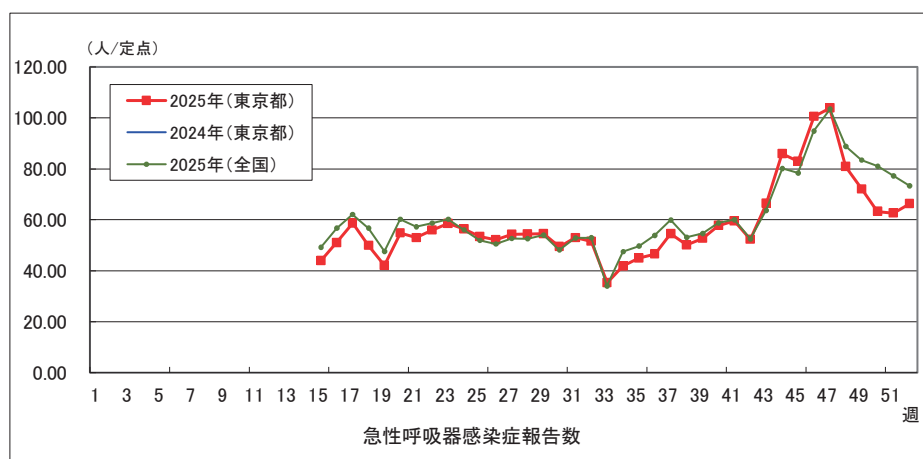
症例数を報告するサーベイランスであるため、五類・定点疾患であるインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、四類疾患であるオウム病、レジオネラ症、基幹定点疾患であるマイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎、五類・全数疾患である百日咳が含まれて報告されている。

2025年の報告数は927,732人、定点当たり2,228.42人となった。

週別定点当たりの報告数の動向では、サーベイランスが開始された第15週（4.7～4.13）は43.95人であり、全国49.26人と同水準であった。その後第42週（10.13～10.19）までは50前後で推移していたが、第43週（10.20～10.26）以降増加し、第47週（11.17～11.23）には103.86人とピークを迎えた。その後は徐々に減少し、第52週（12.22～12.28）時点では66.30人であった。全国の動向もほぼ同様であり、アの項のインフルエンザの動向と一致していた。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは町田市の4,713.62人、次いで八王子市の4,560.70人、中野区の3,914.18人であった。

年齢階級別に患者報告数をみると、10歳未満が565,723人（61.0%）と最も多く、次いで10歳代144,219人（15.5%）、30代44,406人（4.8%）であった。



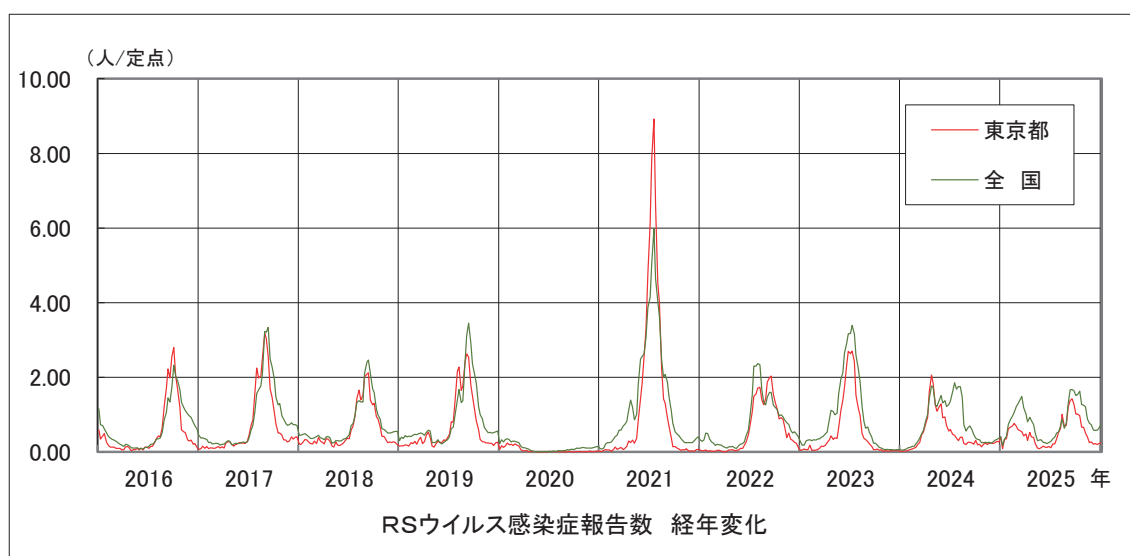
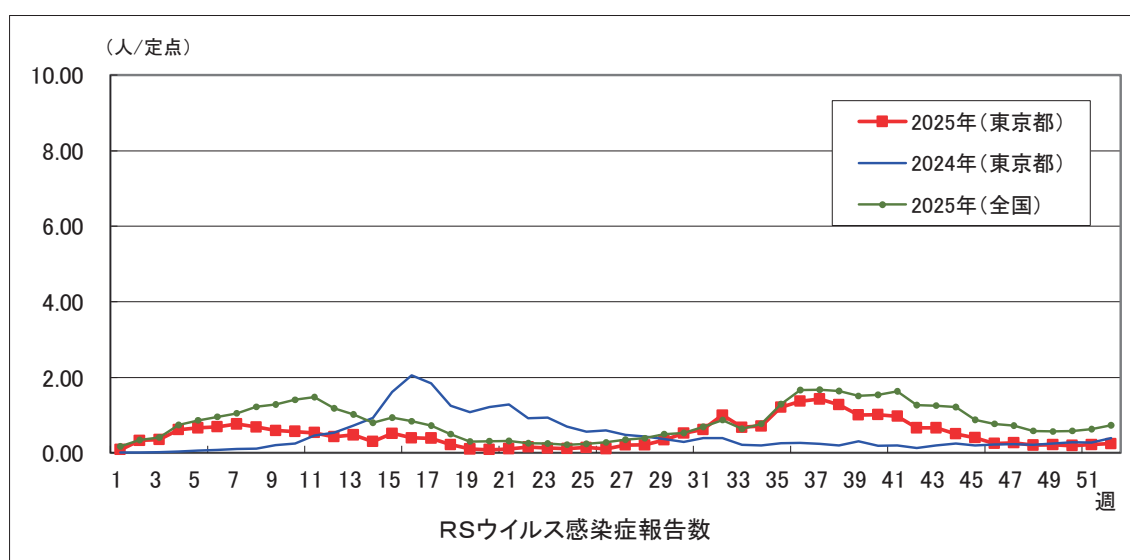
エ RS ウイルス感染症

2025 年の報告数は 6,769 人、定点当たり 25.89 人で、前年比（定点当たり）は 1.05 倍であった。

週別定点当たりの報告数では、ほぼ 1.0 人未満で推移し、1.0 人以上となったのは、第 32 週（8.4～8.10）及び第 35 週（8.25～8.31）から第 40 週（9.29～10.5）のみであった。全国の動向もほぼ同様であった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは荒川区の 112.75 人、次いで足立の 48.30 人、池袋の 38.80 人であった。

年齢階級別に患者報告数をみると、10 歳未満が 6,683 人（98.7%）とほとんどを占め、10 歳未満では、1 歳が 2,636 人（全体の 38.9%）と最も多く、次いで 1 歳未満 1,928 人（全体の 28.5%）、2 歳 1,231 人（全体の 18.2%）であった。2 歳以下で全体の 85.6%を占めた。

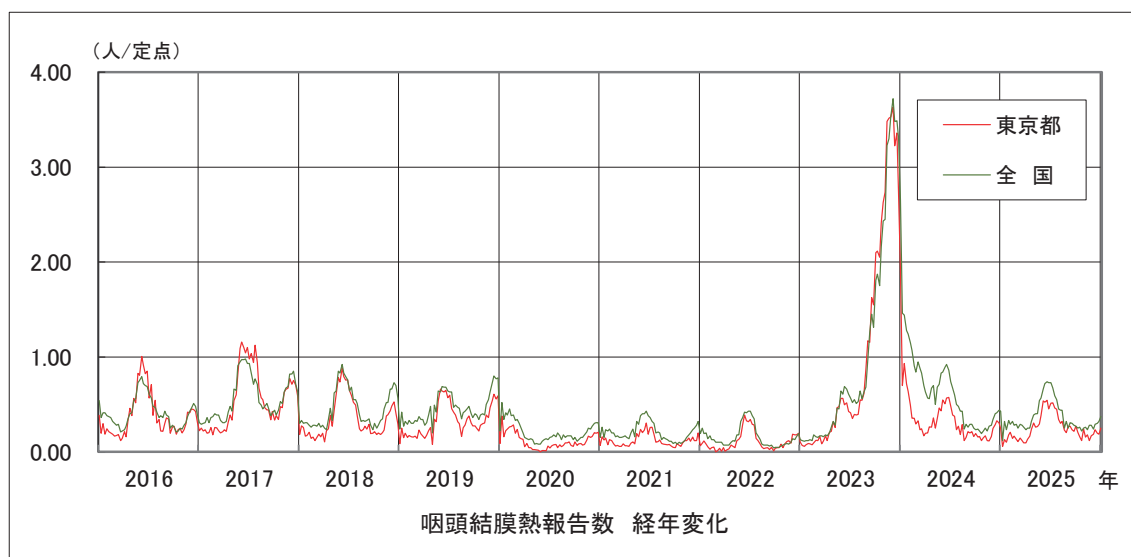
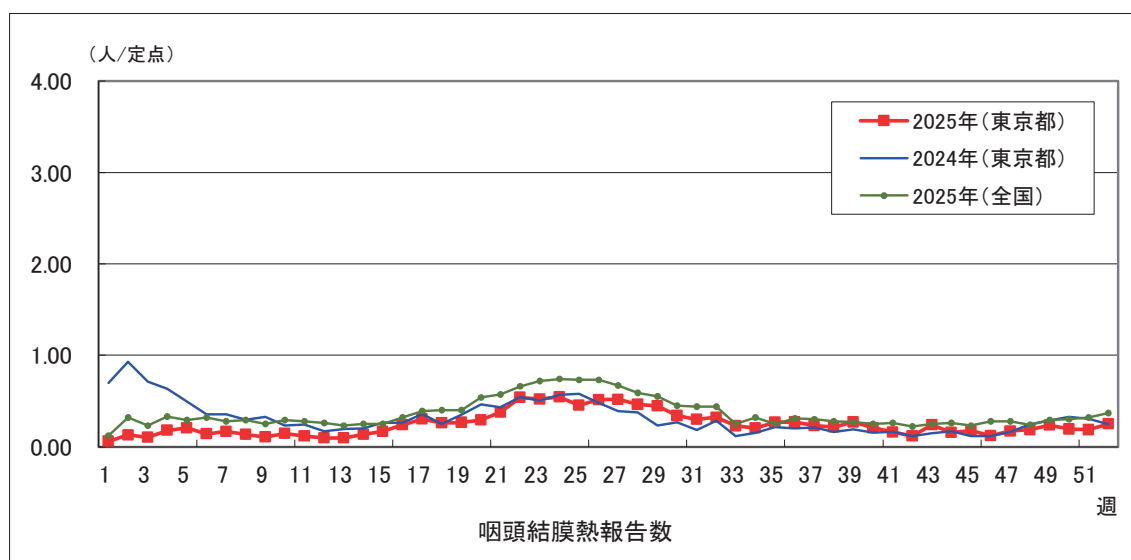


オ 咽頭結膜熱

2025 年の報告数は 3,341 人、定点当たり 12.75 人で、前年比（定点当たり）0.78 と減少した。週別定点当たりの報告数では、年間を通じて 1.0 人未満であった。全国の動向もほぼ同様であった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは、足立の 39.25 人、次いで大田区の 28.46 人、荒川区の 22.50 人であった。

年齢階級別報告数では、10 歳未満が 3,103 人（92.9%）とほとんどを占め、10 歳未満では、1 歳が 1,021 人（全体の 30.6%）と最も多く、次いで 2 歳 545 人（全体の 16.3%）、3 歳 330 人（全体の 9.9%）であった。3 歳以下で全体の 63.9%、5 歳以下で全体の 78.8%を占めた。



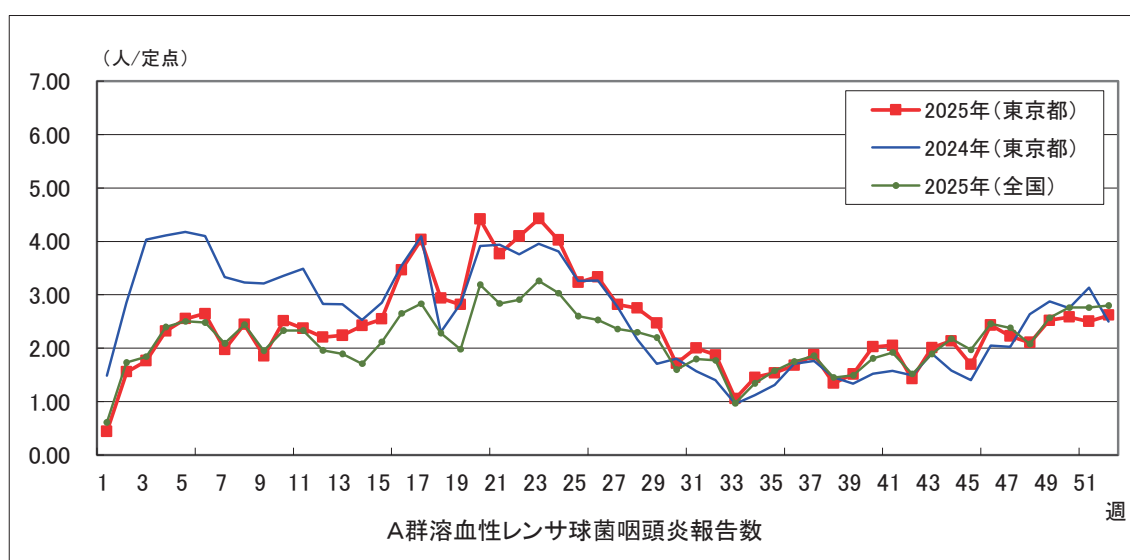
カ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2025 年の報告数は 32,783 人、定点当たり 124.79 人と、前年比（定点当たり）0.92 であった。

週別定点当たりの報告数では、2024 年末は 2.0 から 3.0 人前後で推移し、2025 年第 1 週（12.30～1.5）は 0.44 人、その後第 6 週（2.3～2.9）に 2.65 人まで増加した。第 15 週（4.7～4.13）までは 1.85～2.55 人で推移していたが、第 16 週（4.14～4.20）に 3.46 人に増加し、大型連休中に報告数は減少したものの、第 23 週（6.2～6.8）に 4.43 人とピークを迎えた。その後は徐々に減少し、第 30 週（7.21～7.27）に 1.72 人まで減少し、しばらく 1.5 人から 2.0 人で推移し、年末は 2.5 人前後で推移した。全国については、第 23 週前後の報告数は都より少なかったが、動向はほぼ同様であった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは町田市の 311.38 人、次いで中野区の 253.17 人、八王子市の 188.14 人であった。

年齢階級別報告数では 10 歳未満が 26,542 人（81.0%）とほとんどを占め、10 歳未満では 6 歳が 4,208 人（全体の 12.8%）と最も多く、次いで 7 歳 4,011 人（全体の 12.2%）、5 歳 3,844 人（全体の 11.7%）であった。



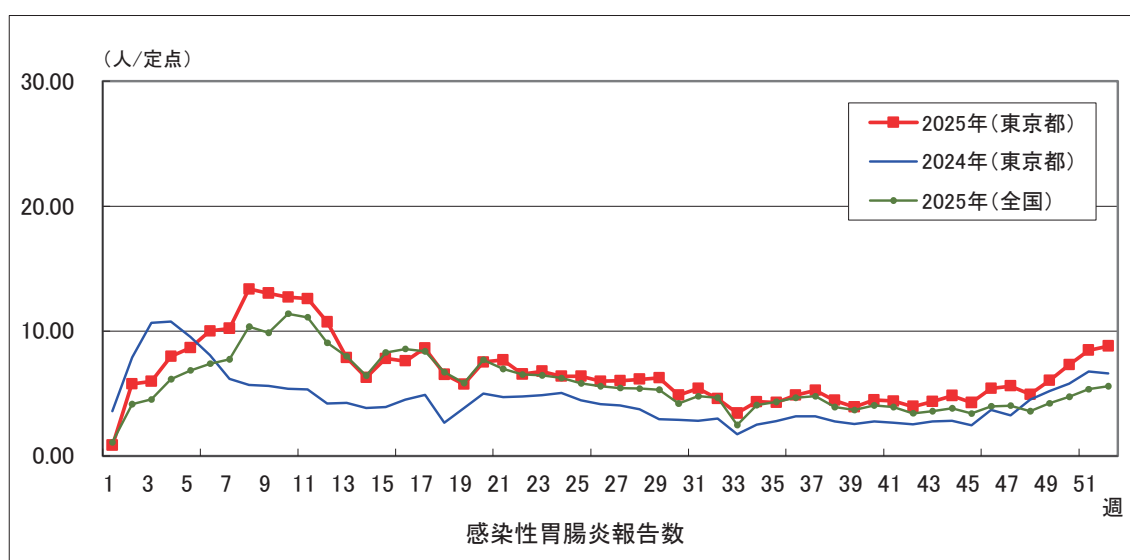
キ 感染性胃腸炎

2025 年の報告数は 90,963 人、定点当たり 346.22 人で、前年比（定点当たり）1.48 と増加した。

週別定点当たりの報告では、2024 年末は 6.0 人を上回り、年始に減少したものの、第 2 週（1.6～1.12）は 5.76 人、その後増加傾向となり、第 8 週（2.17～2.23）に 13.37 人とピークを迎え、第 12 週まで 10.0 人を超える報告数であった。その後減少し、6.0 人前後でしばらく推移し、第 30 週（7.21～7.27）以降 4.0 人前後で推移した。第 49 週（12.1～12.7）以降、再び増加傾向となり、第 52 週（12.22～12.28）には 8.80 人まで増加した。全国の動向もほぼ同様であった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは台東の 820.25 人、次いで町田市の 682.00 人、江東区の 555.29 人であった。

年齢階級別報告数では 10 歳未満が 69,023 人（75.9%）と最も多く、次いで 10 歳代 13,267 人（14.6%）、20 歳代 8,673 人（9.5%）であった。10 歳未満では、1 歳が 11,460 人（全体の 12.6%）と最も多く、次いで 2 歳 8,623 人（全体の 9.5%）、3 歳が 7,062 人（全体の 7.8%）であった。



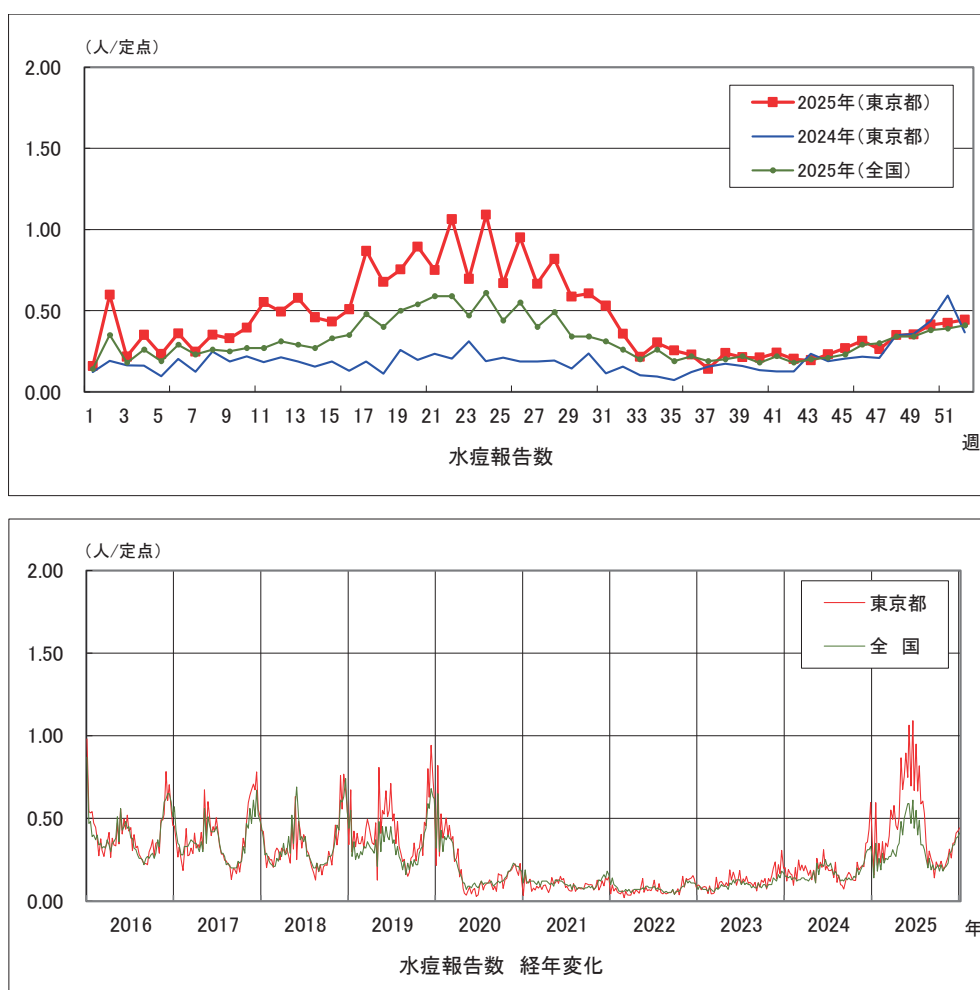
ク 水痘

2025 年の報告数は 6,228 人、定点当たり 23.73 人であり、前年比（定点当たり）2.30 と増加した。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行後初めての流行となった。

週別定点当たりの報告数は、2024 年は年間を通じて 0.60 人未満で推移していたが、2025 年第 2 週（1.6～1.12）に 0.60 人となり、一旦減少したものの緩やかな増加傾向となり、第 17 週（4.21～4.27）に 0.87 人と流行注意報発令基準の 1.0 人を超えないものの、同基準を上回る保健所管内の人口の合計が、東京都全体の 37.2%と 30%を上回ったため、流行注意報が発令された。都が流行注意報を発令したのは 6 年ぶりであった。翌第 18 週（4.28～5.4）には 0.68 人、第 19 週（5.5～5.11）0.75 人と、大型連休の影響もあり明らかな増加傾向を示さず、第 20 週（5.12～5.18）0.89 人かつ流行注意報発令基準を上回る保健所管内の人口の合計も 30%を上回らず、都の流行注意報基準を下回った。その後第 22 週（5.26～6.1）に 1.06 人となり再び注意報発令、翌第 23 週（6.2～6.8）に 0.70 となり解除、さらに第 24 週（6.9～6.15）に 1.09 人と再々度注意報発令、翌第 25 週（6.16～6.22）に 0.67 人、第 26 週（6.23～6.29）に 0.95 人、第 27 週（6.30～7.6）0.67 人、第 28 週（7.7～7.13）0.82 人と増減を繰り返し、第 29 週（7.14～7.20）0.59 人と減少し、注意報解除となった。第 30 週（7.21～7.27）に 0.61 人となったが、その後は 0.60 人未満で推移した。全国においても、都と同時期にピークを形成していたが、報告数は都より少なかった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは文京の 61.25 人、次いで町田市の 54.13 人、池袋の 36.85 人であった。

年齢階級別報告数では、10 歳未満が 4,253 人（68.3%）と最も多く、次いで 10 歳代 1,899 人（30.5%）であった。10 歳未満では、9 歳が 754 人（全体の 12.1%）と最も多く、次いで 8 歳 741 人（全体の 11.9%）、7 歳 714 人（全体の 11.5%）であった。



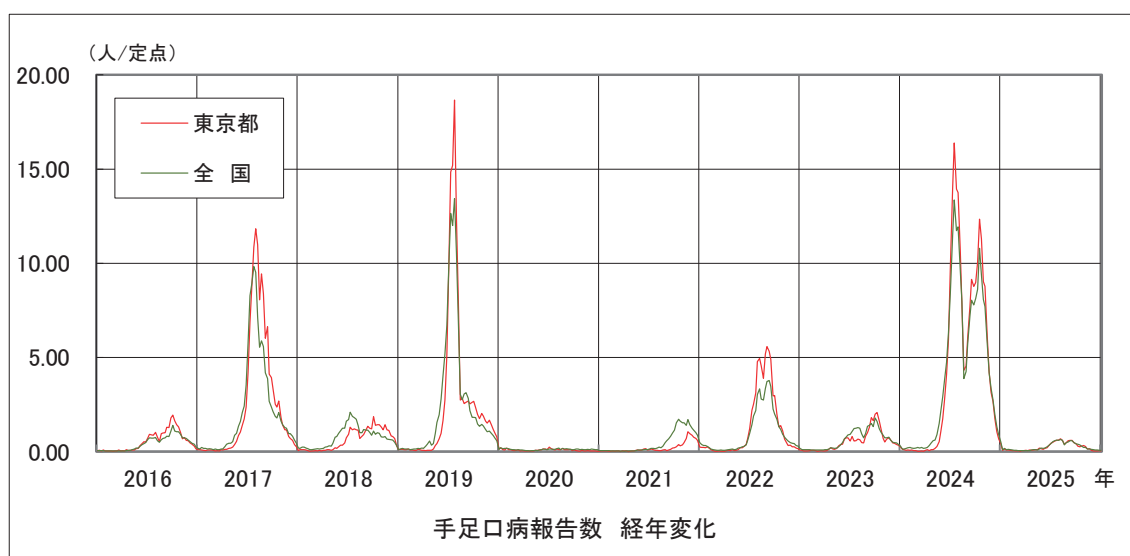
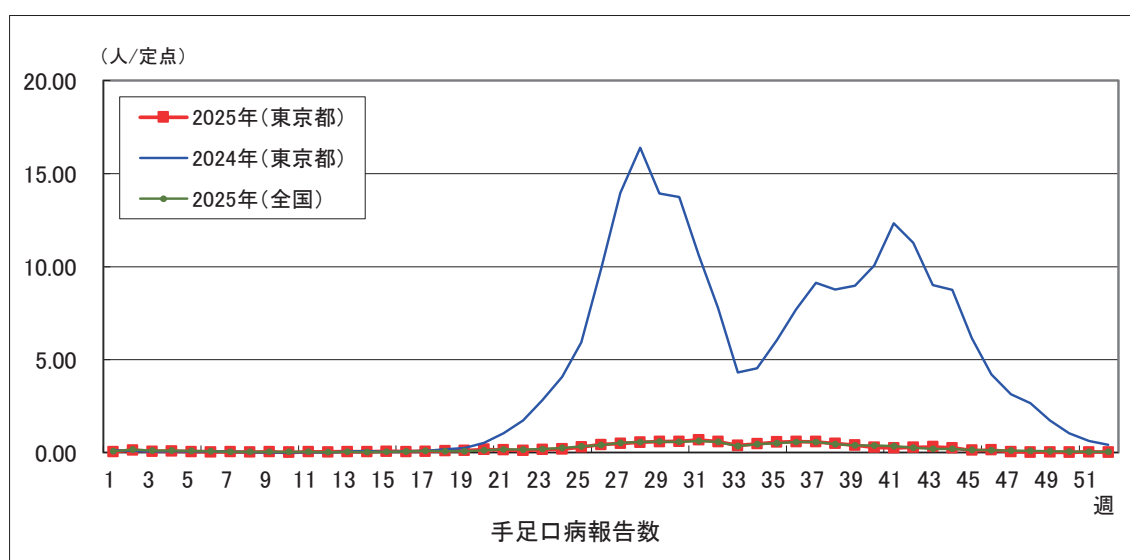
ケ 手足口病

2025 年の報告数は 3,035 人、定点当たり 11.63 人で、前年比（定点当たり）0.05 と大幅に減少した。週別定点当たりの報告数では、年間を通じて 1.0 人未満で推移した。全国の動向もほぼ同様であった。

手足口病は、2010 年以降 1 年ごとに報告の少ない年と多い年を繰り返していたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行した 2020 年は少ない年にあたり、実際に極端に少ない報告数であった。翌 2021 年も報告が少なく、2022 年に報告数が増加、2023 年は少なく、2024 年は大幅に増加し、今年は報告が少なかった。新型コロナウイルス感染症流行前の 1 年ごとに報告の少ない年と多い年を繰り返す傾向を示した。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは、台東の 26.00 人で、次いで町田市の 24.88 人、大田区の 23.86 人であった。

年齢階級別報告数では 10 歳未満が 2,932 人（96.6%）とほとんどを占め、10 歳未満では、1 歳が 1,060 人（全体の 34.9%）と最も多く、次いで 1 歳未満 446 人（全体の 14.7%）、2 歳 431 人（全体の 14.2%）であった。2 歳以下で 1,937 人と全体の 63.8%、5 歳以下で 2,639 人と全体の 87.0%を占めた。



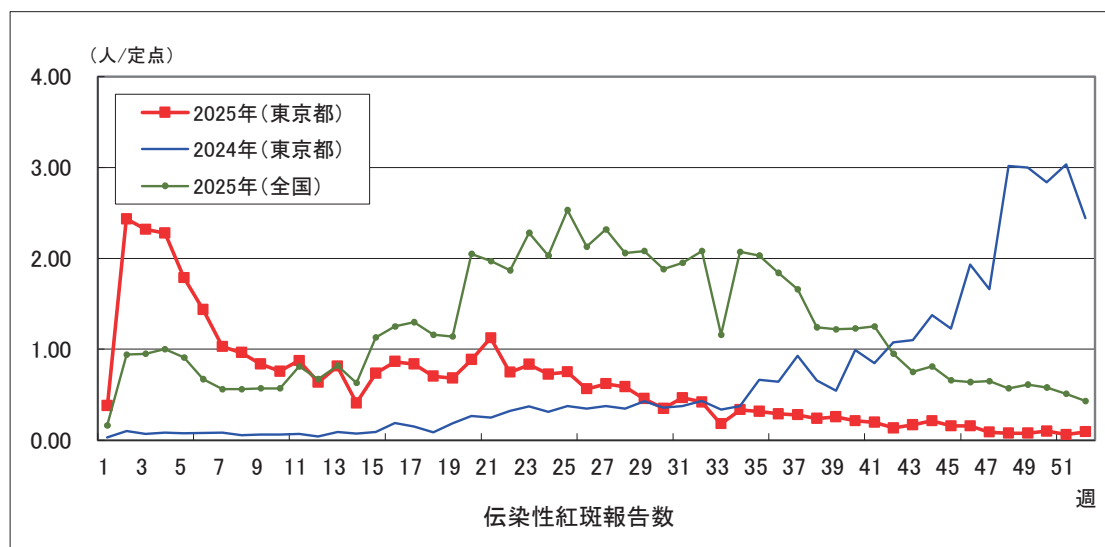
コ 伝染性紅斑

2025 年の報告数は 8,630 人、定点当たり 32.90 人で、前年比（定点当たり）は 0.94 であった。

週別定点当たりの報告数は、前年の 2024 年の第 42 週（10.14～10.20）から 1.0 人を上回り、第 46 週（11.11～11.17）に 1.93 人と流行警報発令基準の 2.0 人は上回らないものの、同基準を上回る保健所管内の人口の合計が東京都全体の 57.75%と、30%を上回ったため、流行警報が発令された。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行後初めての流行であり、都が流行警報を発令したのは 6 年ぶりであった。第 51 週（12.16～12.22）に 3.03 人とピークを迎え、2025 年に入った。2025 年は第 1 週（12.30～1.5）を除いて 2.0 人前後で推移し、第 7 週（2.10～2.16）まで 1.0 人を超えた。第 8 週（2.17～2.23）には 1.0 人未満となり流行警報解除となった。その後徐々に減少したが、第 15 週（4.7～4.13）にやや増加傾向となり、第 21 週（5.19～5.25）に 1.13 人となったが、翌週には 1.0 人未満となり、その後は徐々に減少し、1.0 人未満のまま第 52 週まで推移した。全国では、都の流行が終わった後の第 25 週（6.16～6.22）に 2.53 人をピークとした流行があり、その後は都より高めの報告数で推移した。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは荒川区の 86.75 人、次いで八王子市の 81.68 人、多摩小平の 63.87 人であった。

年齢階級別報告数では 10 歳未満が 8,158 人（94.5%）とほとんどを占め、10 歳未満では、5 歳が 1,551 人（全体の 18.0%）と最も多く、次いで 4 歳 1,421 人（全体の 16.5%）、6 歳 1,192 人（全体の 13.8%）であった。



サ 突発性発しん

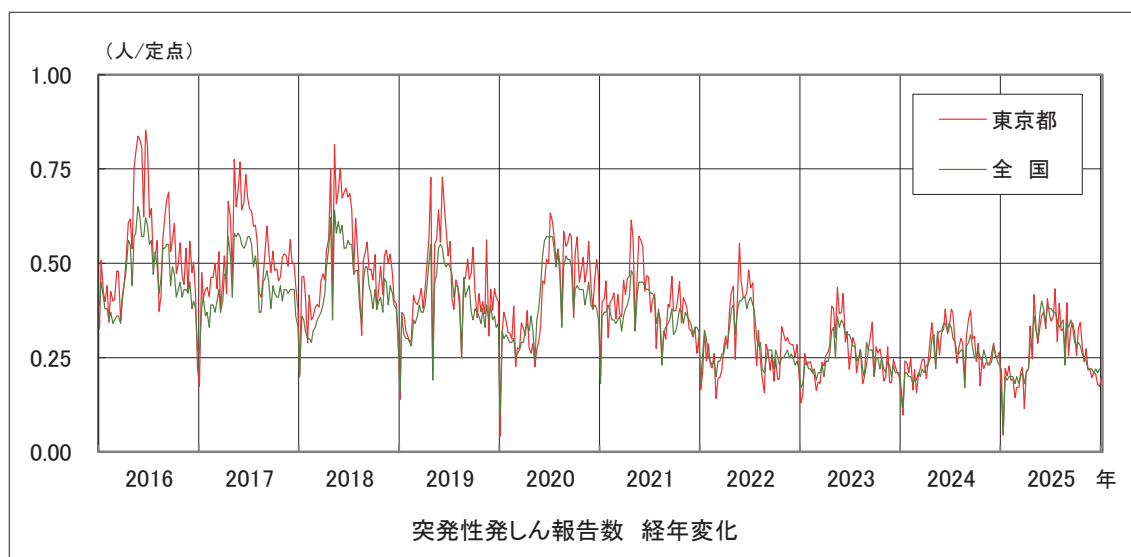
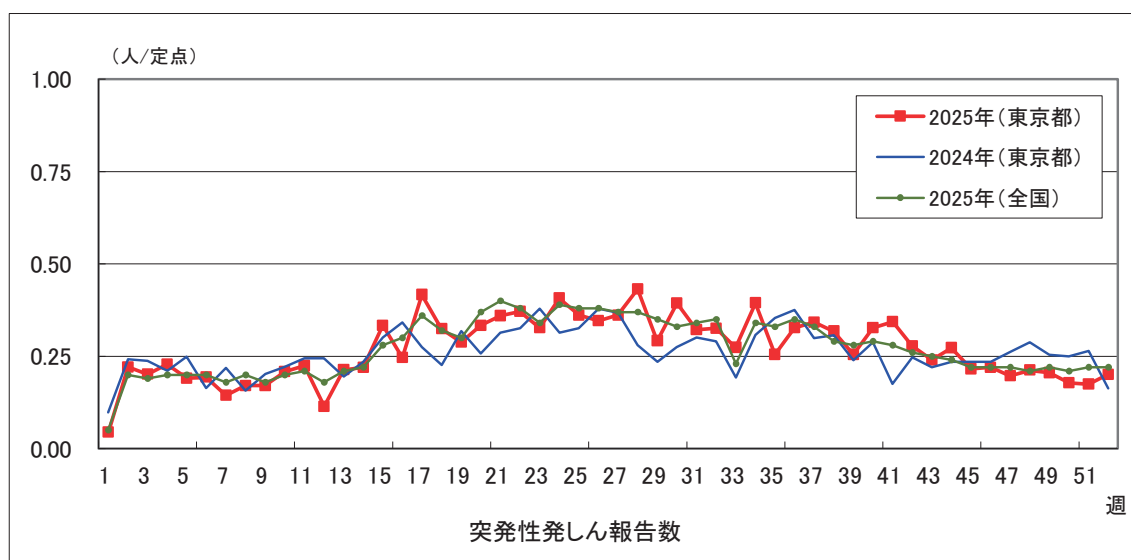
2025 年の報告数は 3,670 人、定点当たり 14.01 人で、前年比（定点当たり）1.03 倍であった。

2020 年から報告数は減少傾向にあり、ここ 10 年において最も少ない報告数となった 2023 年（3,447 人、定点当たり 13.26 人）、その次に少ない 2024 年（3,571 人、定点当たり 13.61 人）とほぼ同様であった。

週別定点当たりの報告数では、年間を通じて 0.5 人未満で推移した。前年同様春から秋にかけて多い傾向も見られるが、季節変動は少なかった。全国の動向もほぼ同様であった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは荒川区の 35.75 人、次いで町田市の 30.38 人、多摩小平の 24.29 人であった。

年齢階級別報告数では 10 歳未満が 3,663 人（99.8%）とほとんどを占め、10 歳未満では、1 歳が 1,922 人（全体の 52.4%）と最も多く、次いで 1 歳未満 776 人（全体の 21.1%）、2 歳 579 人（全体の 15.8%）であった。5 歳以下で 3,635 人と全体の 99.0%を占めた。



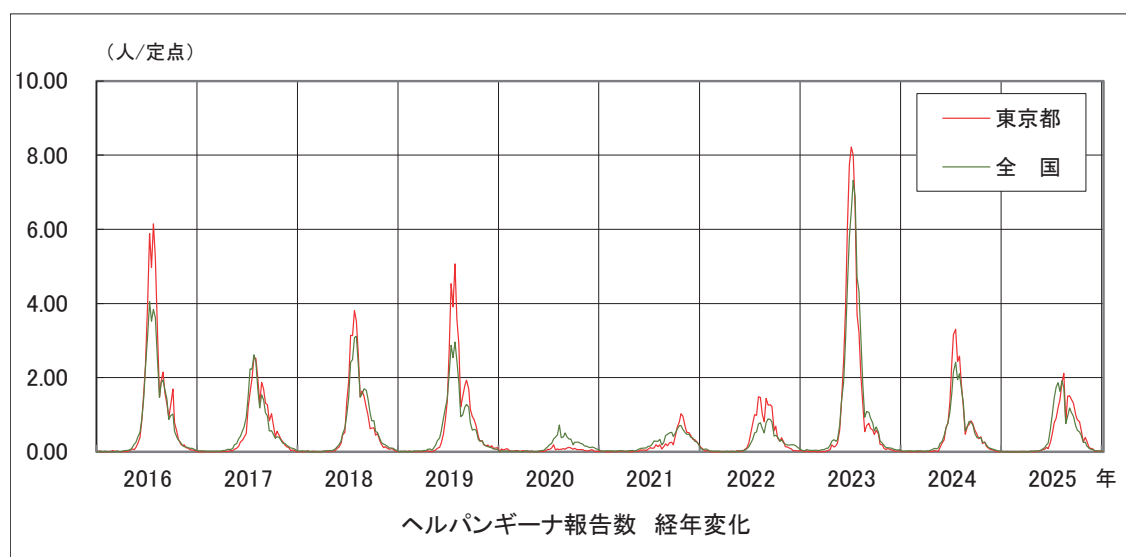
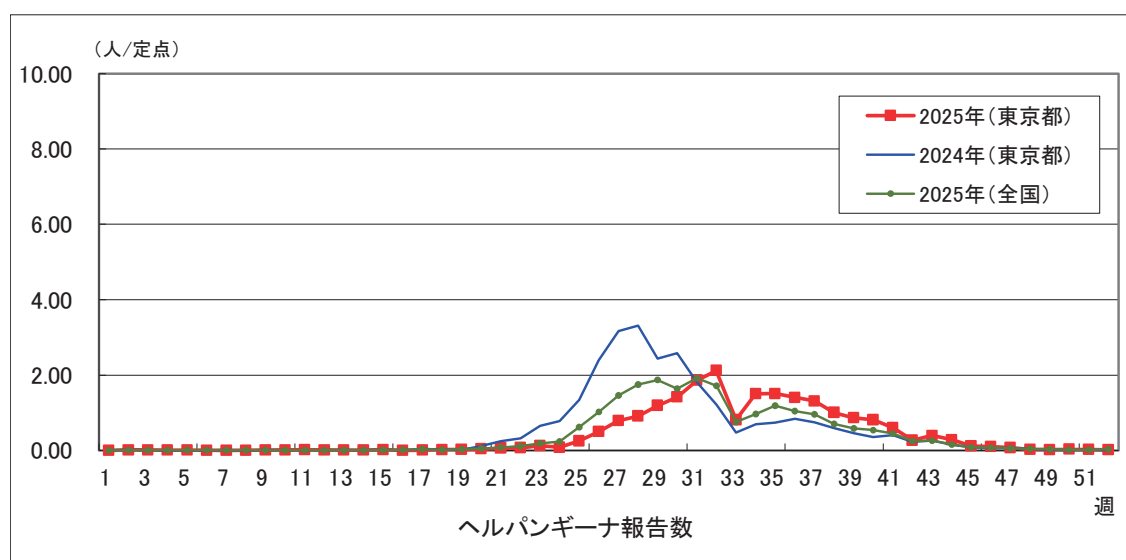
シ ヘルパンギーナ

2025 年の報告数は 5,416 人、定点当たり 20.81 人で、前年比（定点当たり）0.77 倍と減少した。

週別定点当たりの報告数では、毎年春から夏にかけて流行していたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行した 2020 年と 2021 年、2022 年は流行がなく、2023 年にここ 10 年で最も多い報告数となる流行がみられた。2025 年は、年初から 0.10 人未満で推移していたが、第 23 週（6.2～6.8）に 0.13 人と 0.10 人を超え、その後増加傾向を示し、第 29 週（7.14～7.20）に 1.19 人と 1.0 人を超えた。ピークは第 32 週（8.4～8.10）の 2.12 人であった。第 39 週（9.22～9.28）には 1.0 人未満となり、第 47 週（11.17～11.23）以降は、0.10 人未満で推移した。全国の動向もほぼ同様であった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは町田市の 67.38 人、次いで台東の 44.50 人、みなとの 36.00 人であった。

年齢階級別報告数では 10 歳未満が 5,250 人（96.9%）とほとんどを占め、10 歳未満では、1 歳が 1,844 人（全体の 34.0%）と最も多く、次いで 2 歳 1,219 人（全体の 22.5%）、1 歳未満 556 人（全体の 10.3%）であった。5 歳以下で 4,817 人と全体の 88.9%を占めた。



ス 流行性耳下腺炎

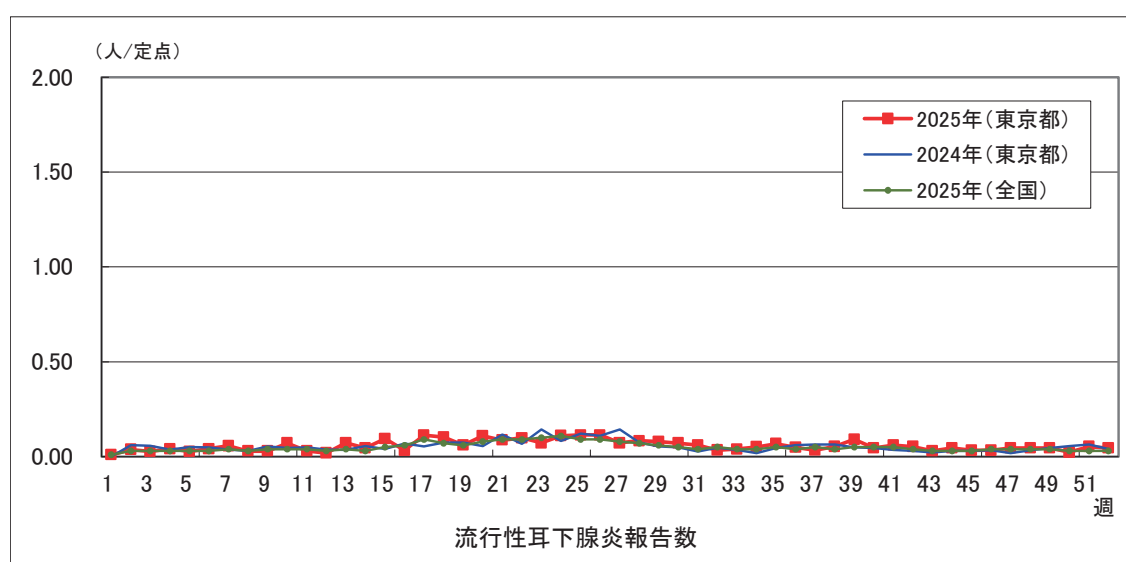
2025 年の報告数は 789 人、定点当たり 3.01 人で、前年比（定点当たり）は 1.06 であった。

近年では 2016 年に大きな流行があったが、それ以降は少ない報告に留まっている。

週別定点当たりの報告数は、年間を通じてほぼ 0.1 人未満で推移した。全国の動向もほぼ同様であった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは町田市の 10.88 人、次いで台東の 6.75 人、みなとの 6.17 人であった。

年齢階級別報告数では、10 歳未満が 650 人（82.4%）とほとんどを占め、10 歳未満では、5 歳と 6 歳がそれぞれ 110 人（全体の 13.9%）と最も多く、次いで 4 歳 98 人（12.4%）、7 歳 89 人（11.3%）であった。



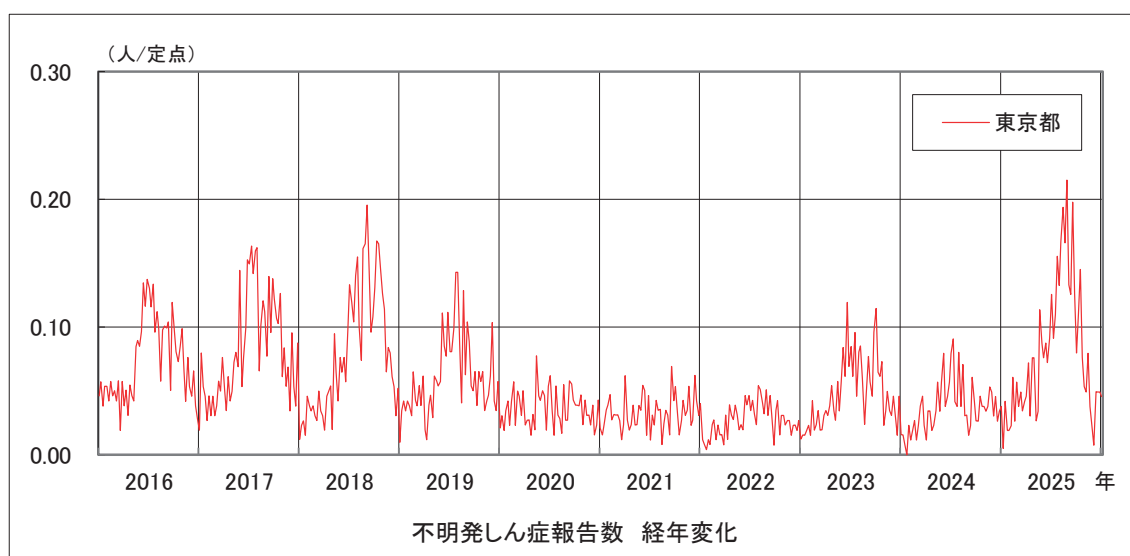
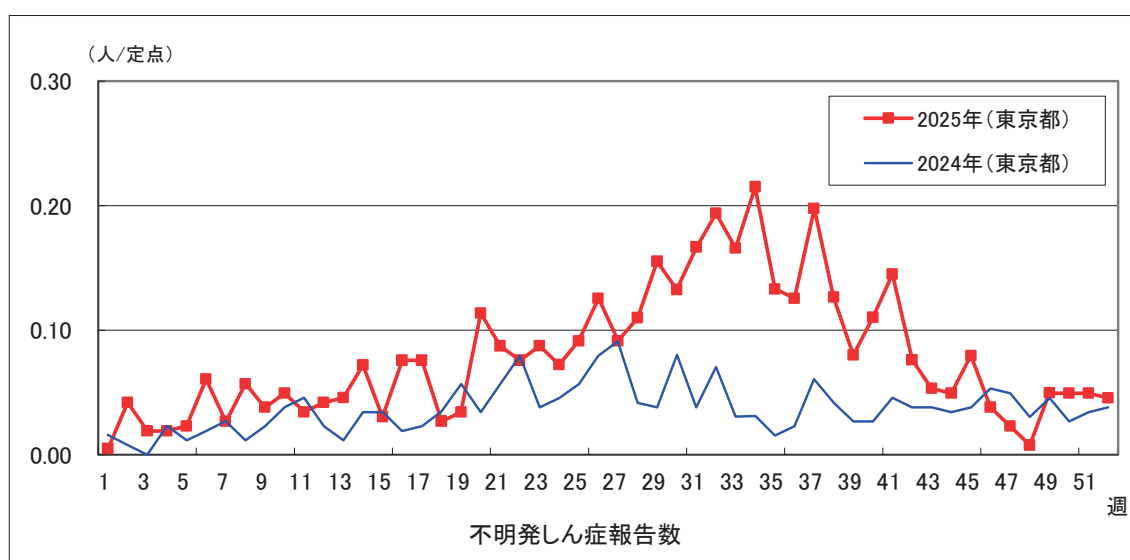
セ 不明発しん症（東京都独自疾患）

2025 年の報告数は 1,068 人、定点当たり 4.10 人で、前年比（定点当たり）は 1.93 倍と増加した。

週別定点当たりの報告数では、2024 年は年間を通して 0.10 人未満で推移しており、2025 年も年始からしばらくは 0.10 人未満で推移していた。第 20 週（5.12～5.18）に 0.11 人となってから増加傾向となり、第 34 週（8.18～8.24）に 0.22 人とピークを迎えた。その後徐々に減少し、第 42 週（10.13～10.19）には 0.1 人未満となった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは目黒区の 11.40 人、次いで町田市の 10.25 人、文京の 8.08 人であった。

年齢階級別報告数では 10 歳未満が 986 人（92.3%）とほとんどを占め、10 歳未満では、1 歳が 301 人（全体の 28.2%）と最も多く、次いで 1 歳未満が 174 人（全体の 16.3%）、2 歳 139 人（全体の 13.0%）であった。



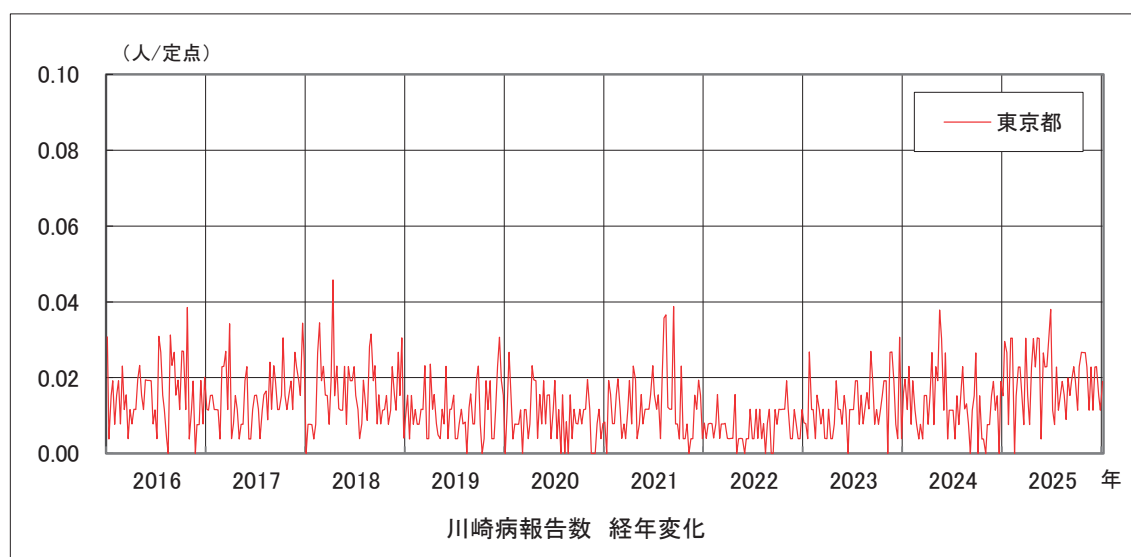
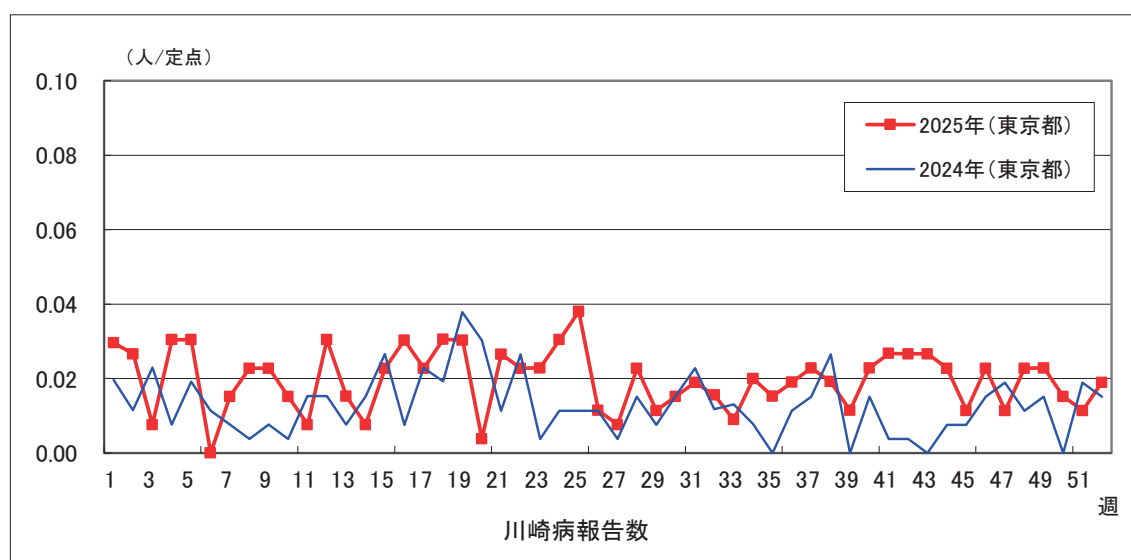
ソ 川崎病（東京都独自疾患）

2025 年の報告数は 267 人、定点当たり 1.02 人で、前年比（定点当たり）1.52 倍と増加した。

週別定点当たりの報告数では、年間を通じて 0.04 人以下で推移し、例年と同様に季節変動は明確でなかった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは杉並の 5.18 人、次いで荒川区 3.50 人、足立 3.31 人であった。

年齢階級別報告数では 10 歳未満が 266 人（99.6%）とほとんどを占め、10 歳未満では、1 歳が 73 人（全体の 27.3%）と最も多く、次いで 1 歳未満が 46 人（全体の 17.2%）、2 歳が 44 人（全体の 16.5%）だった。5 歳以下で 236 人と全体の 88.4%を占めた。



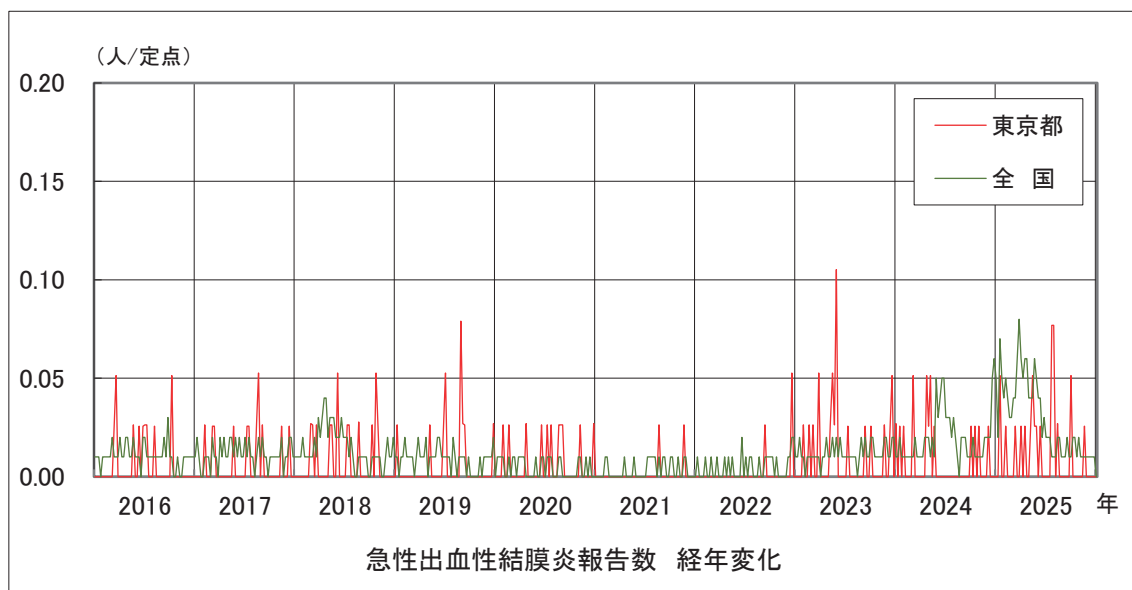
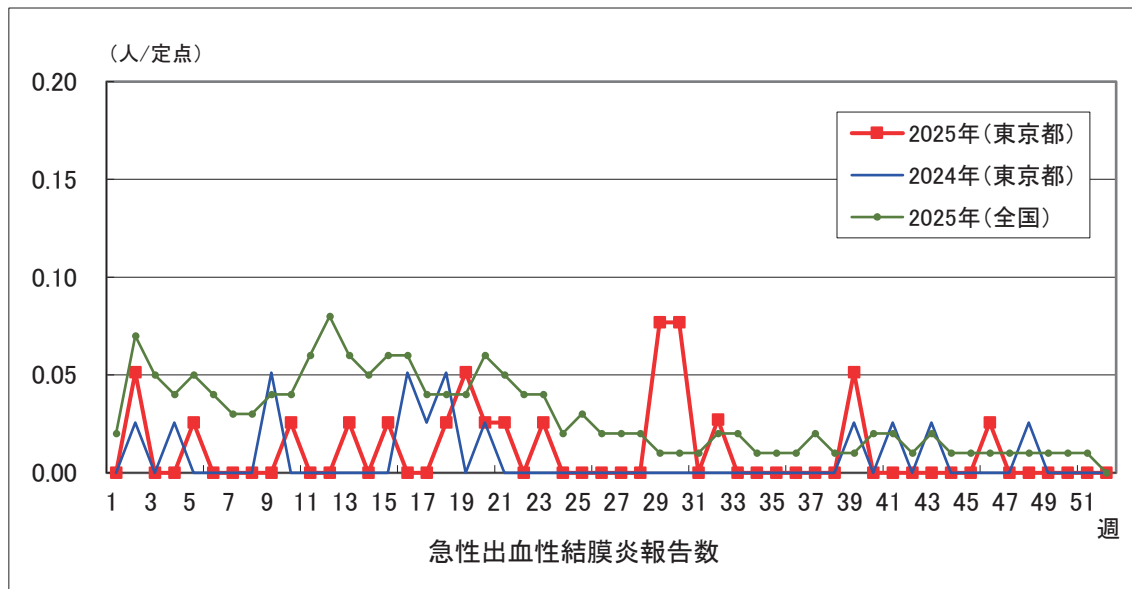
(3) 眼科疾患

ア 急性出血性結膜炎

2025 年の報告数は 22 人、定点当たり 0.57 人であった。これは、過去 10 年間の平均年間報告数 12.10 人、定点当たり 0.32 人よりも多数であった。また過去 10 年間で最も多く発生した。

週別患者報告数は第 29 週、第 30 週（7.14～7.27）で各 3 人、報告のない週も 37 週間あり、時期による変動が見られた。

年齢階級別報告数では 30 歳以上で 77%を占めた。



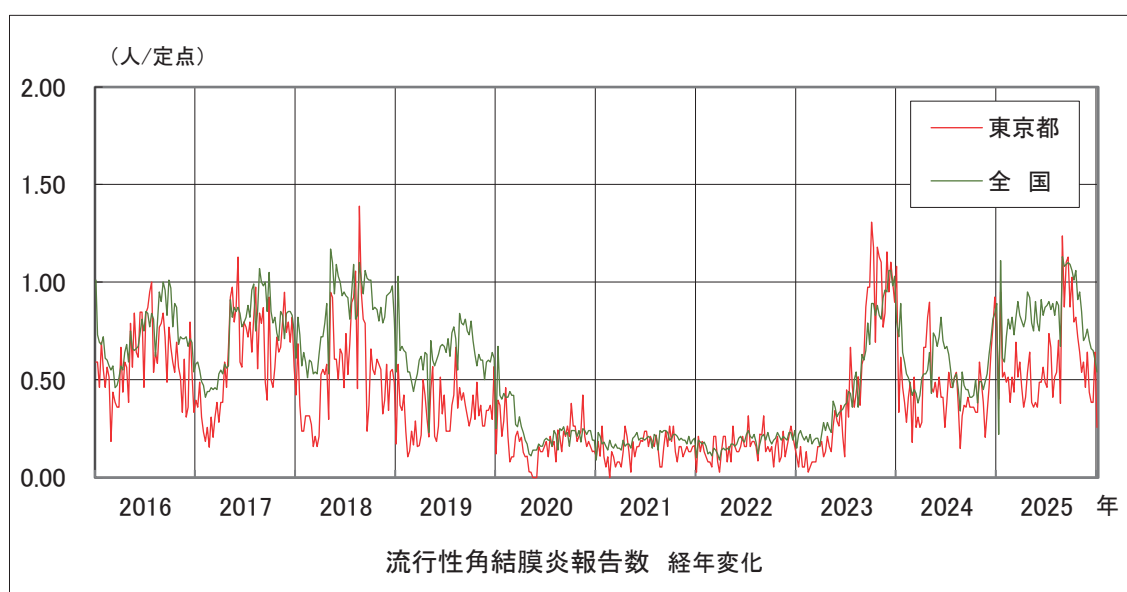
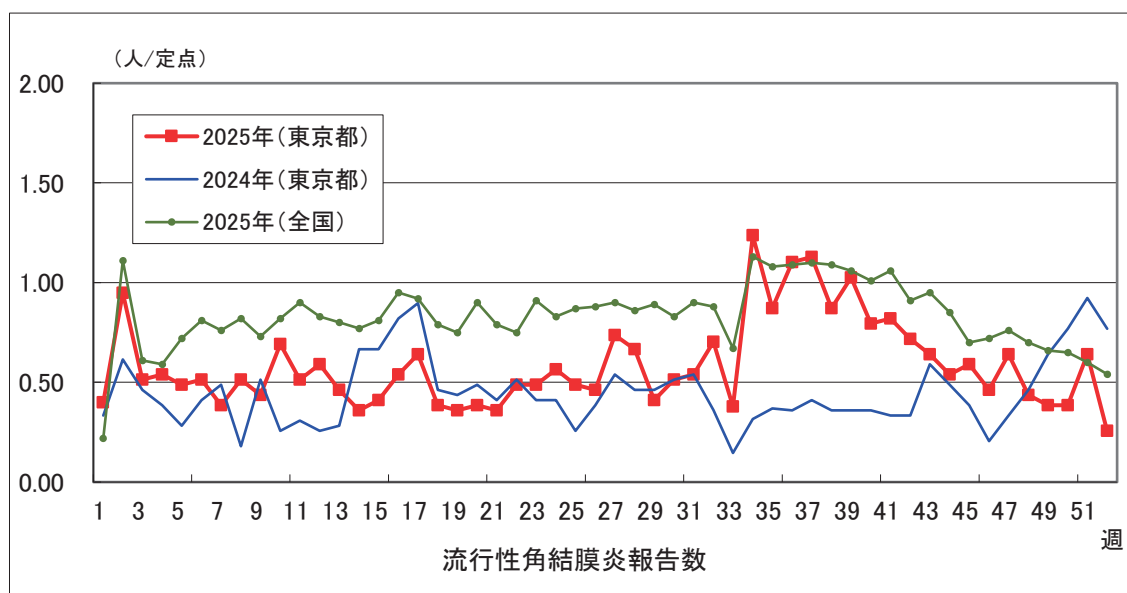
イ 流行性角結膜炎

2025 年の報告数は 1,175 人、定点当たり 30.40 人であった。これは、過去 10 年間の平均年間報告数 816.70 人、定点当たり 21.30 人よりも多数であった。コロナ禍で減少したが、その後徐々に増加し、コロナ禍以前に戻りつつある。

週別患者報告数は第 2 週（1.6～1.12）と第 34 週～第 41 週（8.18～10.12）で 30 人以上と多く、夏から秋に流行が見られ、その他はほぼ平坦化していた。

二次医療圏別報告数は、区西北部圏と区東部圏が 200 人以上と顕著に多かった。

年齢階級別報告数では 20 歳以上で 75%を占めた。



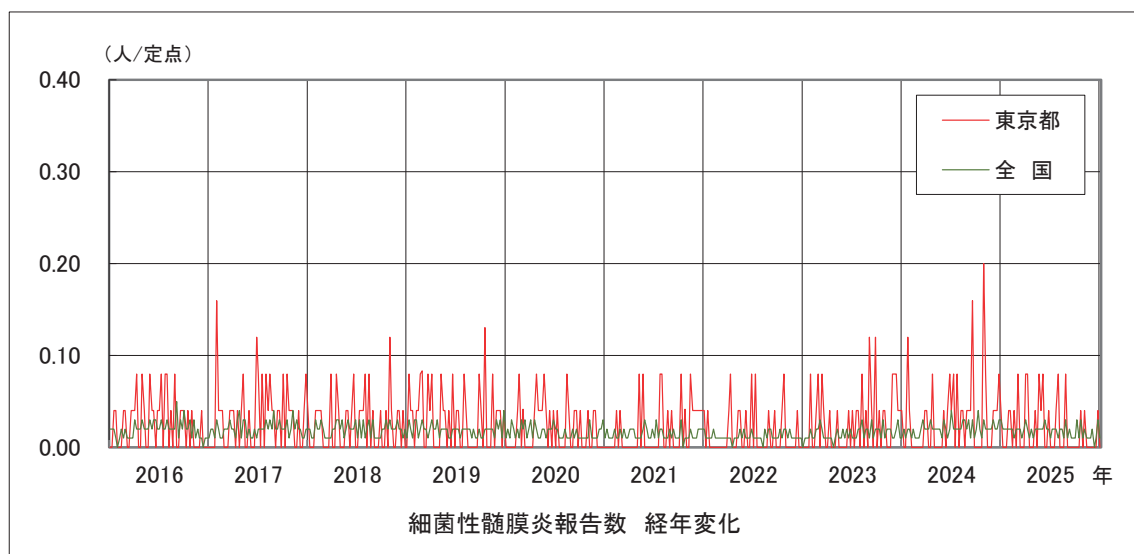
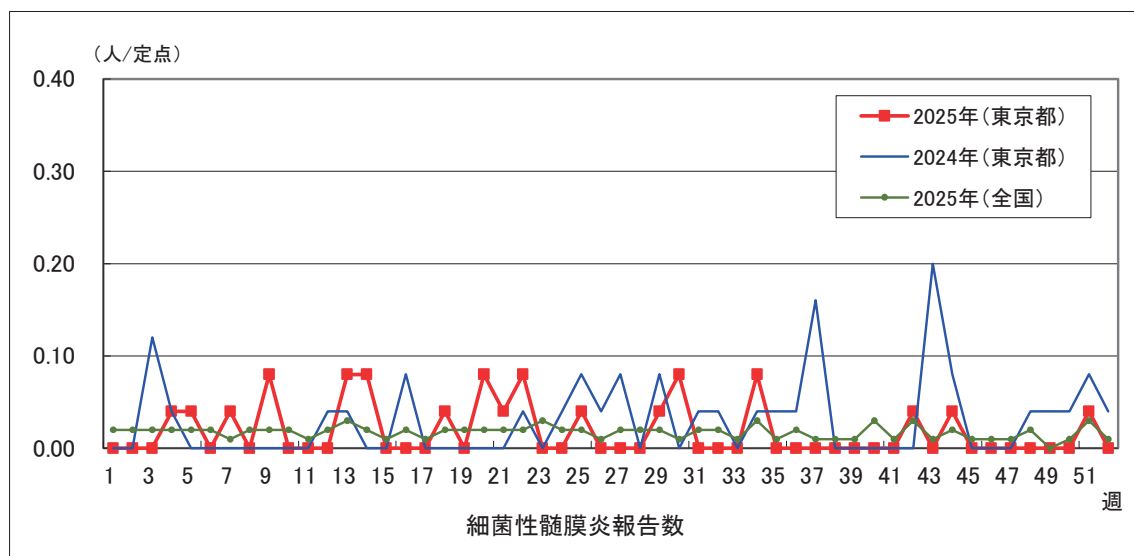
(4) 基幹定点医療機関における週報告疾患

ア 細菌性髄膜炎

2025 年の報告数は 24 人、定点当たり報告数は 0.96 人で、前年比（定点当たり）0.62 倍と減少した。週別定点当たりの報告数では、年間を通じて 0.1 人未満であった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは多摩小平の 3.50 人、次いで墨田区、西多摩の 3.00 人であった。

年齢階級別報告数では 6 か月未満から 80 歳以上まで報告があった。20 歳未満は 9 人（37.5%）、20 歳以上は全て 50 歳以上で 15 人（62.5%）の報告があった。20 歳未満では 6 か月未満が 4 人（全体の 16.7%）と最も多く、20 歳以上では 60 歳代と 80 歳以上がそれぞれ 5 人（全体の 20.8%）と最も多かった。



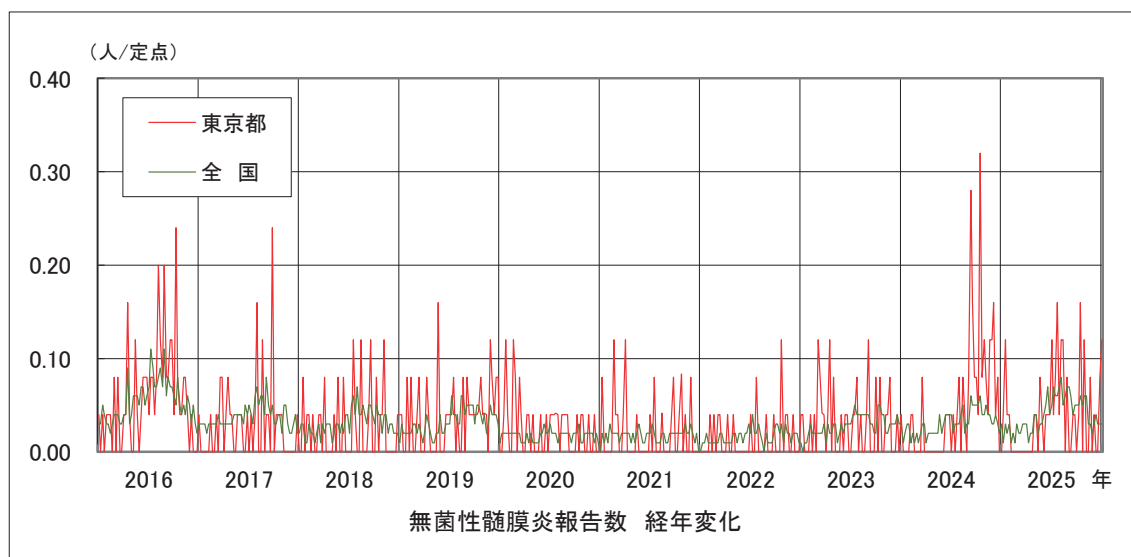
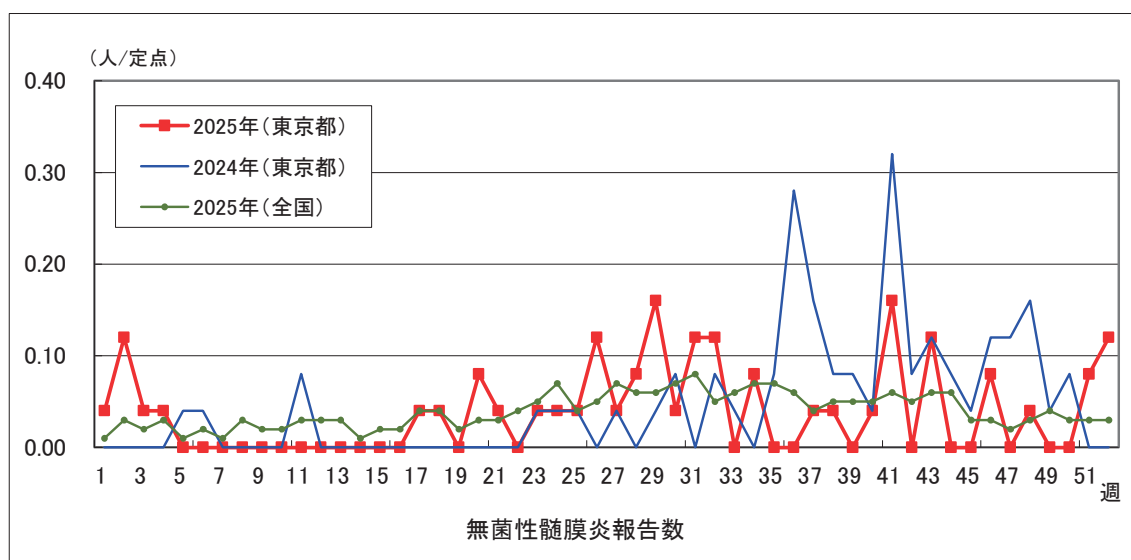
イ 無菌性髄膜炎

2025 年の報告数は 51 人、定点当たり 2.04 人で、前年比（定点当たり）0.84 倍であった。ここ 10 年では 2016 年、2024 年に次いで多い報告数であった。

週別定点当たりの報告数では 1 月下旬から 4 月中旬まで報告は無く、第 29 週（7.14～7.20）、第 41 週（10.6～10.12）前後で報告数が増加したが、年間を通じて 0.2 人未満であった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは文京の 7.00 人、次いで多摩小平の 5.50 人、板橋区、葛飾区、多摩立川の 3.00 人であった。

年齢階級別報告数では、6 か月未満から 80 歳以上まで報告があった。20 歳未満は 14 人（27.5%）、20 歳以上は 37 人（72.5%）の報告があった。20 歳未満では 6 か月未満が 7 人（全体の 13.7%）と最も多く、20 歳以上では 70 歳代が 8 人（全体の 15.7%）と最も多かった。



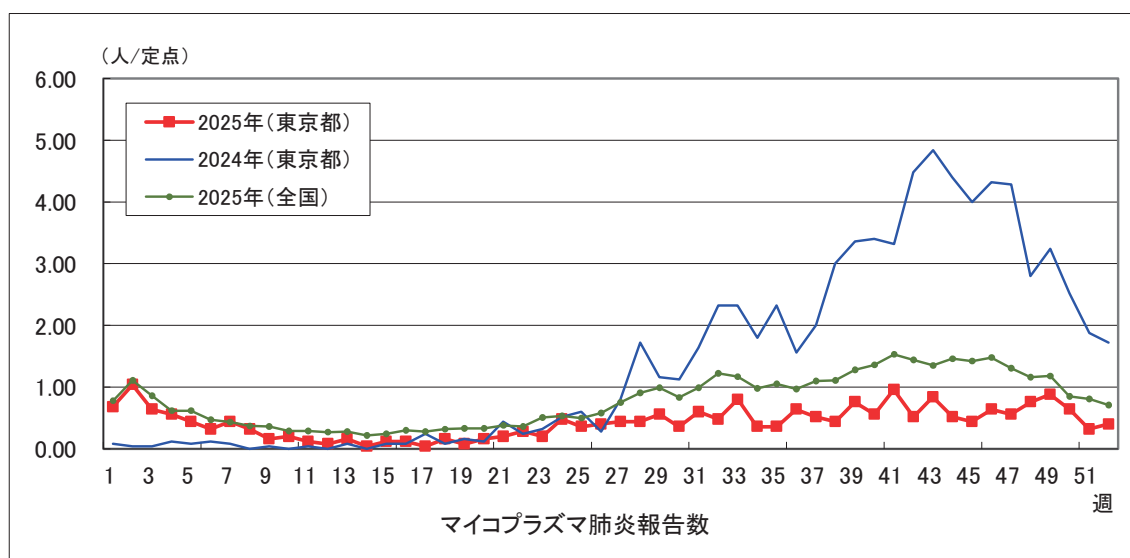
ウ マイコプラズマ肺炎

2025 年の報告数は 565 人、定点当たりの報告数は 22.60 人で、前年比（定点当たり）0.30 倍と減少した。

週別定点当たりの報告数は、ここ 10 年、2016 年に流行した後、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行中も含めしばらく流行が見られなかったが、2024 年に初夏から冬にかけて、第 43 週（10.21～10.27）の 4.84 人をピークとする流行が見られ、ここ 10 年で最も多い報告数となった。2025 年に入ってから年始めに 1.0 人を超える週もあったが、その後は減少した。第 29 週（7.14～7.20）に 0.56 人となってからはやや高めに推移したが、1.0 人を超えることはなかった。全国においても年始から春にかけては都の動向と同様であったが、夏以降増加し、第 41 週（10.6～10.12）の 1.53 人をピークとする流行が見られ、その間は都より高めの値で推移した。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは、西多摩の 62.00 人、次いで葛飾区の 56.00 人、多摩小平の 52.50 人であった。

年齢階級別報告数では、全年齢層から報告があり、10 歳未満が 338 人（59.8%）と最も多く、次いで 10 歳代 158 人（28.0%）、20 歳代 28 人（5.0%）であった。10 歳未満では、3 歳が 42 人（全体の 7.4%）と最も多く、次いで 8 歳 41 人（全体の 7.3%）、5 歳と 9 歳がそれぞれ 39 人（全体の 6.9%）であった。



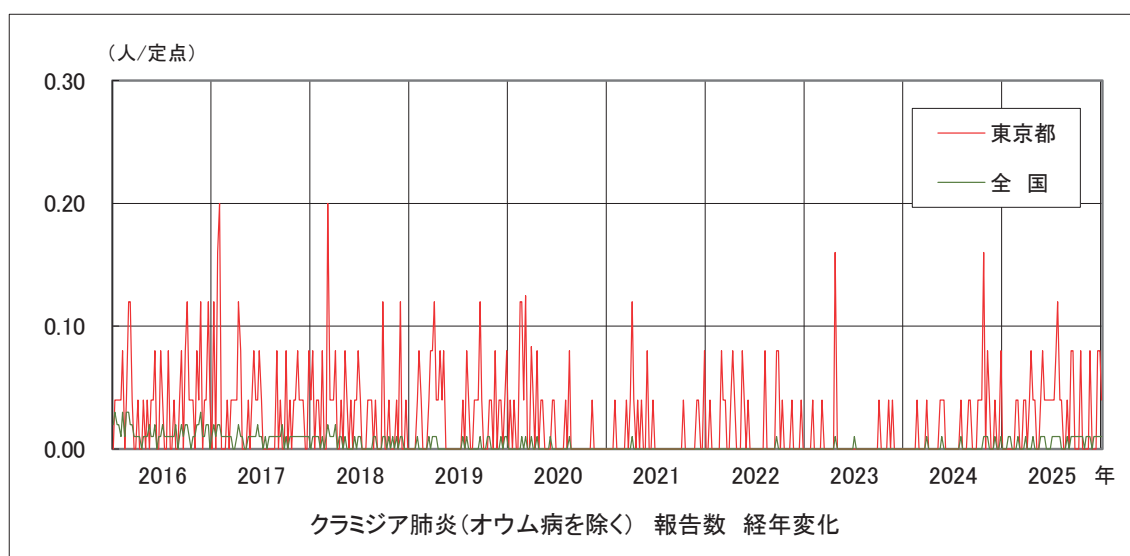
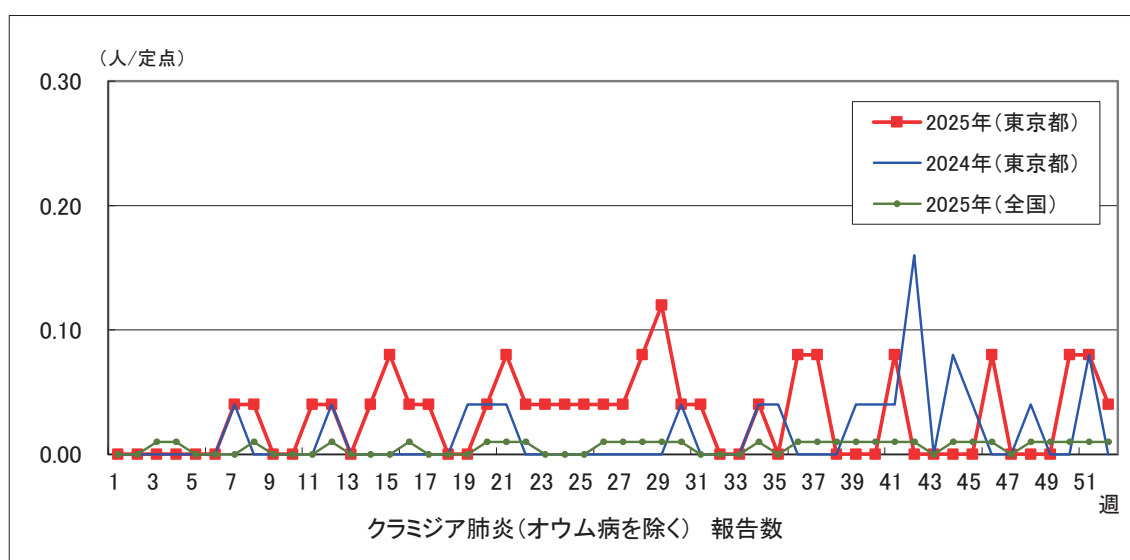
エ クラミジア肺炎（オウム病を除く）

2025 年の報告数は 39 人、定点当たりの報告数は 1.56 人で、前年比（定点当たり）1.86 倍と増加した。

週別定点当たりの報告数では、第 29 週（7.14～7.20）は 0.12 人と 0.1 人を超えたが、年間を通じてほぼ 0.1 人未満の散發であった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは、みなとの 13.00 人、次いで杉並の 5.00 人、葛飾区の 4.00 人であった。

年齢階級別報告数では 10 歳未満が 17 人（43.6%）と最も多く、次いで 70 歳代 8 人（20.5%）、10 歳代と 80 歳以上が 4 人（10.3%）であった。



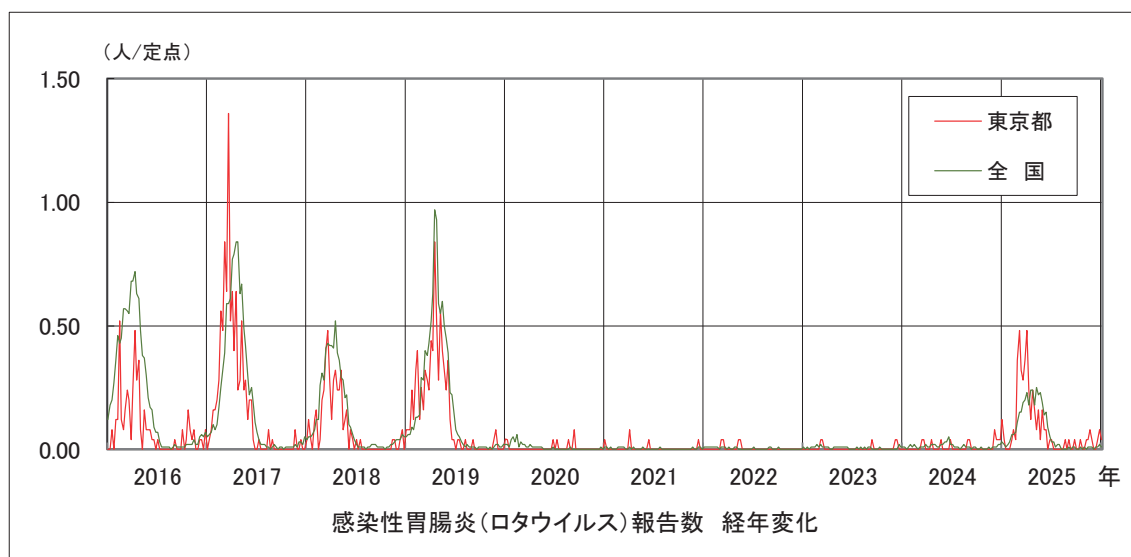
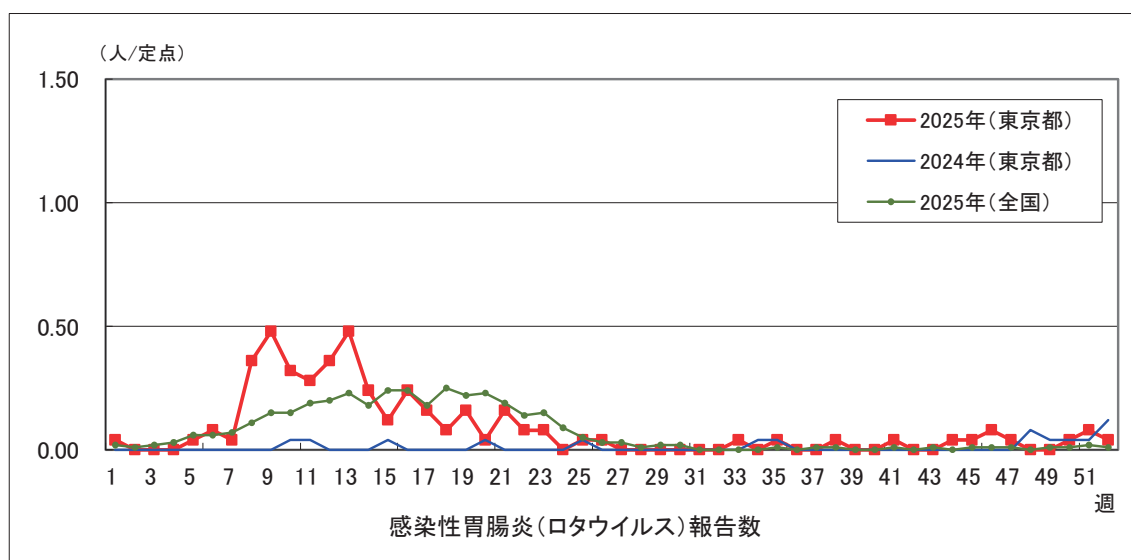
オ 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）

2025 年の報告数は 111 人、定点当たりの報告数は 4.44 人で、前年比（定点当たり）7.40 倍と増加した。

週別定点当たりの報告数では、第 9 週（2.24～3.2）と第 13 週（3.24～3.30）の 0.48 人をピークとした山が形成された。その後は第 21 週までは 0.10 人を超える報告が見られたが、ほぼ 0.10 人未満で推移した。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは、葛飾区の 25.00 人、次いで墨田区、池袋の 16.00 人であった。

年齢階級別報告数では 10 歳未満が 82 人（73.9%）とほとんどを占め、10 歳未満では、8 歳が 22 人（全体の 19.8%）、次いで 7 歳 11 人（全体の 9.9%）、6 歳 10 人（全体の 9.0%）であった。



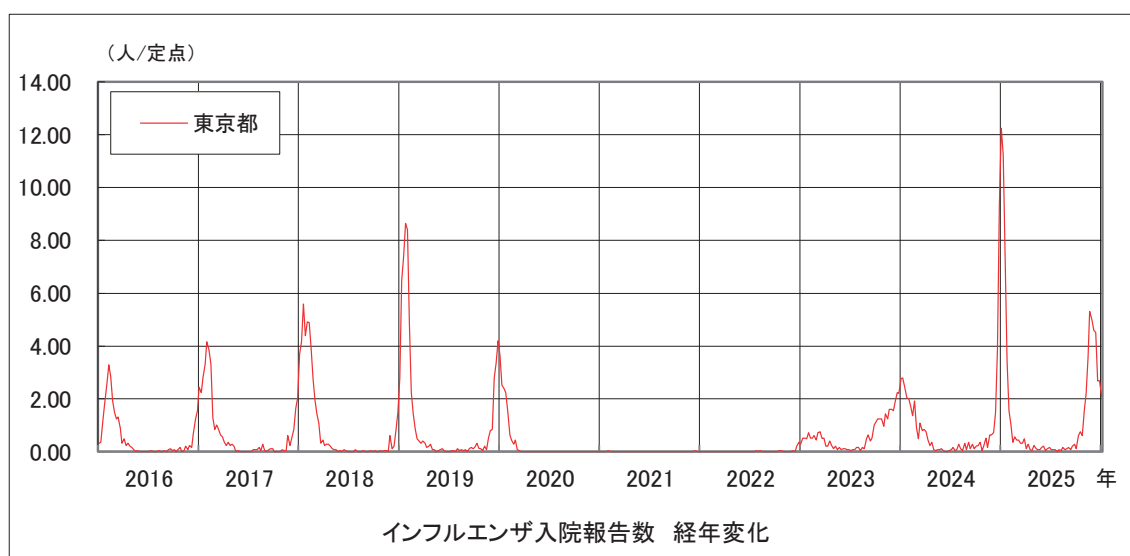
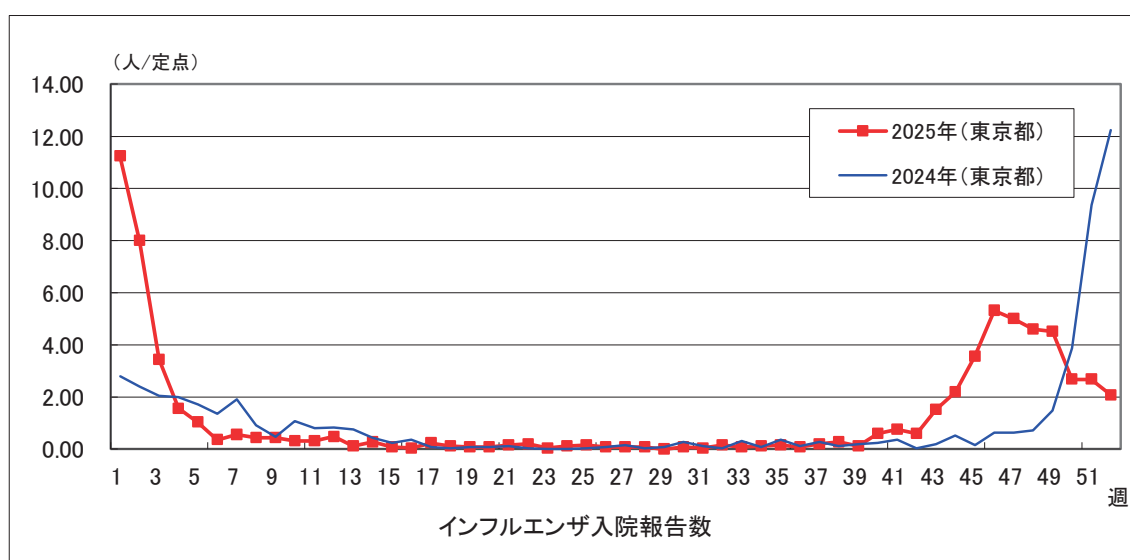
カ インフルエンザ入院

2025 年の報告数は 1,690 人、定点当たりの報告数は 67.60 人で、前年比（定点当たり）1.27 倍であった。前年の 2024 年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行以前の水準に戻っており、2025 年はさらに増加した。

週別定点当たりの報告数では、2024/25 シーズンには、2024 年第 49 週（12.2～12.8）に 1.48 人と 1.0 人を超え、第 52 週（12.23～12.29）には 12.24 人と 2024 年のピークを迎え、2025 年に入ってから減少傾向となったが、第 1 週（12.30～1.5）11.24 人、第 2 週（1.6～1.12）8.00 人と高い報告数であった。第 6 週（2.3～2.9）に 0.36 人となつてからは、第 36 週（9.1～9.7）に 2025/26 シーズンに入っても 1.0 人未満で推移していたが、第 43 週（10.20～10.26）に 1.52 人と 1.0 人を超え、第 46 週（11.10～11.16）に 5.32 人とピークを迎え、その後徐々に減少した。第 43 週は、インフルエンザ定点が流行注意報発令基準を超えた週、第 46 週は、都が流行警報を発出した翌週であった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは、多摩小平の 141.50 人、墨田区の 118.00 人、葛飾区の 111.00 人であった。

年齢階級別報告数では 10 歳未満が 574 人（34.0%）と最も多く、次いで 80 歳以上が 453 人（26.8%）、70 歳代 220 人（13.0%）であった。



キ 新型コロナウイルス感染症入院

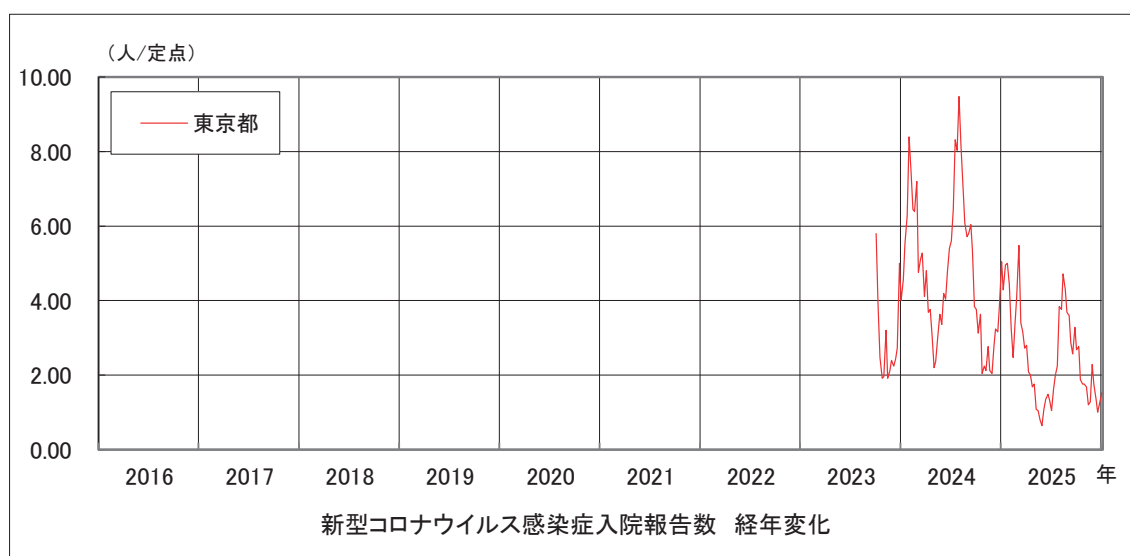
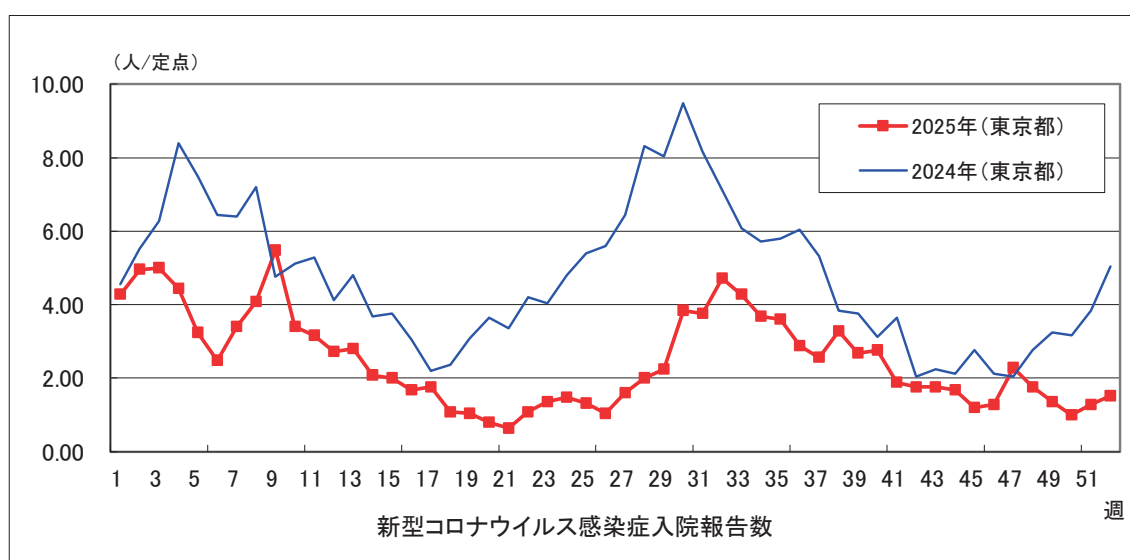
新型コロナウイルス感染症は2023年5月8日から感染症法上の取扱いが五類感染症（定点把握疾患）に変更され、新型コロナウイルス感染症入院についても2023年第39週から定点把握対象疾患となった。

2025年の報告数は3,236人、定点当たりの報告数は129.44人で、前年比（定点当たり）0.52倍と約半分に減少した。

週別定点当たりの報告数では第9週（2.24～3.2）に5.48人、第32週（8.4～8.10）に4.72人と、それぞれをピークにした2つの山が見られた。

保健所別定点当たりの報告数で最も多かったのは八王子市の369.00人、次いで多摩小平238.00人、葛飾区219.00人であった。

年齢階級別に患者報告数をみると、80歳以上が1,415人（43.7%）と最も多く、次いで70歳代714人（22.1%）、10歳未満344人（10.6%）であった。



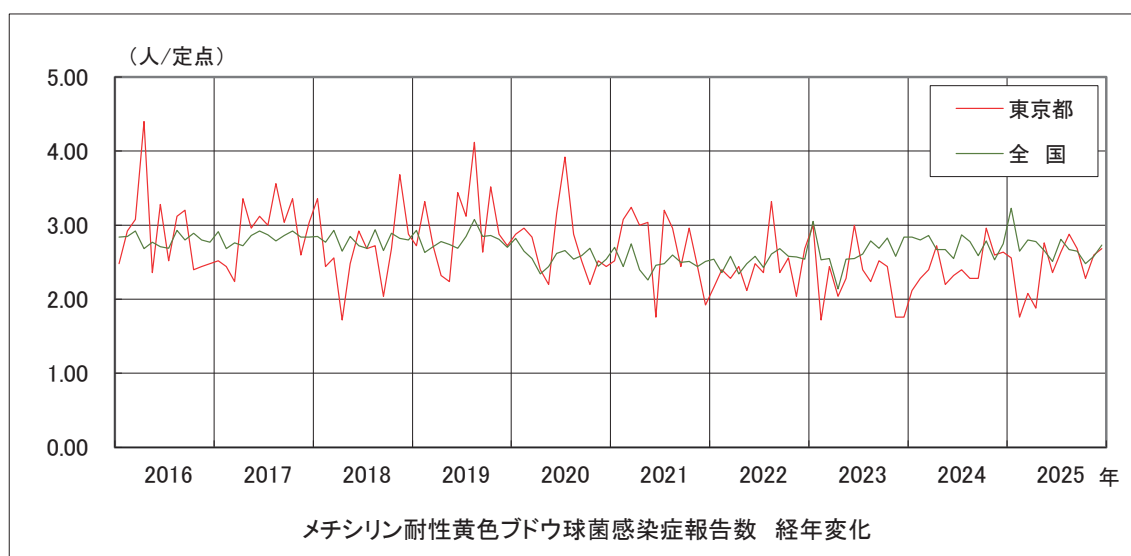
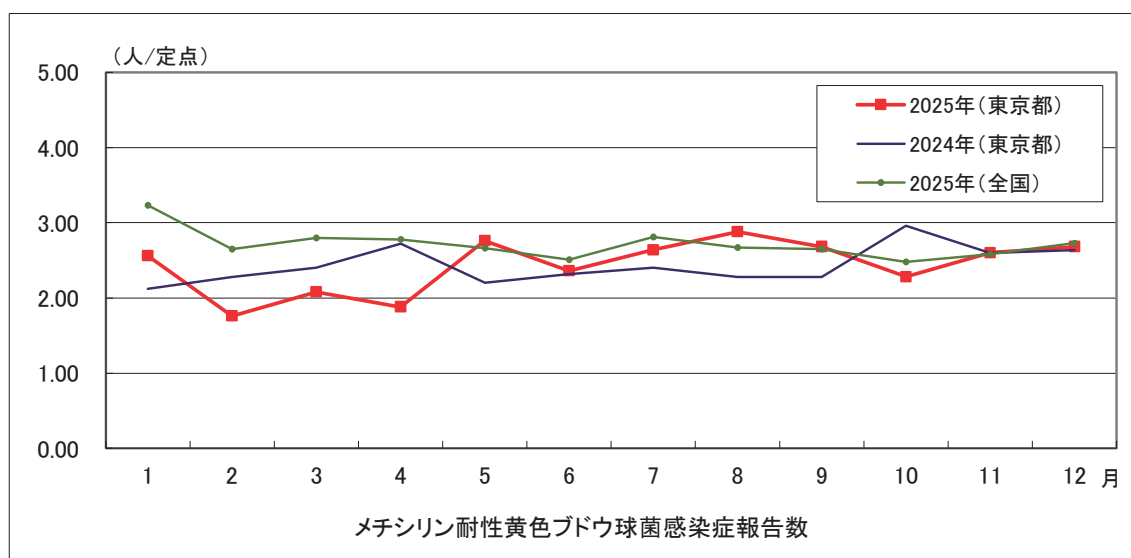
（５） 基幹定点医療機関における月報告疾患

ア メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2025 年の報告数は 729 人、定点当たりの報告数は 29.16 人で、前年比（定点当たり）1.00 倍であった。

月別定点当たりの報告数は平均 2.43 人で、8 月が 2.88 人と最も多く、次いで 5 月の 2.76 人、9 月、12 月の 2.68 人であった。全国は年間を通じて 3.00 人前後で推移した。

年齢階級別に患者報告数をみると、70 歳以上が 408 人（56.0%）と最も多く、次いで 60 歳代 95 人（13.0%）、10 歳未満 61 人（8.4%）であった。

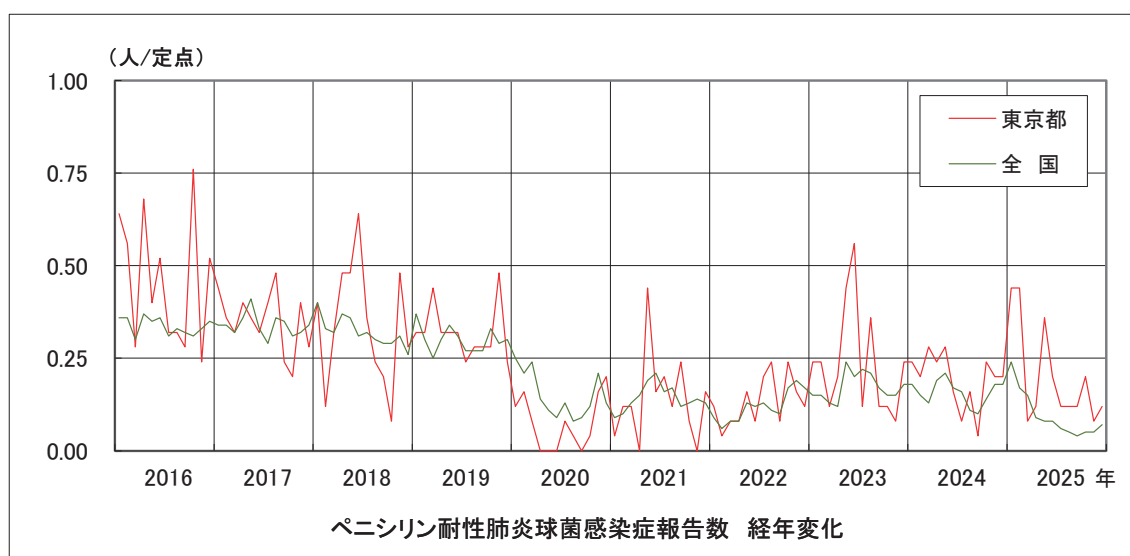
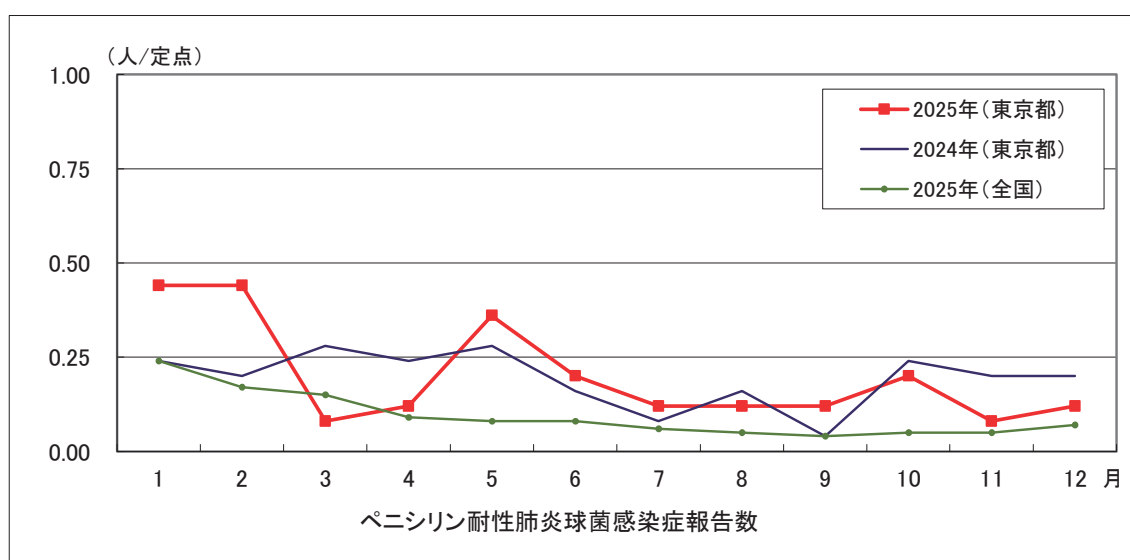


イ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2025 年の報告数は 60 人、定点当たりの報告数は 2.40 人で、前年比（定点当たり）1.03 倍であった。

月別定点当たりの報告数は平均 0.20 人で、1 月、2 月が 0.44 人と最も多く、次いで 5 月 0.36 人、6 月、10 月の 0.20 人であった。全国においても 1 月の 0.24 人が最も多かったが、報告数は年間を通じて 0.25 人未満であり、都より低めに推移した。

年齢階級別に患者報告数をみると、70 歳以上が 26 人（43.3%）と最も多く、次いで 10 歳未満 11 人（18.3%）、10 歳代 9 人（15.0%）であった。



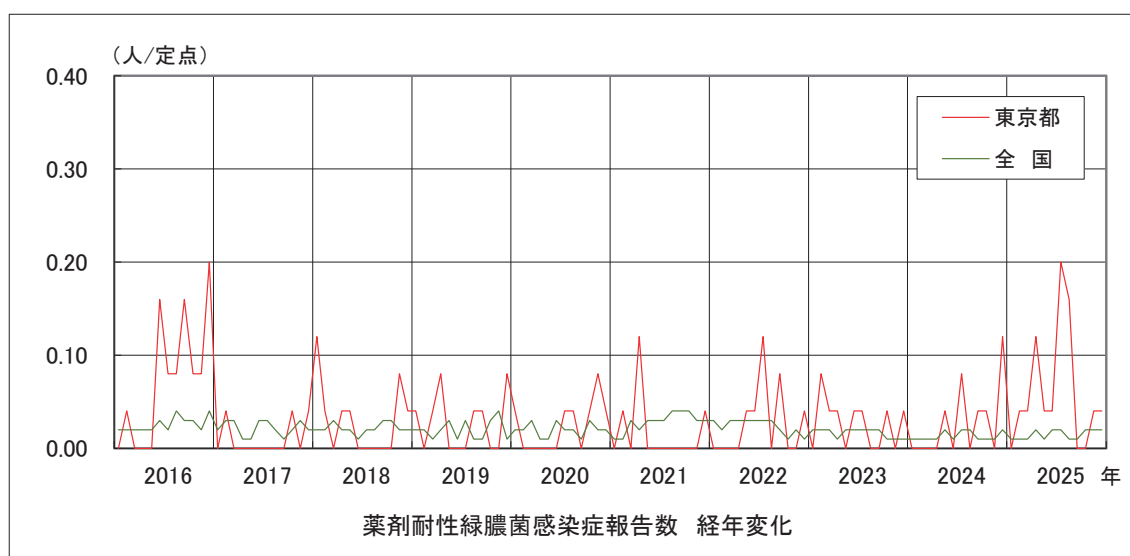
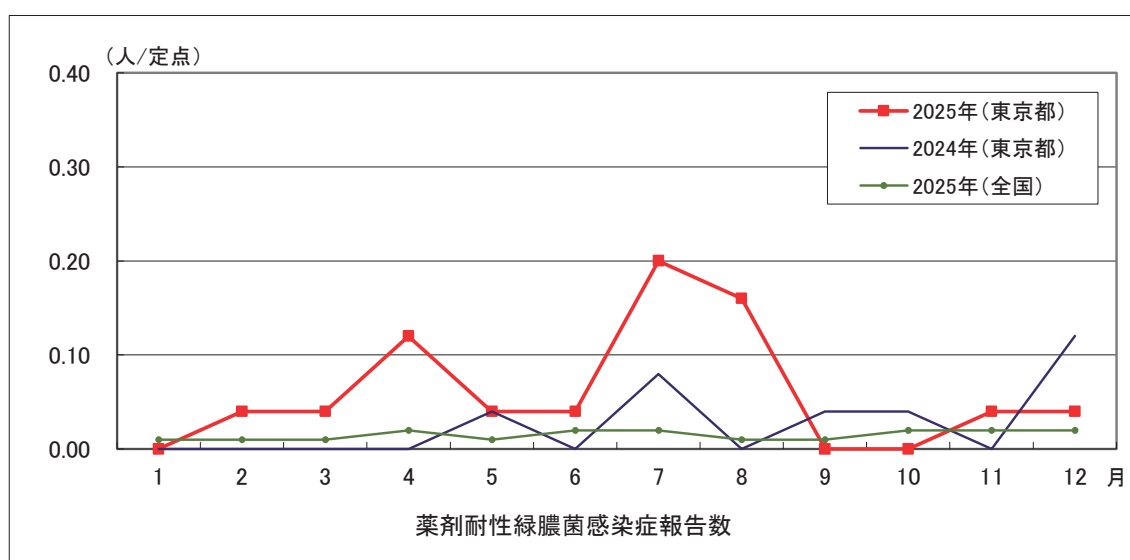
ウ 薬剤耐性緑膿菌感染症

2025 年の報告数は 18 人、定点当たりの報告数は 0.72 人で、前年比（定点当たり）2.25 倍に増加した。ここ 10 年においては、2016 年の 22 人に次いで多かった。

月別定点当たりの報告数は平均 0.06 人で、7 月が 0.20 人と最も多く、次いで 8 月 0.16 人、4 月 0.12 人であった。全国においては、報告数は年間を通じて 0.01～0.02 で、都より低めに推移した。

年齢階級別に患者報告数をみると、全て 25 歳以上の報告であり、70 歳以上が 9 人（50.0%）と最も多く、次いで 50 歳代 3 人（16.7%）、40 歳代、60 歳代が 2 人（11.1%）であった。

なお、薬剤耐性緑膿菌感染症は、2026 年 4 月 5 日までの報告となり、2026 年 4 月 6 日以降は五類全数報告対象疾患の多剤耐性緑膿菌感染症に移行する。



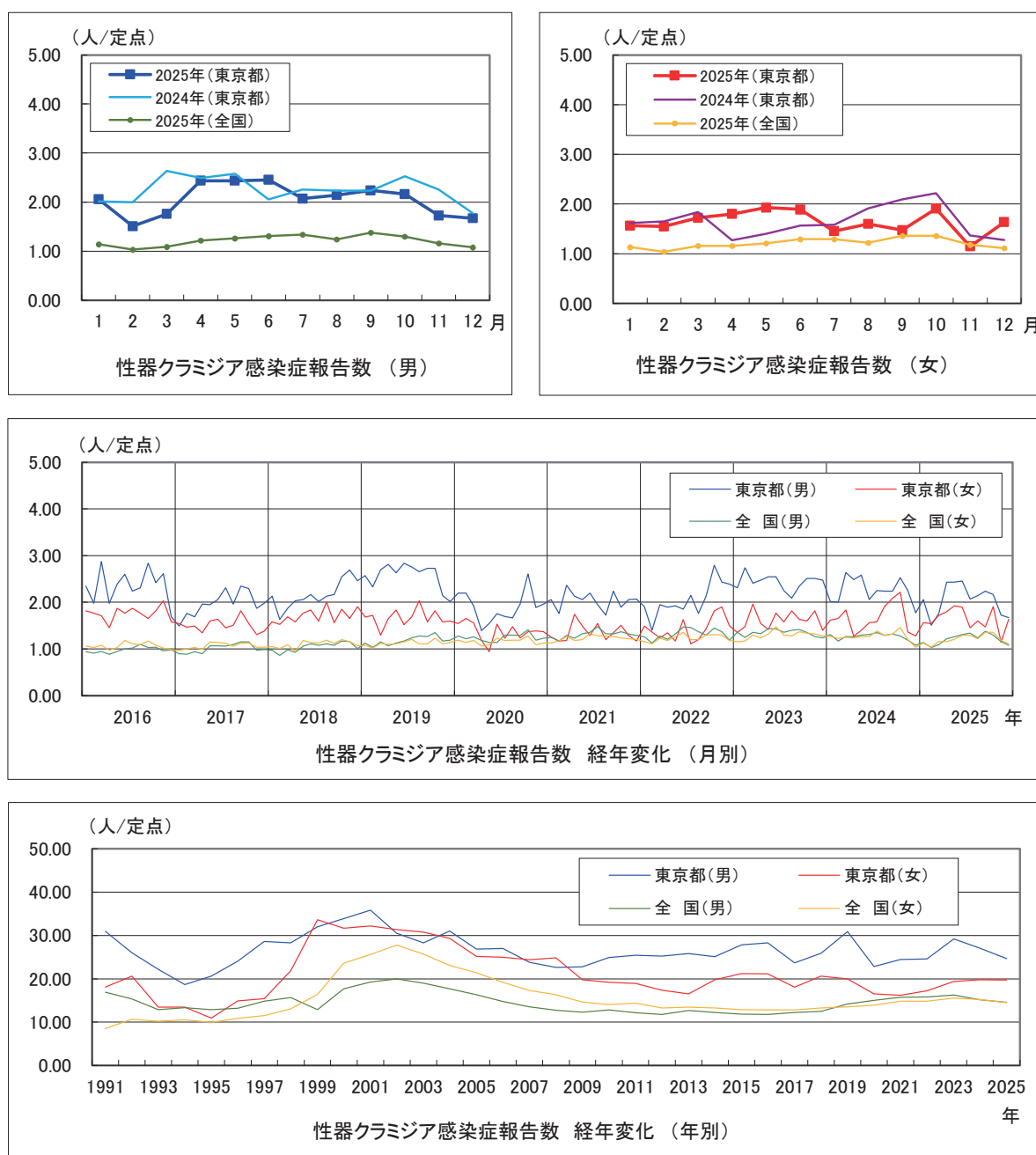
（６） 性感染症

ア 性器クラミジア感染症

年間患者報告数は2,422人、定点当たり44.34人で、前年比（定点当たり）0.95であった。男性の報告数は1,348人、定点当たり24.67人（前年比0.91）、女性の報告数1,074人、定点当たり19.67人（前年比0.99）であった。

月別報告数では、男性は6月が最多で135人（定点当たり2.45人）、2月が最少で80人（定点当たり1.51人）、女性では5月が最多で106人（定点当たり1.93人）、11月が最少で63人（定点当たり1.15人）だった。全国では男女ともに1.00人前後で推移した。

男女比は1.26であった。性別年齢階級別では、男性は25～29歳の343人（25.5%）が最も多く、次いで30～34歳234人（17.4%）、20～24歳212人（15.7%）であった。20歳～30歳代で959人と男性全体の71.1%を占めた。女性は20～24歳の330人（30.7%）が最も多く、次いで25～29歳322人（30.0%）、30～34歳152人（14.2%）であった。20歳～30歳代で884人と女性全体の82.3%を占めた。

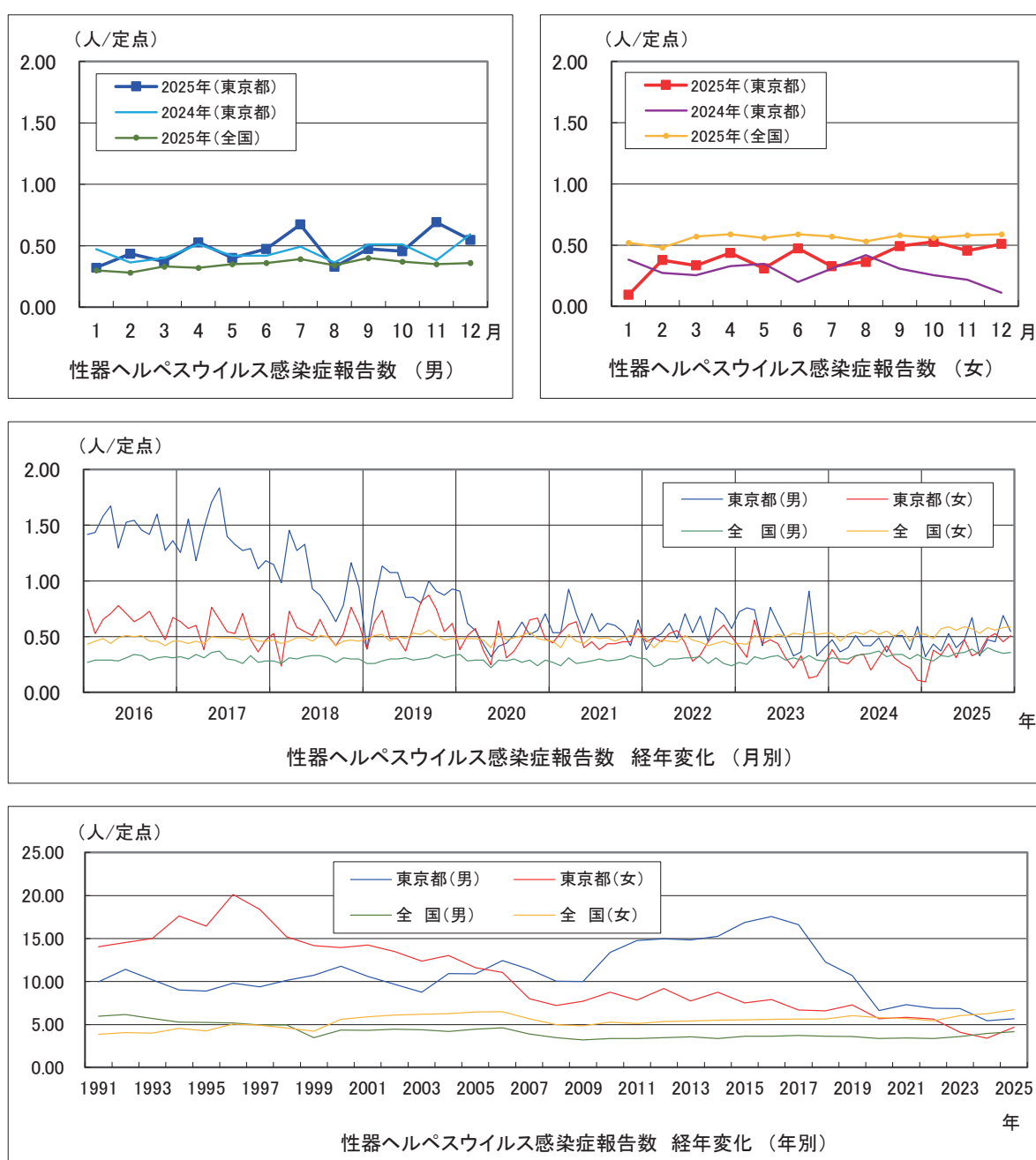


イ 性器ヘルペスウイルス感染症

年間患者報告数は 568 人、定点当たり 10.38 人で、前年比（定点当たり）1.18 倍であった。男性の報告数は 311 人、定点当たり 5.69（前年比 1.05）、女性の報告数 257 人、定点当たり 4.70 人（前年比 1.38）であった。

月別報告数では、男性は 11 月が最多で 38 人（定点当たり 0.69 人）、1 月が最少で 17 人（定点当たり 0.32 人）、女性では 10 月が最多で 29 人（定点当たり 0.53 人）、1 月が最少で 5 人（定点当たり 0.09 人）であった。全国では男性は 0.30 人前後、女性は 0.50 人前後で推移していた。

男女比は 1.21 であった。性別年齢階級別では、男性は 30～34 歳の 50 人（16.1%）が最も多く、次いで 25～29 歳 47 人（15.1%）、35～39 歳 39 人（12.5%）であった。20 歳～30 歳代が 169 人と男性全体の 54.3%を占めた。女性は 25～29 歳の 47 人（18.3%）が最も多く、次いで 30～34 歳 41 人（16.0%）、20～24 歳 38 人（14.8%）であった。20 歳～30 歳代が 163 人と女性全体の 63.4%を占めた。

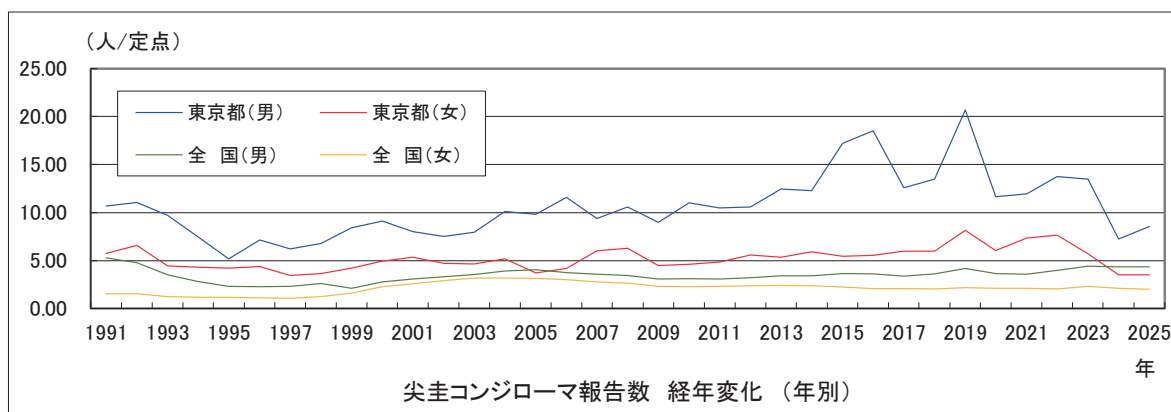
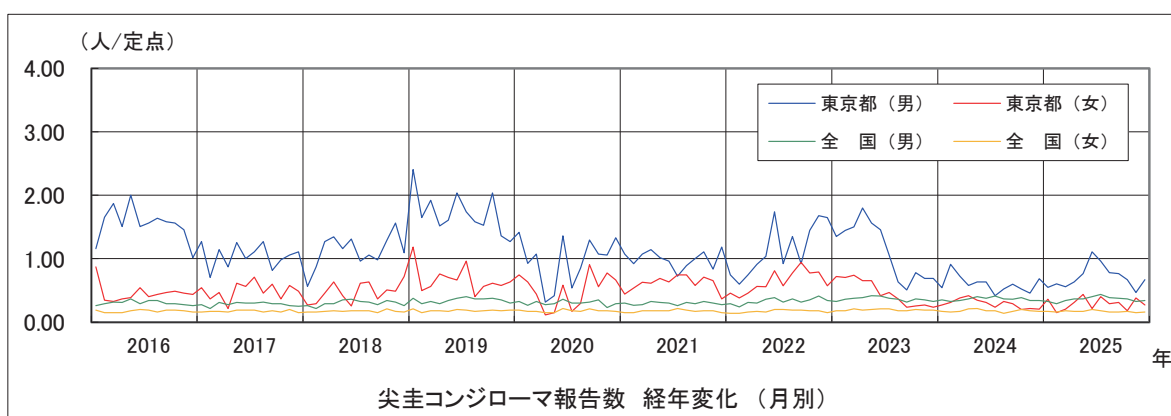
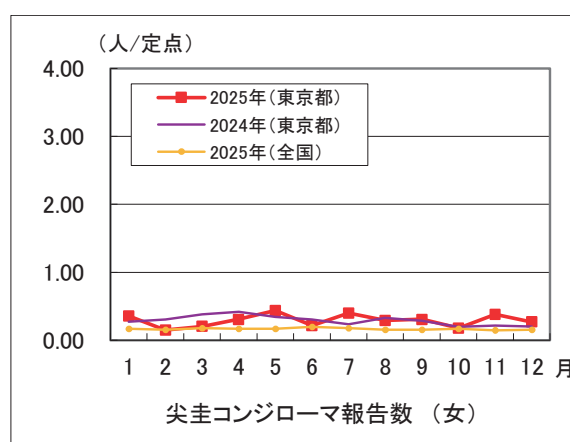
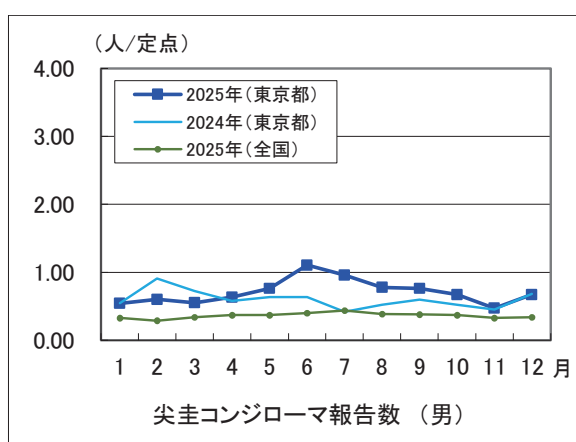


ウ 尖圭コンジローマ

年間患者報告数は 659 人、定点当たり 12.06 人で、前年比（定点当たり）1.12 倍であった。男性の報告数は 467 人、定点当たり 8.54 人（前年比 1.18）、女性の報告数 192 人、定点当たり 3.51 人（前年比 1.00）であった。

月別報告数では、男性は 6 月が最多で 61 人（定点当たり 1.11 人）、11 月が最少で 26 人（定点当たり 0.47 人）、女性では 5 月が最多で 24 人（定点当たり 0.44 人）、2 月が最少で 8 人（定点当たり 0.15 人）であった。全国では男性は 0.30 人前後、女性は 0.15 人前後で推移していた。

男女比は 2.43 であった。性別年齢階級別では、男性は 30～34 歳の 85 人（18.2%）が最も多く、次いで 25～29 歳 72 人（15.4%）、35～39 歳、45～49 歳の 56 人（12.0%）であった。20 歳～30 歳代が 248 人と男性全体の 53.1%を占めた。女性は 20～24 歳の 69 人（35.9%）が最も多く、次いで 25～29 歳 53 人（27.6%）、30～34 歳 24 人（12.5%）であった。20 歳～30 歳代で 155 人と女性全体の 80.7%を占めた。

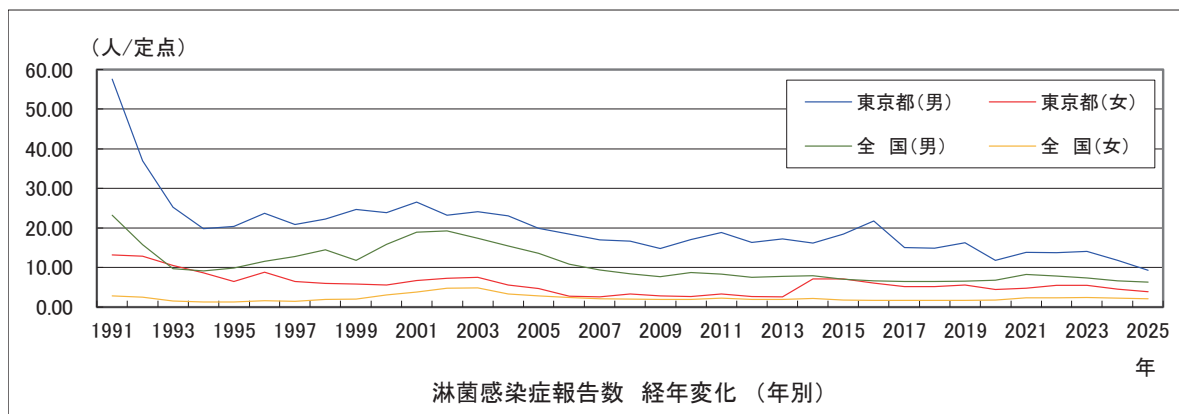
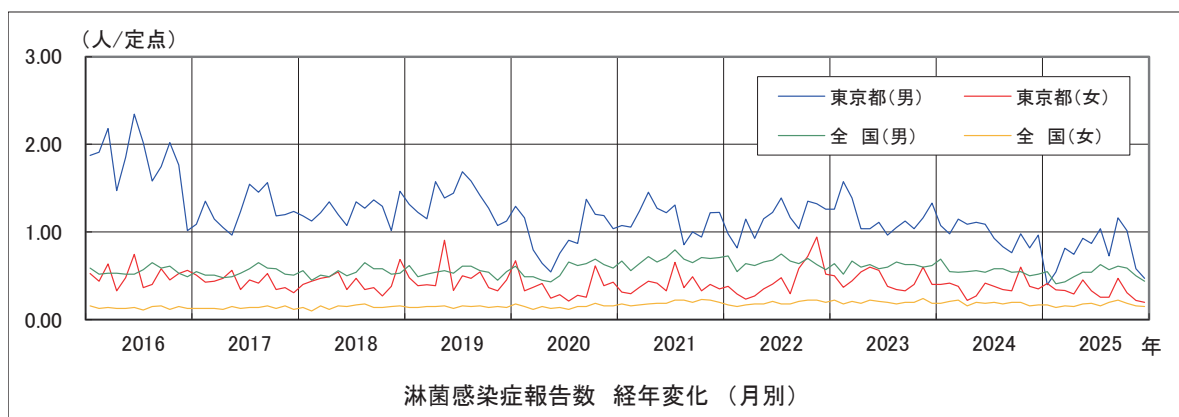
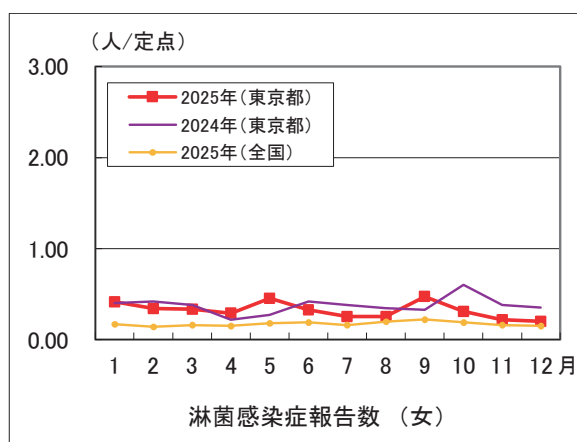
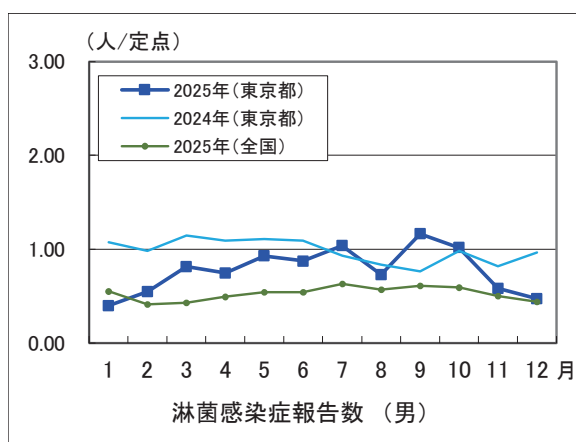


エ 淋菌感染症

年間患者報告数は720人、定点当たり13.17人で、前年比（定点当たり）0.81倍と減少した。男性の報告数は509人、定点当たり9.30（前年比0.79）、女性の報告数211人、定点当たり3.87人（前年比0.86）であった。

月別報告数では、男性は9月が最多で64人（定点当たり1.16人）、1月が最少で21人（定点当たり0.40人）、女性では9月が最多で26人（定点当たり0.47人）、12月が最少で11人（0.20人）であった。全国では男性では0.50人前後、女性では0.20人前後で推移した。

男女比は2.41であった。性別年齢階級別では、男性は25～29歳の114人（22.4%）が最も多く、次いで30～34歳91人（17.9%）、20～24歳75人（14.7%）であった。20歳～30歳代が345人と男性全体の67.8%を占めた。女性は25～29歳の52人（24.6%）が最も多く、次いで20～24歳の49人（23.2%）、30～34歳20人（9.5%）であった。20歳～30歳代で137人女性全体の64.9%を占めた。



オ 膣トリコモナス症（東京都独自疾患）

膣トリコモナス症は、東京都が独自に定点把握疾患に定めている。年間患者報告数は102人、定点当たり1.86人で、前年比（定点当たり）1.15倍であった。男性の報告数は13人、定点当たり0.24人（前年比4.80）、女性の報告数は89人、定点当たり1.62人（前年比1.04）であった。

月別報告数では、男性は8月が最多で3人（定点当たり0.05人）、1、2、10、11月は報告がなかった。女性では5月が最多で13人（定点当たり0.24人）、1月が最少で2人（定点当たり0.04人）であった。

男女比は0.15であった。性別年齢階級別では、男性は30～34歳の5人（38.5%）が最も多く、次いで40～44歳2人（15.4%）であった。20歳～30歳代が7人と男性全体の53.9%を占めた。女性は25～29歳が23人（25.8%）と最も多く、次いで20～24歳15人（16.9%）、35～39歳11人（12.4%）であった。20歳～30歳代で58人と女性全体の65.2%を占めた。

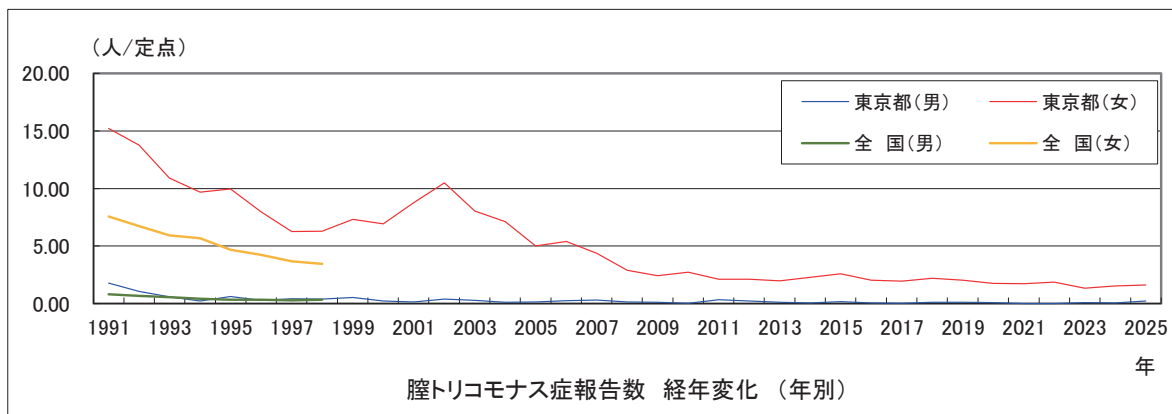
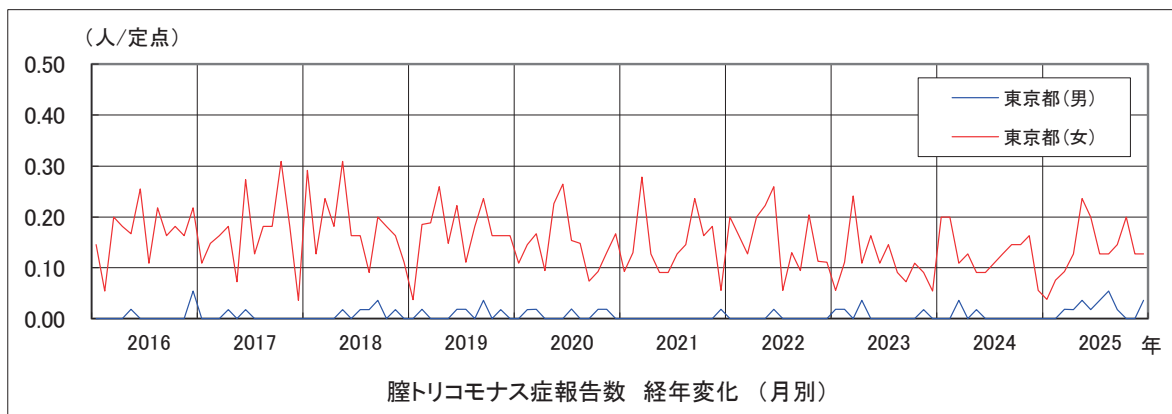
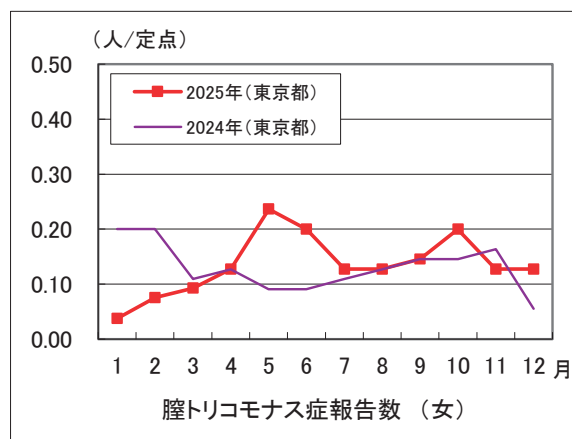
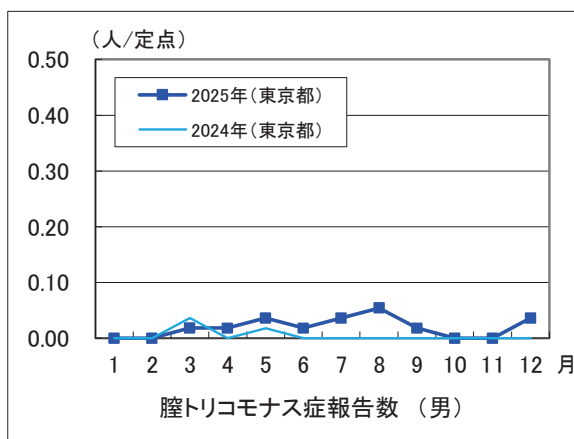


表4-1(1) 週別患者報告数(急性呼吸器感染症・小児科) 2025年第1週～第52週

週	期 間	報告 定 点 数 (インフルエ ンザ/COVID-19)	イン フル エン ザ	新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス	報告 定 点 数 (急性呼吸器 感染症)	急性呼吸器 感染症	報告 定 点 数 (小児科)	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 球 菌 咽 頭 炎 溶 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パ ン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
1	12.30～1.5	320	4,474	428			203	17	12	89	174	32	11	77	9		2
2	1.6～1.12	418	9,166	1,561			263	86	34	409	1,515	157	35	640	58	3	10
3	1.13～1.19	418	4,297	1,210			263	93	27	464	1,572	57	19	610	53	3	7
4	1.20～1.26	418	2,759	1,464			263	161	47	610	2,097	92	21	599	60	2	11
5	1.27～2.2	418	1,586	1,548			263	174	54	671	2,276	61	14	470	50	2	7
6	2.3～2.9	419	1,129	1,487			264	182	37	699	2,643	95	11	379	51	1	11
7	2.10～2.16	419	685	1,371			264	202	44	522	2,694	65	12	272	38		15
8	2.17～2.23	419	658	1,314			264	181	35	646	3,530	93	9	254	45	1	8
9	2.24～3.2	419	589	1,158			264	157	28	489	3,441	87	12	221	45	2	8
10	3.3～3.9	419	772	1,173			264	149	38	663	3,357	104	4	200	55	3	19
11	3.10～3.16	418	865	1,133			263	141	31	623	3,312	145	12	230	59	4	8
12	3.17～3.23	418	810	966			263	112	25	580	2,823	130	10	167	30	3	5
13	3.24～3.30	418	798	805			263	125	25	589	2,070	152	14	214	56	2	19
14	3.31～4.6	419	495	539			264	80	35	640	1,659	121	12	108	58	2	12
15	4.7～4.13	418	519	502	418	18,372	264	136	44	672	2,057	114	19	194	88	5	25
16	4.14～4.20	418	394	430	417	21,271	264	105	63	914	2,007	134	15	228	65		9
17	4.21～4.27	417	372	341	416	24,415	264	102	80	1,064	2,280	229	20	221	110	2	30
18	4.28～5.4	416	234	255	415	20,725	262	58	68	769	1,709	177	25	184	85	5	27
19	5.5～5.11	419	185	200	418	17,598	264	27	70	744	1,515	199	29	180	76	7	16
20	5.12～5.18	419	174	284	419	22,974	264	22	77	1,165	1,983	236	47	234	88	10	29
21	5.19～5.25	419	132	272	419	22,206	264	28	100	995	2,027	198	40	297	95	17	23
22	5.26～6.1	419	102	351	419	23,457	264	42	142	1,081	1,729	281	31	197	98	19	26
23	6.2～6.8	418	84	392	418	24,475	263	33	137	1,164	1,783	183	44	219	86	34	19
24	6.9～6.15	418	96	342	418	23,610	263	30	143	1,058	1,680	287	51	191	107	22	29
25	6.16～6.22	418	60	351	418	22,333	263	37	119	850	1,678	176	81	197	95	67	30
26	6.23～6.29	418	84	529	418	21,803	263	28	135	877	1,574	250	115	148	91	131	30
27	6.30～7.6	418	104	690	418	22,706	263	55	136	741	1,583	175	131	163	95	208	19
28	7.7～7.13	419	92	900	419	22,826	264	56	122	726	1,621	216	149	155	114	241	22
29	7.14～7.20	417	96	1,135	417	22,758	264	91	118	652	1,653	155	156	120	77	315	21
30	7.21～7.27	419	186	1,442	419	20,736	264	137	90	453	1,287	160	161	92	104	374	19
31	7.28～8.3	419	176	1,866	419	22,203	264	163	79	528	1,428	140	180	123	85	492	16
32	8.4～8.10	413	107	1,950	413	21,292	258	257	83	483	1,183	92	152	108	84	547	9
33	8.11～8.17	354	84	1,274	354	12,500	223	151	51	235	763	48	87	40	61	182	9
34	8.18～8.24	396	110	1,880	396	16,593	251	178	51	365	1,089	76	119	84	99	378	13
35	8.25～8.31	417	99	1,930	417	18,771	263	317	70	404	1,126	67	150	83	67	397	18
36	9.1～9.7	418	161	1,664	418	19,468	263	359	71	441	1,280	60	156	76	86	370	13
37	9.8～9.14	418	278	1,852	418	22,834	263	375	61	494	1,381	37	154	73	90	345	9
38	9.15～9.21	416	416	1,688	416	20,864	261	332	56	350	1,159	62	127	62	83	262	14
39	9.22～9.28	418	818	1,513	418	22,023	263	264	71	398	1,031	56	106	67	67	228	24
40	9.29～10.5	418	1,385	1,358	418	24,148	263	266	54	532	1,180	55	76	56	86	214	12
41	10.6～10.12	417	1,990	990	417	24,859	262	254	42	538	1,151	63	66	51	90	158	16
42	10.13～10.19	418	2,335	615	418	21,867	263	174	31	375	1,039	53	76	35	73	71	14
43	10.20～10.26	418	4,333	573	417	27,696	263	174	63	528	1,146	51	83	44	63	104	8
44	10.27～11.2	419	9,926	556	419	36,005	264	133	41	564	1,274	61	68	56	72	75	12
45	11.3～11.9	418	12,133	434	418	34,655	264	106	47	447	1,126	71	34	41	57	31	9
46	11.10～11.16	418	18,707	416	418	42,022	264	65	32	642	1,427	83	38	41	58	27	9
47	11.17～11.23	418	21,608	336	418	43,412	264	70	45	588	1,477	69	15	23	52	20	12
48	11.24～11.30	418	14,947	242	418	33,823	264	54	49	556	1,301	92	7	20	56	7	12
49	12.1～12.7	417	10,495	214	417	30,073	263	57	62	663	1,589	93	9	20	54	5	12
50	12.8～12.14	418	7,440	255	418	26,463	264	51	51	682	1,928	109	5	26	47	8	6
51	12.15～12.21	418	6,739	248	418	26,183	264	58	49	660	2,234	112	10	16	46	6	14
52	12.22～12.28	418	5,622	305	418	27,713	264	64	66	691	2,322	117	7	24	53	4	12
合 計			151,906	46,732		927,732		6,769	3,341	32,783	90,963	6,228	3,035	8,630	3,670	5,416	789

表4-1(2) 週別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2025 年第 1 週～第 52 週

週	期 間	報告定点数 (小児科)	不明 発しん 症	川 崎 病	報告定点数 (眼科)	急性 出血性 結膜炎	流行性 角結膜炎	報告定点数 (基幹)	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	(ロタウイルスによる) 感染性胃腸炎	報告定点数 (基幹)	インフル エンザ入院	感染症入院 新型コロナウ イルス
1	12.30～ 1. 5	203	1	6	30		12	25		1	17		1	25	281	107
2	1. 6～ 1.12	263	11	7	39	2	37	25		3	26			25	200	124
3	1.13～ 1.19	263	5	2	39		20	25		1	16			25	86	125
4	1.20～ 1.26	263	5	8	39		21	25	1	1	14			25	39	111
5	1.27～ 2. 2	263	6	8	39	1	19	25	1		11		1	25	26	81
6	2. 3～ 2. 9	264	16		39		20	25			8		2	25	9	62
7	2.10～ 2.16	264	7	4	39		15	25	1		11	1	1	25	14	85
8	2.17～ 2.23	264	15	6	39		20	25			8	1	9	25	11	102
9	2.24～ 3. 2	264	10	6	39		17	25	2		4		12	25	11	137
10	3. 3～ 3. 9	264	13	4	39	1	27	25			5		8	25	8	85
11	3.10～ 3.16	263	9	2	39		20	25			3	1	7	25	8	79
12	3.17～ 3.23	263	11	8	39		23	25			2	1	9	25	12	68
13	3.24～ 3.30	263	12	4	39	1	18	25	2		4		12	25	3	70
14	3.31～ 4. 6	264	19	2	39		14	25	2		1	1	6	25	7	52
15	4. 7～ 4.13	264	8	6	39	1	16	25			3	2	3	25	2	50
16	4.14～ 4.20	264	20	8	39		21	25			3	1	6	25	1	42
17	4.21～ 4.27	264	20	6	39		25	25		1	1	1	4	25	6	44
18	4.28～ 5. 4	262	7	8	39	1	15	25	1	1	4		2	25	3	27
19	5. 5～ 5.11	264	9	8	39	2	14	25			2		4	25	2	26
20	5.12～ 5.18	264	30	1	39	1	15	25	2	2	4	1	1	25	2	20
21	5.19～ 5.25	264	23	7	39	1	14	25	1	1	5	2	4	25	4	16
22	5.26～ 6. 1	264	20	6	39		19	25	2		7	1	2	25	5	27
23	6. 2～ 6. 8	263	23	6	39	1	19	25		1	5	1	2	25	1	34
24	6. 9～ 6.15	263	19	8	39		22	25		1	12	1		25	3	37
25	6.16～ 6.22	263	24	10	39		19	25	1	1	9	1	1	25	4	33
26	6.23～ 6.29	263	33	3	39		18	25		3	10	1	1	25	2	26
27	6.30～ 7. 6	263	24	2	38		28	25		1	11	1		25	2	40
28	7. 7～ 7.13	264	29	6	39		26	25		2	11	2		25	2	50
29	7.14～ 7.20	264	41	3	39	3	16	25	1	4	14	3		25		56
30	7.21～ 7.27	264	35	4	39	3	20	25	2	1	9	1		25	2	96
31	7.28～ 8. 3	264	44	5	39		21	25		3	15	1		25	1	94
32	8. 4～ 8.10	258	50	4	37	1	26	25		3	12			25	4	118
33	8.11～ 8.17	223	37	2	29		11	25			20		1	25	2	107
34	8.18～ 8.24	251	54	5	38		47	25	2	2	9	1		25	3	92
35	8.25～ 8.31	263	35	4	39		34	25			9		1	25	4	90
36	9. 1～ 9. 7	263	33	5	39		43	25			16	2		25	2	72
37	9. 8～ 9.14	263	52	6	39		44	25		1	13	2		25	5	64
38	9.15～ 9.21	261	33	5	39		34	25		1	11		1	25	7	82
39	9.22～ 9.28	263	21	3	39	2	40	25			19			25	3	67
40	9.29～10. 5	263	29	6	39		31	25		1	14			25	15	69
41	10. 6～10.12	262	38	7	39		32	25		4	24	2	1	25	19	47
42	10.13～10.19	263	20	7	39		28	25	1		13			25	15	44
43	10.20～10.26	263	14	7	39		25	25		3	21			25	38	44
44	10.27～11. 2	264	13	6	39		21	25	1		13		1	25	55	42
45	11. 3～11. 9	264	21	3	39		23	25			11		1	25	89	30
46	11.10～11.16	264	10	6	39	1	18	25		2	16	2	2	25	133	32
47	11.17～11.23	264	6	3	39		25	25			14		1	25	125	57
48	11.24～11.30	264	2	6	39		17	25		1	19			25	115	44
49	12. 1～12. 7	263	13	6	39		15	25			22			25	113	34
50	12. 8～12.14	264	13	4	39		15	25			16	2	1	25	67	25
51	12.15～12.21	264	13	3	39		25	25	1	2	8	2	2	25	67	32
52	12.22～12.28	264	12	5	39		10	25		3	10	1	1	25	52	38
合 計			1,068	267		22	1,175		24	51	565	39	111		1,690	3,236

表4－2(1) 週別定点当たり患者報告数(急性呼吸器感染症・小児科)2025年第1週～第52週

週	期 間	報告定点数 (インフルエ ンザ/COVID-19)	イン フル エン ザ	新 感 型 染 コ ロ ナ ウ イ ル ス	報告 定点 数 (急性呼吸器 感染症)	急性 呼吸 器 感 染 症	報告 定点 数 (小児科)	R S ウ ィ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 球 菌 溶 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パ ン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
1	12.30～1.5	320	13.98	1.34			203	0.08	0.06	0.44	0.86	0.16	0.05	0.38	0.04		0.01
2	1.6～1.12	418	21.93	3.73			263	0.33	0.13	1.56	5.76	0.60	0.13	2.43	0.22	0.01	0.04
3	1.13～1.19	418	10.28	2.89			263	0.35	0.10	1.76	5.98	0.22	0.07	2.32	0.20	0.01	0.03
4	1.20～1.26	418	6.60	3.50			263	0.61	0.18	2.32	7.97	0.35	0.08	2.28	0.23	0.01	0.04
5	1.27～2.2	418	3.79	3.70			263	0.66	0.21	2.55	8.65	0.23	0.05	1.79	0.19	0.01	0.03
6	2.3～2.9	419	2.69	3.55			264	0.69	0.14	2.65	10.01	0.36	0.04	1.44	0.19	0.00	0.04
7	2.10～2.16	419	1.63	3.27			264	0.77	0.17	1.98	10.20	0.25	0.05	1.03	0.14		0.06
8	2.17～2.23	419	1.57	3.14			264	0.69	0.13	2.45	13.37	0.35	0.03	0.96	0.17	0.00	0.03
9	2.24～3.2	419	1.41	2.76			264	0.59	0.11	1.85	13.03	0.33	0.05	0.84	0.17	0.01	0.03
10	3.3～3.9	419	1.84	2.80			264	0.56	0.14	2.51	12.72	0.39	0.02	0.76	0.21	0.01	0.07
11	3.10～3.16	418	2.07	2.71			263	0.54	0.12	2.37	12.59	0.55	0.05	0.87	0.22	0.02	0.03
12	3.17～3.23	418	1.94	2.31			263	0.43	0.10	2.21	10.73	0.49	0.04	0.63	0.11	0.01	0.02
13	3.24～3.30	418	1.91	1.93			263	0.48	0.10	2.24	7.87	0.58	0.05	0.81	0.21	0.01	0.07
14	3.31～4.6	419	1.18	1.29			264	0.30	0.13	2.42	6.28	0.46	0.05	0.41	0.22	0.01	0.05
15	4.7～4.13	418	1.24	1.20	418	43.95	264	0.52	0.17	2.55	7.79	0.43	0.07	0.73	0.33	0.02	0.09
16	4.14～4.20	418	0.94	1.03	417	51.01	264	0.40	0.24	3.46	7.60	0.51	0.06	0.86	0.25		0.03
17	4.21～4.27	417	0.89	0.82	416	58.69	264	0.39	0.30	4.03	8.64	0.87	0.08	0.84	0.42	0.01	0.11
18	4.28～5.4	416	0.56	0.61	415	49.94	262	0.22	0.26	2.94	6.52	0.68	0.10	0.70	0.32	0.02	0.10
19	5.5～5.11	419	0.44	0.48	418	42.10	264	0.10	0.27	2.82	5.74	0.75	0.11	0.68	0.29	0.03	0.06
20	5.12～5.18	419	0.42	0.68	419	54.83	264	0.08	0.29	4.41	7.51	0.89	0.18	0.89	0.33	0.04	0.11
21	5.19～5.25	419	0.32	0.65	419	53.00	264	0.11	0.38	3.77	7.68	0.75	0.15	1.13	0.36	0.06	0.09
22	5.26～6.1	419	0.24	0.84	419	55.98	264	0.16	0.54	4.09	6.55	1.06	0.12	0.75	0.37	0.07	0.10
23	6.2～6.8	418	0.20	0.94	418	58.55	263	0.13	0.52	4.43	6.78	0.70	0.17	0.83	0.33	0.13	0.07
24	6.9～6.15	418	0.23	0.82	418	56.48	263	0.11	0.54	4.02	6.39	1.09	0.19	0.73	0.41	0.08	0.11
25	6.16～6.22	418	0.14	0.84	418	53.43	263	0.14	0.45	3.23	6.38	0.67	0.31	0.75	0.36	0.25	0.11
26	6.23～6.29	418	0.20	1.27	418	52.16	263	0.11	0.51	3.33	5.98	0.95	0.44	0.56	0.35	0.50	0.11
27	6.30～7.6	418	0.25	1.65	418	54.32	263	0.21	0.52	2.82	6.02	0.67	0.50	0.62	0.36	0.79	0.07
28	7.7～7.13	419	0.22	2.15	419	54.48	264	0.21	0.46	2.75	6.14	0.82	0.56	0.59	0.43	0.91	0.08
29	7.14～7.20	417	0.23	2.72	417	54.58	264	0.34	0.45	2.47	6.26	0.59	0.59	0.45	0.29	1.19	0.08
30	7.21～7.27	419	0.44	3.44	419	49.49	264	0.52	0.34	1.72	4.88	0.61	0.61	0.35	0.39	1.42	0.07
31	7.28～8.3	419	0.42	4.45	419	52.99	264	0.62	0.30	2.00	5.41	0.53	0.68	0.47	0.32	1.86	0.06
32	8.4～8.10	413	0.26	4.72	413	51.55	258	1.00	0.32	1.87	4.59	0.36	0.59	0.42	0.33	2.12	0.03
33	8.11～8.17	354	0.24	3.60	354	35.31	223	0.68	0.23	1.05	3.42	0.22	0.39	0.18	0.27	0.82	0.04
34	8.18～8.24	396	0.28	4.75	396	41.90	251	0.71	0.20	1.45	4.34	0.30	0.47	0.33	0.39	1.51	0.05
35	8.25～8.31	417	0.24	4.63	417	45.01	263	1.21	0.27	1.54	4.28	0.25	0.57	0.32	0.25	1.51	0.07
36	9.1～9.7	418	0.39	3.98	418	46.57	263	1.37	0.27	1.68	4.87	0.23	0.59	0.29	0.33	1.41	0.05
37	9.8～9.14	418	0.67	4.43	418	54.63	263	1.43	0.23	1.88	5.25	0.14	0.59	0.28	0.34	1.31	0.03
38	9.15～9.21	416	1.00	4.06	416	50.15	261	1.27	0.21	1.34	4.44	0.24	0.49	0.24	0.32	1.00	0.05
39	9.22～9.28	418	1.96	3.62	418	52.69	263	1.00	0.27	1.51	3.92	0.21	0.40	0.25	0.25	0.87	0.09
40	9.29～10.5	418	3.31	3.25	418	57.77	263	1.01	0.21	2.02	4.49	0.21	0.29	0.21	0.33	0.81	0.05
41	10.6～10.12	417	4.77	2.37	417	59.61	262	0.97	0.16	2.05	4.39	0.24	0.25	0.19	0.34	0.60	0.06
42	10.13～10.19	418	5.59	1.47	418	52.31	263	0.66	0.12	1.43	3.95	0.20	0.29	0.13	0.28	0.27	0.05
43	10.20～10.26	418	10.37	1.37	417	66.42	263	0.66	0.24	2.01	4.36	0.19	0.32	0.17	0.24	0.40	0.03
44	10.27～11.2	419	23.69	1.33	419	85.93	264	0.50	0.16	2.14	4.83	0.23	0.26	0.21	0.27	0.28	0.05
45	11.3～11.9	418	29.03	1.04	418	82.91	264	0.40	0.18	1.69	4.27	0.27	0.13	0.16	0.22	0.12	0.03
46	11.10～11.16	418	44.75	1.00	418	100.53	264	0.25	0.12	2.43	5.41	0.31	0.14	0.16	0.22	0.10	0.03
47	11.17～11.23	418	51.69	0.80	418	103.86	264	0.27	0.17	2.23	5.59	0.26	0.06	0.09	0.20	0.08	0.05
48	11.24～11.30	418	35.76	0.58	418	80.92	264	0.20	0.19	2.11	4.93	0.35	0.03	0.08	0.21	0.03	0.05
49	12.1～12.7	417	25.17	0.51	417	72.12	263	0.22	0.24	2.52	6.04	0.35	0.03	0.08	0.21	0.02	0.05
50	12.8～12.14	418	17.80	0.61	418	63.31	264	0.19	0.19	2.58	7.30	0.41	0.02	0.10	0.18	0.03	0.02
51	12.15～12.21	418	16.12	0.59	418	62.64	264	0.22	0.19	2.50	8.46	0.42	0.04	0.06	0.17	0.02	0.05
52	12.22～12.28	418	13.45	0.73	418	66.30	264	0.24	0.25	2.62	8.80	0.44	0.03	0.09	0.20	0.02	0.05
平 均			7.05	2.17		58.64		0.50	0.25	2.40	6.66	0.46	0.22	0.63	0.27	0.40	0.06

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表4-2(2) 週別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2025年第1週～第52週

週	期 間	報告定点数(小児科)	不明発しん症	川崎病	報告定点数(眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	報告定点数(基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	報告定点数(基幹)	インフルエンザ入院	新型コロナウイルス感染症入院
1	12.30～1.5	203	0.00	0.03	30		0.40	25		0.04	0.68		0.04	25	11.24	4.28
2	1.6～1.12	263	0.04	0.03	39	0.05	0.95	25		0.12	1.04			25	8.00	4.96
3	1.13～1.19	263	0.02	0.01	39		0.51	25		0.04	0.64			25	3.44	5.00
4	1.20～1.26	263	0.02	0.03	39		0.54	25	0.04	0.04	0.56			25	1.56	4.44
5	1.27～2.2	263	0.02	0.03	39	0.03	0.49	25	0.04		0.44		0.04	25	1.04	3.24
6	2.3～2.9	264	0.06		39		0.51	25			0.32		0.08	25	0.36	2.48
7	2.10～2.16	264	0.03	0.02	39		0.38	25	0.04		0.44	0.04	0.04	25	0.56	3.40
8	2.17～2.23	264	0.06	0.02	39		0.51	25			0.32	0.04	0.36	25	0.44	4.08
9	2.24～3.2	264	0.04	0.02	39		0.44	25	0.08		0.16		0.48	25	0.44	5.48
10	3.3～3.9	264	0.05	0.02	39	0.03	0.69	25			0.20		0.32	25	0.32	3.40
11	3.10～3.16	263	0.03	0.01	39		0.51	25			0.12	0.04	0.28	25	0.32	3.16
12	3.17～3.23	263	0.04	0.03	39		0.59	25			0.08	0.04	0.36	25	0.48	2.72
13	3.24～3.30	263	0.05	0.02	39	0.03	0.46	25	0.08		0.16		0.48	25	0.12	2.80
14	3.31～4.6	264	0.07	0.01	39		0.36	25	0.08		0.04	0.04	0.24	25	0.28	2.08
15	4.7～4.13	264	0.03	0.02	39	0.03	0.41	25			0.12	0.08	0.12	25	0.08	2.00
16	4.14～4.20	264	0.08	0.03	39		0.54	25			0.12	0.04	0.24	25	0.04	1.68
17	4.21～4.27	264	0.08	0.02	39		0.64	25		0.04	0.04	0.04	0.16	25	0.24	1.76
18	4.28～5.4	262	0.03	0.03	39	0.03	0.38	25	0.04	0.04	0.16		0.08	25	0.12	1.08
19	5.5～5.11	264	0.03	0.03	39	0.05	0.36	25			0.08		0.16	25	0.08	1.04
20	5.12～5.18	264	0.11	0.00	39	0.03	0.38	25	0.08	0.08	0.16	0.04	0.04	25	0.08	0.80
21	5.19～5.25	264	0.09	0.03	39	0.03	0.36	25	0.04	0.04	0.20	0.08	0.16	25	0.16	0.64
22	5.26～6.1	264	0.08	0.02	39		0.49	25	0.08		0.28	0.04	0.08	25	0.20	1.08
23	6.2～6.8	263	0.09	0.02	39	0.03	0.49	25		0.04	0.20	0.04	0.08	25	0.04	1.36
24	6.9～6.15	263	0.07	0.03	39		0.56	25		0.04	0.48	0.04		25	0.12	1.48
25	6.16～6.22	263	0.09	0.04	39		0.49	25	0.04	0.04	0.36	0.04	0.04	25	0.16	1.32
26	6.23～6.29	263	0.13	0.01	39		0.46	25		0.12	0.40	0.04	0.04	25	0.08	1.04
27	6.30～7.6	263	0.09	0.01	38		0.74	25		0.04	0.44	0.04		25	0.08	1.60
28	7.7～7.13	264	0.11	0.02	39		0.67	25		0.08	0.44	0.08		25	0.08	2.00
29	7.14～7.20	264	0.16	0.01	39	0.08	0.41	25	0.04	0.16	0.56	0.12		25		2.24
30	7.21～7.27	264	0.13	0.02	39	0.08	0.51	25	0.08	0.04	0.36	0.04		25	0.08	3.84
31	7.28～8.3	264	0.17	0.02	39		0.54	25		0.12	0.60	0.04		25	0.04	3.76
32	8.4～8.10	258	0.19	0.02	37	0.03	0.70	25		0.12	0.48			25	0.16	4.72
33	8.11～8.17	223	0.17	0.01	29		0.38	25			0.80		0.04	25	0.08	4.28
34	8.18～8.24	251	0.22	0.02	38		1.24	25	0.08	0.08	0.36	0.04		25	0.12	3.68
35	8.25～8.31	263	0.13	0.02	39		0.87	25			0.36		0.04	25	0.16	3.60
36	9.1～9.7	263	0.13	0.02	39		1.10	25			0.64	0.08		25	0.08	2.88
37	9.8～9.14	263	0.20	0.02	39		1.13	25		0.04	0.52	0.08		25	0.20	2.56
38	9.15～9.21	261	0.13	0.02	39		0.87	25		0.04	0.44		0.04	25	0.28	3.28
39	9.22～9.28	263	0.08	0.01	39	0.05	1.03	25			0.76			25	0.12	2.68
40	9.29～10.5	263	0.11	0.02	39		0.79	25		0.04	0.56			25	0.60	2.76
41	10.6～10.12	262	0.15	0.03	39		0.82	25		0.16	0.96	0.08	0.04	25	0.76	1.88
42	10.13～10.19	263	0.08	0.03	39		0.72	25	0.04		0.52			25	0.60	1.76
43	10.20～10.26	263	0.05	0.03	39		0.64	25		0.12	0.84			25	1.52	1.76
44	10.27～11.2	264	0.05	0.02	39		0.54	25	0.04		0.52		0.04	25	2.20	1.68
45	11.3～11.9	264	0.08	0.01	39		0.59	25			0.44		0.04	25	3.56	1.20
46	11.10～11.16	264	0.04	0.02	39	0.03	0.46	25		0.08	0.64	0.08	0.08	25	5.32	1.28
47	11.17～11.23	264	0.02	0.01	39		0.64	25			0.56		0.04	25	5.00	2.28
48	11.24～11.30	264	0.01	0.02	39		0.44	25		0.04	0.76			25	4.60	1.76
49	12.1～12.7	263	0.05	0.02	39		0.38	25			0.88			25	4.52	1.36
50	12.8～12.14	264	0.05	0.02	39		0.38	25			0.64	0.08	0.04	25	2.68	1.00
51	12.15～12.21	264	0.05	0.01	39		0.64	25	0.04	0.08	0.32	0.08	0.08	25	2.68	1.28
52	12.22～12.28	264	0.05	0.02	39		0.26	25		0.12	0.40	0.04	0.04	25	2.08	1.52
平 均			0.08	0.02		0.01	0.58		0.02	0.04	0.43	0.03	0.09		1.30	2.49

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表5-1(1) 保健所別患者報告数(急性呼吸器感染症・小児科)2025年第1週～第52週

	設置定点数 (急性呼吸器感染症)	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症	急性呼吸器感染症	設置定点数 (小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
千代田	4	862	553	5,271	3	100	5	125	418	9	24	27	14	15	6
中央区	5	1,097	349	8,850	3	41	47	114	1,268	29	63	78	46	78	8
みなと	9	2,506	661	16,913	6	185	65	593	1,857	107	127	127	75	216	37
新宿区	12	2,464	1,091	12,901	8	197	42	511	1,602	161	35	59	53	63	7
文京	7	3,156	777	22,764	4	90	88	521	1,645	243	53	78	71	101	20
台東	7	2,242	508	16,590	4	90	33	400	3,281	118	104	226	84	178	27
墨田区	8	2,417	1,138	7,222	5	85	30	275	915	65	28	59	33	48	5
江東区	14	5,779	1,255	35,726	9	331	120	1,114	4,992	194	186	257	147	253	32
品川区	12	2,776	879	16,580	8	137	54	643	1,980	128	76	195	91	113	10
目黒区	8	1,928	630	12,475	5	142	24	467	1,309	107	51	114	62	139	11
大田区	21	6,752	2,113	33,497	13	428	370	1,745	5,719	311	309	414	209	247	27
世田谷	25	8,328	2,416	49,773	16	313	127	1,651	4,511	234	122	321	110	362	54
渋谷区	7	1,925	704	9,090	4	66	10	151	859	94	23	112	24	42	1
中野区	10	4,870	1,164	38,474	6	91	31	1,498	2,415	150	108	200	120	114	25
杉並	17	4,902	1,488	24,316	11	311	138	699	2,641	174	59	157	99	88	13
池袋	8	3,352	1,003	20,888	5	191	53	473	1,347	184	39	58	24	171	6
北区	11	4,167	1,564	22,600	7	202	99	1,101	2,468	129	130	168	140	65	12
荒川区	7	3,882	1,074	20,363	4	451	90	647	2,182	111	69	347	143	125	4
板橋区	16	5,010	1,799	28,806	10	110	67	514	2,779	175	43	215	67	80	12
練馬区	21	6,825	2,344	39,410	13	267	157	2,213	4,379	463	80	417	186	303	35
足立	20	5,787	2,741	47,274	13	620	509	1,156	3,989	137	83	622	292	154	31
葛飾区	13	4,043	1,249	23,912	8	96	15	537	2,479	192	61	240	84	76	10
江戸川	19	6,991	2,484	45,007	12	304	262	1,609	4,152	197	166	434	151	280	34
八王子市	18	11,126	2,589	79,814	11	387	175	2,048	5,237	315	136	879	209	273	50
町田市	13	8,820	1,284	61,277	8	252	44	2,491	5,456	433	199	350	243	539	87
西多摩	14	3,566	1,484	14,298	8	14	30	521	1,327	107	34	244	56	48	4
南多摩	14	5,317	1,847	31,636	9	144	55	718	2,310	179	50	304	98	102	38
多摩立川	21	7,032	2,298	34,538	14	253	61	1,987	2,743	333	167	346	106	218	53
多摩府中	33	13,194	3,957	82,497	21	435	215	3,492	6,889	630	199	632	270	435	82
多摩小平	23	10,209	2,935	63,423	15	418	325	2,754	7,707	518	210	950	360	488	45
島しょ	2	581	354	1,547	1	18		15	107	1	1		3	2	3
合 計	419	151,906	46,732	927,732	264	6,769	3,341	32,783	90,963	6,228	3,035	8,630	3,670	5,416	789
定点当たり報告数		366.74	112.95	2,228.42		25.89	12.75	124.79	346.22	23.73	11.63	32.90	14.01	20.81	3.01
前年定点当たり報告数		345.47	221.34			24.69	16.44	135.59	233.59	10.30	224.86	34.90	13.61	26.91	2.84
当年/前年		1.06	0.51			1.05	0.78	0.92	1.48	2.30	0.05	0.94	1.03	0.77	1.06

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表5－1(2) 保健所別患者報告数(小児科・眼科・基幹)2025年第1週～第52週

	設置定点数(小児科)	不明発しん症	川崎病		設置定点数(眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎		設置定点数(基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	インフルエンザ入院	感染症入院 新型コロナウイルス
千代田	3	20	1						2	1	5	21			31	134
中央区	3	3	3	1			61									
みなと	6	40	5						1			2	13		103	164
新宿区	8	13	20	2			54		2	1	5	38			39	150
文京	4	32	7	1			19		1		7		1		31	131
台東	4	30	1													
墨田区	5	19	1	1			2		1	3		28	2	16	118	130
江東区	9	35	10	1			62									
品川区	8	12	4	1	1		20									
目黒区	5	57	2	1			5									
大田区	13	67	21	2	5		52		1		2	15		3	36	43
世田谷	16	38	4	2			109		2	5	4	31	2	12	176	247
渋谷区	4	3		1	1		68		1		2	1		3	77	153
中野区	6		2	1	2		14									
杉並	11	40	57	1			12		2	1		86	10	18	146	232
池袋	5	1	6	1			84		1			14		16		1
北区	7	4		1			16									
荒川区	4	32	14	1			25									
板橋区	10	38	3	2	5		54		1		3	14	3	4	44	105
練馬区	13	84	8	2			63									
足立	13	7	43	2			40									
葛飾区	8	18	1	1	1		8		1		3	56	4	25	111	219
江戸川	12	65	6	2	3		141									
八王子市	11	33	10	2	1		38		1						66	369
町田市	8	82	11	1			8									
西多摩	8	5	1	1	3		3		1	3	1	62		1	71	113
南多摩	9	16	3	1			30									
多摩立川	14	27	2	2			68		1	1	3	8			42	113
多摩府中	21	162	9	3			67		3	2	5	71		7	309	422
多摩小平	15	85	12	2			52		2	7	11	105	4	6	283	476
島しょ	1								1			13			7	34
合 計	264	1,068	267	39	22	1,175			25	24	51	565	39	111	1,690	3,236
定点当たり報告数		4.10	1.02		0.57	30.40				0.96	2.04	22.60	1.56	4.44	67.60	129.44
前年定点当たり報告数		1.93	0.67		0.36	23.37				1.56	2.44	74.20	0.84	0.60	53.40	247.76
当年/前年		2.12	1.52		1.58	1.30				0.62	0.84	0.30	1.86	7.40	1.27	0.52

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表5－2(1) 保健所別定点当たり患者報告数(急性呼吸器感染症・小児科)2025年1週～第52週

	設置 定点数 (急性呼吸器 感染症)	イン フル エン ザ	新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症	急 性 呼 吸 器 感 染 症	設置 定点数 (小児科)	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
千代田	4	215.50	138.25	1,317.75	3	33.33	1.67	41.67	139.33	3.00	8.00	9.00	4.67	5.00	2.00
中央区	5	219.40	69.80	1,772.10	3	13.67	15.67	38.00	423.33	9.67	21.00	26.00	15.33	26.00	2.67
みなと	9	278.44	73.44	1,879.22	6	30.83	10.83	98.83	309.50	17.83	21.17	21.17	12.50	36.00	6.17
新宿区	12	216.21	93.76	1,085.82	8	25.06	5.25	64.22	202.62	20.25	4.52	7.45	6.73	8.17	0.89
文京	7	462.40	113.39	3,275.62	4	22.50	22.08	130.67	414.83	61.25	13.75	19.58	17.75	26.17	5.17
台東	7	320.29	72.57	2,370.00	4	22.50	8.25	100.00	820.25	29.50	26.00	56.50	21.00	44.50	6.75
墨田区	8	302.13	144.46	906.21	5	17.42	6.10	55.38	183.20	13.10	5.65	11.80	6.70	10.07	1.00
江東区	14	427.23	90.08	2,551.86	9	36.87	13.33	124.13	555.29	22.09	20.67	29.44	16.33	28.11	3.64
品川区	12	232.07	73.71	1,383.70	8	17.14	6.75	80.63	247.74	16.00	9.59	24.39	11.39	14.27	1.25
目黒区	8	244.54	79.58	1,559.38	5	28.70	4.80	93.40	261.80	21.70	10.20	23.40	12.40	27.80	2.20
大田区	21	330.29	101.19	1,595.10	13	33.10	28.46	134.77	440.73	24.19	23.86	32.21	16.17	19.00	2.08
世田谷	25	337.10	98.84	2,019.74	16	20.45	8.29	104.35	285.83	14.87	7.84	20.39	7.12	23.60	3.47
渋谷区	7	277.10	100.57	1,298.57	4	16.50	2.50	37.75	215.25	23.50	5.75	28.00	6.00	10.50	0.25
中野区	10	551.41	124.20	3,914.18	6	15.17	5.17	253.17	407.67	25.17	18.50	34.83	20.17	19.67	4.17
杉並	17	288.35	87.53	1,432.99	11	28.27	12.55	63.55	240.09	15.82	5.36	14.27	9.00	8.00	1.18
池袋	8	426.44	129.55	2,649.53	5	38.80	10.60	95.20	270.15	36.85	8.00	11.60	5.05	34.75	1.20
北区	11	378.82	142.18	2,054.55	7	28.86	14.14	157.29	352.57	18.43	18.57	24.00	20.00	9.29	1.71
荒川区	7	554.62	154.33	2,919.93	4	112.75	22.50	161.75	545.50	27.75	17.25	86.75	35.75	31.25	1.00
板橋区	16	313.24	113.55	1,809.54	10	11.27	6.83	51.53	279.03	17.57	4.30	21.57	6.70	8.07	1.20
練馬区	21	330.44	114.17	1,903.05	13	21.17	12.26	175.04	339.83	36.23	6.66	32.62	14.68	23.77	2.74
足立	20	290.24	139.41	2,382.91	13	48.30	39.25	89.28	307.93	10.60	6.45	48.08	22.67	12.08	2.39
葛飾区	13	311.00	96.08	1,839.38	8	12.00	1.88	67.13	309.88	24.00	7.63	30.00	10.50	9.50	1.25
江戸川	19	374.02	134.01	2,396.82	12	25.69	22.30	134.79	347.96	16.58	14.30	36.53	12.76	24.01	2.83
八王子市	18	650.49	148.73	4,560.70	11	35.74	16.07	188.14	482.54	29.06	12.57	81.68	19.39	25.63	4.55
町田市	13	678.46	98.77	4,713.62	8	31.50	5.50	311.38	682.00	54.13	24.88	43.75	30.38	67.38	10.88
西多摩	14	254.90	106.77	1,038.53	8	1.79	3.77	66.29	168.25	13.75	4.30	31.25	7.21	6.04	0.52
南多摩	14	406.73	136.43	2,286.02	9	16.35	6.16	80.83	259.81	20.32	5.63	34.12	11.10	11.48	4.25
多摩立川	21	336.35	110.54	1,656.76	14	18.21	4.40	143.32	196.85	23.91	12.02	24.78	7.59	15.74	3.80
多摩府中	33	399.79	119.89	2,498.14	21	20.71	10.24	166.29	328.05	30.00	9.48	30.10	12.86	20.71	3.90
多摩小平	23	450.45	129.70	2,770.70	15	28.38	22.06	184.39	516.58	34.88	14.29	63.87	24.29	33.00	3.00
島しょ	2	290.50	177.00	773.50	1	18.00		15.00	107.00	1.00	1.00		3.00	2.00	3.00
定点当たり報告数		366.74	112.95	2,228.42		25.89	12.75	124.79	346.22	23.73	11.63	32.90	14.01	20.81	3.01
前年定点当たり報告数		345.47	221.34			24.69	16.44	135.59	233.59	10.30	224.86	34.90	13.61	26.91	2.84
当年/前年		1.06	0.51			1.05	0.78	0.92	1.48	2.30	0.05	0.94	1.03	0.77	1.06

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表5-2(2) 保健所別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹)2025年第1週~第52週

	設置定点数(小児科)	不明発しん症	川崎病		設置定点数(眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎		設置定点数(基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	(オウム病を除く) クラミジア肺炎	(ロタウイルスによる) 感染性胃腸炎	インフルエンザ入院	感染症入院 新型コロナウイルス
千代田	3	6.67	0.33						2	0.50	2.50	10.50			15.50	67.00
中央区	3	1.00	1.00	1			61.00									
みなと	6	6.67	0.83						1			2.00	13.00		103.00	164.00
新宿区	8	1.63	2.58	2			27.00		2	0.50	2.50	19.00			19.50	75.00
文京	4	8.08	1.75	1			19.00		1		7.00		1.00		31.00	131.00
台東	4	7.50	0.25													
墨田区	5	4.00	0.20	1			2.00		1	3.00		28.00	2.00	16.00	118.00	130.00
江東区	9	3.89	1.11	1			62.00									
品川区	8	1.50	0.50	1	1.00		20.00									
目黒区	5	11.40	0.40	1			5.00									
大田区	13	5.15	1.62	2	2.50		26.50		1		2.00	15.00		3.00	36.00	43.00
世田谷	16	2.43	0.25	2			54.50		2	2.50	2.00	15.50	1.00	6.00	88.00	123.50
渋谷区	4	0.75		1	1.00		68.00		1		2.00	1.00		3.00	77.00	153.00
中野区	6		0.33	1	2.00		14.00									
杉並	11	3.64	5.18	1			12.00		2	0.50		43.00	5.00	9.00	73.00	116.00
池袋	5	0.20	1.20	1			84.00		1			14.00		16.00		1.00
北区	7	0.57		1			16.00									
荒川区	4	8.00	3.50	1			25.00									
板橋区	10	3.80	0.30	2	2.50		27.00		1		3.00	14.00	3.00	4.00	44.00	105.00
練馬区	13	6.58	0.62	2			31.50									
足立	13	0.55	3.31	2			20.00									
葛飾区	8	2.25	0.13	1	1.00		8.00		1		3.00	56.00	4.00	25.00	111.00	219.00
江戸川	12	5.49	0.54	2	1.50		70.50									
八王子市	11	3.06	0.93	2	0.50		20.50		1						66.00	369.00
町田市	8	10.25	1.38	1			8.00									
西多摩	8	0.63	0.13	1	3.00		3.00		1	3.00	1.00	62.00		1.00	71.00	113.00
南多摩	9	1.84	0.33	1			30.00									
多摩立川	14	1.97	0.14	2			35.00		1	1.00	3.00	8.00			42.00	113.00
多摩府中	21	7.71	0.43	3			22.33		3	0.67	1.67	23.67		2.33	103.00	140.67
多摩小平	15	5.69	0.80	2			26.50		2	3.50	5.50	52.50	2.00	3.00	141.50	238.00
島しょ	1								1			13.00			7.00	34.00
定点当たり報告数		4.10	1.02			0.57	30.40			0.96	2.04	22.60	1.56	4.44	67.60	129.44
前年定点当たり報告数		1.93	0.67			0.36	23.37			1.56	2.44	74.20	0.84	0.60	53.40	247.76
当年/前年		2.12	1.52			1.58	1.30			0.62	0.84	0.30	1.86	7.40	1.27	0.52

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表6(1) 年齢階級別患者報告数(急性呼吸器感染症・小児科)2025年第1週～第52週

	インフル エンザ	新型ウ イルス コロナ 感染症	急性呼 吸器感 染症	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 球 菌 咽 頭 炎 溶 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
6か月未満	429	371	57,808	757	34	17	1,123	23	64	5	63	46	
12か月未満	1,216	779		1,171	206	124	5,831	74	382	56	713	510	5
1歳	4,582	1,240	307,409	2,636	1,021	895	11,460	199	1,060	387	1,922	1,844	22
2歳	5,421	633		1,231	545	1,590	8,623	204	431	698	579	1,219	30
3歳	6,163	521		451	330	2,717	7,062	281	260	1,088	201	510	56
4歳	7,914	470	200,506	202	280	3,521	6,874	350	228	1,421	124	374	98
5歳	8,870	478		88	216	3,844	6,968	392	214	1,551	33	314	110
6歳	9,205	549		54	187	4,208	6,315	521	119	1,192	12	198	110
7歳	9,126	575		46	130	4,011	5,562	714	80	729	8	90	89
8歳	8,130	699		25	78	3,071	4,938	741	53	617	6	78	66
9歳	7,342	628		22	76	2,544	4,267	754	41	414	2	67	64
10～14歳	29,401	4,186	103,460	48	131	4,408	10,862	1,828	70	386	5	97	128
15～19歳	12,706	3,245	40,759	9	17	370	2,405	71	6	13		16	5
20～29歳	10,779	4,572	39,536	29	90	1,463	8,673	76	27	73	2	53	6
30～39歳	8,660	5,082	44,406										
40～49歳	9,316	6,088	43,463										
50～59歳	6,547	6,531	35,857										
60～69歳	3,348	4,287	24,751										
70～79歳	1,735	3,263	18,346										
80歳以上	1,016	2,535	11,431										
合 計	151,906	46,732	927,732	6,769	3,341	32,783	90,963	6,228	3,035	8,630	3,670	5,416	789

※急性呼吸器感染症の10歳未満は「0歳」「1～4歳」「5～9歳」と読みかえる。

※小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

表6(2) 年齢階級別患者報告数(小児科・眼科・基幹)2025年第1週～第52週

	不明発しん症	川崎病	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院	感染症入院 新型コロナウイルス
6か月未満	34	5		4	4	7	4		2	47	93
12か月未満	140	41		6			10	1	5	34	42
1歳	301	73		30		2	24		6	98	57
2歳	139	44	1	31	1		32	1	1	67	35
3歳	74	34		19		1	42	2	6	47	25
4歳	73	20		31	1		32	1	5	47	21
5歳	66	19	1	23	1		39	1	6	54	15
6歳	48	16	1	24			37	5	10	54	9
7歳	35	12		14			38	3	11	62	15
8歳	41	2		15		3	41	3	22	35	16
9歳	35			20	1		39		8	29	16
10～14歳	59	1		47			133	4	27	94	50
15～19歳	10		1	31	1	1	25			44	27
20～29歳	13		1	123		5	28		2	36	52
30～39歳			8	242		6	16	3		32	89
40～49歳			5	244		4	12	1		43	81
50～59歳			3	135	3	3	5	1		73	191
60～69歳			1	62	5	5	1	1		121	273
70～79歳				74	2	8	3	8		220	714
80歳以上					5	6	4	4		453	1,415
合 計	1,068	267	22	1,175	24	51	565	39	111	1,690	3,236

※小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

※眼科定点把握対象疾患の「70～79歳」は「70歳以上」と読みかえる。

表7-1 二次医療圏別患者報告数(急性呼吸器感染症・小児科・眼科・基幹)2025年第1週～第52週

	（急性呼吸器感染症） 設置定点数	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症	急性呼吸器感染症	設置定点数（小児科）	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	咽頭炎 A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
1 区中央部圏	32	9,863	2,848	70,388	20	506	238	1,753	8,469	506	371	536	290	588	98
2 区南部圏	33	9,528	2,992	50,077	21	565	424	2,388	7,699	439	385	609	300	360	37
3 区西南部圏	40	12,181	3,750	71,338	25	521	161	2,269	6,679	435	196	547	196	543	66
4 区西部圏	39	12,236	3,743	75,691	25	599	211	2,708	6,658	485	202	416	272	265	45
5 区西北部圏	56	19,354	6,710	111,704	35	770	376	4,301	10,973	951	292	858	417	619	65
6 区東北部圏	40	13,712	5,064	91,549	25	1167	614	2,340	8,650	440	213	1,209	519	355	45
7 区東部圏	41	15,187	4,877	87,955	26	720	412	2,998	10,059	456	380	750	331	581	71
8 西多摩圏	14	3,566	1,484	14,298	8	14	30	521	1,327	107	34	244	56	48	4
9 南多摩圏	45	25,263	5,720	172,727	28	783	274	5,257	13,003	927	385	1,533	550	914	175
10 北多摩西部圏	21	7,032	2,298	34,538	14	253	61	1,987	2,743	333	167	346	106	218	53
11 北多摩南部圏	33	13,194	3,957	82,497	21	435	215	3,492	6,889	630	199	632	270	435	82
12 北多摩北部圏	23	10,209	2,935	63,423	15	418	325	2,754	7,707	518	210	950	360	488	45
13 島しょ圏	2	581	354	1,547	1	18		15	107	1	1		3	2	3
合 計	419	151,906	46,732	927,732	264	6,769	3,341	32,783	90,963	6,228	3,035	8,630	3,670	5,416	789

	設置 定点数 (急性呼吸器感染症)	インフル エンザ	新型 コロナ	急性呼吸器感染症	設置 定点数 (小児科)	RS ウイルス感染症	咽頭結膜熱	咽頭炎 A群溶血性 レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
1 区中央部圏	32	309.44	89.67	2,206.34	20	25.34	11.93	87.79	424.36	25.35	18.62	26.83	14.55	29.66	4.91
2 区南部圏	33	292.61	91.14	1,518.48	21	27.03	20.20	114.06	367.21	21.03	18.42	29.16	14.33	17.26	1.76
3 区西南部圏	40	308.18	95.28	1,799.62	25	21.47	6.64	91.42	269.69	17.60	8.01	22.15	7.99	22.23	2.68
4 区西部圏	39	319.98	97.60	1,955.46	25	24.13	8.45	108.77	267.45	19.45	8.18	16.77	10.93	10.83	1.81
5 区西北部圏	56	349.27	121.72	2,008.89	35	22.29	10.83	123.68	314.73	27.31	8.55	24.63	12.04	17.87	1.87
6 区東北部圏	40	343.33	127.68	2,298.28	25	47.00	24.61	93.80	346.60	17.62	8.57	48.42	20.83	14.33	1.81
7 区東部圏	41	377.79	121.11	2,159.64	26	27.98	16.05	115.73	388.66	17.72	14.90	29.18	12.85	22.88	2.76
8 西多摩圏	14	254.90	106.77	1,038.53	8	1.79	3.77	66.29	168.25	13.75	4.30	31.25	7.21	6.04	0.52
9 南多摩圏	45	577.29	129.98	3,894.00	28	28.32	9.86	188.89	468.39	33.38	13.97	55.52	19.86	33.12	6.30
10 北多摩西部圏	21	336.35	110.54	1,656.76	14	18.21	4.40	143.32	196.85	23.91	12.02	24.78	7.59	15.74	3.80
11 北多摩南部圏	33	399.79	119.89	2,498.14	21	20.71	10.24	166.29	328.05	30.00	9.48	30.10	12.86	20.71	3.90
12 北多摩北部圏	23	450.45	129.70	2,770.70	15	28.38	22.06	184.39	516.58	34.88	14.29	63.87	24.29	33.00	3.00
13 島しょ圏	2	290.50	177.00	773.50	1	18.00		15.00	107.00	1.00	1.00		3.00	2.00	3.00

表7-2 二次医療圏別定点当たり患者報告数(急性呼吸器感染症・小児科・眼科・基幹)

2025 年第 1 週～第 52 週

	設置 定点数 (小児科)	不明 発しん 症	川 崎 病	設置 定点数 (眼科)	急性 出血性 結膜炎	流行 性角結 膜炎	設置 定点数 (基幹)	細菌 性髄膜 炎	無菌 性髄膜 炎	マイ コプラ ズマ肺 炎	クラ ミジア 肺炎 (オウ ム病を 除く)	感 染性胃 腸炎 (ロタ ウイルス による)	イン フルエ ンザ入 院	新 型感 染症 入院 新型 コロ ナウ イル ス
1 区中央部圏	20	125	17	2		80	4	1	12	23	14		165	429
2 区南部圏	21	79	25	3	6	72	1		2	15		3	36	43
3 区西南部圏	25	98	6	4	1	182	3	5	6	32	2	15	253	400
4 区西部圏	25	53	79	4	2	80	4	2	5	124	10	18	185	382
5 区西北部圏	35	127	17	6	5	217	2		3	28	3	20	44	106
6 区東北部圏	25	57	58	4	1	73	1		3	56	4	25	111	219
7 区東部圏	26	119	17	4	3	205	1	3		28	2	16	118	130
8 西多摩圏	8	5	1	1	3	3	1	3	1	62		1	71	113
9 南多摩圏	28	131	24	4	1	76	1						66	369
10 北多摩西部圏	14	27	2	2		68	1	1	3	8			42	113
11 北多摩南部圏	21	162	9	3		67	3	2	5	71		7	309	422
12 北多摩北部圏	15	85	12	2		52	2	7	11	105	4	6	283	476
13 島しょ圏	1						1			13			7	34
合 計	264	1,068	267	39	22	1,175	25	24	51	565	39	111	1,690	3,236

	設置 定点数 (小児科)	不明 発しん 症	川 崎 病	設置 定点数 (眼科)	急性 出血性 結膜炎	流行 性角結 膜炎	設置 定点数 (基幹)	細菌 性髄膜 炎	無菌 性髄膜 炎	マイ コプラ ズマ肺 炎	クラ ミジア 肺炎 (オウ ム病を 除く)	感 染性胃 腸炎 (ロタ ウイルス による)	イン フルエ ンザ入 院	新 型感 染症 入院 新型 コロ ナウ イル ス
1 区中央部圏	20	6.30	0.85	2		40.50	4	0.25	3.00	5.75	3.50		41.25	107.25
2 区南部圏	21	3.77	1.19	3	2.00	24.17	1		2.00	15.00		3.00	36.00	43.00
3 区西南部圏	25	3.99	0.24	4	0.25	45.75	3	1.67	2.00	10.67	0.67	5.00	84.33	133.33
4 区西部圏	25	2.12	3.22	4	0.50	20.08	4	0.50	1.25	31.00	2.50	4.50	46.25	95.50
5 区西北部圏	35	3.66	0.49	6	0.83	36.47	2		1.50	14.00	1.50	10.00	22.00	53.00
6 区東北部圏	25	2.29	2.32	4	0.25	18.25	1		3.00	56.00	4.00	25.00	111.00	219.00
7 区東部圏	26	4.63	0.67	4	0.75	51.25	1	3.00		28.00	2.00	16.00	118.00	130.00
8 西多摩圏	8	0.63	0.13	1	3.00	3.00	1	3.00	1.00	62.00		1.00	71.00	113.00
9 南多摩圏	28	4.78	0.86	4	0.25	19.25	1						66.00	369.00
10 北多摩西部圏	14	1.97	0.14	2		35.00	1	1.00	3.00	8.00			42.00	113.00
11 北多摩南部圏	21	7.71	0.43	3		22.33	3	0.67	1.67	23.67		2.33	103.00	140.67
12 北多摩北部圏	15	5.69	0.80	2		26.50	2	3.50	5.50	52.50	2.00	3.00	141.50	238.00
13 島しょ圏	1						1			13.00			7.00	34.00

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表8-1 月別患者報告数(基幹)

2025年1月～12月

	報告 定点 数	メ チ シ リ ン 耐 性 黄 色 ブ ド ウ 球 菌 感 染 症	ペ ニ シ リ ン 耐 性 肺 炎 球 菌 感 染 症	薬 剤 耐 性 緑 膿 菌 感 染 症
1月	25	64	11	
2月	25	44	11	1
3月	25	52	2	1
4月	25	47	3	3
5月	25	69	9	1
6月	25	59	5	1
7月	25	66	3	5
8月	25	72	3	4
9月	25	67	3	
10月	25	57	5	
11月	25	65	2	1
12月	25	67	3	1
合 計		729	60	18

表8-2 月別定点当たり患者報告数(基幹)

2025年1月～12月

	報告 定点 数	メ チ シ リ ン 耐 性 黄 色 ブ ド ウ 球 菌 感 染 症	ペ ニ シ リ ン 耐 性 肺 炎 球 菌 感 染 症	薬 剤 耐 性 緑 膿 菌 感 染 症
1月	25	2.56	0.44	
2月	25	1.76	0.44	0.04
3月	25	2.08	0.08	0.04
4月	25	1.88	0.12	0.12
5月	25	2.76	0.36	0.04
6月	25	2.36	0.20	0.04
7月	25	2.64	0.12	0.20
8月	25	2.88	0.12	0.16
9月	25	2.68	0.12	
10月	25	2.28	0.20	
11月	25	2.60	0.08	0.04
12月	25	2.68	0.12	0.04
平 均		2.43	0.20	0.06
合 計		29.16	2.40	0.72
前年合計		29.20	2.32	0.32
当年/前年		1.00	1.03	2.25

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表8-3 月別・性別患者報告数(基幹) 2025年1月～12月

	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	男	女	男	女	男	女
1月	35	29	6	5		
2月	26	18	6	5		1
3月	35	17	1	1		1
4月	29	18	3		2	1
5月	33	36	9		1	
6月	34	25	3	2	1	
7月	41	25	1	2	1	4
8月	42	30	1	2	2	2
9月	42	25	2	1		
10月	28	29	2	3		
11月	39	26	1	1	1	
12月	32	35	3			1
合 計	416	313	38	22	8	10

表8-4 性別・年齢階級別患者報告数(基幹) 2025年1月～12月

	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	男	女	男	女	男	女
0歳	16	10	2	1		
1～4歳	11	11	3	4		
5～9歳	9	4	1			
10～14歳	9	11	4	1		
15～19歳	3	3	3	1		
20～24歳	1	4				
25～29歳	6	8				1
30～34歳	7	7				
35～39歳	5	14				1
40～44歳	11	8		2		
45～49歳	11	2		2	2	
50～54歳	13	6	3			1
55～59歳	21	15	2		2	
60～64歳	31	15		1		2
65～69歳	29	20	3	1		
70歳以上	233	175	17	9	4	5
合 計	416	313	38	22	8	10
定点当たり報告数	16.64	12.52	1.52	0.88	0.32	0.40
前年定点当たり報告数	17.52	11.68	1.52	0.80	0.20	0.12
当年／前年	0.95	1.07	1.00	1.10	1.60	3.33

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表9-1 月別患者報告数(性感染症)
2025年1月～12月

	報告 定点数	性 器 ク ラ ミ ジ ア 感 染 症	性 器 感 染 症 ヘ ル ペ ス ウ イ ル ス	尖 圭 コ ン ジ ロ ー マ	淋 菌 感 染 症	膣 ト リ コ モ ナ ス 症
1月	53	192	22	48	43	2
2月	53	162	43	40	47	4
3月	54	188	38	41	62	6
4月	55	233	53	52	57	8
5月	55	240	39	66	76	15
6月	55	239	52	73	66	12
7月	55	194	55	75	71	9
8月	55	206	38	59	54	10
9月	55	204	53	59	90	9
10月	55	224	54	47	73	11
11月	55	158	63	47	44	7
12月	55	182	58	52	37	9
合 計		2,422	568	659	720	102

表9-2 月別定点当たり患者報告数(性感染症)
2025年1月～12月

	報告 定点数	性 器 ク ラ ミ ジ ア 感 染 症	性 器 感 染 症 ヘ ル ペ ス ウ イ ル ス	尖 圭 コ ン ジ ロ ー マ	淋 菌 感 染 症	膣 ト リ コ モ ナ ス 症
1月	53	3.62	0.42	0.91	0.81	0.04
2月	53	3.06	0.81	0.75	0.89	0.08
3月	54	3.48	0.70	0.76	1.15	0.11
4月	55	4.24	0.96	0.95	1.04	0.15
5月	55	4.36	0.71	1.20	1.38	0.27
6月	55	4.35	0.95	1.33	1.20	0.22
7月	55	3.53	1.00	1.36	1.29	0.16
8月	55	3.75	0.69	1.07	0.98	0.18
9月	55	3.71	0.96	1.07	1.64	0.16
10月	55	4.07	0.98	0.85	1.33	0.20
11月	55	2.87	1.15	0.85	0.80	0.13
12月	55	3.31	1.05	0.95	0.67	0.16
平 均		3.70	0.87	1.00	1.10	0.16
合 計		44.34	10.38	12.06	13.17	1.86
前年合計		46.86	8.83	10.76	16.28	1.62
当年/前年		0.95	1.18	1.12	0.81	1.15

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表9-3 月別・性別患者報告数(性感染症) 2025年1月～12月

	報告 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膺トリコモナス症	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	53	109	83	17	5	29	19	21	22		2
2月	53	80	82	23	20	32	8	29	18		4
3月	54	95	93	20	18	30	11	44	18	1	5
4月	55	134	99	29	24	35	17	41	16	1	7
5月	55	134	106	22	17	42	24	51	25	2	13
6月	55	135	104	26	26	61	12	48	18	1	11
7月	55	114	80	37	18	53	22	57	14	2	7
8月	55	118	88	18	20	43	16	40	14	3	7
9月	55	123	81	26	27	42	17	64	26	1	8
10月	55	119	105	25	29	37	10	56	17		11
11月	55	95	63	38	25	26	21	32	12		7
12月	55	92	90	30	28	37	15	26	11	2	7
合 計		1,348	1,074	311	257	467	192	509	211	13	89

表9-4 月別・性別定点当たり患者報告数(性感染症) 2025年1月～12月

	報告 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膺トリコモナス症	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	53	2.06	1.57	0.32	0.09	0.55	0.36	0.40	0.42		0.04
2月	53	1.51	1.55	0.43	0.38	0.60	0.15	0.55	0.34		0.08
3月	54	1.76	1.72	0.37	0.33	0.56	0.20	0.81	0.33	0.02	0.09
4月	55	2.44	1.80	0.53	0.44	0.64	0.31	0.75	0.29	0.02	0.13
5月	55	2.44	1.93	0.40	0.31	0.76	0.44	0.93	0.45	0.04	0.24
6月	55	2.45	1.89	0.47	0.47	1.11	0.22	0.87	0.33	0.02	0.20
7月	55	2.07	1.45	0.67	0.33	0.96	0.40	1.04	0.25	0.04	0.13
8月	55	2.15	1.60	0.33	0.36	0.78	0.29	0.73	0.25	0.05	0.13
9月	55	2.24	1.47	0.47	0.49	0.76	0.31	1.16	0.47	0.02	0.15
10月	55	2.16	1.91	0.45	0.53	0.67	0.18	1.02	0.31		0.20
11月	55	1.73	1.15	0.69	0.45	0.47	0.38	0.58	0.22		0.13
12月	55	1.67	1.64	0.55	0.51	0.67	0.27	0.47	0.20	0.04	0.13

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表9-5 保健所別、二次医療圏別患者報告数(性感染症)2025年1月~12月

	設置 定 点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	14		7	3	11	1	7			
中央区	3	23	10	26	13	6		9	1	1	2
みなと	2	70	16	35	6	113	2	28	3		
新宿区	7	238	128	70	25	123	40	80	34	4	17
文京	1	39		6	1	12		15		3	3
台東	2	13	76	8	29	8	68	7	74		16
墨田区	2	30	6	8	3	15	2	14	2		1
江東区	2	67	4	26	2	22	4	38	1		1
品川区	1	507	279	88	55	99	15	160	39	1	6
大田区	2	2	16		2						
渋谷区	5	92	105	20	46	28	36	47	13	2	8
中野区	2	88	6	1	2	2		48	3	1	2
杉並	2	17	5	1	1		1	5	1		
池袋	3	82	23	1	23	16	1	24	6		8
北区	1	6				7	2	1			
荒川区	1		28						1		
板橋区	2	6	43	2	3	4	1	3	1		3
足立	2	3	40		7		7		3		1
江戸川	2	43	111	12	7	1	4	22	13	1	5
八王子市	4	1	69		15		5		6		14
町田市	1	2	19				2		1		1
多摩立川	2	4	76		7		1	1	9		1
多摩府中	3	1	11		7						
多摩小平	1		3								
合 計	55	1,348	1,074	311	257	467	192	509	211	13	89
定点当たり報告数		24.67	19.67	5.69	4.70	8.54	3.51	9.30	3.87	0.24	1.62
前年定点当たり報告数		27.07	19.79	5.43	3.40	7.25	3.51	11.78	4.50	0.05	1.56
当年/前年		0.91	0.99	1.05	1.38	1.18	1.00	0.79	0.86	4.80	1.04

区中央部圏	10	159	102	82	52	150	71	66	78	4	21
区南部圏	3	509	295	88	57	99	15	160	39	1	6
区西南部圏	5	92	105	20	46	28	36	47	13	2	8
区西部圏	11	343	139	72	28	125	41	133	38	5	19
区西北部圏	6	94	66	3	26	27	4	28	7		11
区東北部圏	3	3	68		7		7		4		1
区東部圏	6	140	121	46	12	38	10	74	16	1	7
南多摩圏	5	3	88		15		7		7		15
北多摩西部圏	2	4	76		7		1	1	9		1
北多摩南部圏	3	1	11		7						
北多摩北部圏	1		3								

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表9-6 保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数(性感染症)2025年1月～12月

	設置 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膺トリコモナス症	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	7.00		3.50	1.50	5.50	0.50	3.50			
中央区	3	7.67	3.33	8.67	4.33	2.00		3.00	0.33	0.33	0.67
みなと	2	36.00	8.00	19.00	3.00	62.50	1.00	14.00	1.50		
新宿区	7	34.83	18.55	10.17	3.57	17.64	5.74	11.74	4.90	0.57	2.45
文京	1	39.00		6.00	1.00	12.00		15.00		3.00	3.00
台東	2	6.50	38.00	4.00	14.50	4.00	34.00	3.50	37.00		8.00
墨田区	2	15.00	3.00	4.00	1.50	7.50	1.00	7.00	1.00		0.50
江東区	2	33.50	2.00	13.00	1.00	11.00	2.00	19.00	0.50		0.50
品川区	1	507.00	279.00	88.00	55.00	99.00	15.00	160.00	39.00	1.00	6.00
大田区	2	1.00	8.00		1.00						
渋谷区	5	18.40	21.00	4.00	9.20	5.60	7.20	9.40	2.60	0.40	1.60
中野区	2	44.00	3.00	0.50	1.00	1.00		24.00	1.50	0.50	1.00
杉並	2	8.50	2.50	0.50	0.50		0.50	2.50	0.50		
池袋	3	27.33	7.67	0.33	7.67	5.33	0.33	8.00	2.00		2.67
北区	1	6.00				7.00	2.00	1.00			
荒川区	1		28.00						1.00		
板橋区	2	3.00	21.50	1.00	1.50	2.00	0.50	1.50	0.50		1.50
足立	2	1.50	20.00		3.50		3.50		1.50		0.50
江戸川	2	21.50	55.50	6.00	3.50	0.50	2.00	11.00	6.50	0.50	2.50
八王子市	4	0.25	17.58		3.75		1.25		1.50		3.50
町田市	1	2.00	19.00				2.00		1.00		1.00
多摩立川	2	2.00	38.00		3.50		0.50	0.50	4.50		0.50
多摩府中	3	0.33	3.67		2.33						
多摩小平	1		3.00								
合 計	55	1,348	1,074	311	257	467	192	509	211	13	89
定点当たり報告数		24.67	19.67	5.69	4.70	8.54	3.51	9.30	3.87	0.24	1.62

区中央部圏	10	15.97	10.37	8.30	5.22	15.18	7.13	6.61	7.89	0.40	2.12
区南部圏	3	169.67	98.33	29.33	19.00	33.00	5.00	53.33	13.00	0.33	2.00
区西南部圏	5	18.40	21.00	4.00	9.20	5.60	7.20	9.40	2.60	0.40	1.60
区西部圏	11	31.79	12.78	6.61	2.56	11.39	3.74	12.28	3.48	0.45	1.74
区西北部圏	6	15.67	11.00	0.50	4.33	4.50	0.67	4.67	1.17		1.83
区東北部圏	3	1.00	22.67		2.33		2.33		1.33		0.33
区東部圏	6	23.33	20.17	7.67	2.00	6.33	1.67	12.33	2.67	0.17	1.17
南多摩圏	5	0.60	17.80		3.00		1.40		1.40		3.00
北多摩西部圏	2	2.00	38.00		3.50		0.50	0.50	4.50		0.50
北多摩南部圏	3	0.33	3.67		2.33						
北多摩北部圏	1		3.00								

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表9-7 年齢階級別患者報告数(性感染症) 2025年1月～12月

	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳										
1～4歳										
5～9歳										
10～14歳										
15～19歳	18	73	1	10	3	6	9	15		3
20～24歳	212	330	33	38	35	69	75	49		15
25～29歳	343	322	47	47	72	53	114	52	1	23
30～34歳	234	152	50	41	85	24	91	20	5	9
35～39歳	170	80	39	37	56	9	65	16	1	11
40～44歳	124	36	37	21	49	5	49	14	2	7
45～49歳	91	42	36	22	56	6	40	15		5
50～54歳	83	27	29	16	34	13	36	18	1	7
55～59歳	41	9	14	10	46	6	19	6		7
60～64歳	18	3	18	6	16	1	8	6	1	
65～69歳	10		3	4	8		3		1	2
70歳以上	4		4	5	7				1	
合 計	1,348	1,074	311	257	467	192	509	211	13	89

表10 検査結果別報告数(基幹) 2025年第1週～第52週

	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	合計
<i>Escherichia coli</i>	1					1
<i>Klebsiella aerogenes</i>	1					1
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	2					2
<i>Klebsiella pneumoniae</i> (CRE以外)	1					1
<i>Listeria monocytogenes</i>	1					1
<i>Staphylococcus aureus</i>	1					1
<i>Staphylococcus epidermidis</i>	2					2
<i>Staphylococcus</i> sp.	2					2
<i>Streptococcus agalactiae</i>	3					3
<i>Streptococcus</i> group unknown	1					1
other bacteria	3					3
Enterovirus 71		1				1
Herpes simplex virus 1		2				2
Herpes simplex virus 2		3				3
Mumps virus		1				1
Varicella-zoster virus		14				14
Echovirus NT		1				1
Enterovirus NT		12				12
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>			561			561
<i>Chlamydia trachomatis</i>				1		1
<i>Chlamydophila pneumoniae</i>				37		37
Rotavirus group unknown					107	107
合 計	18	34	561	38	107	758

表11 入院サーベイランス 入院時の状況 2025 年第 1 週～第 52 週

	インフルエンザ入院							新型コロナウイルス感染症入院		
	I C U 入室	人工呼吸器の利用	頭部 C T 検査	頭部 M R I 検査	脳波検査	いずれにも該当せず	頭部検査	I C U 入室	人工呼吸器の利用	いずれにも該当せず
6 か月未満	2	1	2		2	45	2	4	2	89
12 か月未満	1	1	4		1	29	4	3	2	39
1歳	9	3	30	4	11	63	31	6		51
2歳	3	3	27	4	6	36	31	4	2	31
3歳	2	3	12	2	4	34	12	2	2	22
4歳	3	3	10	3	3	34	12	4	2	17
5歳	5	1	6	1	3	45	7	4	1	11
6歳	4	4	8		1	41	9			9
7歳	8	3	12	2	3	46	13	3		12
8歳	2	2	2		1	32	2			16
9歳	3	2	3			23	3			16
10～14歳	6	5	11	5	1	73	14	4	7	41
15～19歳	5	3	9	3	1	31	9	3	1	23
20～29歳	2		1	1		34	1	5		47
30～39歳	1		1			30	1	4	3	84
40～49歳	3		2	4	1	35	5	8		73
50～59歳	9	4	7	2	1	60	7	20	7	171
60～69歳	20	9	15	3	1	94	16	22	6	253
70～79歳	20	12	27	3	2	171	29	33	17	676
80歳以上	23	24	32	6		377	35	64	26	1,335
合 計	131	83	221	43	42	1,333	243	193	78	3,016

第 2 章

東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報

1 ウイルス検査結果

(1) 急性呼吸器感染症 (ARI) 定点医療機関からの搬入検体

2025 年第 15 週から急性呼吸器感染症 (ARI) サーベイランスが開始された。ARI とは、咳嗽、咽頭熱、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか 1 つ以上の症状を呈し、発症から 10 日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う疾患の総称である。ARI 定点医療機関からは、該当症例の鼻咽頭検体等が当センターに搬入されることとなっている。

2025 年は、当センターに搬入される検体のうち、ARI 定点医療機関の医師がウイルスによる感染症であると判断した 2,257 検体についてインフルエンザウイルス、新型コロナウイルス、ヒトメタニューモウイルス、RS ウイルス、ヒトパラインフルエンザウイルス、ライノ/エンテロウイルス、アデノウイルスの検査を実施した。搬入された 2,257 検体のうち何らかのウイルスが検出されたのは 1,685 検体、陽性率は 74.7%であった。検体採取週毎の検体搬入数は、平均 59.3 件であり(図 1)、検体採取週毎の陽性率の最小値は 56.7% (第 19 週)、最大値は 88.7% (第 52 週) (図 2) であった。

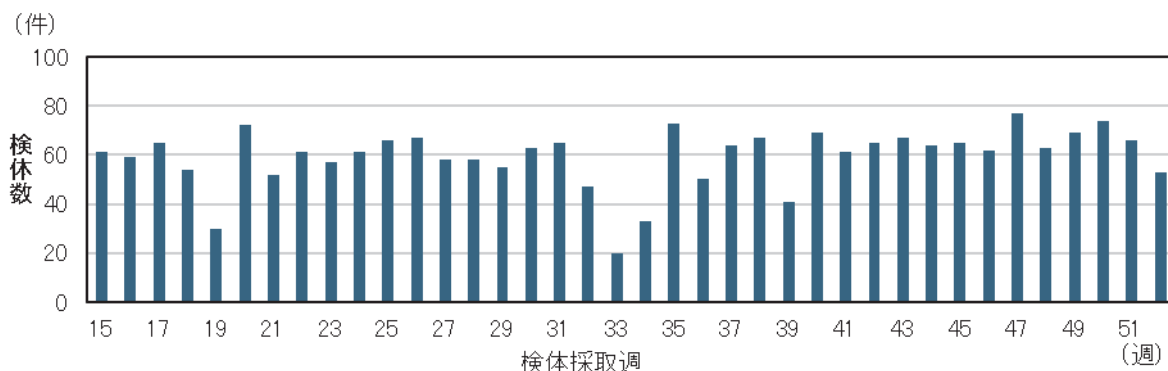


図 1. 検体採取週毎の検体搬入数

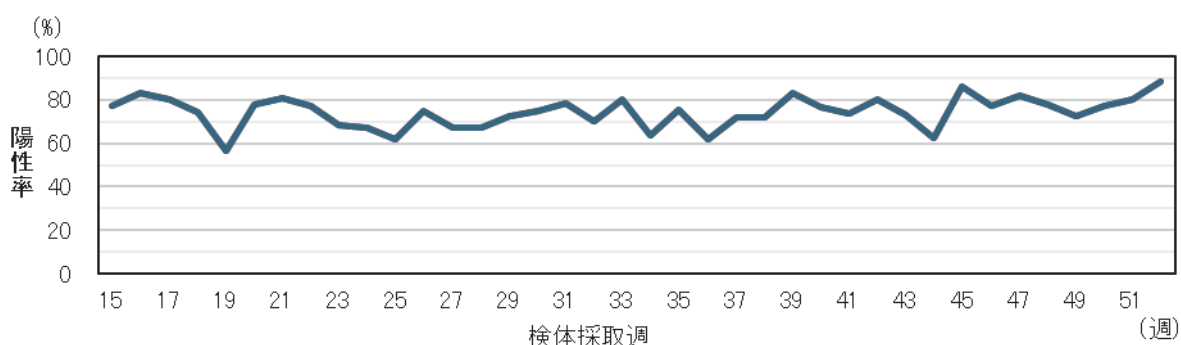


図 2. 検体採取週毎の検体陽性率

ア インフルエンザ

① 2024/2025 年シーズンのインフルエンザウイルス検出状況

インフルエンザウイルスの流行シーズンは、毎年 9 月 (第 36 週) を境にシーズン分けがされている。2025 年第 1 週～第 35 週は 2024/2025 年シーズン、2025 年第 36 週～第 52 週は 2025/2026 年シーズンとなる。また、2025 年第 15 週から ARI サーベイランスが開始された。

2024 年第 36 週～2025 年第 14 週で採取された 442 件が、インフルエンザ/COVID-19 定点医療機関

および ARI 定点医療機関より搬入され、遺伝子検査では AH1pdm09 が 228 件（69.5%）、AH3 亜型が 67 件（20.4%）、B 型 33 件（Victoria 系統 33 件：10.1%、Yamagata 系統 0 件：0%）の計 328 件が検出された。（図 3a、図 4a）。ウイルス分離検査では、AH1pdm09 192 株、AH3 亜型 56 株、B 型 32 株（Victoria 系統 32 株、Yamagata 系統 0 株）の計 280 株が分離された。

ARI サーベイランス期間（2025 年第 15 週～2025 年第 35 週）においては、ARI 定点医療機関から 1,177 検体が搬入され、遺伝子検査では AH1pdm09 22 件（1.87%）、AH3 亜型 16 件（1.36%）、B 型 25 件（Victoria 系統 25 件：2.12%、Yamagata 系統 0 件：0%）の計 63 件が検出された（図 3a、図 4a）。ウイルス分離検査では、AH1pdm09 17 株、AH3 亜型 13 株、B 型 21 株（Victoria 系統 21 株、Yamagata 系統 0 株）の計 51 株が分離された。

2024/2025 年シーズンは、冬季に AH1pdm09 による大規模な流行が起こり、第 6 週から AH3 亜型、B 型 Victoria 系統の検出割合が増加した。

② 2025/2026 年シーズンのインフルエンザウイルス検出状況

2025/2026 年シーズン（2025 年第 36 週～2026 年第 9 週までの途中経過）は、ARI 定点医療機関より 1,628 検体が搬入された。遺伝子検査では AH1pdm09 13 件（2.0%）、AH3 亜型 436 件（68.3%）、B 型 189 件（Victoria 系統 189 件：29.6%、Yamagata 系統 0 件：0%）の計 638 件が検出された（図 3b、図 4b）。ウイルス分離検査では、AH1pdm09 11 株、AH3 亜型 387 株、B 型 178 株（Victoria 系統 178 株、Yamagata 系統 0 株）の計 576 株が分離された。2025/2026 年シーズンは 2025 年に AH3 亜型、2026 年に B 型 Victoria 系統による大規模な流行が起きた。

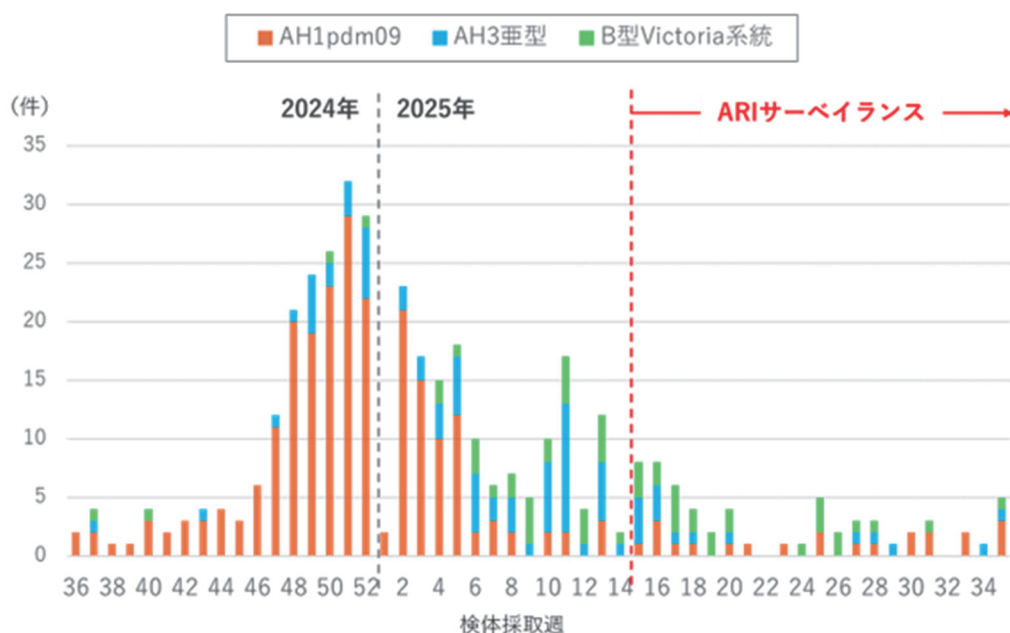


図 3a. 2024/2025 年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出数

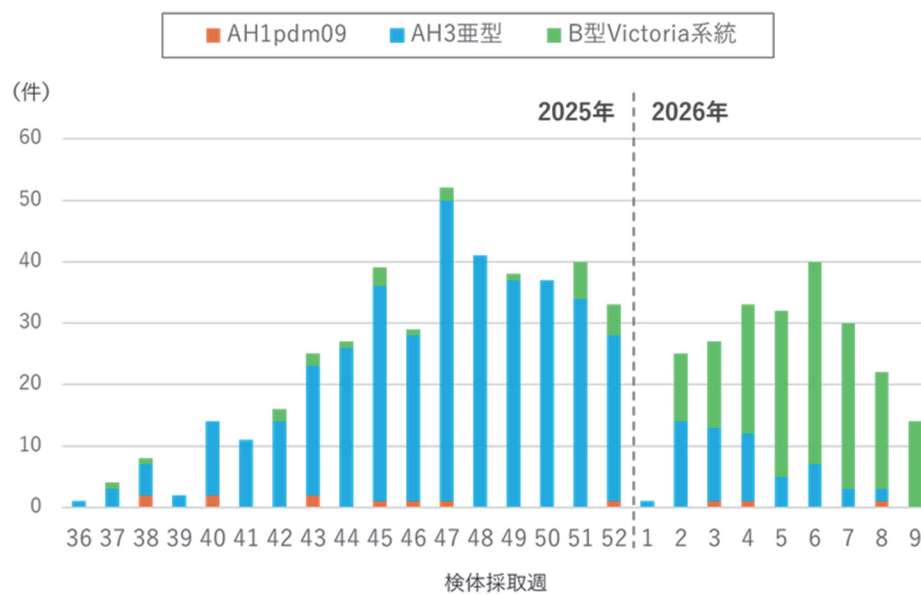


図 3b. 2025/2026 年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出数（2026 年 2 月末現在）

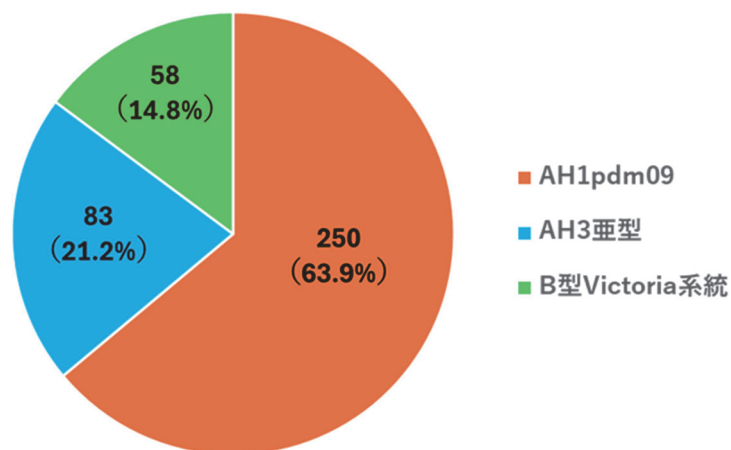


図 4a. 2024/2025 年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出状況

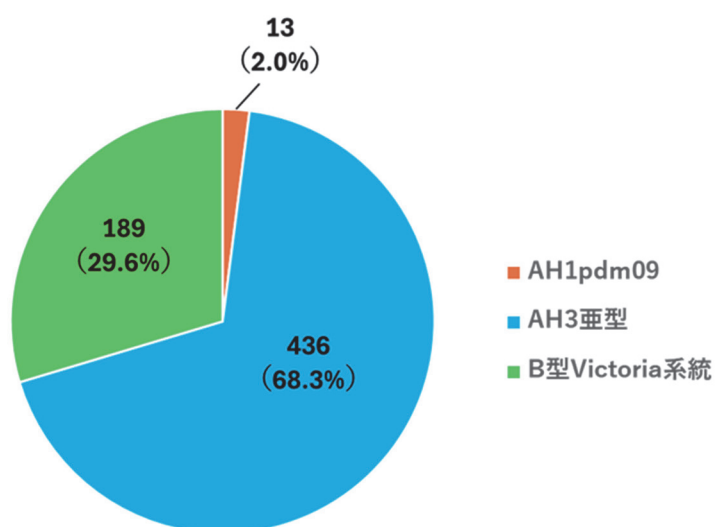


図 4b. 2025/2026 年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出状況（2026 年 2 月末現在）

③ インフルエンザウイルスの抗原解析

遺伝子解析及びワクチン株抗血清を用いた HI 試験により、インフルエンザウイルスの抗原性状を比較した。遺伝子解析は、RT-nested-PCR 検査によって得られた HA（ヘマグルチニン）遺伝子の一部断片を用いてダイレクトシーケンスにより塩基配列を決定し、ワクチン株と分子系統樹上で比較した。分離株の性状解析は、国立感染症研究所から配布されたインフルエンザサーベイランスキット抗血清を用いた HI 試験（1.0%モルモット赤血球浮遊液を使用）により行った。

AH1pdm09 は、2024/2025 年シーズンの流行株とワクチン株（A/Victoria/4897/2022）を比較したところ、解析範囲（567 塩基）の遺伝子変異は 8～14 塩基（塩基一致率：97.5%～98.6%）であった。系統樹上では、流行株は大きく 2 つに分かれたクレードにそれぞれ属した（図 5）。HA 価が 8 倍以上あり HI 試験が実施できた 202 株は、168 株（83.2%）でワクチン株と同等の反応性が見られ、34 株（16.8%）でワクチン株抗体との反応性の低下が見られた。2025/2026 年シーズンの流行株とワクチン株を比較すると、解析範囲の遺伝子変異は 9～14 塩基（塩基一致率：97.5%～98.1%）であった。系統樹上では、流行株はワクチン株と同じクレードに属した（図 5）。HI 試験が実施できた 10 株は、9 株（90%）でワクチン株と同等の反応性が見られ、1 株（10%）でワクチン株抗体との反応性の低下が見られた。

AH3 亜型は、2024/2025 年シーズンの流行株とワクチン株（A/California/122/2022）を比較すると、解析範囲（329 塩基）の遺伝子変異は 4～12 塩基（塩基一致率：96.4%～98.9%）であった。系統樹上では、流行株はワクチン株と同じクレードに属した。HI 試験が実施できた 65 株は、57 株（87.7%）でワクチン株と同等の反応性が見られ、8 株（12.3%）でワクチン株抗体との反応性の低下が見られた。2025/2026 年シーズンはワクチン株が A/California/122/2022 から A/Perth/722/2024 に変更された。2025/2026 年シーズンの流行株とワクチン株を比較すると、解析範囲の遺伝子変異は 12～13 塩基（塩基一致率：96.0%～96.4%）であった。系統樹上では、流行株はワクチン株と同じクレードに属した（図 6）。HI 試験が実施できた 209 株は、118 株（56.5%）でワクチン株と同等の反応性が見られ、91 株（43.5%）でワクチン株抗体との反応性の低下が見られた。

B 型 Victoria 系統では、2024/2025 年シーズンの検出株とワクチン株（B/Austria/1359417/2021）では、解析範囲（279 塩基）での遺伝子変異は 3～7 塩基（塩基一致率：97.5%～98.9%）であった。系統樹上ではワクチン株と同じクレードに属した（図 7）。HI 試験が実施できた 52 株は、51 株（98.1%）でワクチン株と同等の反応性が見られ、1 株（1.9%）でワクチン株抗体との反応性の低下が見られ、抗原性に大きな変異はないと推察された。2025/2026 年シーズンの流行株とワクチン株を比較すると、解析範囲の遺伝子変異は 4～9 塩基（塩基一致率：96.8%～98.6%）であった。HI 試験が実施できた 174 株は、16 株（9.2%）でワクチン株と同等の反応性が見られ、158 株（90.8%）でワクチン株抗体との反応性の低下が見られた。

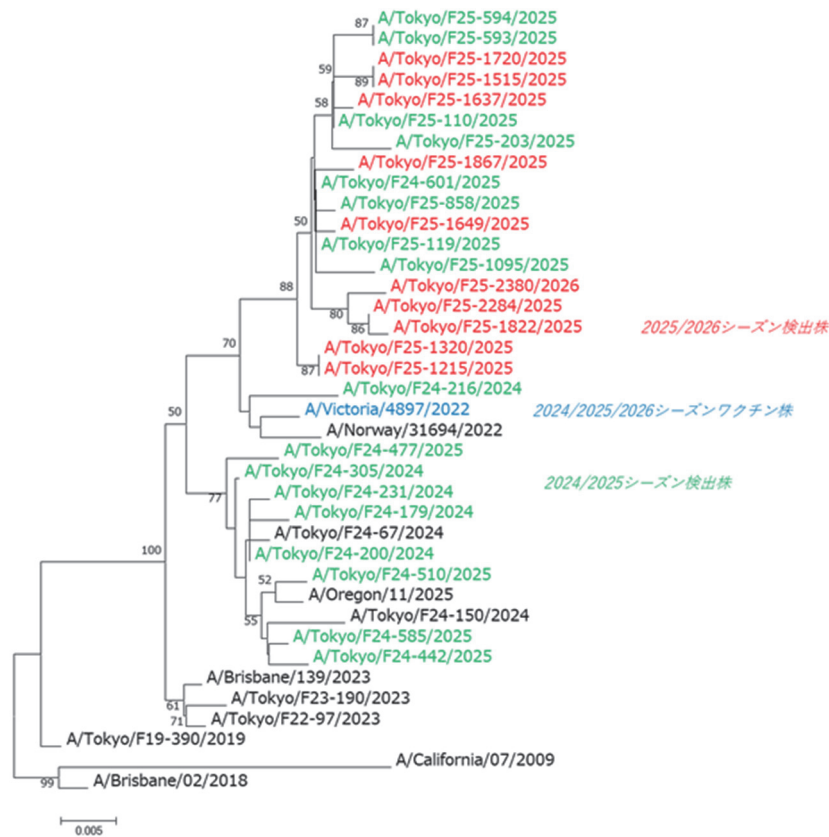


図 5. 東京都における AH1pdm09 インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

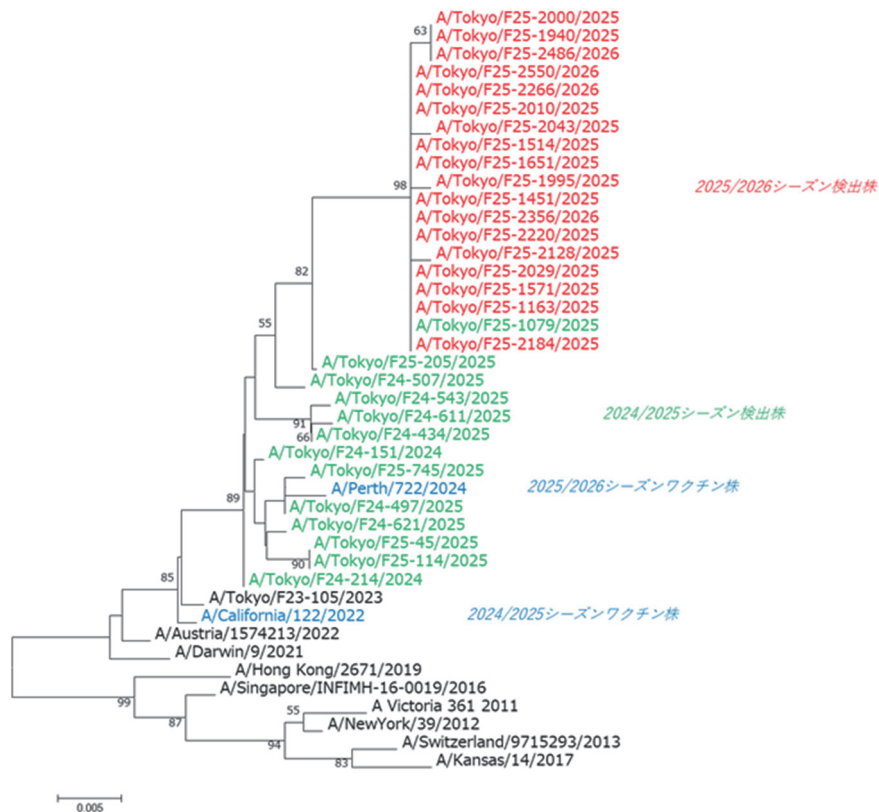


図 6. 東京都における AH3 亜型インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

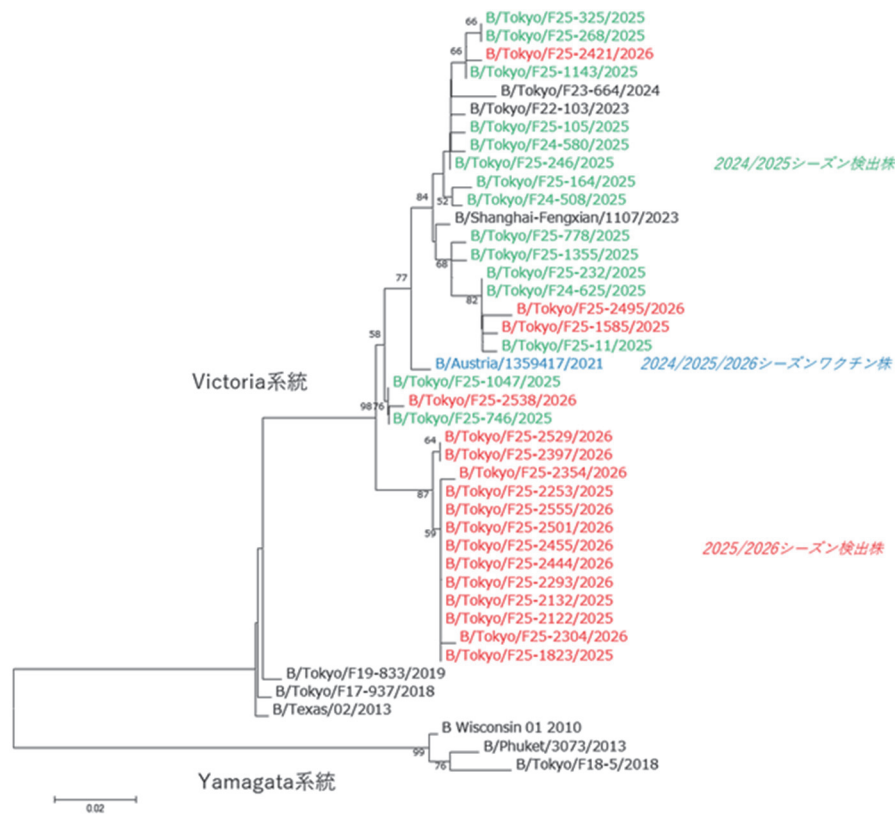


図 7. 東京都における B 型インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

イ 新型コロナウイルス

ARI 定点医療機関から当センターに搬入された患者検体 2,257 件について新型コロナウイルス遺伝子検査を実施した。その結果、239 件から新型コロナウイルス遺伝子が検出された。全ゲノム解析が可能だった 190 件の遺伝子型の内訳は NB.1.8.1 が 155 件、XEC が 13 件、XEV が 1 件、XFC が 2 件、XFG が 7 件、LP.8.1 が 7 件、LF.7 が 3 件、KP.3.1.1 が 2 件だった (図 8)。

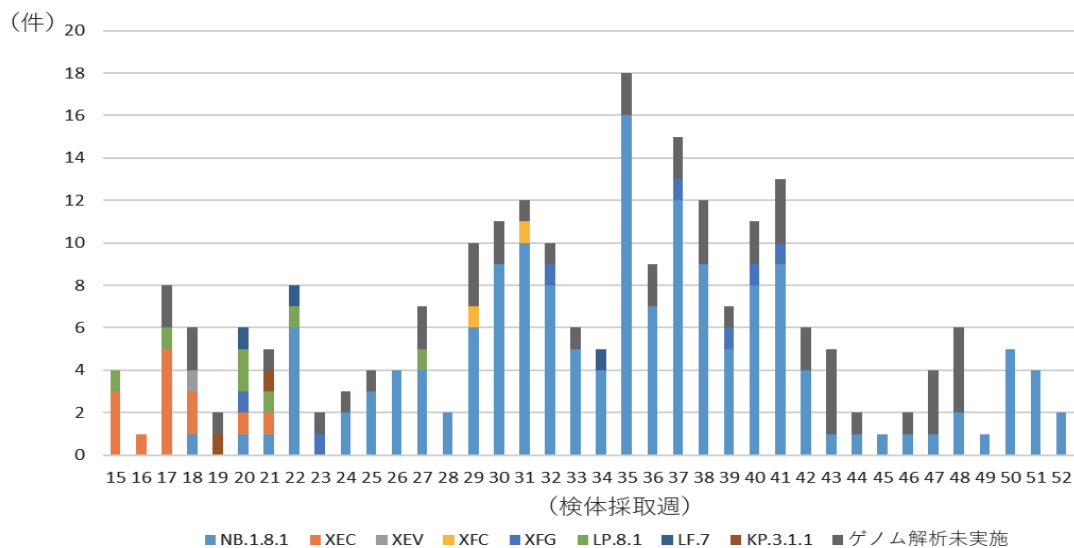


図 8. ARI ウイルス感染症患者検体からの新型コロナウイルス検出状況

ウ ヒトメタニューモウイルス

ARI 定点医療機関から当センターに搬入された患者検体 2,254 件についてヒトメタニューモウイルスの遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。2,254 件中 36 件からヒトメタニューモウイルスが検出された（図 9）。分離試験では、6 株分離された。

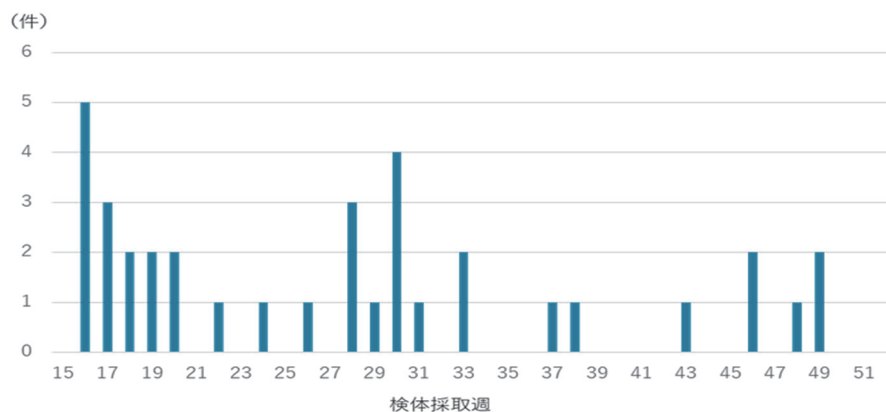


図 9. ARI ウイルス感染症患者検体からのヒトメタニューモウイルス検出状況

エ RS ウイルス

当センターに搬入された ARI ウイルス感染症患者検体 2,257 件について RS ウイルスの遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。2,257 件中 177 件から RS ウイルス遺伝子（A 型 57 件、B 型 122 件）が検出された。分離試験では、RS ウイルス A 型が 13 株、RS ウイルス B 型が 36 株分離された（表 1、図 10）。

表 1. ARI ウイルス感染症患者検体から検出された RS ウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出件数	分離株数
RSウイルスA型	57	13
RSウイルスB型	122	36
陰性	2,080	128

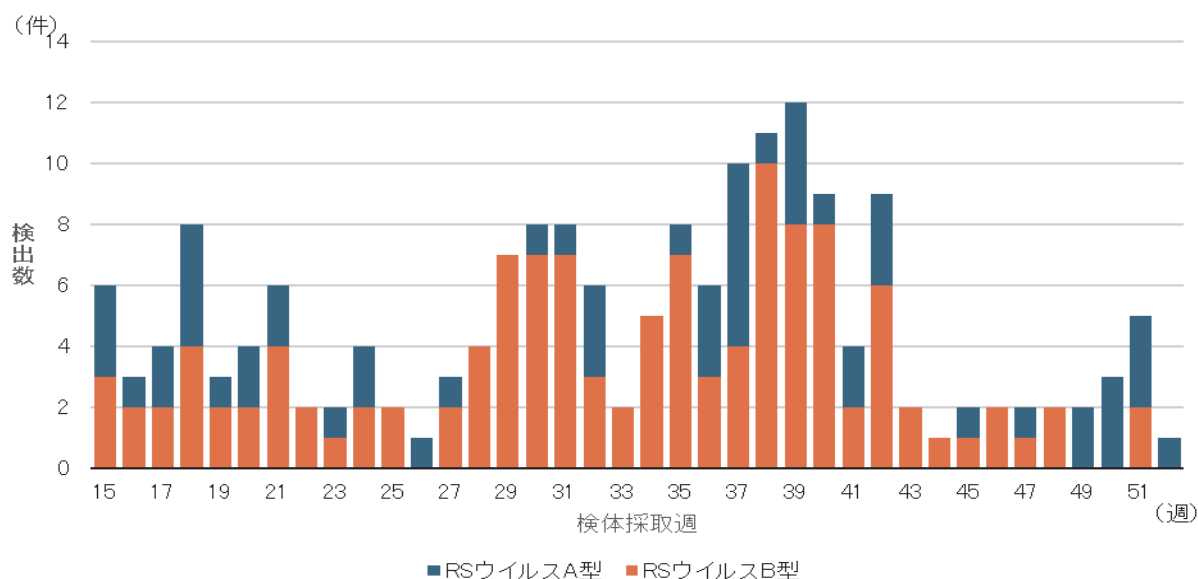


図 10. ARI ウイルス感染症患者検体からの RS ウイルス検出状況（重複検出を含む）

オ ヒトパラインフルエンザウイルス

ARI 定点医療機関から当センターに搬入された患者検体 2,257 検体についてヒトパラインフルエンザウイルスの遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。2,257 件中ヒトパラインフルエンザウイルス 1 型が 24 件、ヒトパラインフルエンザウイルス 2 型が 41 件、ヒトパラインフルエンザウイルス 3 型が 134 件、ヒトパラインフルエンザウイルス 4 型が 84 件検出された（重複感染を含む）。分離検査では、ヒトパラインフルエンザウイルス 2 型が 20 件分離された（表 2、図 11）。

表 2. ヒトパラインフルエンザウイルス感染症患者検体から検出されたウイルスの内訳
（重複検出を含む）

	遺伝子検出件数	分離件数
ヒトパラインフルエンザウイルス1型	24	
ヒトパラインフルエンザウイルス2型	41	20
ヒトパラインフルエンザウイルス3型	134	
ヒトパラインフルエンザウイルス4型	84	
陰性	1,974	263

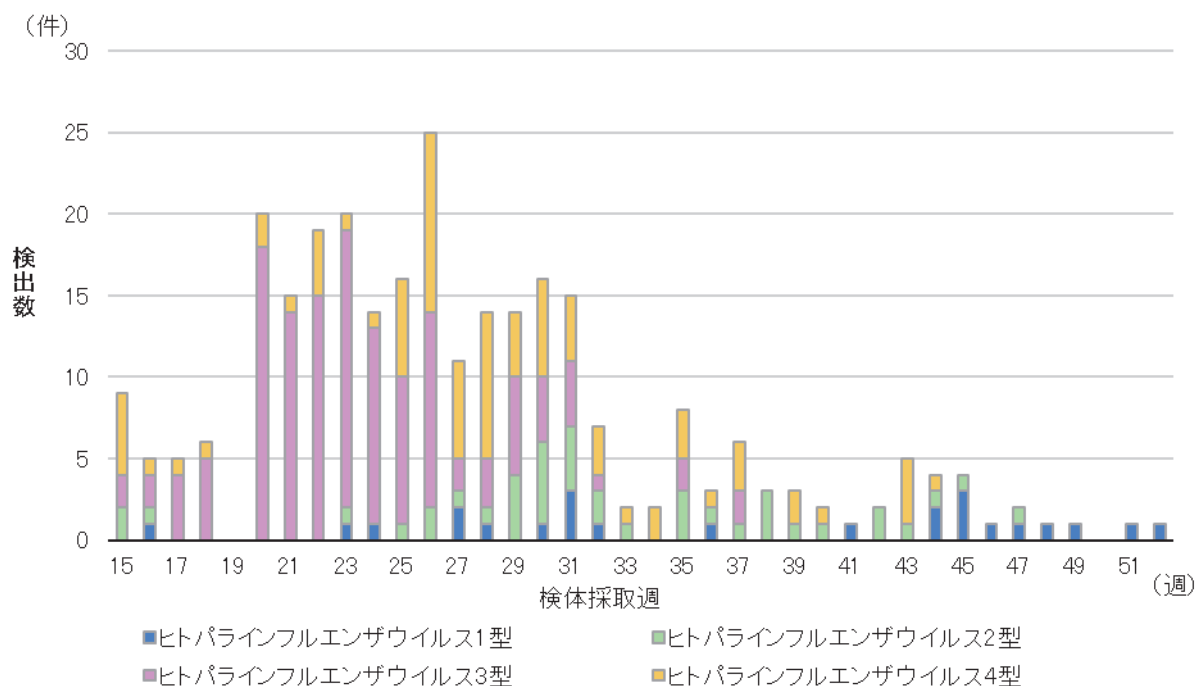


図 11. ヒトパラインフルエンザウイルス感染症患者検体からのウイルス検出状況（重複検出を含む）

カ ライノ／エンテロウイルス

当センターに搬入された患者検体 2,257 件について、ライノウイルス、エンテロウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。遺伝子検査では、2,257 件中 654 件からライノ／エンテロウイルスを検出した。そのうち、ライノウイルスが 598 件、コクサッキーウイルス A 群 2 型が 5 件、同 4 型が 33 件、同 5 型が 3 件、同 6 型が 1 件、同 9 型が 1 件、同 10 型が 1 件、同 21 型が 1 件、エコーウイルス 3 型が 2 件、エコーウイルス 7 型が 2 件、エコーウイルス 9 型が 6 件、エコーウイルス 18 型

が1件、型別不能が1件であった（重複検出を含む）。分離試験では、ライノウイルスが12株、コクサッキーウイルスA群2型が2株、同4型が25株、同6型が1株、同9型が1株、同21型が1株、エコーウイルス3型が2株、エコーウイルス9型が2株、エコーウイルス18型が1株分離された（表3、図12）。

表3. ARI 定点医療機関の検体から検出されたライノ／エンテロウイルスの内訳

	遺伝子検出件数	分離株数
ライノウイルス	598	12
コクサッキーウイルスA群2型	5	2
コクサッキーウイルスA群4型	33	25
コクサッキーウイルスA群5型	3	
コクサッキーウイルスA群6型	1	1
コクサッキーウイルスA群9型	1	1
コクサッキーウイルスA群10型	1	
コクサッキーウイルスA群21型	1	1
エコーウイルス3型	2	2
エコーウイルス7型	2	
エコーウイルス9型	6	2
エコーウイルス18型	11	10
エンテロウイルス（型別不能）	1	

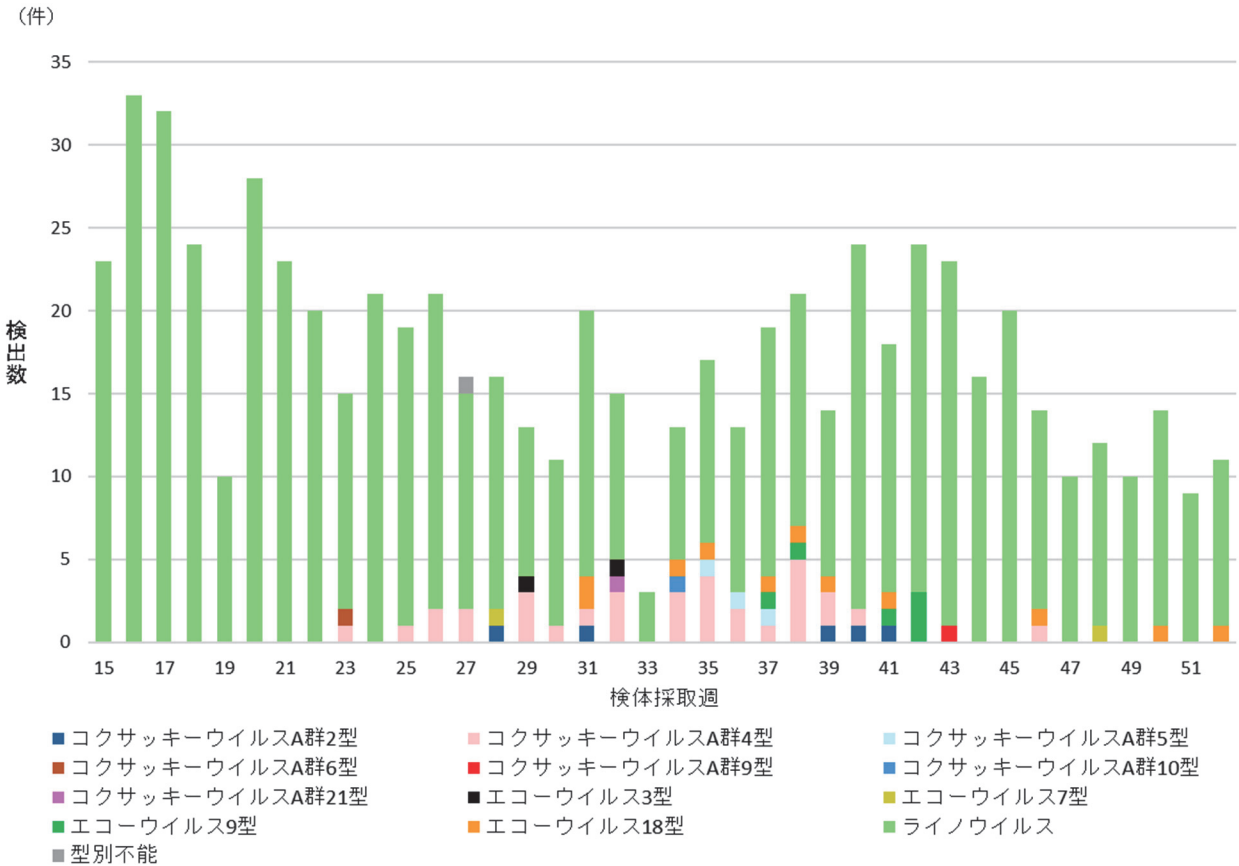


図12. ARI 定点医療機関の検体からのライノ／エンテロウイルス検出状況

キ アデノウイルス

当センターに搬入された患者検体 2,257 件についてアデノウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。その結果、2,257 件中 106 件からアデノウイルス遺伝子（1 型：20 件、2 型：63 件、5 型：8 件、6 型：5 件、41 型：2 件、54 型：8 件）が検出された。分離試験では、アデノウイルス 1 型が 10 株、2 型が 34 株、5 型が 4 株、6 型が 2 株、54 型が 1 株分離された（表 4、図 13）。

表 4. ARI 定点医療機関の検体から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出件数	分離件数
アデノウイルス1型	20	10
アデノウイルス2型	63	34
アデノウイルス5型	8	4
アデノウイルス6型	5	2
アデノウイルス41型	2	
アデノウイルス54型	8	1

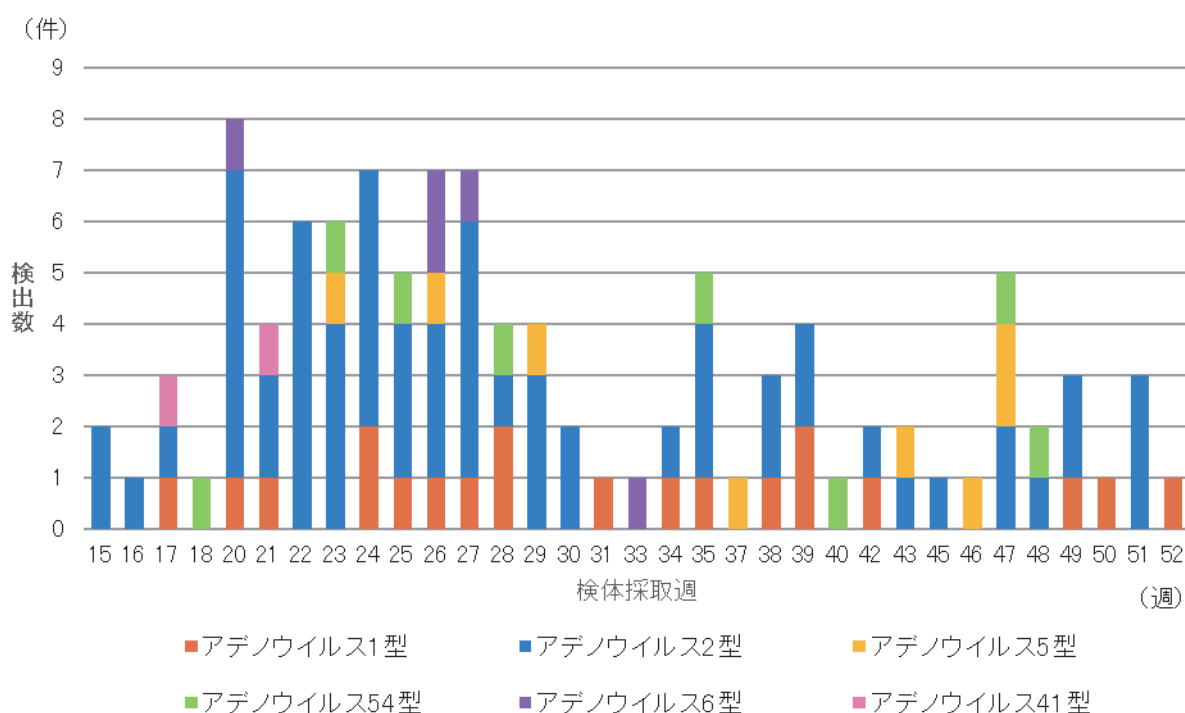


図 13. ARI 定点医療機関の検体からのウイルス検出状況（重複検出を含む）

ク その他のウイルス

当センターに搬入された患者検体 2,257 件について、ARI サーベイランス対象ウイルス以外の感染が疑われる検体を対象に、パレコウイルス A やヒトヘルペスウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。その結果、パレコウイルス A が 3 件、ヒトパルボウイルス B19 が 2 件、ヒトヘルペス 6 型、EB ウイルスがそれぞれ 1 件検出された。分離試験では、パレコウイルス A が 3 株分離された。

（２） 小児科・基幹病原体定点医療機関からの搬入検体

ア 感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は流行時期に合わせ、毎年第 36 週から翌年の第 35 週までの 1 年間を流行シーズンとしているため、2025 年第 1 週～第 35 週は 2024/2025 年シーズン、第 36 週～第 52 週は 2025/2026 年シーズンとなる。

小児科定点医療機関及び基幹定点医療機関において感染性胃腸炎と診断され、当センターに搬入された患者検体について、小児科定点の検体についてはノロウイルス、サポウイルス、A 群ロタウイルス、アデノウイルス及びアストロウイルス、基幹定点の検体については A 群ロタウイルス及び C 群ロタウイルスの遺伝子検査を実施している。

小児科定点医療機関から搬入された 114 件について検査を実施した結果、65 件からウイルスが検出された。内訳は、ノロウイルスが最も多く 22 件、A 群ロタウイルスが 20 件、サポウイルスが 12 件、アデノウイルスが 7 件、アストロウイルスが 6 件であった。このうちノロウイルスと A 群ロタウイルスが重複検出されたものが 1 件、A 群ロタウイルスとアデノウイルスが重複検出されたものが 1 件あった（表 5、図 14）。ノロウイルスの遺伝子型については、GII.2 が 1 件、GII.3 が 2 件、GII.4 が 8 件、GII.17 が 11 件であった。A 群ロタウイルスの遺伝子型については、G1P[8]が 3 件、G3P[8]が 10 件、G8P[8]が 7 件であった。

基幹定点医療機関から搬入された 3 件について検査を実施した結果、3 件から A 群ロタウイルスが検出され、遺伝子型については、G3P[8]が 2 件、G8P[8]が 1 件であった。

表 5. 小児科定点の感染性胃腸炎患者から検出されたウイルス遺伝子の内訳（重複検出を含む）

検出遺伝子	検出数
ノロウイルス	22
A 群ロタウイルス	20
サポウイルス	12
アデノウイルス	7
アストロウイルス	6
計	65

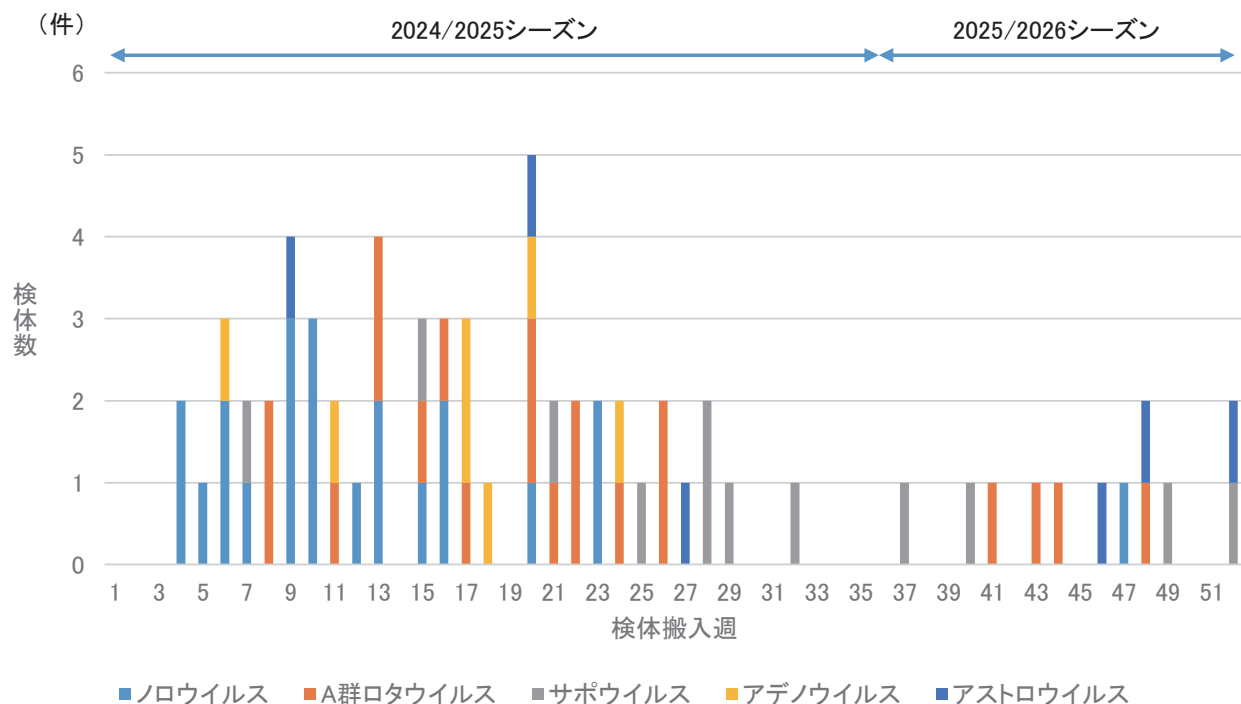


図 14. 小児科定点の感染性胃腸炎患者からのウイルス遺伝子検出状況（重複検出を含む）

イ 水痘

小児科定点医療機関で水痘と診断され当センターに搬入された患者検体 18 件について、水痘带状疱疹ウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。遺伝子検査では、水痘带状疱疹ウイルスが 12 件、麻しんウイルス A 型（ワクチン類似株）が 1 件検出された。分離試験では、ウイルスは分離されなかった（表 6、図 15）。

表 6. 水痘患者検体から検出されたウイルス遺伝子の内訳

	遺伝子検出件数	分離株数
水痘带状疱疹ウイルス	12	
麻しんウイルスA型(ワクチン類似株)	1	
陰性	5	18

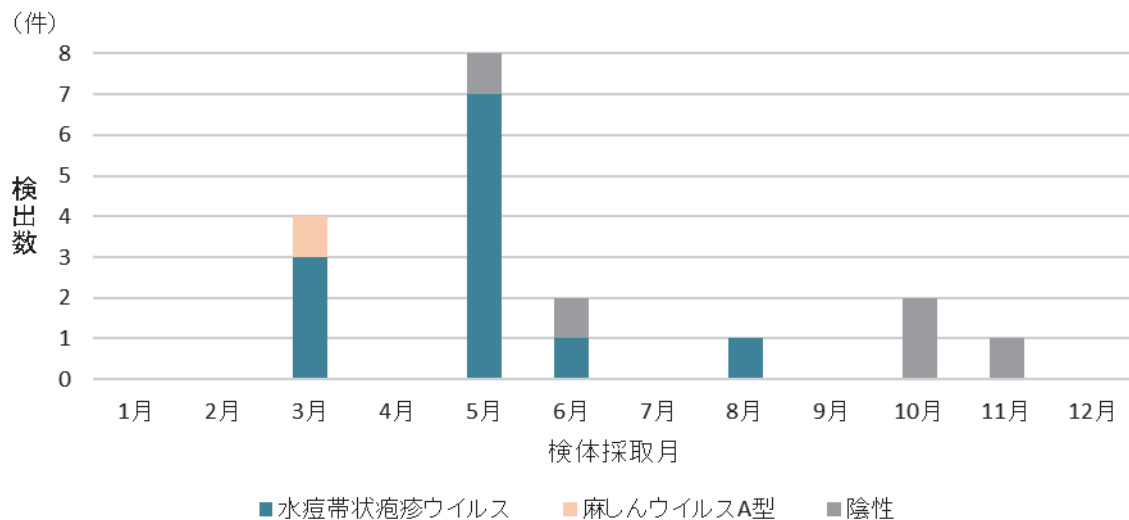


図 15. 水痘患者検体からのウイルス検出状況

ウ 手足口病

小児科定点医療機関で手足口病と診断され、当センターに搬入された患者検体 16 件について、エンテロウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。遺伝子検査において検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルス A 群 6 型が 1 件、エコーウイルス 18 型が 3 件、型別不能が 1 件であった。また、ライノウイルスが 3 件、RS ウイルス B 型が 1 件、パレコウイルス A が 1 件検出された。分離試験ではコクサッキーウイルス A 群 6 型が 1 株、エコーウイルス 18 型が 4 株、RS ウイルス B 型が 1 株、パレコウイルス A が 1 株分離された（表 7、図 16）。

表 7. 手足口病患者検体から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出件数	分離株数
コクサッキーウイルスA群6型	1	1
エコーウイルス18型	3	4
エンテロウイルス(型別不能)	1	
ライノウイルス	3	
RSウイルスB型	1	1
パレコウイルスA	1	1
陰性	6	9

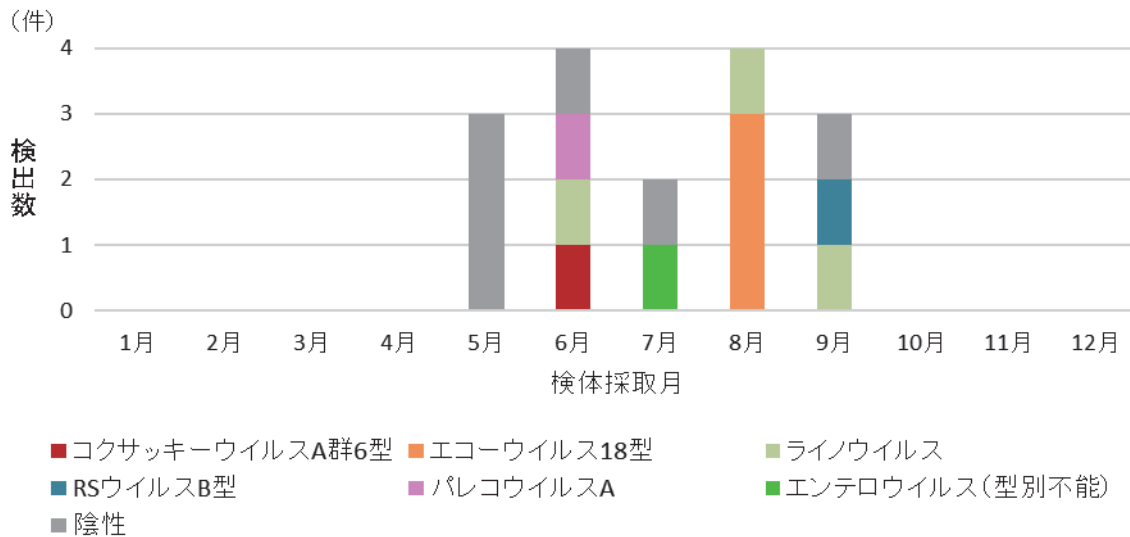


図 16. 手足口病患者検体からのウイルス検出状況

エ 伝染性紅斑

小児科定点医療機関で伝染性紅斑と診断され当センターに搬入された患者検体 24 件について遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。遺伝子検査では、ヒトパルボウイルス B19 が 18 件検出された。その他のウイルスでは、エコーウイルス 7 型が 1 件、ライノウイルスが 1 件検出された（重複検出を含む）。分離試験では、エコーウイルス 7 型が 1 株、ライノウイルスが 1 株分離された（表 8、図 17）。

表 8. 伝染性紅斑の患者から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出件数	分離株数
ヒトパルボウイルスB19	18	
エコーウイルス7型	1	1
ライノウイルス	1	1
陰性	1	22

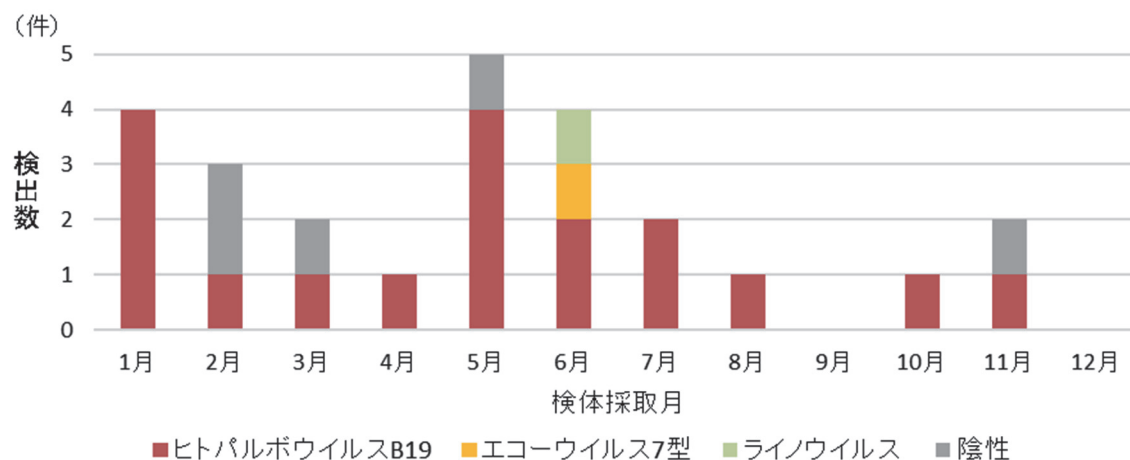


図 17. 伝染性紅斑患者検体からのウイルス検出状況（重複検出を含む）

オ 突発性発しん

小児科定点医療機関で突発性発しんと診断され、当センターに搬入された患者検体 21 件についてヒトヘルペスウイルス 6 型・7 型等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。遺伝子検査では、ヒトヘルペスウイルス 6 型が 12 件、ヒトヘルペスウイルス 7 型が 1 件検出された。また、RS ウイルス A 型が 1 件、コクサッキーウイルス A 群 6 型が 1 件、エコーウイルス 18 型が 1 件、パレコウイルス A が 1 件検出された。分離試験では、エコーウイルス 18 型が 1 株、パレコウイルス A が 1 株分離された（表 9、図 18）。

表 9. 突発性発しんの患者から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出件数	分離株数
ヒトヘルペスウイルス 6 型	12	
ヒトヘルペスウイルス 7 型	1	
RS ウイルス A 型	1	
コクサッキーウイルス A 群 6 型	1	
エコーウイルス 18 型	1	1
パレコウイルス A	1	1
陰性	4	19

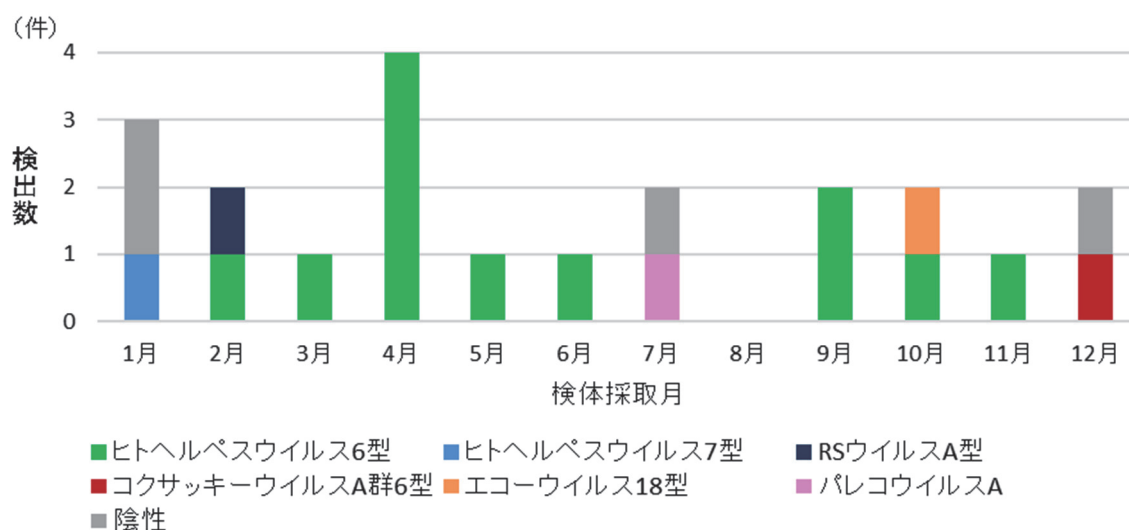


図 18. 突発性発しん患者検体からのウイルス検出状況

カ 流行性耳下腺炎

小児科定点医療機関で流行性耳下腺炎と診断され、当センターに搬入された患者検体 7 件についてムンプスウイルス、EB ウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。その結果、すべての検体でウイルスは検出されなかった。

キ 不明発しん症

小児科定点医療機関で不明発しん症と診断され、当センターに搬入された患者検体 95 件について

麻しんウイルス、風しんウイルス、ヒトパルボウイルス B19、エンテロウイルス、ヒトヘルペスウイルス 6 型・7 型等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。遺伝子検査では、58 件のウイルス遺伝子が検出された。最も多く検出されたのはヒトパルボウイルス B19 が 17 件で、次いでライノウイルスの 16 件、エンテロウイルス 14 件、ヒトヘルペスウイルス 6 型が 13 件、ヒトヘルペスウイルス 7 型が 2 件、加えてアデノウイルス 2 型、アデノウイルス 54 型、麻しんウイルス A 型（ワクチン類似株）、水痘帯状疱疹ウイルス、パレコウイルス A と新型コロナウイルスがそれぞれ 1 件検出された（重複検出を含む）。エンテロウイルスの内訳は、エコーウイルス 18 型が 12 件と、エコーウイルス 9 型 1 件、コクサッキーウイルス A 群 9 型 1 件であった。

分離試験では、エコーウイルス 18 型が 12 株、加えてコクサッキーウイルス A 群 9 型、アデノウイルス 2 型、アデノウイルス 54 型、パレコウイルス A、新型コロナウイルスがそれぞれ 1 株分離された（表 10、図 19）。

表 10. 不明発しん症患者検体から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出件数	分離株数
ヒトパルボウイルスB19	17	
ライノウイルス	16	
エコーウイルス18型	12	12
エコーウイルス9型	1	
コクサッキーウイルスA群9型	1	1
ヒトヘルペスウイルス6型	13	
ヒトヘルペスウイルス7型	2	
アデノウイルス2型	1	1
アデノウイルス54型	1	1
麻しんウイルスA型（ワクチン類似株）	1	
水痘帯状疱疹ウイルス	1	
パレコウイルスA	1	1
新型コロナウイルス	1	1
陰性	37	37

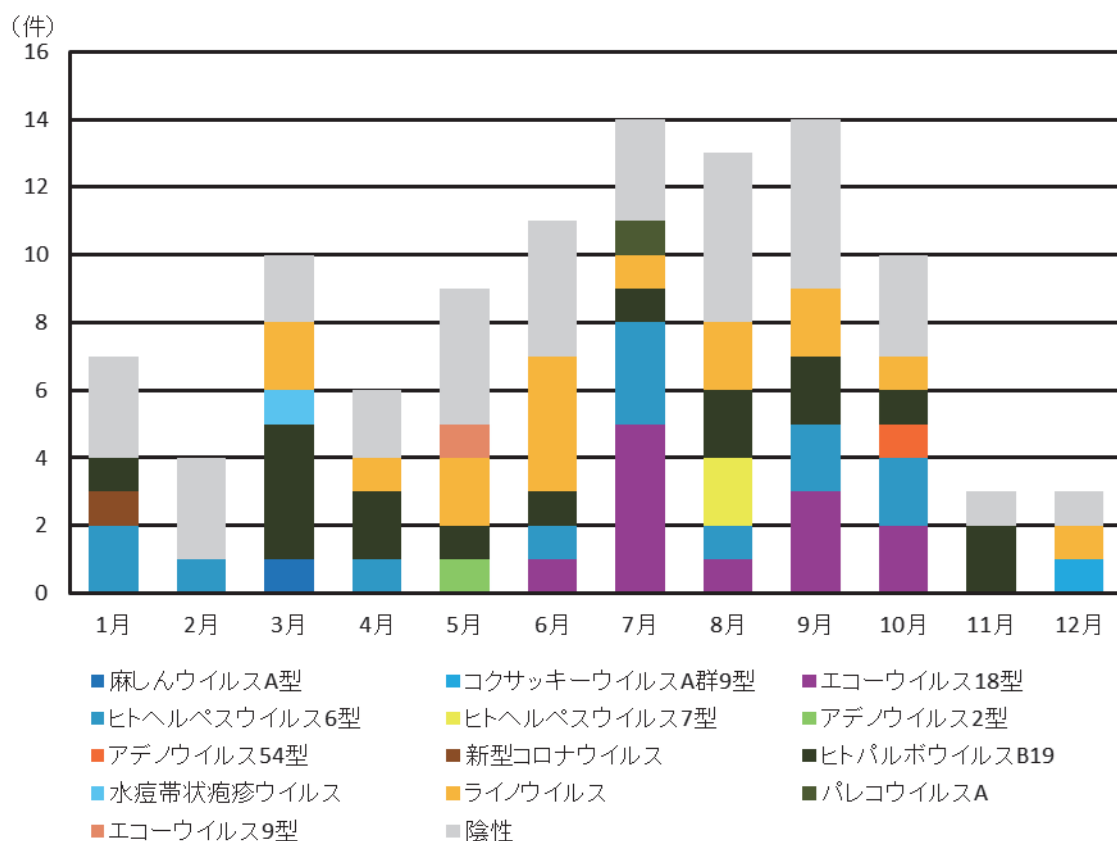


図 19. 不明発しん症患者検体からの月別ウイルス検出状況（重複検出を含む）

ク 川崎病

小児科定点医療機関で川崎病と診断され、当センターに搬入された患者検体 1 件についてアデノウイルス、エンテロウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。その結果、ウイルスは検出されなかった。

ケ 無菌性髄膜炎

基幹定点医療機関で無菌性髄膜炎と診断され、当センターに搬入された患者検体 6 件についてエンテロウイルス、パレコウイルス A 型、ムンプスウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。その結果、ムンプスウイルス（ワクチン類似株）遺伝子が 1 件、水痘帯状疱疹ウイルス遺伝子が 1 件検出された。分離試験では、すべての検体でウイルスは検出されなかった。

コ RS ウイルス感染症（第 14 週まで）

小児科定点医療機関で第 1 週から第 14 週の間で RS ウイルス感染症と診断され、当センターに搬入された患者検体 4 件について RS ウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。4 件中 3 件から RS ウイルス遺伝子（A 型 1 件、B 型 2 件）が検出された。また、ヒトメタニューモウイルスが 1 件検出された。分離試験では、すべての検体でウイルスは検出されなかった（表 11、図 20）。

表 11. RS ウイルス感染症患者検体から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出件数	分離株数
RSウイルスA型	1	
RSウイルスB型	2	
ヒトメタニューモウイルス	1	
陰性		4

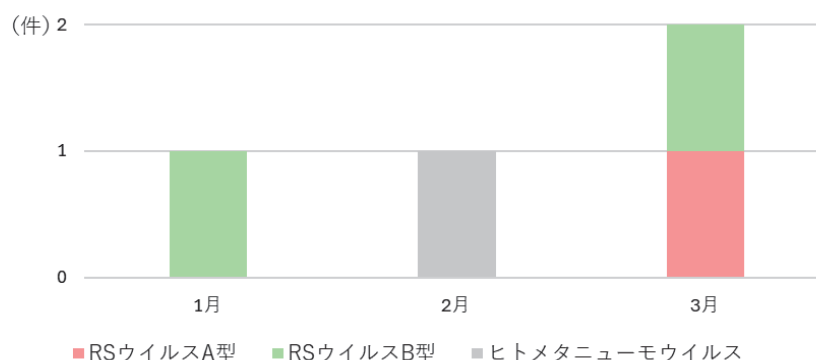


図 20. RS ウイルス感染症患者検体からのウイルス検出状況

サ ヘルパンギーナ（第 14 週まで）

小児科定点医療機関で第 1 週から第 14 週の間でヘルパンギーナと診断され、当センターに搬入された患者検体 1 件についてエンテロウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。遺伝子検査及び分離試験でウイルスは検出されなかった（表 12）。

表 12. ヘルパンギーナ患者検体から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出件数	分離株数
エンテロウイルス		
陰性	1	1

シ 咽頭結膜熱（第 14 週まで）

小児科定点医療機関で咽頭結膜熱と診断され、当センターに搬入された患者検体 1 件についてアデノウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。その結果、アデノウイルス 5 型の遺伝子が検出された。分離試験では、アデノウイルス 5 型が分離された（表 13）。

表 13. 咽頭結膜熱患者検体から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出件数	分離株数
アデノウイルス5型	1	1
陰性		

（３）眼科病原体定点医療機関からの搬入検体

ア 流行性角結膜炎

定点医療機関で流行性角結膜炎と診断され当センターに搬入された患者検体 74 件についてアデノウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。74 件中 49 件からアデノウイルス遺伝子（8 型：4 件、54 型：21 型、56 型：1 件、64 型：2 型、D 種：21 件）が、エコーウイルス 18 型が 1 件検出された（表 14、図 21）。分離試験では、アデノウイルス 8 型が 4 株、54 型：13 型、56 型：1 件、64 型：2 型、D 種が 15 株のほか、エコーウイルス 18 型が 1 株分離された。

表 14. 流行性角結膜炎患者検体から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出件数	分離件数
アデノウイルス8型	4	4
アデノウイルス54型	21	13
アデノウイルス56型	1	1
アデノウイルス64型	2	2
アデノウイルスD種	21	15
エコーウイルス18型	1	1
陰性	25	39

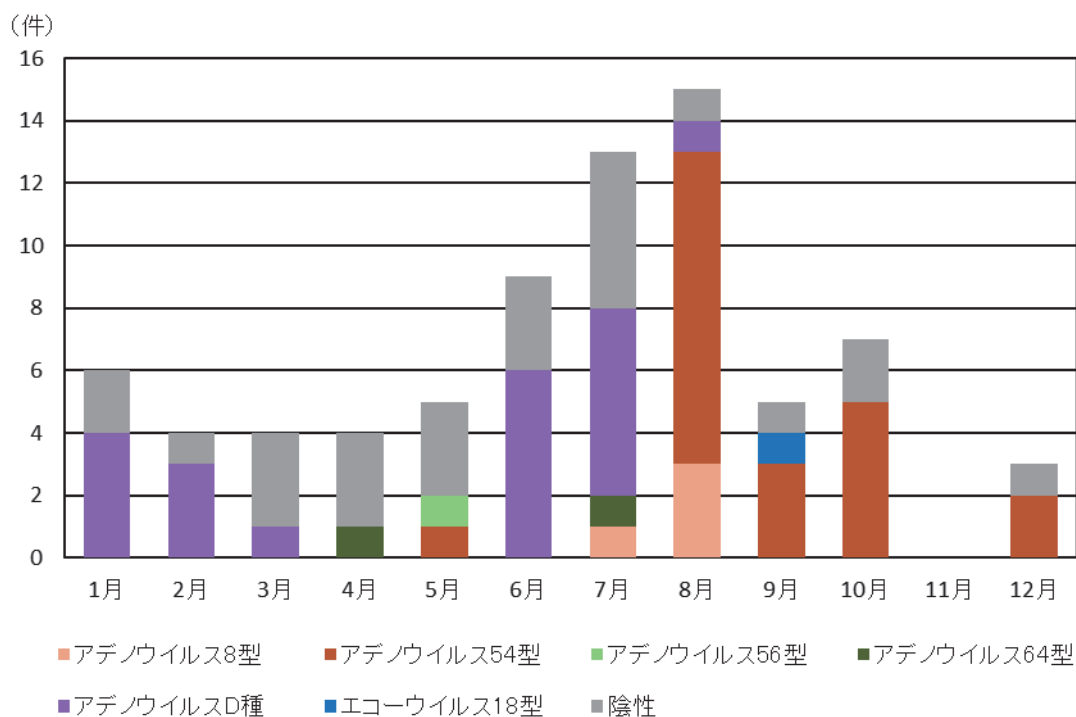


図 21. 流行性角結膜炎患者検体からのウイルス検出状況

（４）性感染症（STI）病原体定点医療機関からの搬入検体

ア 性器ヘルペスウイルス感染症

STI 病原体定点医療機関から 2 件（主として性器ヘルペスウイルス感染症を疑う患者の水疱内容物）が搬入された。このうち 1 件から単純ヘルペスウイルス 2 型の遺伝子が検出された。

イ 尖圭コンジローマ

STI 病原体定点医療機関から 4 件（尖圭コンジローマ部位擦過物、又は尖圭コンジローマ患部生検材料）が搬入され、このうち 2 件からヒトパピローマウイルス遺伝子が検出された。いずれも子宮頸がん等のリスク評価分類で Low リスクに分類された [11 型：2 件]。

（５）積極的疫学調査による搬入検体

ア 二類感染症

① 中東呼吸器症候群（MERS（Middle East respiratory syndrome）コロナウイルス）

都内医療機関で MERS が疑われ、当センターに搬入された患者検体はなかった。

② 鳥インフルエンザ（A/H5N1 亜型、A/H7N9 亜型）

都内医療機関で鳥インフルエンザが疑われ、当センターに搬入された患者検体はなかった。

イ 四類感染症

① A 型肝炎

医療機関で A 型肝炎と診断され、当センターに搬入された患者検体 16 件について遺伝子検査を実施した。13 件から A 型肝炎ウイルス遺伝子が検出され、これらについて遺伝子解析を行った結果、遺伝子型は IA 型が 8 件、IB 型が 3 件、IIIA 型が 2 件であった。

② E 型肝炎

医療機関で E 型肝炎と診断され、当センターに搬入された患者検体 113 件について遺伝子検査を実施した。62 件から E 型肝炎ウイルス遺伝子が検出され、これらについて遺伝子解析を行った結果、遺伝子型は 3 型が 59 件、4 型が 3 件であった。

③ 蚊媒介感染症（デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、日本脳炎）

都内の医療機関でデング熱と診断、またはデング熱等の蚊媒介感染症疑いと診断され、当センターに搬入された患者 52 例 65 検体について検査を実施した。その結果、海外感染疑い例のうち 35 例からデングウイルス遺伝子（1 型 13 例、2 型 14 例、3 型 6 例、4 型 2 例）が検出され、1 例からチクングニアウイルス遺伝子が検出された。なお、ジカウイルス遺伝子およびウエストナイルウイルス遺伝子は検出されなかった。また、国内感染を疑う検体は搬入されなかった。

④ リケッチア等関連疾患（Q 熱、つつが虫病、日本紅斑熱、発しんチフス、ライム病）

都内の医療機関でリケッチア等関連疾患と診断され当センターに搬入された患者検体 28 例（つつが虫病 9 例 15 検体、日本紅斑熱 4 例 4 検体、つつが虫・日本紅斑熱疑い 8 例 8 検体、日本紅斑熱・ライム病・回帰熱疑い 1 例 1 検体、ライム病疑い 3 例 4 検体、Q 熱 2 例 2 検体、ライム病・回帰熱疑い 1 例 1 検体）

について検査を実施した。つつが虫病患者9例について遺伝子検査を行ったところ5例から*Orientia tsutsugamushi*の遺伝子が検出された（Kawasaki株系統遺伝子1例、Kuroki株系統3例、Karp株系統1例）。また、日本紅斑熱疑いの患者4例について遺伝子検査を行った結果*Rickettsia japonica*遺伝子は検出されなかった。つつが虫病・日本紅斑熱疑い8例について、リケッチア属共通PCR及びつつが虫病遺伝子検査を実施したが、*Rickettsia japonica*遺伝子及び*Orientia tsutsugamushi*の遺伝子は検出されなかった。その他、ライム病を疑う3例について抗体検査を実施したところ、1例でライム病ボレリアに対するIgG抗体の上昇が認められたが、血清中からボレリア属遺伝子は検出されなかった。また、Q熱2例について、*Coxiella burnetii* PCRを実施したが、*Coxiella burnetii*遺伝子は検出されなかった。ライム病・回帰熱疑い1例について抗体検査を実施したが、いずれも陰性であった。

⑤ エムボックス

都内の医療機関でエムボックス疑いと診断され、当センターに搬入された患者32例56検体についてエムボックスウイルス及び水痘帯状疱疹ウイルスの遺伝子検査を行った。その結果、エムボックスウイルス遺伝子が17例から検出され、水痘帯状疱疹ウイルスは検出されなかった。

ウ 五類感染症（全数把握疾患）

① 急性脳炎

都内の医療機関で急性脳炎と診断され、当センターに搬入された患者検体はなかった。

② 水痘（入院を要するもの）

都内の医療機関で水痘と診断され入院に至った事例で、当センターに搬入された患者検体9例10検体について水痘帯状疱疹ウイルスの遺伝子検査を行ったところ、水痘帯状疱疹ウイルス遺伝子が9例から検出された。

③ 急性弛緩性麻痺

都内の医療機関で急性弛緩性麻痺と診断され、当センターに搬入された患者2例8検体（咽頭ぬぐい検体、糞便等）についてエンテロウイルスの遺伝子検査を実施した。その結果、ライノウイルス遺伝子が1例から検出された。

④ 麻しん及び風しん

都内医療機関で麻しん、あるいは風しん（疑い含む）と診断され、当センターに搬入された患者311例336検体について麻しんウイルス及び風しんウイルスの遺伝子検査を実施した。その結果、麻しんウイルス遺伝子が39例（B3型：29例、D8型：5例、A型ワクチン類似株：4例、型別不能：1例）、風しんウイルス遺伝子は1例（1a型ワクチン類似株：1例）検出された。

また、麻しん及び風しんウイルスが陰性となった検体240件について、病原体レファレンス事業によりヒトパルボウイルスB19等の遺伝子検査を実施した。その結果、ヒトパルボウイルスB19遺伝子が36件、ヒトヘルペスウイルス6型遺伝子が15件、ヒトヘルペスウイルス7型遺伝子が4件検出された。

2 細菌検査結果

(1) 急性呼吸器感染症 (ARI) 定点医療機関からの搬入検体

ア 五類感染症（定点把握対象）の病原体検索

急性呼吸器感染症定点医療機関から咽頭スワブ 101 検体、鼻腔スワブ 45 検体、計 146 検体が搬入された。A 群溶血性レンサ球菌が 40 株分離され、T 血清型別試験を実施した結果、4 型が 14 株、3 型が 11 株、11 型、25 型および B3264 型が各 2 株ずつ、12 型が 1 株であり、型別不能が 8 株であった。また、肺炎マイコプラズマ遺伝子が 14 検体から検出された。百日咳菌遺伝子は 6 検体から検出され、そのうちの 1 検体から百日咳菌が分離され、マクロライド耐性変異を保有していた。また、1 検体から G 群溶血性レンサ球菌が分離された。1 検体から 2 種類の病原体が検出された検体は 2 検体であった。

(2) 二類感染症の病原体検索

ア ジフテリア

令和 7 年中にジフテリア検体の搬入はなかった。

(3) 四類感染症の病原体検索

ア レジオネラ症

患者由来株 13 株（13 事例）が搬入され、血清型別試験を実施した結果、*Legionella pneumophila* 1 群が 9 株、3 群が 1 株、5 群が 1 株、6 群が 2 株であった。また、患者喀痰 1 件（1 事例）が搬入され、分離培養と遺伝子検査を実施した結果、培養陽性、遺伝子陽性であり、分離菌株の血清型は 1 群であった。

(4) 五類感染症（全数把握対象）の病原体検索

ア カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

患者由来株 100 株（96 事例）が搬入された。菌株の内訳は、*Klebsiella pneumoniae* が最も多く 27 株、次いで *Escherichia coli* が 25 株、*Enterobacter cloacae* が 18 株、*Klebsiella aerogenes* が 16 株であった。その他、*Serratia marcescens*、*Citrobacter freundii* など 14 株が搬入された。

PCR 法による β -ラクタマーゼ遺伝子の検出を実施した結果、NDM 遺伝子保有株が 9 株であった。また、IMP 遺伝子保有株が 29 株、KPC 遺伝子保有株が 4 株、OXA-48 遺伝子保有株が 3 株、GES 遺伝子保有株が 2 株、CTX-M-1 group 遺伝子保有株が 26 株、CTX-M-2 group 遺伝子保有株が 6 株、CTX-M-9 group 遺伝子保有株が 12 株、EBC 遺伝子保有株が 7 株、CIT 遺伝子保有株が 4 株、DHA 遺伝子保有株が 6 株であった。また、検査したいずれの耐性遺伝子も保有していなかった株は 20 株であった。

イ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

患者由来株 137 株（130 事例）が搬入され、Lancefield 分類による群別の結果、A 群が 70 株、B 群が 20 株、C 群が 2 株、F 群が 2 株、G 群が 42 株であり、1 株は死滅しており検査不能であった。

A 群のうち 69 株が *Streptococcus pyogenes* であり、1 株は *Streptococcus dysgalactiae* ssp. *equisimilis* (SDSE) であった。B 群レンサ球菌 20 株はすべて *Streptococcus agalactiae* であり、C 群の 1 株及び G 群は SDSE、F 群レンサ球菌は *Streptococcus constellatus*、C 群の残り 1 株は *Streptococcus* sp. であった。（表 15）。*S. pyogenes* と *S. agalactiae* について型別用免疫血清を用いた血清型別を実施した。*S. pyogenes* では T 血清型別の結果、B3264 型が 11 株で最も多く、次いで 1 型が 7 株、4 型が 5 株、14/49 型が 4 株、3 型、11 型、22 型がそれぞれ 3 株ずつ、12 型が 2 株、25 型及び 28 型がそれぞれ 1 株ずつであり、型別不能が 29 株であった（表

16)。*S. agalactiae* 20 株の血清型は、V型が 7 株と最も多く、次いで Ia 型と Ib 型が各 3 株、II 型が 2 株、III 型、IV 型及び VII 型が各 1 株ずつであり、型別不能が 2 株であった (表 17)。

S. pyogenes 及び SDSE については、M タンパク又は M 様タンパクをコードする遺伝子により型別を決定する *emm* 型別を実施した。その結果、*S. pyogenes* では、89 型が 16 株と最も多く、次いで 49 型が 14 株、3 型が 9 株、81 型が 8 株などであり、昨年最も多かった 1 型は、7 株であった (表 16)。*SDSE* 44 株では、stG6792 型が 10 株で最も多く、次いで stG485 型が 8 株、stG245 型が 6 株、stG4222 型が 4 株などであった (表 18)。

また、令和 5 年末より M1_{UK} 株の増加がみられたことから、令和 6 年 1 月に厚生労働省により M1_{UK} 株についての解析を実施し報告するよう感染症対策課長通知が各都道府県に出された。これを受け、*emm1* 型株について M1_{UK} の検査を実施した。その結果、*emm1* 型株 7 株中 5 株が M1_{UK} 株であった。

表 15. 劇症型溶血性レンサ球菌感染症由来株の群別及び菌種名

菌種名	Lancefield 分類 群別					計
	A	B	C	F	G	
<i>S. pyogenes</i>	69					69
<i>S. agalactiae</i>		20				20
<i>S. dysgalactiae</i> ssp. <i>equisimilis</i>	1		1		42	44
<i>S. constellatus</i>				2		2
<i>Streptococcus</i> sp.			1			1
計	70	20	2	2	42	136

表 16. *Streptococcus pyogenes* の T 血清型及び *emm* 型

<i>emm</i> 型	T 型											計
	1	3	4	11	12	22	25	28	14/49	B3264	UT	
1	7											7
3		3									6	9
4			5									5
11				3								3
22											1	1
28								1				1
44											2	2
49									2		12	14
75							1					1
76					1							1
81						3			2		3	8
89										11	5	16
113					1							1
計	7	3	5	3	2	3	1	1	4	11	29	69

表 17. B 群レンサ球菌 (*Streptococcus agalactiae*) の血清型

血清型								計
Ia	Ib	II	III	IV	V	VII	型別不能	
3	3	2	1	1	7	1	2	20

表 18. *Streptococcus dysgalactiae* ssp. *equisimilis* の emm 型

emm 型									計
stG245	stG485	stG652	stG6792	stG4222	stG840	stG10	stG4974	stG653	その他*
6	8	2	10	4	3	2	2	2	5

*その他 (各 1 株) : stG6, stC74a, stC6979, stG480, stG166b

ウ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

患者由来のインフルエンザ菌 67 株 (65 事例) が搬入され、免疫血清及び PCR 法による血清型別試験を実施した結果、e 型が 2 株、f 型が 3 株、無莢膜型が 59 株、菌死滅による検査不能が 3 株であった。

エ 薬剤耐性アシネトバクター感染症

搬入された本疾患患者由来株は *Acinetobacter baumannii* 3 株 (3 事例) であり、PCR 法による耐性遺伝子の検出を実施した結果、OXA-51-like β -ラクタマーゼ遺伝子保有株が 3 株、OXA-23-like β -ラクタマーゼ遺伝子保有株が 1 株、プロモーター活性を有する挿入遺伝子領域 (ISAba1) 保有株が 2 株であった。

オ 侵襲性肺炎球菌感染症

患者由来の肺炎球菌 118 株 (116 事例) が搬入され、莢膜膨化法による血清型別試験を実施した結果は表 19 の通りであった。また、菌死滅による検査不能が 3 株であった。

表 19. 肺炎球菌の血清型別結果

血清型	株数	血清型	株数	血清型	株数
3	27	14	3	35F	2
22F	15	15A	3	7C	2
38	12	15B	3	8	1
24B	9	15C	3	13	1
10A	6	23A	3	16F	1
11A	5	23B	3	19F	1
19A	5	34	2	6B	1
24F	4	35B	2	6C	1

カ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症

搬入された菌株は患者由来 10 株（10 事例）であり、*Enterococcus faecium* が 8 株、*Enterococcus faecalis* が 2 株であった。PCR 法によるバンコマイシン耐性遺伝子の検出を実施した結果、全て *vanA* 遺伝子を保有していた。

VRE 感染症にともなう保菌者由来 *E. faecium* 12 株が搬入され、PCR 法によるバンコマイシン耐性遺伝子の検出を実施した結果、全て *vanA* 遺伝子を保有していた。

キ 侵襲性髄膜炎菌感染症

搬入された患者由来の髄膜炎菌は 14 株(13 事例)であり、PCR 法による血清群別を実施した結果、Y 群 7 株、B 群が 4 株、群別不能が 1 株、菌死滅による検査不能が 2 株となった。

侵襲性髄膜炎菌感染症にともなう接触者検査を 24 件実施し、遺伝子検査陽性 17 件、培養検査陽性 12 件であった。

ク 百日咳

搬入された患者由来の百日咳菌は 58 株（58 事例）であり、LAMP 法による百日咳菌同定検査及びマクロライド耐性変異検査を実施した結果、全株が百日咳菌と同定され、マクロライド耐性変異保有株が 45 株、マクロライド耐性変異非保有株が 12 株であった。また、1 株が菌死滅のため検査不能であった。

（５）五類感染症（定点把握対象）の病原体検索

ア A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

小児科定点医療機関から 61 件の咽頭スワブが搬入され、A 群溶血性レンサ球菌が 57 株分離された。T 血清型別試験を実施した結果、4 型が 27 株と最も多く、次いで 3 型：10 株、B3264 型：7 株、1 型：2 株、11 型及び 28 型が各 1 株ずつであり、型別不能が 9 株であった。

イ 感染性胃腸炎

小児科病原体定点から搬入された感染性胃腸炎疑いの患者糞便 3 件について腸管系の細菌検査を実施した結果、全て陰性であった。

ウ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症

基幹定点医療機関の MRSA 感染症患者由来検体が 30 件搬入され、MRSA 28 株、MSSA 1 株が分離された。コアグラマーゼ型別試験を実施した結果、MRSA のコアグラマーゼ型は、I 型：1 株、II 型：2 株、III 型：13 株、VII 型：12 株であり、型別不能は 1 株であった。また、MSSA 1 株のコアグラマーゼ型は、I 型であった。

エ マイコプラズマ肺炎

基幹定点医療機関からマイコプラズマ肺炎患者検体の搬入はなかった。

（６）性感染症（STI）病原体定点医療機関からの搬入検体

2025 年 1 月から 12 月に都内 4 ヶ所の性感染症病原体定点医療機関（STI 定点）より 78 検体が搬入された。搬入検体の内訳は、男性：尿 71 例、女性：スワブ 3 例、性別不明：尿 4 例であった（表 20、21）。それらについて、クラミジア・トラコマチス、淋菌等の検査を実施した。

ア クラミジア・トラコマチスおよび淋菌

尿およびスワブ 77 検体についてクラミジア・トラコマチスおよび淋菌の遺伝子検査を実施した。性別および年齢階級別の病原体検査成績を表 17 に示した。クラミジア・トラコマチスについては、男性 17 例（23.9%）、女性 1 例（50.0%）が陽性を示した。淋菌は男性 17 例（23.9%）が陽性を示し、女性では陽性例は見られなかった。クラミジアと淋菌の遺伝子が共に検出された例は見られなかった。性別不明を含めて淋菌遺伝子が検出された 18 例のうち 8 例（44.4%）から淋菌が分離された。

性別および臨床診断別の病原体検査結果を表 18 に示した。男性では、性器クラミジア感染症と診断された 65 例中 16 例（24.6%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、15 例（23.1%）から淋菌遺伝子が検出され、うち 6 例（40.0%）から淋菌が分離された。また、淋菌感染症と診断された 6 例中 1 例（16.7%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、2 例（33.3%）から淋菌遺伝子が検出され、淋菌遺伝子が検出された 2 例中 1 例（50.0%）から淋菌が分離された。女性では、性器クラミジア感染症と診断された 2 例中 1 例（50.0%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出された。

イ 膣トリコモナス

膣トリコモナスが疑われた女性のスワブ 1 例について遺伝子検査を行った結果、膣トリコモナス遺伝子が検出された。

表 20. 性別および年齢階級別の病原体検査結果

性別	年齢階級	検体数	遺伝子検査陽性			分離培養陽性
			クラミジア・ トラコマチス	淋菌	膣トリコモナス	淋菌
男性	10 歳代	1				
	20 歳代	22	8	3		1
	30 歳代	22	6	9		5
	40 歳代	17	1	4		1
	50 歳代	5				
	60 歳代	2	1	1		
	70 歳代	1	1			
	80 歳代	1				
	計	71	17	17	0	7
女性	10 歳代	1			1	
	20 歳代	2	1			
	計	3	1	0	1	0
不明	30 歳代	1	1			
	50 歳代	2		1		1
	70 歳代	1				
	計	4	1	1	0	1
合計		78	19	18	1	8

表 21. 性別および臨床診断別の病原体検査結果

	臨床診断 (疑い例含む)	検体数	遺伝子検査陽性			分離培養陽性
			クラミジア・ トラコマチス	淋菌	膣トリコモナス	淋菌
男性	性器クラミジア感染症	65	16	15		6
	淋菌感染症	6	1	2		1
	計	71	17	17	0	7
女性	性器クラミジア感染症	2	1			
	膣トリコモナス症	1			1	
	計	3	1	0	1	0
不明	性器クラミジア感染症	4	1	1		1
	淋菌感染症	0				
	計	4	1	1	0	1
合計		78	19	18	1	8

第 3 章

資 料

1 東京都感染症発生動向調査定点医療機関名簿

小児科（264定点）

2025年12月31日 現在

保健所名	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
千代田	滝医院	千代田区九段南4-3-1	
千代田	千代田加賀クリニック	千代田区神田神保町1-35	
千代田	東京通信病院	千代田区富士見2-14-23	○ *
中央区	小坂こども元気クリニック	中央区佃1-9-3	
中央区	わたなべこどもクリニック	中央区月島1-8-1 アイ・マークタワー202	2025年3月31日まで
	勝どき小児クリニック	中央区勝どき1-3-1 Brillia ist Tower 勝どき3階	2025年4月1日から
中央区	塙小児科医院	中央区日本橋浜町2-20-2	
みなと	ぼれぼれクリニック	港区高輪1-5-21 ルート高輪ビル4F	○
みなと	とようら小児科	港区芝浦3-11-5 第三協栄ビル2階	
みなと	サニーガーデンこどもクリニック	港区麻布十番2-16-4 プラスワンビル3F	
みなと	白金タワークリニック	港区白金1-17-1-106	
みなと	南青山おおつかクリニック	港区南青山4-9-17	
みなと	東京都済生会中央病院	港区三田1-4-17	○ *
新宿区	岡田小児科クリニック	新宿区大久保1-5-15	
新宿区	村橋医院	新宿区早稲田町73	
新宿区	若松皮ふ科こどもクリニック	新宿区余丁町10-8 第2浜崎ビル2階	
新宿区	オリエンタル診療所	新宿区西落合2-20-1 哲学堂公園ハイツ1-1	
新宿区	早稲田たけのこクリニック	新宿区早稲田鶴巻町518番地 第一石川ビル3階	
新宿区	(社)聖母会 聖母病院 小児科	新宿区中落合2-5-1	○ *
新宿区	星野こどもクリニック	新宿区中落合2-16-26	
新宿区	国立国際医療研究センター病院	新宿区戸山1-21-1	2025年4月1日 医療機関名称変更
	国立健康危機管理研究機構		
	国立国際医療センター		
文京	保坂こどもクリニック	文京区白山5-27-12	
文京	石原医院	文京区小日向1-6-6	
文京	大塚診療所	文京区湯島3-31-6	
文京	吉村小児科	文京区大塚2-18-6	2025年3月31日まで
	文京春日こどもクリニック	文京区小石川1-5-1 パークコート文京小石川ザタワー 3F	2025年4月1日から
台東	いりやキッズクリニック	台東区下谷3-11-12	
台東	柴田小児科医院	台東区松ヶ谷3-16-4	
台東	クローバーこどもクリニック	台東区蔵前4-20-4 蔵前4ビル1F	
台東	小川こどもクリニック	台東区浅草橋1-25-5 小川ハイム201	
墨田区	増田小児科	墨田区東駒形1-19-8	
墨田区	鈴木こどもクリニック	墨田区墨田4-45-1	○
墨田区	平野医院	墨田区立花6-1-14-1F	
墨田区	唐澤医院	墨田区立川1-12-13	
墨田区	にしじま小児科	墨田区京島1-23-16	
江東区	竹内小児科医院	江東区扇橋2-1-3 ET21ビル2F	
江東区	笠井小児クリニック	江東区大島9-5-1 コアシティ東大島103	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
江東区	のずえ小児科	江東区東雲1-9-11-102	
江東区	までのこうじクリニック	江東区東陽3-27-32 玉河ビル2階	
江東区	たけうちこどもクリニック	江東区豊洲4-9-13 東京フロントコート132号	
江東区	城田小児科医院	江東区門前仲町1-6-9	
江東区	あかちゃんとこどものクリニック カメイドクロック	江東区亀戸6-31-6 カメイドクロック4階	
江東区	おかもとこどもクリニック	江東区南砂2-32-5 センタービレッジ南砂2階	○
江東区	なおやこどもクリニック	江東区東砂7-19-13 ベルコモン南砂2F	
品川区	医療法人社団縁 のぞみクリニック	品川区北品川2-9-12	
品川区	宮平医院	品川区西五反田4-22-3	
品川区	林小児科内科医院	品川区大井3-6-12 NAビル2F	
品川区	村井こどもクリニック	品川区中延5-8-19	
品川区	鈴の木こどもクリニック	品川区戸越1-3-1 夢のこども館	
品川区	旗の台アレルギー・こどもクリニック	品川区旗の台2-1-22 もとまる2号館2階	
品川区	藤川医院	品川区大井7-29-2	
品川区	吉原医院	品川区戸越5-8-5	
目黒区	自由が丘メディカルプラザ	目黒区自由が丘2-11-16 日能研自由が丘ビル2F	
目黒区	目黒通りこどもクリニック	目黒区下目黒6-1-27 アメニティハウス 2F	
目黒区	田口医院	目黒区碑文谷6-7-4 KYレジデンス	
目黒区	井手小児科	目黒区目黒本町6-17-27	
目黒区	仲村医院	目黒区五本木1-8-9	
大田区	かげ山小児科	大田区池上7-14-11	
大田区	井上小児科医院	大田区山王3-30-2	
大田区	宮下クリニック	大田区大森中3-35-9	
大田区	田園小児科クリニック	大田区田園調布5-36-3	
大田区	鶉の木さくらクリニック	大田区鶉の木1-16-19	
大田区	原口小児科クリニック	大田区北糀谷1-11-8	
大田区	森岡小児科医院	大田区西六郷1-19-15	
大田区	医療法人社団 多摩おやこクリニック	大田区下丸子3-8-8 2F	
大田区	神川小児科クリニック	大田区本羽田1-6-22	
大田区	斎藤医院	大田区南馬込5-26-7	
大田区	どうどうクリニック	大田区仲池上1-31-13	○
大田区	うちやまこどもクリニック	大田区久が原3-36-13-3F	
大田区	城南チャイルド ゼネラルクリニック	大田区蒲田1-7-14	
世田谷	いなみ小児科	世田谷区下馬3-10-7	
世田谷	吉川小児科	世田谷区松原3-28-8-2階	
世田谷	橋本小児科医院	世田谷区祖師谷3-37-5	○
世田谷	かねみつ小児クリニック	世田谷区南鳥山4-7-14	
世田谷	小林クリニック	世田谷区喜多見2-10-3-101	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「＊」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
世田谷	山口小児科内科	世田谷区中町4-35-6	
世田谷	永井小児科内科医院	世田谷区深沢6-20-14	2025年10月31日まで
	医療法人社団のびた あのねコードモリにつく	世田谷区玉川台2-12-3	2025年11月1日から
世田谷	矢野こどもクリニック	世田谷区宮坂3-13-6 経堂すずらん会館1F	
世田谷	うめはらこどもクリニック	世田谷区太子堂3-38-18	
世田谷	つだ小児科クリニック	世田谷区世田谷4-5-8 アルス世田谷ネクステージ1F	
世田谷	えんどう小児科クリニック	世田谷区桜上水1-7-10 クールセリシエ1F	
世田谷	三宅小児科	世田谷区上北沢4-21-13	2025年3月31日まで
	おむすび小児科クリニック	世田谷区船橋4-17-1-1	2025年4月1日から
世田谷	直宮医院	世田谷区北沢3-11-14	
世田谷	白井医院	世田谷区成城5-7-12	
世田谷	用賀クリニック	世田谷区玉川台2-22-16 パークヒル用賀Ⅲ 1F	
世田谷	藤井医院	世田谷区奥沢1-38-19	
渋谷区	医療法人社団澤池会 坂本クリニック	渋谷区笹塚1-31-11 ピラージュ笹塚 1-101	
渋谷区	医療法人社団 育心会 稲垣クリニック	渋谷区代々木5-7-17-1F	
渋谷区	かずえキッズクリニック	渋谷区幡ヶ谷3-81-7	
渋谷区	医療法人社団文昭会 内藤小児科内科医院	渋谷区恵比寿南2-5-9	
中野区	やよい町こども医院	中野区弥生町1-8-11	
中野区	江原町小児科耳鼻科	中野区江原町3-35-8	
中野区	田沼内科・小児科医院	中野区本町6-23-3	
中野区	小池小児科医院	中野区若宮1-43-11	
中野区	宇野医院	中野区中野1-6-2	
中野区	しばたこども&アレルギークリニック	中野区東中野5-1-1 ユニゾンタワー3F	
杉並	杏林大学医学部付属杉並病院	杉並区和田2-25-1	○ *
杉並	柿田医院	杉並区下井草2-23-5	
杉並	長沼内科	杉並区成田東3-36-8	
杉並	パークサイドクリニック	杉並区上荻4-2-3	
杉並	かなやファミリークリニック	杉並区方南2-28-3	
杉並	松野医院	杉並区阿佐谷北3-42-10	
杉並	宮下小児科医院	杉並区成田西3-20-3	
杉並	くめかわ小児科クリニック	杉並区和泉4-51-14 エクセレント和泉2F	
杉並	岩崎小児科医院	杉並区和田3-49-7	
杉並	セキこどもクリニック	杉並区阿佐谷南2-1-27	
杉並	高井戸こどもクリニック	杉並区高井戸西1-27-22	
池袋	新大塚こどもクリニック	豊島区南大塚2-15-7 アルカディア新大塚1F	
池袋	みなと小児科	豊島区要町 3-22-10-301	
池袋	田村医院	豊島区池袋本町1-45-16	
池袋	雑司が谷赤ちゃん・こどもクリニック	豊島区雑司が谷3-1-20 S.Z.ビル 201	
池袋	南長崎こみ山医院	豊島区南長崎3-14-17	
北区	すこやかこどもクリニック浮間	北区浮間3-1-40 藤原ビル1階	
北区	ほくとクリニック	北区赤羽2-9-6	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「＊」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
北区	富士見診療所	北区十条仲原3-1-5	
北区	かとうクリニック	北区神谷1-12-9	○
北区	霜降橋こどもクリニック	北区西ヶ原1-6-5 アフニィ駒込2F	
北区	桑畑医院	北区豊島2-6-1	
北区	はんだこどもクリニック	北区赤羽2-69-4 クリニックプラザ21 2F	
荒川区	鈴木こどもクリニック	荒川区西尾久3-21-5 AYビル1F	
荒川区	まつおかこどもクリニック	荒川区荒川2-4-1 荒川メディカルビル1F・2F	
荒川区	いなばキッズクリニック	荒川区南千住4-7-1 BiVi南千住3D	
荒川区	加藤小児科内科医院	荒川区東日暮里5-44-1-1F	
板橋区	共助会医院	板橋区小豆沢2-26-8	
板橋区	上原内科医院	板橋区板橋3-6-11	
板橋区	石川医院	板橋区常盤台1-61-3	
板橋区	井上医院	板橋区赤塚4-17-11	
板橋区	杉内医院	板橋区成増3-17-16	
板橋区	こうのファミリーケア・クリニック	板橋区志村3-7-14-201	
板橋区	あべこどもクリニック	板橋区高島平1-28-5 KAZZビル2F	
板橋区	えがおこどもクリニック	板橋区前野町3-31-3	
板橋区	鈴木医院	板橋区大山町10-10	
板橋区	よりふじ医院	板橋区大谷口北町27-4	
練馬区	岩崎小児科医院	練馬区大泉学園町8-7-17	
練馬区	秋田医院	練馬区豊玉中4-10-3	2025年3月31日まで
	小山小児科・耳鼻咽喉科医院	練馬区豊玉北6-19-1	2025年4月1日から
練馬区	医療法人社団健志会 飯島医院	練馬区光が丘7-3-6-102	
練馬区	医療法人社団松生会 うすきクリニック	練馬区南大泉4-47-9 コンフォート南大泉1F	
練馬区	医療法人社団郁翠会 牧田医院	練馬区桜台1-45-15 ブランエノワール1階2階	○
練馬区	沼口整形外科・小児科	練馬区光が丘5-2-5-102	○
練馬区	医療法人社団友健会 浅村こどもクリニック	練馬区石神井町2-8-21 星ビル2F	
練馬区	医療法人社団 上石神井サン・クリニック	練馬区上石神井3-6-34	
練馬区	医療法人社団徳枝会 佐藤皮膚科小児科クリニック	練馬区関町北1-22-10 SATO 1st building 2階	
練馬区	医療法人 のと小児科クリニック	練馬区平和台4-12-6	
練馬区	医療法人社団駿栄会 レーヴこどもクリニック	練馬区大泉町2-12-1	
練馬区	医療法人社団留梨明会 わたなべこどもクリニック	練馬区中村北4-5-2	
練馬区	医療法人社団育慈会 わたなべこどもクリニック	練馬区東大泉1-26-16 オガワビル1階	
足立	和田小児科医院	足立区西保木間2-15-23	○
足立	曙町クリニック	足立区千住曙町41-2-107	
足立	日比谷医院	足立区中央本町5-5-27	
足立	ちばこどもクリニック	足立区東伊興1-12-16	
足立	三原小児科医院	足立区本木北町14-6	
足立	一般社団法人博慈会 博慈会記念総合病院	足立区鹿浜5-11-1	
足立	梅津クリニック	足立区綾瀬3-15-20-201	
足立	中島小児科	足立区足立4-41-6	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「＊」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
足立	おおつぼ小児科	足立区梅田6-31-11	
足立	すずきこどもクリニック	足立区千住柳町18-7 ノリコビル1F	
足立	しみず医院	足立区西竹の塚1-13-8 吉河ビル1階	
足立	森川医院	足立区関原1-8-10	
足立	木村小児科クリニック	足立区梅島3-32-24 第一矢野新ビル2階	
葛飾区	お花茶屋こどもクリニック	葛飾区宝町2-34-13-115	
葛飾区	高橋小児科医院	葛飾区東新小岩5-17-1	
葛飾区	菊島小児科医院	葛飾区東立石3-24-16	
葛飾区	的場医院	葛飾区金町6-13-9-201	
葛飾区	医療法人社団双樹敬仁会 青戸キッズクリニック	葛飾区青戸3-41-11 中山ビル1階	
葛飾区	白井医院	葛飾区新小岩1-37-11	
葛飾区	三尾医院	葛飾区東金町3-16-12	○
葛飾区	かめありこどもクリニック	葛飾区亀有3-14-9 プリムロウズ島田2階	
江戸川	医療法人社団愛児会 南小岩クリニック	江戸川区南小岩7-5-18	
江戸川	小松川医院	江戸川区松江3-12-13	
江戸川	久田医院	江戸川区平井1-27-7	2025年3月31日まで
	医療法人社団ふじよし会 緑こどもクリニック	江戸川区小松川2-4-4-101	2025年4月1日から
江戸川	医療法人社団結草会 みやのこどもクリニック	江戸川区南葛西2-18-27	
江戸川	医療法人社団 なかにし小児科クリニック	江戸川区西葛西5-1-8 トーショービル1F	○
江戸川	医療法人社団向日葵会 まつしま病院	江戸川区松島1-41-29	
江戸川	医療法人社団多仁会 はるやま小児科	江戸川区南篠崎町2-10-1 カームコート1F	
江戸川	医療法人社団慶智会 なかぞのクリニック	江戸川区一之江7-49-5 IMSクレイドル1F	
江戸川	星田小児クリニック	江戸川区中葛西2-3-10	
江戸川	医療法人社団晶和会 本橋医院	江戸川区一之江8-15-1 エクセルイチノエ1A	
江戸川	医療法人社団永幸会 ながきこどもクリニック	江戸川区北小岩6-15-5 小岩メディカルセンター新館3F	
江戸川	医療法人社団志越会 アンヌ小児科	江戸川区東松本1-14-9	
八王子市	加地医院	八王子市大楽寺町137	○ 2025年8月31日まで
	おおくま内科・小児科		2025年9月1日から
八王子市	まつもと小児・アレルギークリニック	八王子市南大沢2-2 パオレ5F	
八王子市	のま小児科	八王子市みなみ野3-1-8	
八王子市	京王八王子クリニック	八王子市明神町4-7-14 八王子ONビル2F	
八王子市	北野小児科	八王子市北野町545-3 きたのタウン6F	
八王子市	加藤醫院	八王子市七国4-9-3	
八王子市	なかよしこどもクリニック	八王子市堀之内2-6-5 森本ビル201	
八王子市	こどもクリニック南大沢	八王子市南大沢2-27 フレスコ南大沢4F	2025年1月31日まで
	山と空こどもアレルギークリニック	八王子市天神町24-3	2025年2月1日から
八王子市	はしもと小児科	八王子市櫛田町557-3	
八王子市	ノアこどもクリニック	八王子市万町175-1	
八王子市	スマイルこどもクリニック	八王子市散田町5-4-20	
町田市	風の子こどもクリニック	町田市金森東1-25-29 金森メディカルプラザA-2	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「＊」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
町田市	はやしクリニック	町田市忠生2-28-7	○
町田市	やもりこどもクリニック	町田市真光寺2-37-11 鶴川台メディカルヴィレッジ 総合棟1F-A	2025年4月30日まで
	うみまちこどもクリニック	町田市旭町1-24-1 ままともプラザ町田2階	2025年5月1日から
町田市	しのはら小児クリニック	町田市小川1-2-8	
町田市	キッズクリニック智	町田市相原町1652-1	2025年3月31日まで
	くまくまこどもクリニック	町田市小山ヶ丘3-22-9 京王多摩境駅前ビル1F	2025年4月1日から
町田市	豊川小児科内科医院	町田市つくし野2-18-18	2025年4月30日まで
	チャイルドクリニックグランベリーパーク院	町田市鶴間3-3-1 グランベリーパークステーションコート2階	2025年5月1日から
町田市	村野小児科アレルギー科	町田市野津田町1083	
町田市	やすだこどもクリニック	町田市本町田920-1	
西多摩	笹本医院	青梅市住江町58	
西多摩	わかづさ医院	羽村市小作台2-7-16	
西多摩	星野小児科内科クリニック	あきる野市小川東1-19-20-1	○
西多摩	鈴木内科	あきる野市館谷156-2	
西多摩	ぱぱ子どもクリニック	羽村市五ノ神352-22	
西多摩	ナルケンキッズクリニック	青梅市河辺町4-20-4	
西多摩	大堀医院	青梅市今井5-2440-178	
西多摩	東福生むさしの台クリニック	福生市武蔵野台1-1-7 センチュリー武蔵野台1F	
南多摩	須賀小児科	日野市高幡328	
南多摩	佐々木クリニック多摩平	日野市多摩平1-8-10	
南多摩	こどもクリニックしみず	多摩市鶴牧1-24-1 新都心センタービル3F	○
南多摩	桜井医院	稲城市押立1254-1	
南多摩	牛尾医院	日野市平山6-5-13	
南多摩	おおしろクリニック	日野市神明3-6-16 アメニティ明和館1F-1	
南多摩	武井小児科	多摩市関戸2-69-3	
南多摩	まえばら小児科	多摩市関戸4-72 ヴィータモールせいせき5F	
南多摩	平尾内科クリニック	稲城市平尾3-7-26	
多摩立川	野上医院	立川市羽衣町2-42-7	○
多摩立川	内野産婦人科外科小児科	国立市東1-8-6 メディカルセンター	
多摩立川	北條医院	武蔵村山市残堀4-113-1	○
多摩立川	太陽こども病院	昭島市松原町1-2-1	
多摩立川	医療法人社団瑞涼会 くぼしまこどもクリニック	国分寺市泉町2-9-3 ハートフルビル西晴3F	
多摩立川	まつなかクリニック	立川市西砂町6-6-16	
多摩立川	さいわいこどもクリニック	立川市幸町1-11-3	○
多摩立川	大田医院	昭島市中神町1237	
多摩立川	マシユマロこどもクリニック	国分寺市戸倉4-45-5	
多摩立川	くろさわ子ども&内科クリニック	国分寺市本多3-7-25	○
多摩立川	ヒバリこどもクリニック	国立市富士見台3-1-15 2F	
多摩立川	有村クリニック	東大和市南街4-10-6	
多摩立川	さくらこどもクリニック	東大和市上北台3-393-1	
多摩立川	伊奈平南クリニック	武蔵村山市伊奈平4-4-1	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「＊」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
多摩府中	ささもとこどもクリニック	調布市飛田給1-41-5 T・Oビル2F	
多摩府中	いしいこどもクリニック	調布市調布ヶ丘3-19-12	
多摩府中	松本医院	武蔵野市吉祥寺東町1-23-3	
多摩府中	武蔵境駅前こどもクリニック	武蔵野市境南町2-8-17	
多摩府中	きたのこどもクリニック	三鷹市北野4-12-17 きたのメディカルパーク1階	
多摩府中	若林医院	三鷹市井の頭4-16-10	
多摩府中	まつおか小児クリニック	府中市寿町2-4-42 コープ府中3F	○
多摩府中	東小金井駅前こどもクリニック	小金井市梶野町5-3-25-209 クリオ東小金井パークフロント	
多摩府中	石戸谷小児科	狛江市中和泉1-1-1 狛江YSビル4F	
多摩府中	長谷川小児科医院	武蔵野市吉祥寺北町2-8-5	
多摩府中	渡辺こどもクリニック	三鷹市下連雀9-5-1 泰成マンション1F	
多摩府中	つちや小児科	三鷹市下連雀4-16-11	
多摩府中	さくらんぼこどもクリニック	府中市南町4-43-1	
多摩府中	おき医院	府中市白糸台5-24-1	
多摩府中	日野クリニック	府中市住吉町2-15-9	
多摩府中	すみれクリニック	府中市片町3-26-14	
多摩府中	野々田小児科内科	府中市小柳町3-32-26	
多摩府中	佐々木こどもクリニック	調布市西つつじヶ丘3-37-2 横田ファイブ107	
多摩府中	麻生こどもクリニック	調布市小島町1-5-6 アールアンドエスビル3F	
多摩府中	三枝耳鼻咽喉科・小児科医院	小金井市本町5-19-32 三枝ビル2F	
多摩府中	コドモノいっばクリニック	狛江市中和泉5-33-2 ヒルズ蘇月1F	
多摩小平	清水小児科内科医院	小平市大沼町4-43-32	
多摩小平	わかばこどもクリニック	東村山市富士見町3-13-14	
多摩小平	大塚小児科アレルギー科 クリニック	東久留米市本町3-1-23	
多摩小平	すぎはらこどもクリニック	西東京市西原町5-1-17	
多摩小平	斉藤小児科内科クリニック	西東京市下保谷4-2-21	
多摩小平	鈴木小児科内科医院	小平市学園西町2-11-28	○
多摩小平	はなこキッズクリニック	小平市鈴木町2-865-97	
多摩小平	ちあきこどもクリニック	小平市栄町2-3-7	
多摩小平	武こどもクリニック	東村山市栄町2-32-20-201	○
多摩小平	あきつこどもクリニック	東村山市秋津町4-31-16	
多摩小平	いくせ医院	東久留米市新川町1-4-18 わかさとビル1F	
多摩小平	ひばりが丘やまね 小児科・皮フ科・アレルギー科	西東京市谷戸町2-1-41 ひばりが丘南メディカルスクエア1F	
多摩小平	すくすくkidsクリニック	西東京市南町5-9-17	
多摩小平	宇都宮小児科内科クリニック	清瀬市元町1-8-2 清水ビル3階	2024年12月31日まで
	花園医院	清瀬市松山3-5-14	2025年1月1日から
多摩小平	いつもジェネラルクリニック 秋津院	清瀬市野塩5丁目299-4	2024年12月31日まで
	とみまつ小児科循環器クリニック	清瀬市元町1-1-14 ブランドールJ 2階	2025年1月1日から
島しょ	大島医療センター	大島町元町3-2-9	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「＊」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

2026年変更医療機関

2026年4月1日 現在

保健所名	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
多摩小平	花園医院	清瀬市松山3-5-14	2025年12月31日まで
	廣橋小児科・内科医院	清瀬市元町1-5-3	2026年1月1日から
多摩小平	とみまつ小児科循環器クリニック	清瀬市元町1-1-14 プランドールJ 2階	2025年12月31日まで
	武蔵野総合クリニック	清瀬市元町1-8-30	2026年1月1日から
練馬区	医療法人社団 上石神井サン・クリニック	練馬区上石神井3-6-34	2025年12月27日まで
	上石神井こどもクリニック	練馬区上石神井2-1-16 上石神井メディカルビレッジD棟1階	2026年1月1日から
目黒区	自由が丘メディカルプラザ	目黒区自由が丘2-11-16 日能研自由が丘ビル2F	2026年2月28日まで
	しあわせ子供クリニック	目黒区東山3-5-4	2026年3月1日から
多摩小平	大塚小児科アレルギー科 クリニック	東久留米市本町3-1-23	2026年3月31日まで
	さくらんぼキッズクリニック	東久留米市南町4-1-17	2026年4月1日から
練馬区	医療法人社団健志会 飯島医院	練馬区光が丘7-3-6-102	2026年3月31日まで
	いとう小児科クリニック	練馬区光が丘3-7-1-101	2026年4月1日から
大田区	うちやまこどもクリニック	大田区久が原3-36-13-3F	2026年2月28日まで
	くがはらきつずアレルギークリニック	大田区久が原3-36-13-3F	2026年3月1日から

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「＊」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

内科（155定点）

2025年12月31日 現在

保健所名	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
千代田	神田診療所	千代田区内神田2-8-14	
中央区	医療法人社団健杏会 杉野内科クリニック	中央区勝どき2-9-12 HBビル勝どき 3F	
中央区	中央内科クリニック	中央区日本橋人形町2-7-8	
みなと	馬場クリニック	港区麻布十番2-13-2	
みなと	もとやまクリニック	港区白金1-8-9	
みなと	新田町ビル診療所	港区芝5-34-6 新田町ビル2F	
新宿区	高橋医院	新宿区北新宿3-21-8	
新宿区	早稲田クリニック	新宿区馬場下町10 早稲田レストハイツ2F	
新宿区	石井外科	新宿区住吉町8-2	
新宿区	磯貝クリニック	新宿区西早稲田2-4-8	
文京	八千代診療所	文京区白山1-5-8	2025年3月31日まで
	森内科	文京区大塚3-35-8 クリサンス小石川1F	2025年4月1日から
文京	森谷医院	文京区千駄木5-43-11	
文京	大橋内科クリニック	文京区西片2-15-11	
台東	関戸クリニック	台東区西浅草2-14-3	
台東	城所医院	台東区北上野2-26-5	○
台東	かとう医院	台東区根岸3-12-14	
墨田区	隅田川診療所	墨田区向島1-24-6	○
墨田区	東京曳舟病院	墨田区東向島2-27-1	
墨田区	さとう内科クリニック	墨田区本所4-13-3 1F	2025年4月30日まで
	きらく内科クリニック	墨田区亀沢1-8-5 3F	2025年5月1日から
江東区	小林クリニック	江東区大島4-1-6-105	
江東区	みやたけクリニック	江東区東砂4-23-6	
江東区	大陽ビルクリニック	江東区東陽3-23-6 大陽ビル102	
江東区	望月内科クリニック	江東区高橋13-2 ヴィラロイヤル森下1F	
江東区	辰巳中央診療所	江東区辰巳1-9-49-102	
品川区	白井クリニック	品川区大井2-4-1	
品川区	さとうクリニック	品川区南品川2-17-25 菱倉ビル2F	
品川区	医療法人社団雄喜会 大崎広小路内科	品川区西五反田8-4-15 グリンデル広小路4階	
品川区	青柳医院	品川区豊町1-4-15 第一青柳ビル1階・2階	
目黒区	目黒吉田内科クリニック	目黒区下目黒5-9-15 1F	
目黒区	清水クリニック	目黒区上目黒5-19-40	
目黒区	阿部医院	目黒区平町2-5-7	
大田区	テクノポートクリニック	大田区南蒲田2-16-1 テクノポートカマタセンタービル 別館2F	
大田区	馬込中央診療所	大田区中馬込1-5-8	
大田区	北條医院	大田区大森北3-4-5	○
大田区	井出内科クリニック	大田区下丸子3-13-11	
大田区	松坂医院	大田区萩中1-6-28	
大田区	溝谷医院	大田区大森東2-1-4	
大田区	並木医院	大田区東雪谷5-27-13	
大田区	せせらぎクリニック多摩川	大田区田園調布1-33-3	
世田谷	菅澤医院	世田谷区中町4-31-13	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「＊」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
世田谷	世田谷北部病院	世田谷区南鳥山2-9-17	○
世田谷	幸野メディカルクリニック	世田谷区祖師谷3-30-28	
世田谷	大坪医院	世田谷区松原5-58-11	
世田谷	医療法人社団 シンセリティ いなみ内科クリニック	世田谷区三軒茶屋1-13-7 三茶JOYビル2F	
世田谷	こうらクリニック	世田谷区豪徳寺1-23-22	
世田谷	森山医院	世田谷区中町2-17-20	
世田谷	荏原医院	世田谷区用賀4-13-11	
世田谷	西島内科クリニック	世田谷区宇奈根3-1-21	
渋谷区	医療法人社団恵比寿会 淳クリニック	渋谷区恵比寿西1-14-2-201	
渋谷区	医療法人社団 しおぎき内科	渋谷区渋谷1-7-5 青山セブンハイツ2F	○
渋谷区	医療法人社団慶照会 幡ヶ谷内科クリニック	渋谷区幡ヶ谷2-16-8	
中野区	大場診療所	中野区大和町3-40-6	
中野区	山田クリニック	中野区新井2-6-10	2025年4月30日まで
	たかのクリニック	中野区上鷺宮4-6-38	2025年5月1日から
中野区	東中野クリニック	中野区東中野1-58-12	
中野区	溝口医院	中野区弥生町2-12-9	
杉並	藤多クリニック	杉並区上荻1-9-1	
杉並	富士見丘医院	杉並区久我山5-20-1	○
杉並	河合内科クリニック	杉並区上荻3-1-11	
杉並	内山クリニック	杉並区和泉3-6-2	
杉並	石井こども・内科循環器科クリニック	杉並区松ノ木1-6-21	
杉並	清水内科クリニック	杉並区高円寺南1-7-4	
池袋	武藤クリニック	豊島区長崎1-22-11	
池袋	山下診療所大塚	豊島区北大塚2-13-1 ba07 5F	
池袋	目白おかの内科	豊島区目白3-16-15 茜ビル1F	
北区	青木内科クリニック	北区西ヶ原1-3-7 ピュアサクシードとも202	
北区	共和堂医院	北区東十条2-5-1	
北区	王子神谷齋藤クリニック	北区豊島8-24-4	
北区	医療法人社団景星会赤羽 赤羽東口病院	北区赤羽1-38-5	
荒川区	水野クリニック	荒川区荒川1-49-2 サクラハイツ2F	
荒川区	南千住つのだ医院	荒川区南千住6-65-12	
荒川区	東京リバーサイド病院	荒川区南千住8-4-4	
板橋区	平山医院	板橋区中台1-46-3	
板橋区	岡部医院	板橋区板橋3-37-1	
板橋区	天木診療所	板橋区清水町47-7	○
板橋区	高島平東口クリニック	板橋区高島平8-5-10 MAビル3F	
板橋区	赤塚新町クリニック	板橋区赤塚新町2-5-16 ヴィルヌーヴ赤塚1F	
板橋区	多比良医院	板橋区成増4-13-2	
練馬区	川邊内科	練馬区上石神井2-26-15	○
練馬区	医療法人社団健康文化会 練馬第一診療所	練馬区平和台4-20-16	
練馬区	すずしろ診療所	練馬区練馬1-15-1 堀越ビル2階	
練馬区	医療法人社団 金谷クリニック	練馬区光が丘2-4-11-102	
練馬区	じんの内科医院	練馬区氷川台3-24-21	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「＊」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
練馬区	医療法人社団安和会 若井内科・呼吸器科	練馬区大泉学園町7-15-16 ハナブサ第一ビル3階	
練馬区	医療法人社団昌泉会 やすひさ内科クリニック	練馬区東大泉5-40-24 サンダリオンビル1F	
練馬区	水谷内科呼吸器科クリニック	練馬区東大泉6-51-4 TKマンション1F	2024年12月31日まで
	竹下医院	練馬区南大泉5-36-9	2025年1月1日から
足立	江北ファミリークリニック	足立区江北5-1-1	
足立	久勝医院	足立区弘道2-1-3	
足立	健愛クリニック	足立区千住曙町37-8	
足立	山一ビル内科クリニック	足立区島根3-8-1 山一ビル島根Ⅱ1F	
足立	天沼医院	足立区西保木間4-5-14-2	
足立	佐々木医院	足立区綾瀬2-26-17	
足立	旭医院	足立区千住旭町9-15	
葛飾区	吉川内科医院	葛飾区白鳥3-31-2	
葛飾区	遠藤医院	葛飾区柴又3-12-18	
葛飾区	富田医院	葛飾区奥戸5-1-18	
葛飾区	久保島医院	葛飾区小菅2-25-10	
葛飾区	猪口医院	葛飾区柴又4-6-14	
江戸川	医療法人社団 同愛会病院	江戸川区松島1-42-21	
江戸川	医療法人社団美友梨会 福田クリニック	江戸川区南篠崎町2-38-13	
江戸川	医療法人社団黄耆会 京谷医院	江戸川区北小岩6-17-7	
江戸川	医療法人社団孝仁会 小暮医院	江戸川区興宮町16-13	
江戸川	中川医院	江戸川区小松川3-75-3	
江戸川	医療法人社団 葛西中央病院	江戸川区船堀7-10-3	
江戸川	恵仁堂医院	江戸川区東小岩4-10-5	○
八王子市	秋山内科医院	八王子市子安町1-32-7	
八王子市	京王八王子駅前診療所	八王子市明神町4-7-1 京王駅前ビル5F	○
八王子市	近藤内科医院	八王子市長房町1502-30	
八王子市	遠山内科・循環器クリニック	八王子市みなみ野2-16-3 モンバルデ1F	
八王子市	伊藤内科消化器医院	八王子市大和田町4-15-14	
八王子市	南大沢クリニック	八王子市南大沢5-14-4-1	
八王子市	わかばやし内科クリニック	八王子市元本郷町2-5-1	
町田市	こばやし医院	町田市金森1-26-15	
町田市	中村クリニック	町田市木曽東3-20-28	○
町田市	泰生医院	町田市小山町2470-5	
町田市	医療法人社団泰大会 薬師台おはなぼっぼクリニック	町田市薬師台1-25-12 薬師台メディカルテラス	
町田市	はやし内科クリニック	町田市真光寺2-37-11	
西多摩	福生クリニック	福生市加美平3-35-13	
西多摩	日の出ヶ丘病院	日の出町大久野310	
西多摩	片平医院	青梅市河辺町10-16-20	○
西多摩	近藤医院	あきる野市油平35	
西多摩	双葉クリニック	羽村市双葉町1-1-15	
西多摩	石畑診療所	瑞穂町石畑207	2025年4月30日まで
	医療法人社団幹人会 菜の花クリニック	瑞穂町殿ヶ谷454-2	2025年5月1日から
南多摩	斉藤内科呼吸器科	多摩市永山4-2-6-202	2025年2月9日まで
	つるまき八木クリニック	多摩市鶴牧5-4-1	2025年2月10日から

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「＊」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
南多摩	土方クリニック	日野市万願寺1-13-1	
南多摩	中川クリニック	日野市南平7-18-11	
南多摩	やはの内科・胃腸科クリニック	多摩市関戸1-11-9 桜ヶ丘富沢ビル6F	
南多摩	長峰クリニック	稲城市長峰2-2-2	
多摩立川	唯善クリニック 内科・呼吸器内科	立川市富士見町1-34-9-1F	
多摩立川	藤井医院	立川市栄町5-22-6	○
多摩立川	まことクリニック	昭島市松原町2-9-1	
多摩立川	国分寺内科中央病院	国分寺市東元町2-3-19	
多摩立川	新田クリニック	国立市西2-26-29	
多摩立川	向日葵クリニック	武蔵村山市学園3-88-2	2025年6月30日まで
	くりはら循環器内科クリニック	武蔵村山市榎2-85-1	2025年7月1日から
多摩立川	浅香医院	東大和市湖畔1-1043-39	
多摩府中	赤須内科クリニック	府中市緑町2-17-9	
多摩府中	小林内科	調布市上石原2-30-22	
多摩府中	田原医院	武蔵野市関前3-3-9	2025年4月30日まで
	いちむら内科クリニック	武蔵野市境南町 1-30-16	2025年5月1日から
多摩府中	渡辺医院	武蔵野市吉祥寺本町4-7-9	
多摩府中	岡庭医院	三鷹市井の頭3-21-16	
多摩府中	いりえ内科クリニック	三鷹市北野4-5-30 キューブコート鳥山101号	
多摩府中	府中よつやクリニック	府中市四谷3-37-14	
多摩府中	仙川さとうクリニック	調布市仙川町2-18-15 メンパ仙川1F	
多摩府中	小金井メディカルクリニック	小金井市本町2-1-12 けやきビル2階3階	
多摩府中	やまだ総合内科クリニック	狛江市和泉本町3-27-10	○
多摩府中	中村内科クリニック	府中市西府町2-12-1	
多摩府中	辻医院	調布市下石原3-60-4	
多摩小平	松岡内科クリニック	小平市花小金井1-1-11 エメラルドビル3F	
多摩小平	西都保健生活協同組合 北多摩生協診療所	東村山市本町4-2-32 ドルチェ久米川	
多摩小平	ワンズタワーすこやかクリニック	東村山市野口町1-46 ワンズタワー4階	
多摩小平	宮本医院	清瀬市松山1-42-6	
多摩小平	山口内科・呼吸器科クリニック	東久留米市本町3-12-2	○
多摩小平	廣川クリニック	西東京市東町4-8-28 JUN西東京市101	
多摩小平	ますだ内科クリニック	西東京市芝久保町3-6-26	
多摩小平	井上内科クリニック	小平市仲町268-6 サライ仲町102	
島しょ	小笠原村診療所	小笠原村父島清瀬	

2026年変更医療機関

2026年4月1日 現在

保健所名	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
八王子市	遠山内科・循環器クリニック	八王子市みなみ野2-16-3 モンパルテ1F	2025年10月31日まで
	こじま内科クリニック	八王子市館町535-5	2026年1月1日から
足立	佐々木医院	足立区綾瀬2-26-17	2026年3月31日まで
	川の手通りクリニック	足立区綾瀬2-33-2 アヤセメディカルモール1F	2026年4月1日から
世田谷	幸野メディカルクリニック	世田谷区祖師谷3-30-28	2026年2月19日まで
	幸野メディカルクリニック	世田谷区祖師谷1-11-12 瑞穂ビル2階3階	2026年2月20日から

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「＊」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

眼科（39定点）

2025年12月31日 現在

保健所名	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
中央区	宮下眼科医院	中央区京橋2-5-18 3F	
新宿区	東京女子医科大学病院眼科	新宿区河田町8-1	○*
新宿区	東京医科大学病院眼科	新宿区西新宿6-7-1	
文京	順天堂大学医学部眼科	文京区本郷3-1-3	
墨田区	毛塚眼科医院	墨田区向島1-5-7	
江東区	さとう眼科	江東区南砂6-1-11	
品川区	濱崎眼科医院	品川区大井3-18-17	
目黒区	にっとのクリニック	目黒区原町2-1-24	
大田区	あさひろ眼科	大田区久が原5-17-8	
大田区	下丸子眼科クリニック	大田区下丸子1-6-24 グランドステラ下丸子1F	
世田谷	福地眼科	世田谷区上北沢3-20-22	
世田谷	喜多見眼科	世田谷区喜多見8-18-10 小泉ビル3F	
渋谷区	角谷眼科医院	渋谷区恵比寿南1-3-6 C1ビル2F	○
中野区	福田眼科医院	中野区新井2-33-1	
杉並	荒木眼科医院	杉並区西荻北2-9-10	○
池袋	大木眼科	豊島区池袋2-17-1	
北区	クリスタル眼科	北区堀船3-18-3	
荒川区	眼科アリモト	荒川区東日暮里5-51-7	
板橋区	フルヤ眼科クリニック	板橋区板橋1-22-8 古谷ビル2F	
板橋区	小暮眼科	板橋区成増3-10-5	
練馬区	荻野眼科医院	練馬区石神井町1-25-10	
練馬区	医療法人社団静秀会 氷川台眼科	練馬区氷川台3-38-8 M&Rビル1階	
足立	三原眼科医院	足立区本木北町14-6	
足立	こばやし眼科クリニック	足立区千住宮元町1-1 宮元ビル2F	
葛飾区	的場眼科クリニック	葛飾区金町6-13-9-202	
江戸川	医療法人社団時中会 つばい眼科クリニック	江戸川区一之江8-17-17	
江戸川	安田医院	江戸川区瑞江1-43-12	
八王子市	きむら眼科	八王子市子安町4-10-1	
八王子市	大熊眼科医院	八王子市千人町2-19-15 長塚ビル3F	
町田市	すずかけ台眼科クリニック	町田市南つくし野3-4-2 久保田ビル2階	
西多摩	後藤眼科診療所	青梅市森下町508	
南多摩	小川眼科	多摩市関戸2-40-1 ニッセイ聖蹟桜ヶ丘ビル3F	
多摩立川	(医社)晴山会 おしきり眼科	武蔵村山市学園3-50-1	
多摩立川	曽根医院	国分寺市本町4-19-8	
多摩府中	三鷹まちかど眼科	武蔵野市中町1-4-4 スクウェア三鷹1F	
多摩府中	武蔵境眼科医院	武蔵野市境南町1-8-1 武蔵野STビル2F	
多摩府中	平山眼科医院	府中市宮町1-20-19 大津ビル2F	
多摩小平	徳島診療所	東村山市富士見町1-2-14	○
多摩小平	つしま眼科医院	清瀬市元町1-8-19 アーク清瀬201	

2026年変更医療機関

2026年4月1日 現在

保健所名	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
多摩立川	曽根医院	国分寺市本町4-19-8	2026年3月31日まで
	医療法人社団美神会 にしこく眼科	国分寺市泉町2-9-3 泉ビル4F	2026年4月1日から

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

性感染症（55定点）

2025年12月31日 現在

保健所名	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
千代田	スバル医院	千代田区有楽町1-2-6	
千代田	(公社)東京都教職員互助会 三楽病院	千代田区神田駿河台2-5	*
中央区	医療法人社団賢仁会 銀座吉田医院	中央区銀座2-4-8 GINZA YUKI BLD 8・9F	
中央区	弓削医院	中央区日本橋蛸殻町1-28-7	
中央区	対馬ルリ子女性ライフクリニック銀座	中央区銀座2-6-5 銀座トレスヤスビル7F	
みなと	大原皮膚泌尿器科	港区赤坂2-14-33 栄屋清水ビル5階	
みなと	赤枝六本木診療所	港区元麻布3-1-30	2025年1月31日まで
	丸茂レディースクリニック	港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー4階	2025年3月1日から
新宿区	神楽坂泌尿器科クリニック	新宿区中里町13イーストハウス神楽坂1F	
新宿区	たつきクリニック	新宿区西新宿7-16-14 ミクラ西新宿ビル2F	
新宿区	植松医院	新宿区高田馬場1-32-14 UKビル2F	2025年1月31日まで
	医療法人社団医精会 マイシティクリニック	新宿区新宿3-25-10 當山ビル6F	2025年4月1日から
新宿区	医療法人社団川添記念会 四谷川添産婦人科	新宿区左門町18	
新宿区	竹下医院	新宿区高田馬場2-14-22	
新宿区	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立大久保病院	新宿区歌舞伎町2-44-1	
新宿区	しらかば診療所	新宿区住吉町8-28 B・STEPビル2階	
文京	細部医院	文京区根津1-1-15	
台東	佐々木医院	台東区浅草5-33-12	
台東	永寿総合病院	台東区東上野2-23-16	
墨田区	南外科泌尿器科	墨田区東向島5-38-14	
墨田区	賛育会病院	墨田区太平3-20-2	
江東区	西大島駅と亀戸駅の間のいわぶち内科と泌尿器科のクリニック	江東区大島3-4-3 タワーレジデンス西大島2階	○
江東区	江東病院	江東区大島6-8-5	
品川区	医療法人社団OURS KARADA内科クリニック	品川区西五反田1-2-8 FPG links GOTANDA 9・10F	
大田区	前村医院	大田区大森中2-19-17	
大田区	東京蒲田病院	大田区西蒲田7-10-1	
渋谷区	医療法人社団三昭会 渋谷新南口クリニック	渋谷区渋谷3-28-8 第三久我屋ビル2F	
渋谷区	赤阪医院	渋谷区神宮前3-31-9	
渋谷区	JR東京総合病院	渋谷区代々木2-1-3	
渋谷区	笹塚レディースクリニック	渋谷区笹塚1-30-3 ビラージュ笹塚Ⅲ4F	
渋谷区	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立広尾病院	渋谷区恵比寿2-34-10	*
中野区	やなだクリニック	中野区弥生町6-2-20	
中野区	新渡戸記念中野総合病院	中野区中央4-59-16	
杉並	荻窪駅前クリニック	杉並区荻窪5-27-8 FCビル4F	
杉並	荻窪病院	杉並区今川3-1-24	
池袋	安康レディースクリニック	豊島区池袋2-42-3 オスカービル2F	

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

保健所名	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
池袋	要町駅前クリニック	豊島区要町1-11 要町KTビル7F	
池袋	渡辺胃腸科医院	豊島区南大塚1-53-1	○
北区	十条銀座診療所	北区上十条2-30-4	
荒川区	医療法人社団静産会 あらかわレディースクリニック	荒川区町屋1-8-8	
板橋区	本多医院	板橋区大山町18-12	
板橋区	板橋中央総合病院	板橋区小豆沢2-12-7	
足立	長門クリニック	足立区中川2-5-8	
足立区	医療法人社団成和会 西新井病院	足立区西新井本町1-12-12	
江戸川	医療法人社団理弘会 岩倉病院	江戸川区南小岩7-28-4	○
江戸川	医療法人社団山紫会 とおるクリニック	江戸川区瑞江2-3-1 瑞江駅前ビル3F	
八王子市	新クリニック	八王子市台町2-16-8	
八王子市	西島産婦人科	八王子市千人町1-8-5	○
八王子市	米山産婦人科クリニック	八王子市新町2-12	2024年11月30日まで
	医療法人社団福神会 柴田産婦人科医院	八王子市横川町515	2025年2月1日から
八王子市	はぎの医院	八王子市本町11-6	
町田市	ベルンの森クリニック	町田市小山ヶ丘4-3-1	
多摩立川	泉医院	立川市曙町2-14-16	
多摩立川	こむかい産婦人科	立川市錦町2-3-30	
多摩府中	武蔵野陽和会病院	武蔵野市緑町2-1-33	
多摩府中	武蔵野赤十字病院	武蔵野市境南町1-26-1	*
多摩府中	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立多摩総合医療センター	府中市武蔵台2-8-29	*
多摩小平	真能クリニック	小平市学園西町2-13-37 カミデビル2F	

2026年変更医療機関

2026年4月1日 現在

保健所名	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
渋谷区	赤阪医院	渋谷区神宮前3-31-9	2026年2月28日まで
	おさめスキンクリニック	渋谷区恵比寿西2-17-8 I・T・O 代官山 202	2026年3月1日から

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。
備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる。

基幹（25定点）

2025年12月31日 現在

保健所名	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
千代田	東京通信病院	千代田区富士見2-14-23	○ *
千代田	(公社)東京都教職員互助会 三楽病院	千代田区神田駿河台2-5	&
みなと	東京都済生会中央病院	港区三田1-4-17	○ *
新宿区	(社)聖母会 聖母病院	新宿区中落合2-5-1	○ *
新宿区	東京女子医科大学病院	新宿区河田町8-1	○ #
文京	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立駒込病院	文京区本駒込3-18-22	○
墨田区	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立墨東病院	墨田区江東橋4-23-15	○
大田区	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立荏原病院	大田区東雪谷4-5-10	○
世田谷	国立成育医療研究センター	世田谷区大蔵2-10-1	
世田谷	公立学校共済組合 関東中央病院	世田谷区上用賀6-25-1	
渋谷区	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立広尾病院	渋谷区恵比寿2-34-10	○ &
杉並	杏林大学医学部付属杉並病院	杉並区和田2-25-1	○ *
杉並	河北総合病院	杉並区阿佐谷北1-7-3	
池袋	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立大塚病院	豊島区南大塚2-8-1	○
板橋区	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立豊島病院	板橋区栄町33-1	○
葛飾区	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立東部地域病院	葛飾区亀有5-14-1	○
八王子市	東京医科大学 八王子医療センター	八王子市館町1163	○
西多摩	市立青梅総合医療センター	青梅市東青梅4-16-5	○
多摩立川	国家公務員共済組合連合会 立川病院	立川市錦町4-2-22	○
多摩府中	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立多摩総合医療センター	府中市武蔵台2-8-29	○ &
多摩府中	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター	府中市武蔵台2-8-29	○
多摩府中	武蔵野赤十字病院	武蔵野市境南町1-26-1	○ &
多摩小平	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立多摩北部医療センター	東村山市青葉町1-7-1	○
多摩小平	公立昭和病院	小平市花小金井8-1-1	○
島しょ	町立八丈病院	八丈島八丈町三根26-11	○

備考欄に「○」の表示がある医療機関は、病原体定点を兼ねる。

備考欄に「*」、「#」、「&」の表示がある医療機関は、それぞれ小児科、眼科、性感染症定点を兼ねる。

疑似症（36定点）

2025年12月31日 現在

保健所名	種別	医 療 機 関 名	所 在 地	備 考
千代田		東京通信病院	千代田区富士見2-14-23	
中央区		聖路加国際病院	中央区明石町9-1	
みなと		虎の門病院	港区虎ノ門2-2-2	
みなと		東京慈恵会医科大学附属病院	港区西新橋3-19-18	
新宿区	特定	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院	新宿区戸山1-21-1	2025年4月1日 医療機関名称変更
		国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター	新宿区戸山1-21-1	
新宿区		東京女子医科大学病院	新宿区河田町8-1	
文京	一種	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立駒込病院	文京区本駒込3-18-22	
台東		永寿総合病院	台東区東上野2-23-16	
墨田区	一種	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立墨東病院	墨田区江東橋4-23-15	
江東区		昭和大学江東豊洲病院	江東区豊洲5-1-38	
品川区		昭和大学病院	品川区旗の台1-5-8	
大田区	一種	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立荏原病院	大田区東雪谷4-5-10	
大田区		東邦大学医療センター大森病院	大田区大森西6-11-1	
目黒区		独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター	目黒区東が丘2-5-1	
世田谷	一種	自衛隊中央病院	世田谷区池尻1-2-24	
渋谷区		日本赤十字社医療センター	渋谷区広尾4-1-22	
渋谷区		地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立広尾病院	渋谷区恵比寿2-34-10	
中野区		東京警察病院	中野区中野4-22-1	
杉並		河北総合病院	杉並区阿佐谷北1-7-3	
池袋		地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立大塚病院	豊島区南大塚2-8-1	
北区		公益社団法人 地域医療振興協会 東京北医療センター	北区赤羽台4-17-56	
板橋区	二種	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立豊島病院	板橋区栄町33-1	
練馬区		練馬光が丘病院	練馬区光が丘2-11-1	
足立		東京女子医科大学 附属足立医療センター	足立区江北4-33-1	
足立		博慈会記念総合病院	足立区鹿浜5-11-1	
葛飾区		東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター	葛飾区青戸6-41-2	
江戸川		日本私立学校振興・共済事業団 東京臨海病院	江戸川区臨海町1-4-2	
八王子市	二種	東京医科大学八王子医療センター	八王子市館町1163	
町田市		町田市民病院	町田市旭町2-15-41	
西多摩	二種	市立青梅総合医療センター	青梅市東青梅4-16-5	
南多摩		地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立多摩南部地域病院	多摩市中沢2-1-2	
多摩立川	二種	国家公務員共済組合連合会 立川病院	立川市錦町4-2-22	
多摩立川		社会医療法人 社団健生会 立川相互病院	立川市緑町4-1	
多摩府中	二種	武蔵野赤十字病院	武蔵野市境南町1-26-1	
多摩小平	二種	公立昭和病院	小平市花小金井8-1-1	
島しょ	二種	町立八丈病院	八丈島八丈町三根26-11	

2 東京都感染症予防検討委員会委員名簿

2025年12月31日現在 : 順不同

氏 名	役 職
◎ 成 田 友 代*	東京都保健医療局技監
○ 岡 部 信 彦	川崎市健康安全研究所参与
○ 萩 原 温 久	萩原医院(東京小児科医会)
永 井 英 明	独立行政法人国立病院機構東京病院感染症センター長
尾 形 英 雄	公益財団法人結核予防会複十字病院安全管理特任部長
尾 本 光 祥	北区保健所長(健康部長)
鷹 箸 右 子*	町田市保健所長
今 村 顕 史	がん・感染症センター都立駒込病院感染症科部長
倉 持 大 輔*	東京都保健医療局健康安全部食品危機管理担当課長
鈴 木 祐 子*	東京都健康安全研究センター 企画調整部 健康危機管理情報課 疫学情報調整担当課長
高 橋 琢 理	国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 感染症サーベイランス研究部第1室 室長
高 橋 愛 貴*	東京都保健医療局感染症対策部防疫課長
長 尾 慶 治	みたか南口泌尿器科クリニック(東京泌尿器科医会)
武 知 公 博	きりんウィメンズクリニック武蔵野(東京産婦人科医会)
時 田 章 史	クリニックばんびいこ(東京小児科医会)
井 上 賢 治**	(医) 済安堂井上眼科病院(東京都眼科医会)
美 田 敏 宏	順天堂大学医学部 熱帯医学・寄生虫病学講座教授
山 下 隆 博	恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育病院副院長・産婦人科部長
芳 賀 猛	東京大学大学院農学生命科学研究科 獣医学専攻 感染制御学研究室教授 /副学部長
首 里 京 子***	東京都医師会理事(疾病対策担当)

◎委員長 ○副委員長

* 2025年4月1日から ** 2025年9月1日から *** 2025年7月1日から

2025年3月31日まで

櫻 山 豊 夫	東京都結核予防会理事
河 合 江 美	町田市保健所長
丸 山 玄	東京都保健医療局健康安全部食品危機管理担当課長
村 田 ゆ か り	東京都健康安全研究センター 企画調整部 健康危機管理情報課 疫学情報担当課長
渡 部 ゆ う	東京都保健医療局感染症対策部防疫課長 事務取扱 保健医療局担当部長

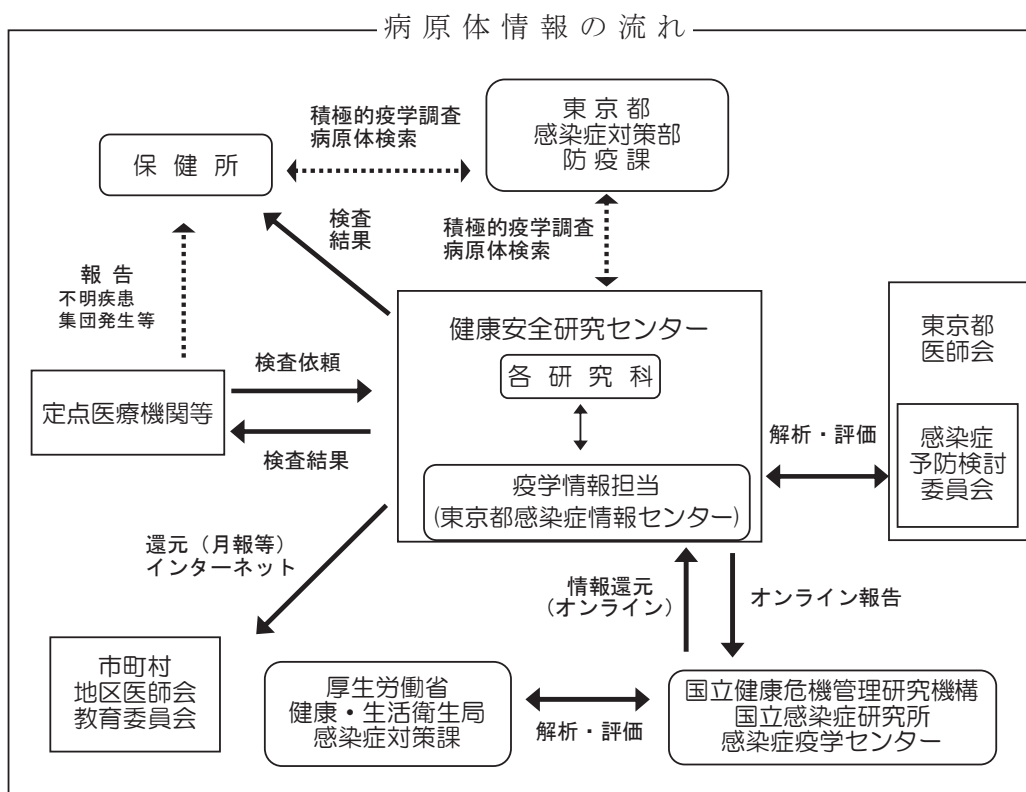
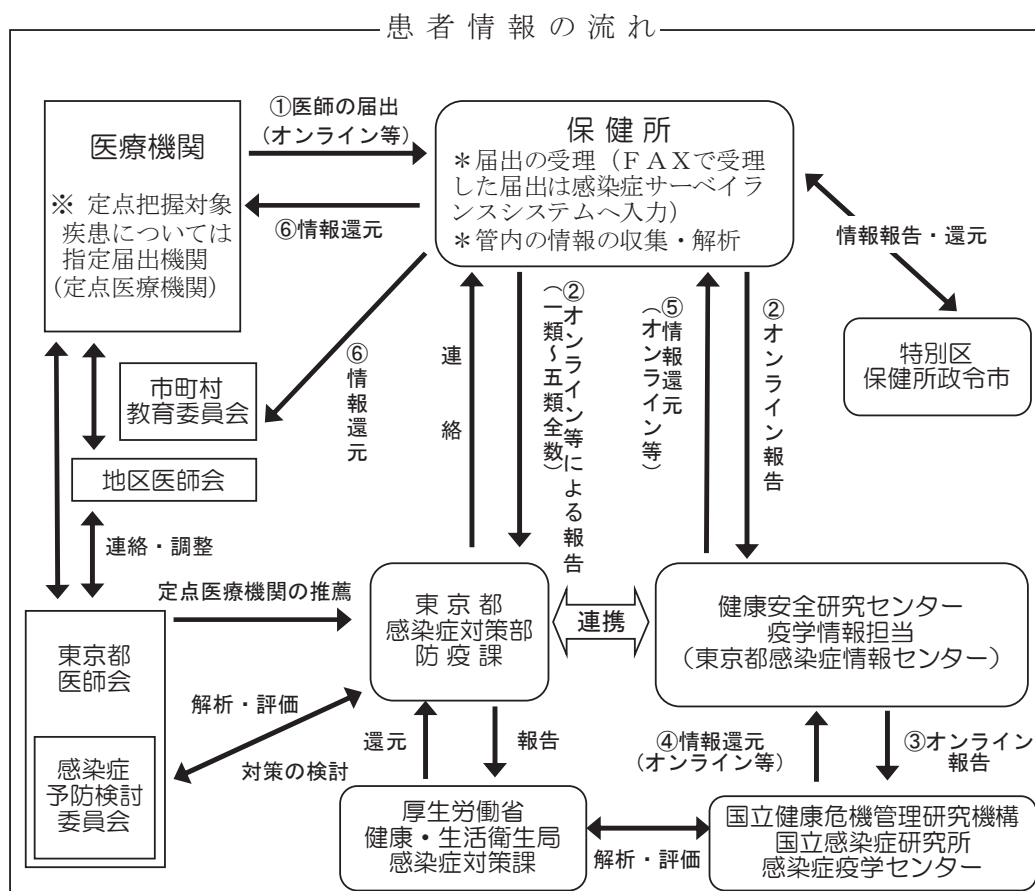
2025年8月31日まで

稲 毛 佐 知 子	いなげ眼科(東京都眼科医会)
-----------	----------------

2025年6月30日まで

川 上 一 恵	東京都医師会理事(疾病対策担当)
---------	------------------

3 東京都感染症発生動向調査事業の流れ



東京都感染症発生動向調査事業実施要綱

11 衛福結第680号

平成12年3月30日

最終改正

7 保医感防第1290号

令和8年3月31日

第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、昭和62年1月からは対象疾病を27に拡大するとともにコンピュータを用いたオンラインシステムを導入、以後、順次対象疾病の拡大を図りながら運用されてきたところである。

平成11年4月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）により、本事業が、事前対応型行政を重視した感染症対策の一つとして位置づけられることになった。

これを受け、本事業は、感染症の発生状況の正確な把握と分析、その結果の国民や医療関係者への迅速な提供・公開により、感染症に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及びまん延を防止するとともに、病原体情報を収集、分析することで、流行している病原体の検出状況及び特性を確認し、適切な感染症対策を立案することを目的として実施するものとする。

第2 根拠法令等

本事業の実施に当たっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱に基づくものとする。

第3 対象感染症

この事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

第4 実施体制

1 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、東京都、特別区及び保健所政令市における患者情報、疑似症情報及び病原体情報（検査情報を含む。以下同じ。）を収集・分析し、東京都、特別区及び保健所政令市の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開するために、東京都及び各特別区内に1か所、

地方衛生研究所等の中に設置されている。

基幹地方感染症情報センターである東京都健康安全研究センター（以下「健康安全研究センター」という。）は、東京都全域の患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を各地方感染症情報センターに送付する。

2 指定届出機関及び指定提出機関（定点）

- （１）東京都は、定点把握対象の感染症についての、患者及び当該感染症により死亡した者（感染症法第１４条第１項の厚生労働省令で定める五類感染症に限る。）の情報及び疑似症情報を収集するため、感染症法第１４条第１項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点をあらかじめ選定する。
- （２）東京都は、定点把握対象の五類感染症等についての、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ選定する。なお、感染症法施行規則第７条の２に規定する五類感染症については、感染症法第１４条の２第１項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定する。
- （３）東京都は、上記（１）及び（２）に係る指定届出機関及び指定提出機関との連絡調整及び推薦等に係る業務を、東京都医師会に委託することができる。

3 感染症予防検討委員会

- （１）東京都内における情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、小児科、内科、眼科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、微生物学、疫学、獣医学、昆虫学等の専門家、保健所及び地方衛生研究所の代表、地域の医師会の代表等（１０名程度）からなる感染症予防検討委員会を置く。
- （２）東京都は、上記（１）に係る事務を、東京都医師会へ委託することができる。

4 検査施設

東京都内における本事業に係る検体等の検査については、健康安全研究センターにおいて実施する。健康安全研究センターは、検査施設における病原体等検査の業務管理要領（以下「病原体検査要領」という。）に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

第５ 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（別表１の７５、８６及び８７に掲げるもの）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

（１）調査単位及び実施方法

ア 診断又は検案した医師

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（別表１の７５、

86及び87に掲げるもの）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について（一部改正）」（以下「届出基準」という。）に基づき診断した場合及び当該感染症により死亡した者（当該感染症により死亡したと疑われる者を含む。）の死体を検案した場合は、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。当該届出は、感染症サーベイランスシステムへの入力により行うことを基本とするが、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない場合には、最寄りの保健所が定める方法により、本要綱の別記様式8から9、及び11から74を用いて、届出を行う。

イ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあっては、検体等を提供する。

ウ 保健所

（ア）届出を受けた保健所は、直ちに届出内容の確認を行うとともに、当該届出が感染症サーベイランスシステムの入力環境がない医師からの届出である場合には、直ちに感染症サーベイランスシステムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼等するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて保健医療局感染症対策部防疫課及び健康安全研究センターと協議する。

（イ）保健所は、検体等の提供を受けた場合には、健康安全研究センターへ検査を依頼するものとする。

（ウ）保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

（ア）健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所等からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

（イ）健康安全研究センターは、検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、保健医療局感染症対策部防疫課に送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。

（ウ）検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。

（エ）健康安全研究センターは、患者が一類感染症と診断されている場合（疑いを含む。）又は東京都域を越えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び

国から求められた場合にあっては、保健医療局感染症対策部防疫課等と協議の上、検体等を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

オ 情報の報告等

(ア) 都道府県知事、保健所を設置する市又は特別区の長（以下「都道府県知事等」という。）は、その管轄する区域外に居住する者について法第 12 条第 1 項の規定による届出を受けたときは、当該届出の内容を、その居住地を管轄する都道府県知事等に通報する。保健所を設置する市又は特別区の長（以下「保健所設置市等の長」という。）が通報先となる場合には、当該市・区が所在する都道府県知事にも通報する。

(イ) 保健所設置市等の長は、厚生労働大臣に対して、

- ・ 法第 12 条の規定による発生届出の一連の事務の中で、同条第 2 項の報告を行う場合
- ・ 法第 15 条の規定による積極的疫学調査の一連の事務の中で、同条第 13 項の報告を行う場合

は、併せて都道府県知事に報告する。

(ウ) 都道府県知事等は、他の都道府県知事等が管轄する区域内における感染症のまん延を防止するために必要な場合は、法第 15 条の規定による積極的疫学調査の結果を、当該他の都道府県知事等に通報する。保健所設置市等の長が通報先となる場合には、当該市・区が所在する都道府県知事にも通報する。

(エ) (ア) から (ウ) の報告等について、感染症サーベイランスシステムにより相互に情報を閲覧できる措置を講じた場合は、当該報告をしたものとみなす。

2 全数把握対象の五類感染症（別表 1 の 75、86 及び 87 に掲げるものを除く。）

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断又は検案した医師

全数把握対象の五類感染症（別表 1 の 75、86 及び 87 に掲げるものを除く。）を届出基準に基づき診断した又は当該感染症により死亡した者（当該感染症により死亡したと疑われる者を含む。）の死体を検案した医師は、7 日以内に最寄りの保健所に届出を行う。当該届出は、感染症サーベイランスシステムへの入力により行うことを基本とするが、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない場合には、最寄りの保健所が定める方法により、国の定める届出基準の別記様式 5-1 から 5-11、5-13 から 5-16、5-18 から 5-22、5-25 並びに本要綱の

別記様式10を用いて、届出を行う。

イ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合にあっては、検体等について、保健所に協力し、提供する。

ウ 保健所

(ア) 届出を受けた保健所は、直ちに届出内容の確認を行うとともに、当該届出が感染症サーベイランスシステムの入力環境がない医師からの届出である場合には、直ちに感染症サーベイランスシステムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて保健医療局感染症対策部防疫課及び健康安全研究センターと協議する。

(イ) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、健康安全研究センターへ検査を依頼するものとする。

(ウ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所等からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、保健医療局感染症対策部防疫課に送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、保健医療局感染症対策部防疫課等と協議の上、検体等を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

3 定点把握対象の五類感染症等

(1) 対象とする感染症患者の状態

各々の定点把握対象の五類感染症等について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合及び当該感染症により死亡した者（当該感染症により死亡したと疑われる者を含む。）の死体と検案される場合とする。

（２）定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症等の発生状況を地域的に把握するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

（ア）小児科定点

対象感染症のうち、別表１の８９、９０、９２、９３、９９、１０３から１０５まで、１０７、１１２、１１５及び１１７までに掲げるものについては、小児科を標ぼうする医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。この場合において、小児科定点として指定された医療機関は、急性呼吸器感染症定点（別表１の８９、９０、９１、９２、９４、９８及び１０７の届出を行う定点医療機関をいう。以下同じ。）として協力するよう努めること。

（イ）急性呼吸器感染症定点

対象感染症のうち、別表１の８９、９０、９１、９２、９４、９８及び１０７については、前記（ア）で選定した小児科定点のうち急性呼吸器感染症定点として協力する小児科定点に加え、内科を標ぼうする医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせて急性呼吸器感染症定点とする。

（ウ）眼科定点

対象感染症のうち、別表１の９５及び１１１に掲げるものについては、眼科を標ぼうする医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定する。

（エ）性感染症定点

対象感染症のうち、別表１の１００から１０２まで、１１３及び１１６までに掲げるものについては、産婦人科、産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和二十三年政令第三百二十六号）第三条の二第一項第一号ハ及びニ(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科、泌尿器科又は皮膚科を標ぼうする医療機関（主として各々の標ぼう科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定する。

（オ）基幹定点

対象感染症のうち、別表１の９１及び９８に掲げるもの（届出基準は急性呼吸

器感染症定点と異なり、入院患者に限定される)、別表1の96、97、106、108から110まで及び114までに掲げるものについては、患者を300人以上収容する施設を有する病院であって、内科及び外科を標榜する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)を二次医療圏毎に1か所以上、基幹定点として指定する。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、病原体定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

(ア) 医療機関を病原体定点として選定する場合は、原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。

(イ) アの(ア)により選定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点とし、別表1の89、90、92、93、99、103から105まで、107、112、115及び117までを対象感染症とする。

(ウ) アの(ア)及び(イ)により選定された患者定点の概ね10%を急性呼吸器感染症病原体定点とし、別表1の85、89、90、91、92、94、96、98、107及び108を対象感染症とする。また、急性呼吸器感染症病原体定点を、感染症法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として指定する。

(エ) アの(ウ)により選定された患者定点の中から眼科病原体定点を選定し、別表1の95及び111を対象感染症とする。

(オ) アの(エ)により選定された患者定点の中から性感染症病原体定点を選定し、別表1の100から102まで、113及び116を対象感染症とする。

(カ) アの(オ)により選定された患者定点の中から基幹病原体定点を選定し、別表1の91に掲げるインフルエンザ(入院患者に限る。)、別表1の96、97、106、108から110まで及び114までを対象感染症とする。

(3) 調査単位等

ア 患者情報

調査単位の期間等は、別表2のとおりとする。

なお、(2)のアの(イ)により選定された患者定点は、別表1の89、90、91、92、94、98及び107については、別に定める届出基準に一致する者として当該患者の総数を「急性呼吸器感染症」として届出を行うほか、別表1の91及び98については、疾病毎の患者数を届出ることとする。

また、(2)のアの(ア)により選定された小児科定点のうち、急性呼吸器感染症定点として協力する小児科定点は、別表1の89、90、92及び107について、小児科定点としての届出も必要である。

イ 病原体情報

- (ア) 病原体情報のうち、(2) のイの (ウ) により選定された病原体定点に関するものについては、別表 1 の 85、89、90、91、92、94、96、98、107 及び 108 については、1 週間（月曜日から日曜日）を調査単位とする。その他病原体定点に関するものについては、各月を調査単位とする。
- (イ) (2) のイの (ウ) により選定された病原体定点に関するもののうち、別表 1 の 98 のゲノム解析については、各月を調査単位とする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

- (ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準を参考とし、患者発生状況の把握を行うものとする。
- (イ) (2) のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、別表 2 のとおり、それぞれの調査単位の患者発生状況を届け出る。
- (ウ) (イ) の届出に当たっては、感染症法施行規則第 7 条に従い行うとともに、感染症サーベイランスシステムへの入力により行うことを基本とするが、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない場合には、最寄りの保健所が定める方法により、別記様式 2 から 7 を用いて、届出を行う。

イ 病原体定点

- (ア) 病原体定点として選定された医療機関は、必要に応じて病原体検査のために検体等を採用する。
- (イ) 病原体定点は、検体等について、別記様式 1 の検査票を添付し、速やかに健康安全研究センターへ送付する。
- (ウ) (2) のイの (イ) により選定された病原体定点においては、別表 1 の 89、90、92、93、99、103 から 105 まで、107、112、115 及び 117 までの対象感染症のうち、調査単位ごとに、概ね 4 症例からそれぞれ少なくとも 1 種類の検体を送付するものとする。
- (エ) (2) のイの (ウ) により選定された病原体定点においては、(1) のアの (イ) により選定された患者定点にて探知された症例から採取し、調査単位ごとに、送付するものとする。検体の選定法については、原則、(2) のイの (ウ) により選定された病原体定点の営業日のうち、週ははじめから数えて第 2 営業日に収集された、はじめの 5 検体を目標に提出するものとする。

なお、別表 2 の 98 のゲノム解析で用いる検体は健康安全研究センターで選定するため、(2) のイの (ウ) により選定された病原体定点で区別し送付する必要は無い。

ウ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合にあっては、検体等について、保健所に協力し、提供する。

エ 保健所

(ア) 届出を受けた保健所は、直ちに届出内容の確認を行うとともに、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない医療機関からの届出である場合には、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症サーベイランスシステムに入力するものとし、併せて、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、保健医療局感染症対策部防疫課及び健康安全研究センターに報告する。

また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて保健医療局感染症対策部防疫課及び健康安全研究センターと協議する。

(イ) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、健康安全研究センターへ検査を依頼するものとする。

(ウ) 保健所は、定点把握の対象の五類感染症等の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

オ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所等からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、別記様式1の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式1により保健所、保健医療局感染症対策部防疫課に送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、保健医療局感染症対策部防疫課等と協議の上、検体等を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センタ

一等の関係機関に提供・公開する。

4 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症（定点）

（1）対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

（2）疑似症定点の選定

東京都は、関係医師会の協力を得て、国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱第5の4（2）に定める基準を満たす医療機関の中から疑似症定点を選定する。

また、疑似症定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

（3）調査単位

調査単位の期間等は、別表3のとおりとする。

（4）実施方法

ア 疑似症定点

（ア）疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。

（イ）疑似症定点として選定された医療機関は、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を届け出る。

（ウ）（イ）の届出に当たっては、感染症法施行規則第7条に従い行うとともに、感染症サーベイランスシステムへの入力により行うことを基本とするが、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない場合には、最寄りの保健所が定める方法により、国の定める届出基準の別記様式6－7を用いて、届出を行う。

イ 保健所

（ア）保健所は、疑似症定点から得られた疑似症情報を、随時保健医療局感染症対策部防疫課に報告する。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報については、保健医療局感染症対策部防疫課及び健康安全研究センターに報告する。

（イ）保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 保健医療局感染症対策部防疫課

保健医療局感染症対策部防疫課は保健所から得られた疑似症情報を健康安全研究センターに報告する。

エ 健康安全研究センター

基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての疑似症情報を収集し、疑似症定点において感染症サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合は、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を感染症サーベイランスシステムに入力する。また、当該情報を分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

5 その他

- (1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、東京都の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査体制を構築していくこととする。
- (2) 感染症発生動向調査のために取り扱うこととなった検体等については、感染症の発生及びまん延防止策の構築、公衆衛生の向上のために使用されるものであり、それ以外の目的のために用いてはならない。また、検体採取の際には、その使用目的について説明の上、できるだけ、本人等に同意をとることが望ましい。なお、上記に掲げる目的以外の研究に使用する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の規定に従い行うものとする。
- (3) 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて保健医療局長が定めることとする。

6 特別区及び保健所政令市との関係

東京都は、本事業を実施するため特別区及び保健所政令市と協議し、連携を図るものとする。

附 則

この実施要綱は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成15年11月5日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成16年8月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成１８年４月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成１８年６月１２日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成１９年６月１５日から施行し、同年４月１日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２０年１月３１日から施行し、同年１月１日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２０年４月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２０年７月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２２年３月１６日から施行し、同年３月１１日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２３年２月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２３年４月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２３年９月５日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２５年４月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２５年５月２２日から施行し、同年５月６日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２５年１０月１４日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２６年６月１２日から施行し、同年５月１２日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２６年８月１３日から施行し、同年７月２６日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２６年９月１９日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２７年２月２５日から施行し、同年１月２１日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２７年５月２１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２８年１月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２８年２月１５日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２８年４月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成３０年１月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成３０年５月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成３１年１月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成３１年４月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和元年５月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和２年１月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和２年２月３日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和２年４月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和２年５月１３日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和２年６月２４日から施行し、５月２９日から適用する。

附 則

この実施要綱は、令和２年６月２５日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和２年１０月２日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和２年１０月１４日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和３年３月３１日から施行し、同年２月１３日から適用する。

附 則

この実施要綱は、令和３年６月１８日から施行し、同年６月３日から適用する。

附 則

この実施要綱は、令和３年１２月１４日から施行し、同年１２月１日から適用する。

附 則

この実施要綱は、令和４年３月３１日から施行し、同年３月１７日から適用する。

附 則

この実施要綱は、令和４年６月３０日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和４年８月２９日から施行し、同年８月１９日から適用する。

附 則

この実施要綱は、令和４年１０月３１日から施行する。

附 則

- １ この実施要綱は、令和５年５月８日から施行する。
- ２ この実施要綱の施行の日から令和５年６月３０日までの間、第５中「保健医療局感染症対策部防疫課」とあるのは「福祉保健局感染症対策部防疫・情報管理課」、「保健医療局長」とあるのは「福祉保健局長」とする。

附 則

この実施要綱は、令和５年５月２６日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和５年９月２５日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和６年１月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和６年６月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和７年４月７日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和８年１月３０日から施行し、同年１月２０日から適用する。

附 則

この実施要綱は、令和８年４月６日から施行する。

感染症法に基づく感染症の分類

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出別	時期
一類	1 エボラ出血熱	○	○	○	全数	直ちに
	2 クリミア・コンゴ出血熱					
	3 痘そう					
	4 南米出血熱					
	5 ペスト					
	6 マールブルグ病					
	7 ラッサ熱					
二類	8 急性灰白髄炎	○	—	○	全数	直ちに
	9 結核	○	○	△※		
	10 ジフテリア	○	—	○		
	11 重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○		
	12 中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○		
	13 鳥インフルエンザ (H5N1)	○	○	○		
三類	14 鳥インフルエンザ (H7N9)	○	○	○	全数	直ちに
	15 コレラ	○	—	○		
	16 細菌性赤痢	○	—	○		
	17 腸管出血性大腸菌感染症	○	—	○		
	18 腸チフス	○	—	○		
四類	19 パラチフス	○	—	○	全数	直ちに
	20 E型肝炎	○	—	○		
	21 ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む。)	○	—	○		
	22 A型肝炎	○	—	○		
四類	23 エキノコックス症	○	—	○	全数	直ちに
	24 エムボックス	○	—	○		
	25 黄熱	○	—	○		
	26 オウム病	○	—	○		
	27 オムスク出血熱	○	—	○		
	28 回帰熱	○	—	○		
	29 キャサスル森林病	○	—	○		
	30 Q熱	○	—	○		
	31 狂犬病	○	—	○		
	32 コクシジオイデス症	○	—	○		
	33 ジカウイルス感染症	○	—	○		
	34 重症熱性血小板減少症候群 (病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)	○	—	○		
	35 腎症候性出血熱	○	—	○		
	36 西部ウマ脳炎	○	—	○		
	37 ダニ媒介脳炎	○	—	○		
	38 炭疽	○	—	○		
	39 チクングニア熱	○	—	○		
	40 つつが虫病	○	—	○		
	41 デング熱	○	—	○		
	42 東部ウマ脳炎	○	—	○		
	43 鳥インフルエンザ (H5N1及びH7N9を除く)	○	—	○		
	44 ニパウイルス感染症	○	—	○		
	45 日本紅斑熱	○	—	○		
	46 日本脳炎	○	—	○		
	47 ハンタウイルス肺症候群	○	—	○		

※結核の無症状病原体保有者については、結核医療を必要としないと認められる場合は届出不要。

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届種別	時期
四類	48 Bウイルス病	○	—	○	全数	直ちに
	49 鼻疽	○	—	○		
	50 ブルセラ症	○	—	○		
	51 ベネズエラウマ脳炎	○	—	○		
	52 ヘンドラウイルス感染症	○	—	○		
	53 発しんチフス	○	—	○		
	54 ボツリヌス症	○	—	○		
	55 マラリア	○	—	○		
	56 野兔病	○	—	○		
	57 ライム病	○	—	○		
	58 リッサウイルス感染症	○	—	○		
	59 リフトバレー熱	○	—	○		
	60 類鼻疽	○	—	○		
	61 レジオネラ症	○	—	○		
	62 レプトスピラ症	○	—	○		
	63 ロッキー山紅斑熱	○	—	○		
指定感染症	—	—	—	—	—	—

※令和8年3月31日現在、政令に基づく指定感染症なし。

2 五類感染症（全数把握）

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届種別	時期
64	アメーバ赤痢	○	—	—	全数	7日以内
65	ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	○	—	—		
66	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	○	—	—		
67	急性弛緩性麻痺 (急性灰白髄炎を除く。)	○	—	—		
68	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、 東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	○	—	—		
69	クリプトスポリジウム症	○	—	—		
70	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	—	—		
71	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	—	—		
72	後天性免疫不全症候群	○	—	○		
73	ジアルジア症	○	—	—		
74	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	—	—		
75	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	—	—	全数	直ちに
76	侵襲性肺炎球菌感染症	○	—	—	全数	7日以内
77	水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）	○	—	—		
78	先天性風しん症候群	○	—	—		
79	多剤耐性緑膿菌感染症	○	—	—		
80	梅毒	○	—	○		
81	播種性クリプトコックス症	○	—	—		
82	破傷風	○	—	—		
83	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
84	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	—	—		
85	百日咳	○	—	—		
86	風しん	○	—	—	全数	直ちに
87	麻しん	○	—	—	全数	7日以内
88	薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	—	—		

3 新型インフルエンザ等感染症

	疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
		患 者	疑似症 患者	無症状病原 体保有者	届 出 種 別	時 期
118	新型インフルエンザ	○	○	○	全数	直ちに
119	再興型インフルエンザ	○	○	○		
120	新型コロナウイルス感染症	○	○	○		
121	再興型コロナウイルス感染症	○	○	○		

4 五類感染症等（定点把握）

	疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
		患 者	疑似症 患者	無症状病原 体保有者	届 出 種 別 (定点)	時 期
89	RSウイルス感染症	○	—	—	別表2参照	
90	咽頭結膜熱	○	—	—		
91	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	○	—	—		
92	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	—	—		
93	感染性胃腸炎	○	—	—		
94	急性呼吸器感染症 (インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、クラミジア肺炎(オウム病を除く。)、新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和2年1月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。))であるものに限る。)、百日咳、ヘルパンギーナ、マイコプラズマ肺炎を除く。)	○	—	—		
95	急性出血性結膜炎	○	—	—		
96	クラミジア肺炎(オウム病を除く。)	○	—	—		
97	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く)	○	—	—		
98	新型コロナウイルス感染症 (病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和二年一月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。))であるものに限る。)	○	—	—		
99	水痘	○	—	—		
100	性器クラミジア感染症	○	—	—		
101	性器ヘルペスウイルス感染症	○	—	—		
102	尖圭コンジローマ	○	—	—		
103	手足口病	○	—	—		
104	伝染性紅斑	○	—	—		
105	突発性発しん	○	—	—		
106	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	—	—		
107	ヘルパンギーナ	○	—	—		
108	マイコプラズマ肺炎	○	—	—		
109	無菌性髄膜炎	○	—	—		
110	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
111	流行性角結膜炎	○	—	—		
112	流行性耳下腺炎	○	—	—		
113	淋菌感染症	○	—	—		
114	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)	○	—	—		
115	川崎病 (都単独)	○	—	—		
116	臍トリコモナス症 (都単独)	○	—	—		
117	不明発しん症 (都単独)	○	—	—		

5 疑似症

	届 出 対 象	届 出 対 象 者			調 査 単 位 (期間)	時 期
		患 者	疑似症患者	無症状病原 体保有者		
122	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状 その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に 認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これ に準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と 診断することができないと判断したもの。	—	○	—	別表3参照	

6 法第14条第8項の規定に基づく把握

	届 出 対 象	届 出 対 象 者			調 査 単 位 (期間)	時 期
		患 者	疑似症患者	無症状病原 体保有者		
123	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状 その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に 認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これ に準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と 診断することができないと判断したものであって、当該感 染症にかかった場合の病状の程度が重篤であるものが発生 し、又は発生するおそれがあると判断し、知事が指定届出 機関以外の病院又は診療所の医師に法第 1 4 条第 8 項に基 づき届出を求めたもの。	—	○	—	別表 3 参照	

五類感染症等(定点把握)の調査単位と報告時期

定点 種別	報 告 対 象	調査単位 (期間)	時 期
小児科 定点※	RSウイルス感染症	週単位 (月曜日から 日曜日。以 下同じ。)	次の月曜日
	咽頭結膜熱		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		
	感染性胃腸炎		
	水痘		
	手足口病		
	伝染性紅斑		
	突発性発しん		
	ヘルパンギーナ		
	流行性耳下腺炎		
	不明発しん症 (都単独)		
	川崎病 (都単独)		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)		
	新型コロナウイルス感染症 (病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス (令和二年一月に、中華人民 共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告さ れたものに限る。)) であるものに限る。)		
	急性呼吸器感染症 以下の症例定義に該当するもの 「咳嗽(がいそう)、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁(びじゅう)、鼻閉(びへい)のいずれか 1つの症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を 疑う外来症例」		
内科 定点※	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	週単位	次の月曜日
	新型コロナウイルス感染症 (病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス (令和二年一月に、中華人民 共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告さ れたものに限る。)) であるものに限る。)		
	急性呼吸器感染症 以下の症例定義に該当するもの 「咳嗽(がいそう)、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁(びじゅう)、鼻閉(びへい)のいずれか 1つの症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を 疑う外来症例」		
眼科定点	急性出血性結膜炎	週単位	次の月曜日
	流行性角結膜炎		
性 感 染 症 定 点	性器クラミジア感染症	月単位	翌月初日
	性器ヘルペスウイルス感染症		
	尖圭コンジローマ		
	淋菌感染症		
	膣トリコモナス症 (都単独)		
基 幹 定 点	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	週単位	次の月曜日
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)		
	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く)		
	マイコプラズマ肺炎		
	無菌性髄膜炎		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。入院患者のみ。)		
	新型コロナウイルス感染症 (病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス (令和二年一月に、中華人民 共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告さ れたものに限る。)) であるものに限る。入院患者のみ。)		
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	月単位	翌月初日
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		

※小児科定点と内科定点を合わせて急性呼吸器感染症定点とする。

疑似症の調査単位と報告時期

定点 種別	届 出 対 象	調査単位 (期間)	時 期
疑似症定点	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。	随時	直ちに
法第14条第8項 の規定に基づく把握	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したものであって、当該感染症にかかった場合の病状の程度が重篤であるものが発生し、又は発生するおそれがあると判断し、知事が指定届出機関以外の病院又は診療所の医師に法第14条第8項に基づき届出を求めたもの。	随時	直ちに

(注)

- 1 感染症法に規定する感染症によるものでないことが明らかである場合には、本届出の対象とはならない。
- 2 感染症法に規定する感染症によるものであることが明らかであり、かつ、いずれの感染症であるかが特定可能な場合には、当該感染症の届出基準に基づき届出を行うこととなるため、本届出の対象とはならない。

別記様式一覧表

別記様式	件名等	別記様式	件名等
1	感染症発生動向調査病原体定点検査票	38	キャサスル森林病発生届
2	五類感染症（定点把握対象）小児科患者定点報告票	39	Ｑ熱発生届
3	五類感染症（定点把握対象） 急性呼吸器感染症患者定点報告票	40	狂犬病発生届
4	五類感染症（定点把握対象）眼科患者定点報告票	41	コクシジオイデス症発生届
5	五類感染症（定点把握対象）性感染症患者定点報告票	42	エムボックス発生届
6-1 6-2 6-3	五類感染症（定点把握対象） 基幹患者定点報告票（週報告分）	43	ジカウイルス感染症発生届
7	五類感染症（定点把握対象） 基幹患者定点報告票（月報告分）	44	重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 S F T S ウイルスであるものに限る。）発生届
8	麻疹発生届	45	腎症候性出血熱（HFRS）発生届
9	結核発生届	46	西部ウマ脳炎発生届
10	梅毒発生届	47	ダニ媒介脳炎発生届
11	風しん発生届	48	炭疽発生届
12	エボラ出血熱発生届	49	チクングニア熱発生届
13	クリミア・コンゴ出血熱発生届	50	つつが虫病発生届
14	痘そう発生届	51	デング熱発生届
15	南米出血熱発生届	52	東部ウマ脳炎発生届
16	ペスト発生届	53	鳥インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H 5 N 1 及び H 7 N 9）を除く。）発生届
17	マールブルグ病発生届	54	ニパウイルス感染症発生届
18	ラッサ熱発生届	55	日本紅斑熱発生届
19	急性灰白髄炎発生届	56	日本脳炎発生届
20	ジフテリア発生届	57	ハンタウイルス肺症候群（HPS）発生届
21	重症急性呼吸器症候群（S A R S）発生届	58	B ウイルス病発生届
22	中東呼吸器症候群（M E R S）発生届	59	鼻疽発生届
23	鳥インフルエンザ（H 5 N 1）発生届	60	ブルセラ症発生届
24	鳥インフルエンザ（H 7 N 9）発生届	61	ベネズエラウマ脳炎発生届
25	コレラ発生届	62	ヘンドラウイルス感染症発生届
26	細菌性赤痢発生届	63	発しんチフス発生届
27	腸管出血性大腸菌感染症発生届	64	ボツリヌス症発生届
28	腸チフス発生届	65	マラリア発生届
29	パラチフス発生届	66	野兎病発生届
30	E 型肝炎発生届	67	ライム病発生届
31	ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎含む）発生届	68	リッサウイルス感染症発生届
32	A 型肝炎発生届	69	リフトバレー熱発生届
33	エキノコックス症発生届	70	類鼻疽発生届
34	黄熱発生届	71	レジオネラ症発生届
35	オウム病発生届	72	レプトスピラ症発生届
36	オムスク出血熱発生届	73	ロッキー山紅斑熱発生届
37	回帰熱発生届	74	侵襲性髄膜炎菌感染症発生届

各様式は東京都感染症情報センターに掲載（<https://idsc.tniph.metro.tokyo.lg.jp/survey/kobetsu/>）